

52-1
別庫

醫學士下平用彩算著



增訂第
拾四版
診
斷
學

吐鳳堂書店發售

增訂第十四版 **診斷學後編目次**

第三篇 消化器系診法 一頁

第一章 口腔検査法 一

第二章 食道検査法 二

解剖摘要 二

第一 食道觸診法(消息子検査法) 二

第二 食道視診法 三

第三 食道打診法 三

第四 食道聽診法 三

第三章 胃ノ検査法 三

解剖摘要 三

第一 胃ノ視診法 四

第二 胃ノ觸診法 四

第三	胃ノ打診法	五三
(天)	健能	五三
(地)	病能	五五
第四	胃ノ聽診法	五六
第五	胃內容検査法(胃消化検査法)	五六
	胃消化試験成績ノ診斷上價値	六三
第六	嘔吐及吐物ノ検査法	六六
(甲)	嘔吐	六六
(乙)	吐物ノ検査法	六九
(一)	吐物ノ量	九〇
(二)	吐物ノ外狀	九〇
(三)	吐物ノ反應	九六
(四)	吐物ノ臭氣	九六
(五)	吐物ノ顯微鏡的検査	九七
第四章	腸ノ検査法	九九

解剖摘要

第一	腸ノ視診法	九九
第二	腸ノ觸診法	一〇〇
第三	腸ノ打診法	一〇五
第四	腸ノ聽診法	一〇六
第五	大便ノ検査法	一〇九
(一)	大便ノ度數	一〇九
(二)	大便ノ量	一一〇
(三)	大便ノ硬軟	一一〇
(四)	大便ノ形狀	一一一
(五)	大便ノ色	一一一
(六)	大便ノ反應	一一三
(七)	大便ノ臭氣	一一四
(八)	大便ノ肉眼の検査	一一五
(九)	大便ノ顯微鏡的検査	一二五

第五章 肝臟檢查法

解剖摘要

第一 肝臟視診法

第二 肝臟觸診法

第三 肝臟打診法

(天) 常態

(地) 病態

第六章 脾臟檢查法

解剖摘要

第一 脾臟視診法

第二 脾臟觸診法

第三 脾臟打診法

(天) 健態

(地) 病態

第七章 腹膜檢查法

第八章 脾臟、網膜及腹膜後腺檢查法

第四篇 泌尿器系診法

解剖摘要

第一章 腎臟檢查法

第一 腎臟視診法

第二 腎臟觸診法

第三 腎臟打診法

第二章 輸尿管、膀胱及尿道檢查法

第三章 尿及其檢查法

第一 通常尿

第二 病的尿

(一) 尿量ノ異常

(二) 病的尿ノ色及透明度

(三) 病的尿ノ比重

(四) 病的尿ノ反應 二四〇頁

(五) 病的尿ノ臭氣 二四二

(六) 病的尿ノ沈渣 二四二

(甲) 機化性尿渣 二四五

(乙) 非機化性尿渣 二八〇

(七) 溶解セル尿成分 二九二

(甲) 尋常尿成分其量ノ排出異常 二九三

(乙) 異常成分 二九四

(八) 藥物服用後ニ於ケル尿ノ検査 三二七

附載

尿ノ化學的検査用器品 三二九

第五篇 生殖器系診法

男子生殖器分泌物ノ検査 三三二

第六篇 神經系統診法

解剖及生理摘要 三四〇

(一) 運動性徑路及中樞 三四二

(二) 知覺性又求心性徑路 三四九

(三) 五官器ノ中樞及徑路 三五三

(四) 腦ノ血管配布 三五五

腦髓及脊髓ノ竈局疾患ニ對スル局所診斷的要綱 三五九

(甲) 腦髓ニ於ケル主要ナル竈局症候 三九九

(乙) 脊髓ニ於ケル限局症候 三六七

第一章 局所疾病検査法

第一 頭蓋検査法

(一) 頭蓋ノ大小 三七〇

(二) 頭蓋ノ形狀 三七二

(三) 頭蓋ノ壓痛 三七七

第二 脊柱検査法

(一) 脊柱ノ形狀 三七八

(一) 脊柱ノ運動	三七八
(二) 脊柱ノ壓痛	三九九
附 脊椎穿刺法	三八〇
第三 末梢神經検査法	三八二
第四 精神機能検査法	三八三
(一) 意識ノ障礙	三八四
(二) 智力ノ障礙	三八六
第二章 知覺機検査法	三八七
第一 末梢性刺戟ノ知覺	三八七
(一) 皮膚知覺機	三八八
(二) 深在知覺機	三九七
第二 神經ノ知覺的刺戟症狀及壓痛	三九九
(一) 知覺變常	三九九
(二) 自發性疼痛	三九九
第三 皮膚知覺神經ノ分佈區域	四〇三

第三章 運動機検査法

第一 麻痺	四一〇
第二 筋ノ栄養及緊張ノ障礙	四二六
(一) 麻痺筋ノ營養狀態	四二六
(二) 麻痺筋ノ緊張	四三二
第三 反射機	四三四
(一) 皮膚反射	四三四
(二) 腱反射	四三八
第四 神經及筋ノ電氣的検査	四四四
生體ニ於ケル電氣的検査法及其生理學的成績	四四九
各部ノ検査法及其尋常所見	四五二
電氣的検査ノ診斷上價値	四七八
第五 筋及神經ノ器械的興奮性	四八〇
第六 共働機	四八二
第七 痙攣	四八五

第四章 五官器検査法

四九四頁

第一 視官検査

四九四

第二 聽官検査法

五〇五

第三 嗅官検査法

五〇八

第四 味官検査法

五二〇

第五章 言語障碍

五二一

(一) 發語失調及發語不能

五二二

(二) 失語症

五二三

第六章 神經ノ疾患ニ於ケル植物性系統ノ障碍

五二六

(一) 一般症狀

五二六

(二) 呼吸器系ノ障碍

五二七

(三) 循環器系ノ障碍

五二八

(四) 消化器系ノ障碍

五三〇

(五) 泌尿器系ノ障碍

五三一

附 録

應用診斷法

五四一

第一 傳染諸病

五四三

(甲) 寄生物性タルト確實ニシテ其寄生體明瞭ナル傳染諸病

五四三

(乙) 寄生物性タルト確實ナルモ其寄生體尙明瞭ナラザル

五四三

傳染諸病

五五二

(丙) 寄生物性タルトハ未ダ證明セラレザルモ恐ク之ニ基因

五五二

スル諸病

五五九

第二 侵襲諸病

五六一

第三 中毒諸病

五六五

第四 器質諸病

五六九

(甲) 呼吸器系諸病

五六九

(乙) 循環器系諸病	五八五
(丙) 消化器系諸病	五九三
(丁) 泌尿器系諸病	六〇六
(戊) 生殖器系諸病	六一〇
(己) 神経系統諸病	六一一
(庚) 血液及物質代謝器諸病	六一〇

增訂第十版 診斷學 後編

醫學士 下平 用彩 纂著

第三篇

消化器系診法

第一章

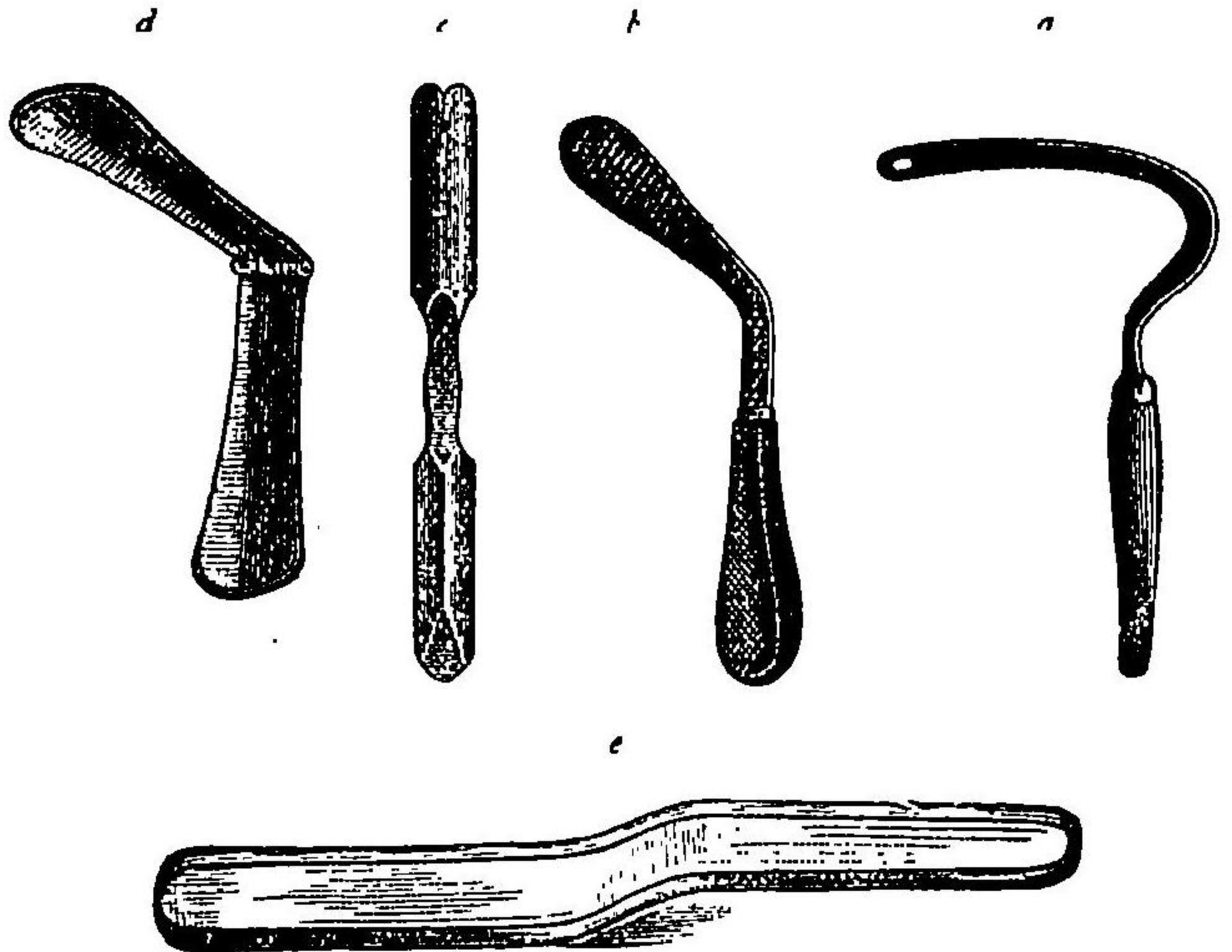
口腔検査法

口腔ノ検査法ハ主トシテ口腔、口蓋及咽頭等ノ諸部ヲ視診スル者ニシテ之ニハ通常良好ノ照明ヲ要シ又多クハ速ニ視察ヲ行フノ必要有リ而シテ之ヲ照明スルニハ人工的照明ヲ以テスルヨリハ日光ヲ以テスルヲ遙ニ優レリトス今口腔内諸部ヲ検査スルノ法ヲ概説センニ先ッ口腔粘膜ヲ視診スルニハ患者ヲシテ始メ口ヲ閉サシメ指ヲ以テ上下兩口唇ヲ外方ニ翻轉シ次デ開口セシメ壓舌子又舌鑑 *Mundspalt* (第二五十八圖)ヲ用キ注意シツ、頬粘膜ヲ齙齒ヨリ

壓舌子又舌鑑

口腔検査法

舌鏡の種類



(a) 金
(b) 鋼
(c) 硝子
(d) 硝子
製ノモノ
製ノモノ

ユルモ可ナリ能ク視察シ得可シ又咽頭後壁ヲ視診スルニハ患者ヲノ口ヲ開カシメ舌鏡ヲ以テ舌ヲ壓下シ「エー」音ヲ發セシム可シ診査前ニハ水ヲ嚥

隔離セシム此際又舌ヲ挺出セシメ之ヲ前方或ハ側方ニ運動セシムルヲ有リ是亦其麻痺ノ有無ヲ檢スルニ必要ナレバナリ(麻痺ノ檢査ハ神經系統診法ノ條下ニ詳ナリ)口蓋ハ可及的廣ク開口セシメ舌鏡ヲ以テ舌ヲ壓抵スル片ハ(此際匙柄ヲ用

下セシメ或ハ含嗽セシメテ以テ牛乳等ノ殘著物ヲ洗除セシメザル可カラザルヲ有リ又殊ニ小兒ニノ開口ヲ肯ゼザル片ハ兩指頭ヲ以テ鼻孔ヲ壓閉ス可シ以テ開口セシムルヲ得可シ小兒ニ在テハ亦號泣ノ際檢査ヲ行フヲ便トス此他舌鏡ヲ送入スルニ當リ絞扼運動ヲ起ス瞬間時ニ於テ殊ニ扁桃腺ヲ視察シ得可シ然レ實扶的里ニ罹レル小兒其他總テ重症患者ニ在テハ強テ此檢査ヲ行フ可ラズ是之ガ爲、往々危險ヲ速ク有レバナリ又神識昏瞶セル患者ニ在テハ咽頭後壁ヲ視察センガ爲、絞扼運動ヲ起サシムルヲ有レレ重症ノ者ニ在テハ亦屢、檢査ヲ行フ能ハザルヲ有リ

舌鏡ニ種々有リ通常金屬、硬護膜、角材、象牙等ヲ以テ之ヲ製スルモ就中最モ簡便ナルハ平直或ハ僅ニ彎曲セル硝子製舌鏡(第二四五七八圖)ニ此舌鏡ハ亦使用後消毒法ヲ施スニ甚ダ便宜ナリトス

口腔諸部ヲ觸診スルハ罕ニノ唯舌、口腔底(此部ニハ外方ヨリ反對ノ壓ヲ加フ可シ)扁桃腺、咽頭後壁等ノ檢査ニ之ヲ要スルコト有ルノミ而シテ之ヲ行フニハ患者ノ眼前ニ於テ手ヲ清洗シ示指或ハ之中指トヲ口内ニ送入ス可シ

口腔ノ検査ニ於テ肝要ナルハ(一)口唇(二)齒牙及齒齦(三)舌(四)口腔粘膜(五)唾腺及唾液ノ検査及(六)口腔内容ノ顯微鏡的検査並ニ(七)軟口蓋及扁桃腺(八)咽頭及(九)口蓋及咽頭ノ疾患ニ於ケル顯微鏡的検査ナリトス

口唇ノ検査 (一)口唇 其色(蒼白色、ちわのーせ等)ニ就テハ上文既ニ之ヲ述タリ(前編四四及四七頁參照)口唇ノ乾燥ハ舌ノ乾燥(下文ニ詳ナリ)ニ伴フ者ニシテ重症ノ熱性病ニ於テ口唇著シク乾燥スルキハ屢汚穢色痂皮狀ノ被膜ヲ生ジテ之ニ固著シ之ヲ剝離スルニ其下層ノ粘膜ヨリ出血スルコト有リ(所謂煤色苔 Fuliginose Belag)口唇ノ小ナル裂創(輝裂 Bhagaden)ハ通常注意ヲ要ス可キコト無キモ小兒ニ於ケル口角部ノ輝裂ハ間、遺傳微毒ニ肝要ナル一徵タルコト有リ此他遺傳微毒ニ罹レル者ニ在テハ稀ニ口門周圍ノ皮膚ニ一種固有ノ稍深キ放線狀ノ溝ヲ認メ殊ニ口角ノ附近ニ之ヲ見ルコト多キモ亦頤部ヨリ下唇ニ互ル者ヲ見ルコト有リ

煤色苔

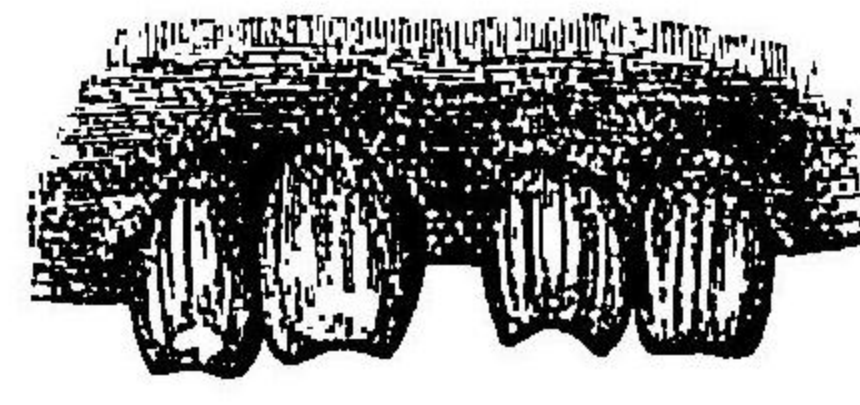
輝裂

(二)齒牙及齒齦 齒牙ニ就テハ其整備及狀態(齲齒、齒石、被層、動搖等)ニ注意ス可シ齒牙ノ完全ナラザル者ニ在テハ咀嚼十全ナラザルヲ以テ屢消化不良ノ主因ト爲ルコト有リ著シキ齲齒ハ屢、糖尿病患者ニ嗜ル所ナリ又慢性鉛

齒牙及齒齦ノ検査

中毒ニ在テハ齒根ニ向テ鉛樣灰白色ノ被層ヲ生ジ齒齦縁モ亦同一ノ色ヲ呈ス其他銅中毒ニ在テハ間、齒齦ニ綠色ヲ呈スルコト有リト云フ上顎中門齒(永久齒)ノ下縁ニ半月狀ノ缺陷(前二頁五十九圖)ヲ呈スルモノハ遺傳微毒ニ特有ノ一徵ニシテ之レニ角膜實質炎及耳聾ノ二症ヲ合セテ特ニ晚發性遺傳微毒ニ於ケル所謂ハッチンソン氏ノ三候 Hutchins on'sche Traits ト爲セリ然レモ上記ノ如キ門齒ノ變常ハ亦尙僂病ニ見ルコト有ルヲ以テ必ズシモ遺傳微毒ノ特徵ト爲スコト能ハザルガ如シ」齒牙ノ動搖ハ殊ニ慢性水銀中毒及壞血病ニ來ル者ニノ後者ニ在テハ齒齦黯赤色ヲ呈シ隆起シテ齒牙ヨリ剝離シ出血シ易ク且膿ヲ著クルコト有リ又幼齡ノ小兒ニ在テハ齒牙ノ發生及其交換ニ注意ス可シ是其發生ハ往々消化器ノ障礙(反射的下利)癲癇樣發作(小兒急痲、齒齶攣或ハ又聲門攣攣)ヲ來ス者ナレバナリ

圖九十五百二第 上顎中門齒ノ半月狀缺陷 (氏ソリンチツハ)

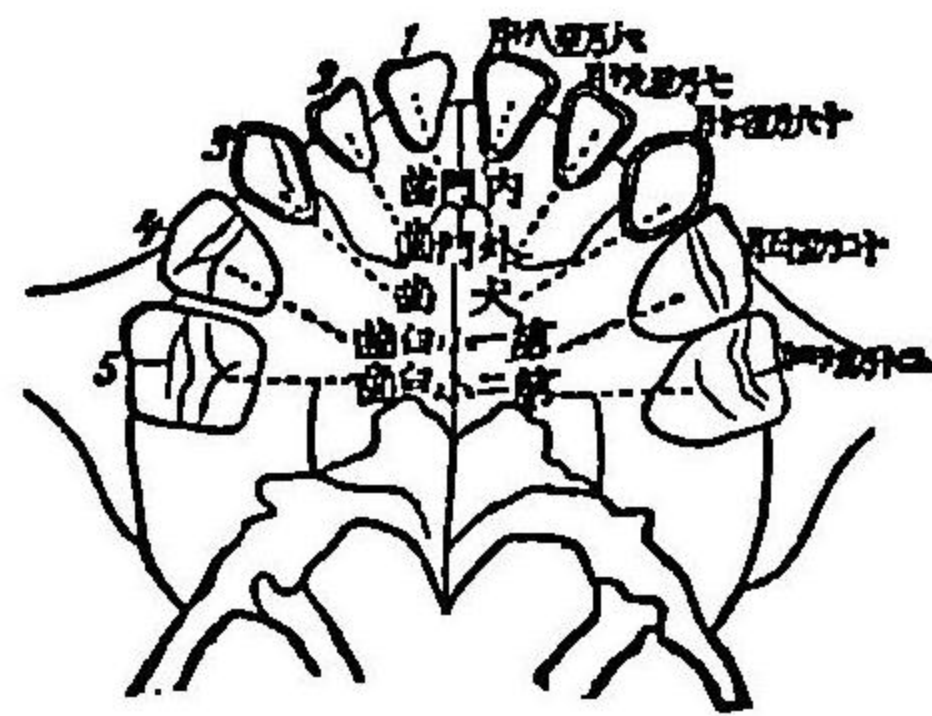


ハッチンソン氏ノ三候

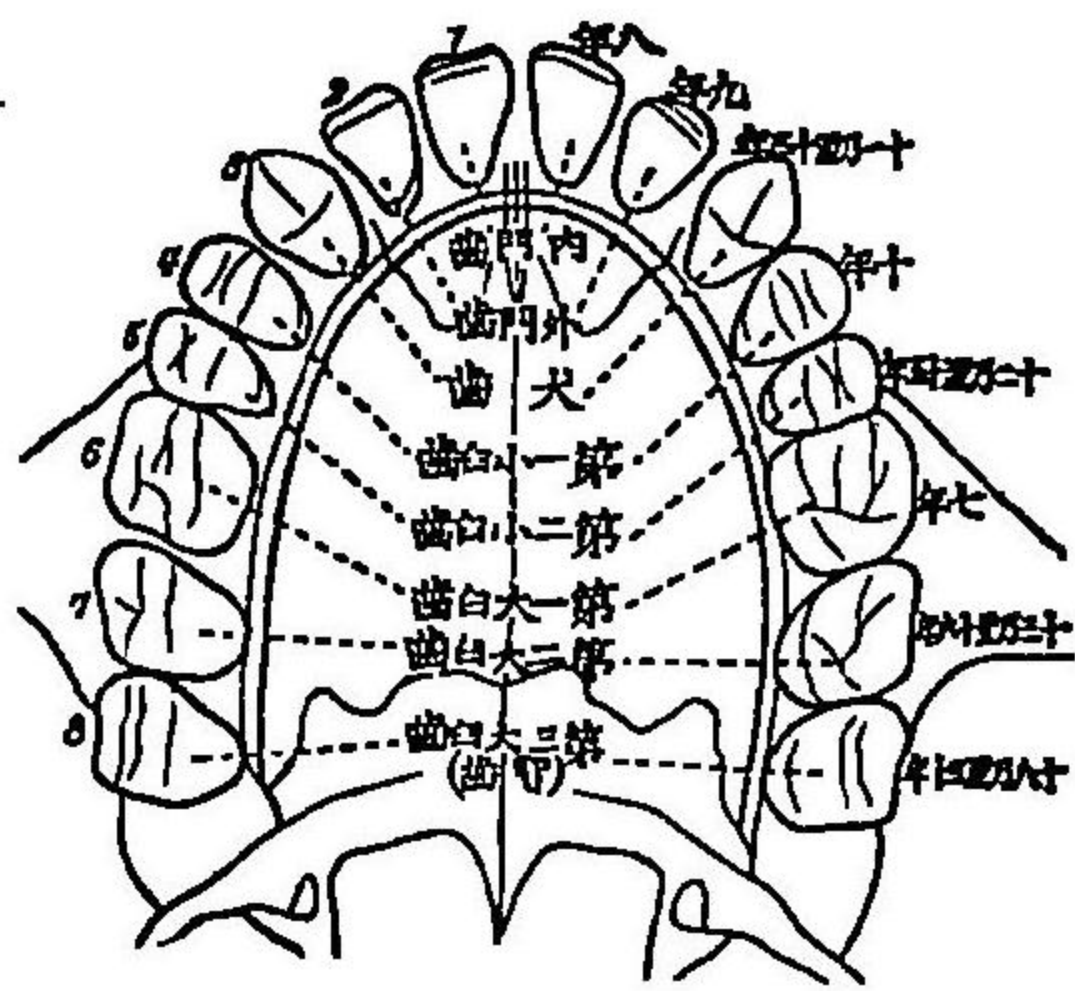
然レモ健全ノ小兒ニノ乳齒ノ發生甚々遲滯スル者有リ斯ノ如キ者ニハ乳齒發生困難ニ至ルコト有リ

第二百六十及第二百六十一圖ハ乳齒及永久齒發生時ノ平均年月ヲ示ス者ナリ

乳齒發生ノ順序



永久齒發生ノ順序



種ヲ來スル概
ノ種ナリ但シ生
誕後一ツ年ノ後
ニ及ブモ尙一
齒タモ發生セ
ザル者ハ罕ニ
ノ只尙健病性
小兒ニ之ヲ見

往々乳齒發生時ニ來ル所ノ所謂「反射的下利」ハ通常醫藥其效ヲ奏セザル者ニシテ却テ之ヲ放任スルヲ其トス是此際小兒ハ食慾尋常ニシテ爲メニ羸瘦ヲ來スガ如キト無クレバナリ又乳齒發生時ニハ時トノ頑固ノ氣管枝炎ヲ起スル有ルモ之ガ爲メモ他ノ障礙ヲ誘起スルヲ無キ者トス
智齒發生ニ際シテモ往々局所ニ炎症ヲ發シ加之ラズ間潰瘍ヲ生ジ時ニ又全身症狀ヲ伴フ有リ

舌ノ検査

(三)舌ニ就テハ殊ニ其腫脹運動色苔乾濕及癢痕等ニ注意ス可シ
舌ノ腫脹ニシテ其邊緣ニ僅ニ齒牙ノ壓痕ヲ留ムルニ過ギザル輕度ノ者ハ諸

種ノ口内炎ニ來ル者ニシテ其著シキ肥大ハ殊ニ急性舌實質炎其他腫瘍(第二百六十二圖)或ハ舌内靜脈血ノ鬱滯ヲ起ス重症ノ安魏那ニ見ル所ナリ但シ舌ノ大小ハ各人之ヲ異ニスルヲ以テ宜シク注意スベシ」舌ノ限局性腫脹及硬結ハ癰腫性或ハ微毒性新生物ノ初徴ト爲ス可シ但其鑑別ハ間難キヲ有リ

舌ノ巨舌症(淋巴管腫)



ノ之ヲ挺出セシムルニ(間、亦安靜位置ニ於テモ)振動シ且其挺出甚困難ナルヲ有リ而シテ重症ノ腸窒扶斯患者ニシテ神識昏瞶セル者ニ在テハ舌ヲ挺出スルモ再ビ之ヲ牽收スルヲ忘ル、者有リ
舌色ハ固ヨリ血液含量ノ多寡ニ關ス殊ニちあのいせノ如キハ最明ニ此所ニ顯ハル故ニ貧血患者ノ舌ハ蒼白色ヲ呈スレモ諸急性熱性病者ニ在テハ

覆盆子狀

赤色ヲ呈シ又屢其表面ニ苔ヲ被ムルヲ以テ唯其尖端及周縁ニノミ赤色ヲ帶ブルコト有リ猩紅熱ニ於テハ殊ニ既ニ皮疹發生前ヨリ舌黯赤色ト爲リ其表面ハ菌狀乳嘴ノ腫脹ニ由テ覆盆子狀ヲ呈ス所謂覆盆子狀舌 *Himbeersprache* 是ナリ」又舌粘膜ノ色ハ舌苔ニ由テ被ハル、コト多シ
 舌苔ハ必ズシモ常ニ病的ニ非ズ健全ノ者及殊ニ多量ニ飲酒喫烟スル者ニ於テモ亦之ヲ見ルコト寡カラザレモ消化不良ノ爲、ニ來ルヲ殊ニ多シトス而シテ茲ニ注意ス可キ者ハ其色、厚薄及廣狹ナリトス
 露口瘡ニ在テハ舌苔類白色ニシテ乾酪樣ヲ呈シ殊ニ小兒ニ多ク見ル所ナレモ成人ノ重症疾患(結核糖尿病、窒扶斯)ニ於テモ亦之ヲ見ルコト有リ該舌苔ハ所謂露口瘡菌(をいちうむあるびかんす) (第百六十六圖)ノ繁殖ニ由テ發生スル者ニシテ其甚シキ者ニ至テハ亦軟硬兩口蓋、頰粘膜上ニ乳白色ノ斑點ヲ著ケ尙進デ食道及喉頭ニ蔓延スルコト有リ
 煙樣黯黑色ノ舌苔ハ殊ニ重症ノ窒扶斯患者ニ靚ル所ナリ該舌苔ハ又粘稠ニシテ縷ヲ牽キ舌ヲ口蓋ヨリ離スルハ其間ニ稠厚不透明ノ絲條ヲ形成ス此他舌苔ハ一定ノ飲食物及藥物ニ由テ諸般ノ色ヲ呈ス又舌苔ハ平等或ハ不

口腔粘膜炎ノ検査

等ニ舌上ニ廣延シ舌鱗屑癬ニ在テハ一種固有ノ狀ヲ爲シテ局在シ其蔓延ノ狀況宛モ輿地圖ニ類ス
 舌ノ乾燥ハ殊ニ窒扶斯及他ノ急性熱性病者ニ見ル所ニシテ或ハ全部ニ來リ或ハ唯其一部ニ止マリ舌滑澤ニシテ光輝ヲ有シ宛モ漆ヲ塗レルガ如ク或ハ粗糙ト爲リテ龜裂ヲ生ジ小出血ノ爲、乾涸セル黑色ノ痂皮ヲ以テ被ハルルコト有リ蓋シテ斯ノ如キ者ハ常ニ重症疾病ノ徵候ナリトス
 舌上ニ存スル癩痕ハ癩癩ノ診斷ニ肝要ナリ是、患者曾テ其發病ノ際自ラ舌ヲ咬傷シタルニ因ルコト有レバナリ(但、歇斯の里性癩癩ニ在テハ決シテ舌ノ咬傷ヲ來スコト無シ)微毒性ノ疾患(護謨腫、潰瘍)モ亦舌上ニ癩痕ヲ殘スコト有リ此他披裂性舌炎ハ稀有ノ症ナレモ本症ハ舌上ニ深キ截痕ヲ生ジ其表面不平ト爲リ葉狀ノ觀ヲ呈ス
 (四)口腔粘膜炎ニ就テハ殊ニ其潮紅、腫脹、流涎(加答兒性口內炎)膿ヲ被ムル潰瘍(潰爛性口內炎)及被膜(亞布答及露口瘡)ニ注意ス可シ微毒ノ疑有ルハ(癩痕、潰瘍)最、精密ニ視察セザル可カラズ又強烈ノ鑛酸或ハ亞爾加里、昇汞、石炭酸中毒等ノ疑ヲ存スルハ能ク之ヲ檢ス可シ此際粘膜炎ノ表面ニ灰

白色ノ變色ヲ呈シ其下ニ著シキ充血ヲ起シ粘膜剝離スルコト有リ

稀ニ薄弱ナル小兒ニ於テ通常他ノ重症疾病(麻疹、猩紅熱、猩紅熱、猩紅熱)ニ併發スル所ノ水瘡(Masernherbs, Nomu)ノ起ルニ至ルハ、頬粘膜ノ口角近部ニ始マリ初ハ其粘膜汚

痛水 (驗白)



穢綠樣色ヲ呈スルモ直ニ惡臭液ヲ漏ス所ノ潰瘍ニ變シ次テ其周圍ニ顔面ノ浮腫性腫脹ヲ兼タル浸潤ヲ生シ此浸潤ハ忽チニ腫脹ニ陥リ速ニ四方ニ蔓延シ此際頬ノ外面ニ先ツ紫藍色ノ斑點ヲ生シ亦速ニ壞死潰爛シテ穿孔ス此間ノ經過ハ甚ク急速ニ發病後五日乃至八日ニ患者ハ敗血症、虛脫或ハ外頸動脈ノ出血ニ由テ斃ル、コト

有レモ亦壞疽部脱落シ幸ニ治癒スルコト有リ

コブツク氏症

コブツク氏症 Koplik'sche Flecke ナル者ハ麻疹初期ノ第二日ニ生ズル粟粒大乃至之ヨリ稍大ナル上皮ヨリ成ル所ノ口腔粘膜ハ白色隆起ニシテ下顎小齒ニ對スル

口角ノ内面ニ發シ間、其周圍ニ赤色暈ヲ繞ラシ其數ハ五乃至十二個許ナリ該症ハ麻疹患者ニ多數ニ見ル所ニ發疹ノ後ハ消散スルモ他ノ特有ナル麻疹ノ症候ニ前驅シテ發生スルヲ以テ之ニ由テ早ク本病タルコトヲ診斷スルヲ得可キコト有リ

口腔底ハ觸診ニ由テ内外兩方ヨリ檢ス可シ該部ハ恐ル可キルードウヰ氏安魏那(Angina Ludwigii)ノ發スル所ナリ是始、口腔底ニ有痛性ノ板樣硬結ヲ生シ廣ク頸部ニ蔓延スル所ノ蜂窩織炎ニシテ實扶的里後ニ發シ頗ル危險ノ症ニ屬ス

唾腺及唾液ノ検査

(五)唾腺及唾液 唾腺ニ就テ殊ニ注意ス可キ者ヲ耳下腺トス之ニ炎症(特發性及轉移性耳下腺炎)ヲ發スルハ疼痛及腫脹ヲ來シ若シ化膿スルハ發赤シ下顎隅角ノ上部ニ於テ波動ヲ呈ス但シ屢見ル所ノ流行性耳下腺炎ハ通常化膿ニ陥ラザル者トス

涎

唾液ハ口腔粘膜ニ於ケル諸般ノ刺激ニ由リ其分泌增多ス(流涎 Speichelfluss, Ptyalismus)即シ生理的ニハ食物咀嚼ノ際增量シ病的ニ於テハ口内諸般ノ炎症潰瘍、齒齦炎、齒齦膿瘍其他酸類或ハ亞爾加里ノ腐蝕等ノ際其他口蓋及扁桃

口腔検査法

口腔内容ノ顯微鏡的檢

腺ノ炎症又ハ慢性水銀中毒或ハ間延髓ノ疾患(延髓球麻痺)ニ由テ增量ス又唾液分泌ノ減少ハ熱性諸病、糖尿病、劇甚ノ下利(虎刺拉)等ニ來ル者ナリ

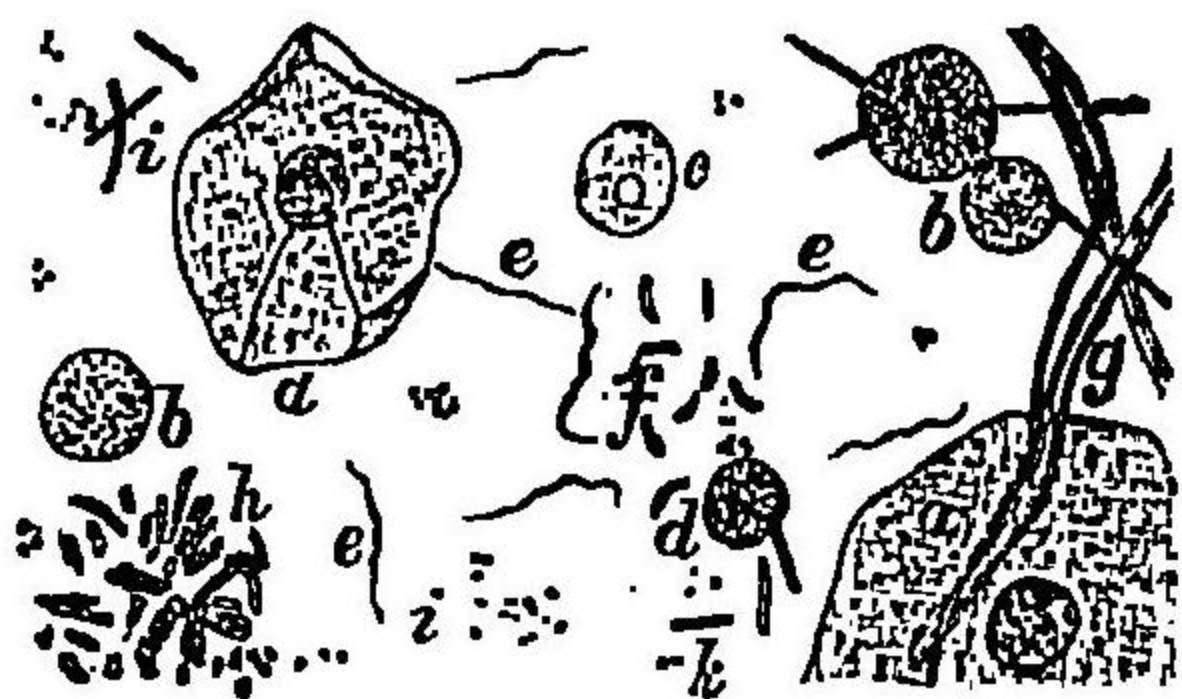
唾液ノ化學的檢査ハ診斷上ニ應用セラル、少キモ腎臟炎ニ於テハ其中ニ尿酸ヲ見ル可シ然レモ膽色素及糖ハ未ダ唾液中ニ檢出セラレタルヲ無シ、諸般ノ物質殊ニ沃度加里ノ如キハ服用後速カニ唾腺ヨリ排泄セラレ

(六)口腔内容ノ顯微鏡的檢査 通常茲ニ檢出スル者ハ口腔粘膜ノ最上層ヨリ來ル扁平上皮、二三ノ白血球、其他許多ノ分裂菌ニ就中球菌、桿菌及螺旋菌ヲ見ル可シ(第二百六十四圖)而シテ此等許多ノ微生物ハ殊ニ齒牙ノ被層ニ多ク存スル者ニシテ又レ、ぶと、りきす、ぶ、か、り、す、(Leptothrix buccalis) (第二百六十四圖)及

第二百六十五圖ヲ見ル、有リ是レ長キ桿菌ニシテ細大種々ノ長キ絲條ヲ作り屢、數條相並列シテ存シ宛モ毛髮ヲ束テタルガ如キ狀ヲ呈ス該菌ハ五%乳酸ヲ以テ處置シ次デ之ニルゴール氏液一滴ヲ加フルキハ染色シテ鮮麗ナル青赤色ヲ呈ス

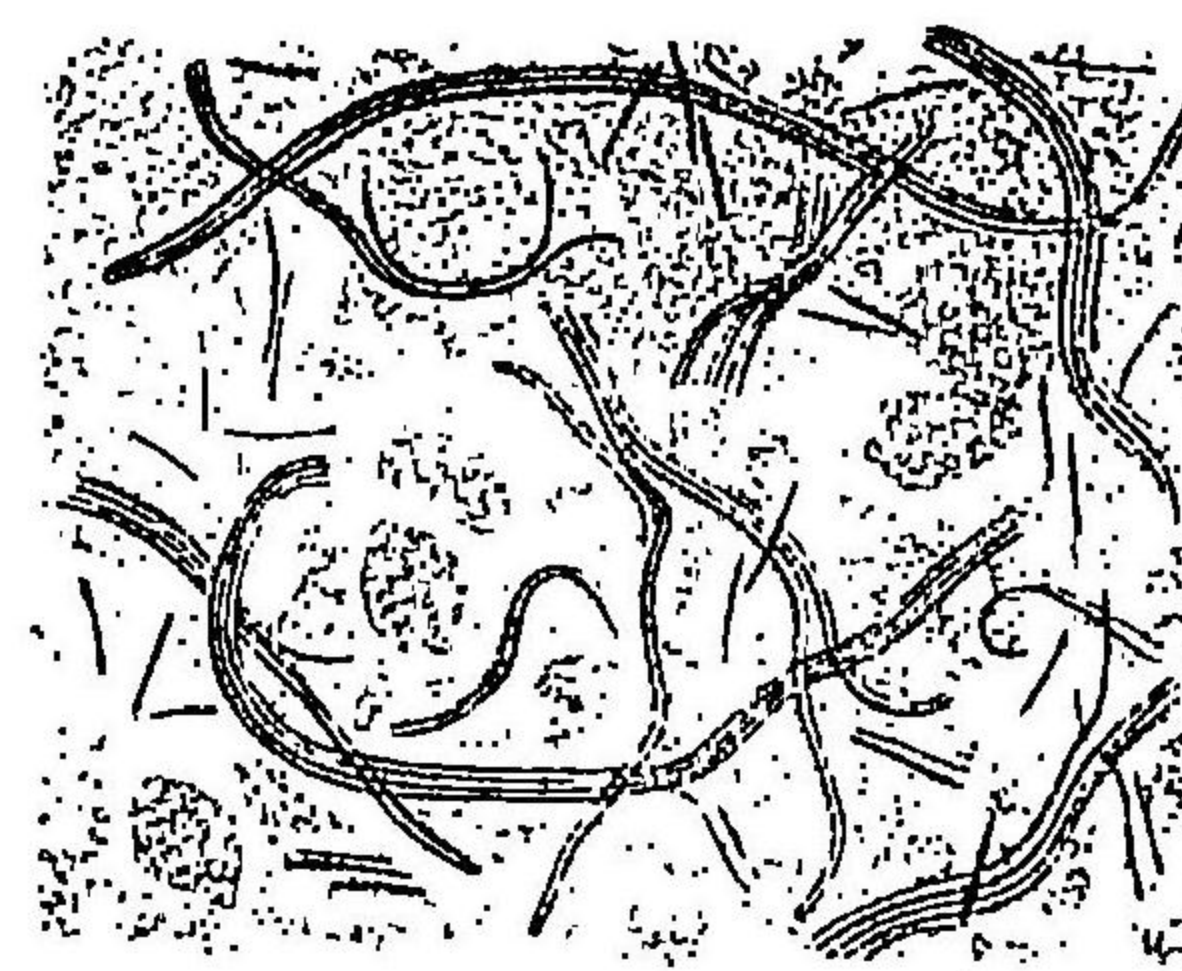
茲ニ注意ス可キハ健康者ノ口内分泌物中ニ往々病原的微生物ヲ發見スル、是ナリ即チ其中ヨリ兔敗血症ノ細菌、さるちなニ似タルみくろこくす、てと

第 二 百 六 十 四 圖
口腔分泌物ノ顯微鏡的檢査
(氏ニシクヤ)



- (a) 扁平上皮
 - (b) 唾液球
 - (c) 脂肪球
 - (d) 白血球
 - (e) すびろへてぶつかり
 - (f) す(ノ)口腔
 - (g) むまばちるれん(ス)れぶご
- さききす、ぶ、か、り、す、(レ、ン、) 諸種ノ細菌

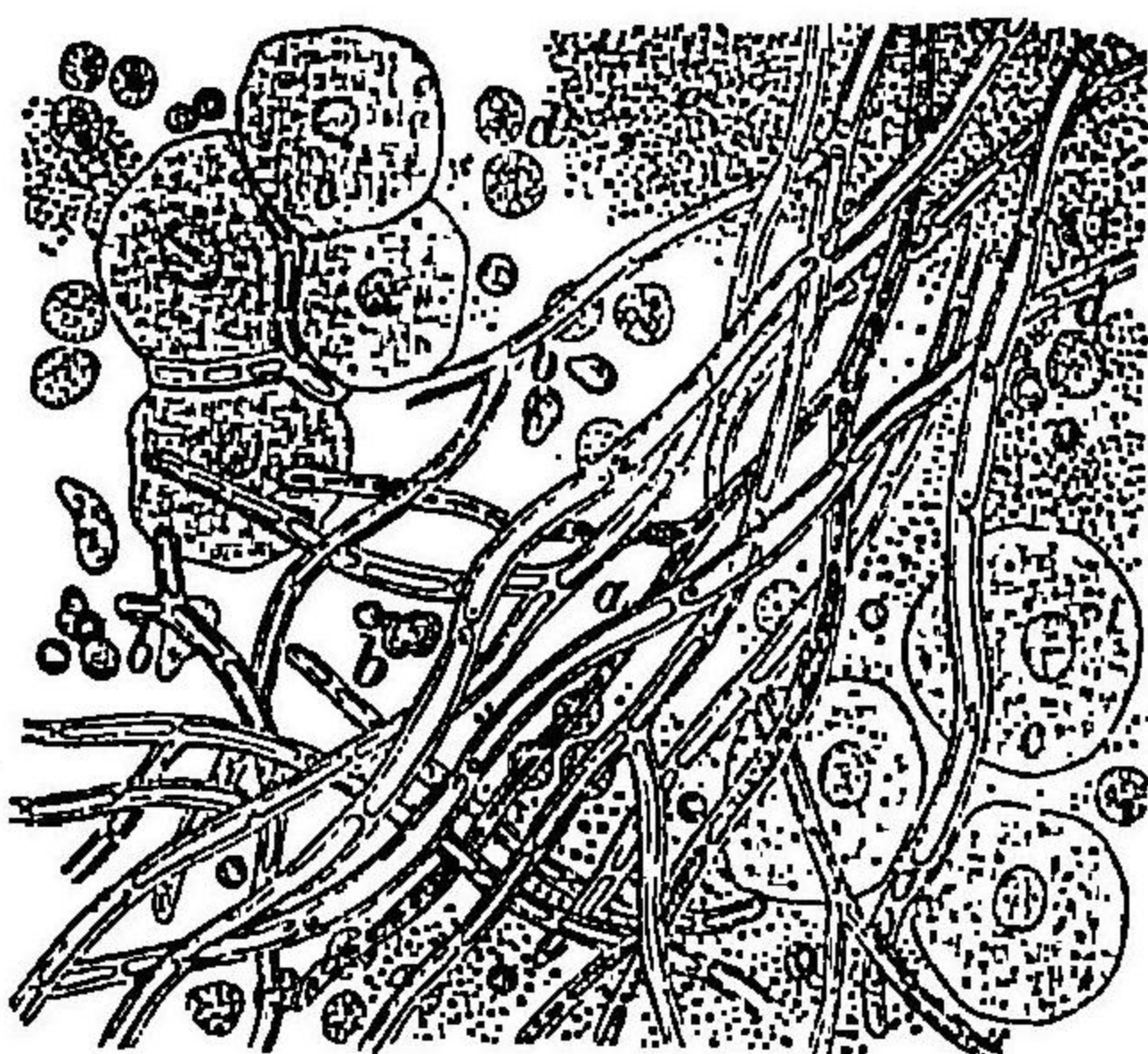
第 二 百 六 十 五 圖
おふりきす、ぶ、か、り、す、
(氏ニシクヤ)



らげぬす、フレンケル氏菌ニ似タル複球菌及實扶的里桿菌ヲ培養スルヲ得タリ此他口内ニ存スル細菌中ニハ(一部ハ培養試験ニ於テモ)或ハ病原的細菌ニ酷似セル者有リ例之、こむま狀桿菌、真正ノ實扶的里桿菌、回歸熱螺旋菌ニ似タル者等是ナリ而シテ口内ノ細菌ハ概スルニ消化不良ノ際毎ニ増殖スル者ニシテ諸種ノ重症患者及諸般ノ口内炎ニ在テモ亦頗ル許多ノ細菌ヲ存スル者トス

診斷上茲ニ尙記載ヲ要スル二種ノ微生物有リ、窩口瘡菌(Scorphiis, Oidium albicans

圖六十六 口瘡、菌、及其其他 (氏ユシクヤ)



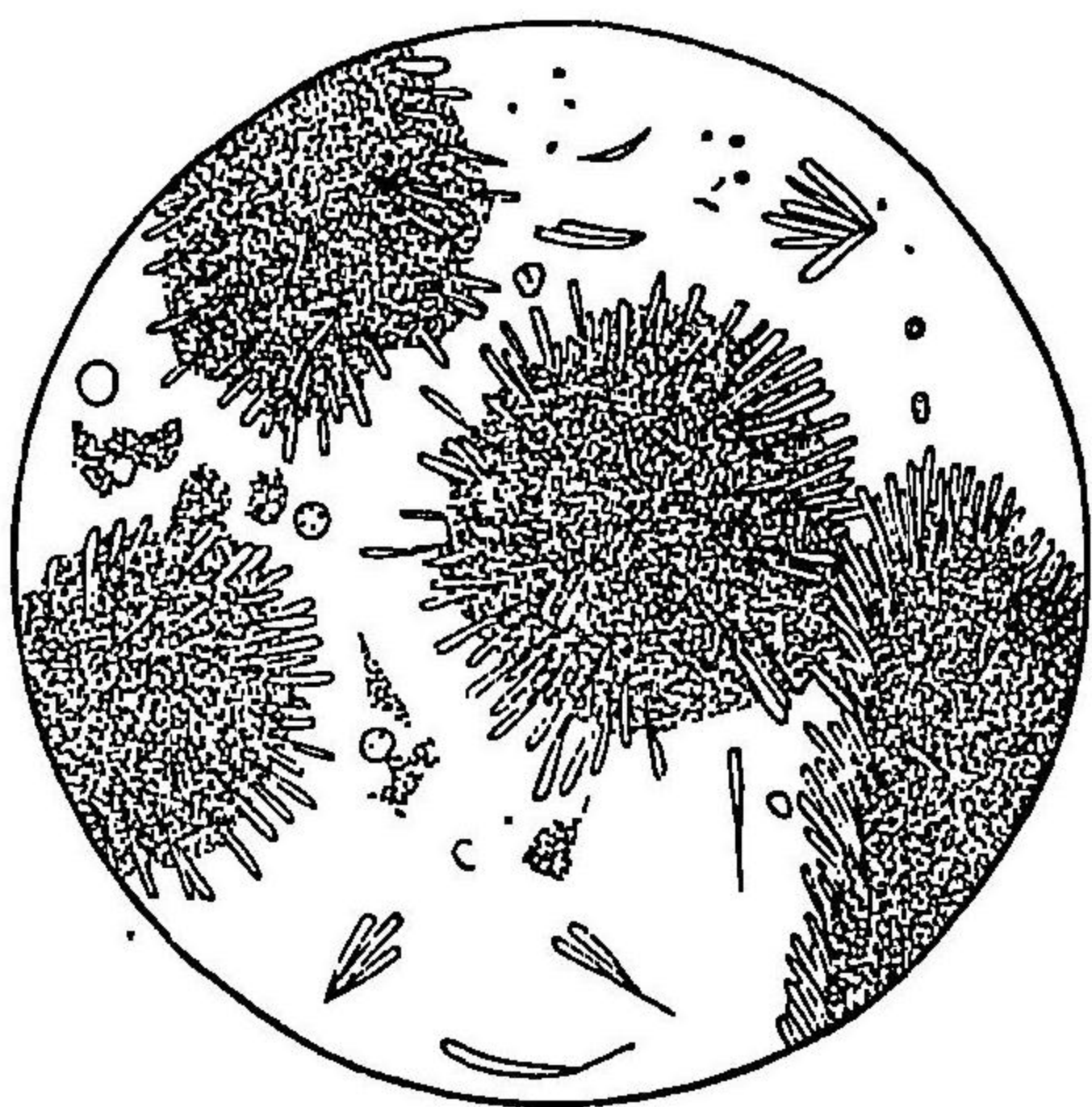
(a) 窩口 瘡菌 (b) 芽胞 (c) 上皮 (d) 白血球 (e) 頰敗物

及放線狀菌 (Actinomyces) 即
是ナリ前者ハ特異ナル稍、
廣キ鮮明ノ絲條ヲ呈シ(其
横徑殆ド白血球ノ半ニ近
シ)且芽胞(圓形或ハ卵圓形
ノ透明ナル顆粒)ヲ存スル
ヲ以テ之ヲ識ル可シ(第百
六十六圖)下顎ヨリ生ズル所
ノ口内ノ化膿ハ罕ニハ放

軟口蓋(懸
垂)及扁桃
腺ノ検査

線狀菌ニ起因スルコト有リ故ニ口内ヨリ膿ヲ排泄スル者ニ在テハ亦此菌ノ
存在ニ注意セザル可カラズ(第百六十七圖)
(七)軟口蓋即懸垂口蓋弓及扁桃腺ハ諸種ノ疾患ニ侵サレ易キ所ナルヲ
以テ最ニ注意セザル可カラズ是レ此部ハ常ニ飲食物ノ攝取ニ當リテ刺戟ヲ蒙
ムルノミナラズ亦常ニ呼吸氣流ニ觸接シ且口内ノ諸病ハ此所ニ傳搬シ易
ケレバナリ殊ニ扁桃腺ノ組織タル諸種細菌ノ繁殖ニ適スル者ニシテ實扶的

圖六十七 放線狀菌 (氏ツルハンレ)



里微毒、結核等ノ病毒ハ屢、此
所ニ發育繁殖ス故ニ此部ノ
検査ニ於テハ殊ニ扁桃腺ノ
状態ニ注目スルヲ肝要トス
即チ先ツ其腫脹ノ有無及外面ノ
状態ヲ精密ニ視察ス可シ其
肥大シ深キ空虚ノ凹窩ヲ呈
スル者ハ屢、安魏那ニ罹リタ
ルノ徵ナリ(慢性扁桃腺肥大)

又粘膜炎、肥厚シ表面白色ヲ呈スルカ又ハ著シク陷没シ限局セル白色ノ癥痕
ヲ呈スル者ハ微毒ニ因ルヲ察知ス可シ」急性安魏那ニハ單純加答兒性、濾
胞性、壞疽性、非實扶的里性、實扶的里性、安魏那及扁桃腺膿瘍ヲ區別ス但、是等
ノ諸症ハ一見其鑑別ニ苦ムコト有リ殊ニ實扶的里性及猩紅熱性、安魏那ノ如
キハ濾胞性安魏那ノ狀ヲ以テ始マリ加之ラズ輕症ノ實扶的里ハ此症狀ヲ以
テ經過スルコト有リ實扶的里ト單純壞疽性安魏那トハ其鑑別間、甚難キコト有

リ即後症ハ扁桃腺以外ヲ侵スヲ無ク且通常偏側ニ來ルモ實扶的里モ亦唯扁桃腺ニ限局スルヲ有リ然レ其初ニ當リ被膜固著シテ離レ難キハ實扶的里タルヲ知ル可キモ此徵候タル確實ナル者ニ非ザレバナリ』猩紅熱性實扶的里ト真正ノ實扶的里トハ視診上亦全ク鑑別シ難キヲ有リト雖顯微鏡的検査ヲ行フキハ能ク之ヲ鑑識シ得可シ而シテ重症ノ實扶的里ニ在テハ兩口蓋弓懸壅垂軟口蓋ヲ侵シ又硬口蓋ノ一部ヲ侵スヲ有リ猩紅熱性實扶的里モ亦廣ク口腔粘膜ヲ侵スヲ有リ

扁桃腺膿瘍ハ偏側ニ存シ前口蓋弓隆起シ且波動(指ヲ送入シテ之ヲ檢ス)ヲ呈スルヲ以テ之ヲ識ル可シ』扁桃腺及軟口蓋ニ於ケル頑固ノ潰瘍ハ多クハ微毒性ナルモ罕ニハ結核性ナルヲ有リ後症ニ於テハ間粗大ノ潰瘍ニ兼ルニ(或ハ之ヲ有セザルモ)粘膜ニ蔓延セル網狀ノ膿性變色ヲ呈スルヲ略ルヲ有リ』口蓋麻痺ニ就テハ宜シク神經系統診法ノ條下ヲ觀ルベシ

咽頭ノ検査

(八)咽頭ニ就テハ慢性或ハ急性ノ炎症ヲ存セザルヤ又潰瘍ノ有無ニ注意ス可シ慢性咽頭加答兒ヲ有スル患者ニ在テハ屢咽頭ノ後壁ニ灰白色ノ小隆起ヲ見ル是淋巴球腫脹シ或ハ粘膜腺ノ肥大セル者ナリ(顆粒狀咽頭炎)又

他ノ慢性加答兒症ニ在テハ粘膜ノ萎縮ニ因リ咽頭ノ後壁蒼白色ヲ呈シ滑澤ト爲リ乾燥シテ洋漆ノ如キ一種ノ光澤ヲ帶ブルヲ有リ

小兒ノ原因不明ニシテ嚔下困難或ハ呼吸困難ヲ發スル者ニ於テハ間咽頭ノ後壁ニ隆起ヲ呈スルヲ有リ(咽頭後膿瘍)之ヲ觸診スルニ明ニ波動ヲ呈ス急性咽頭後膿瘍ハ第二及第三頸椎ノ兩側傍ニ在ル淋巴腺ノ化膿ニ因ル者ナルモ其慢性症ハ上部頸椎ノ結核性骨瘍ニ因ル者トス

口蓋及咽頭ノ検査ニ際シテハ每常亦頸部ノ淋巴腺ヲ共ニ検査セザル可カラズ急性炎症ニ在テハ常ニ該淋巴腺ノ疼痛性腫脹ヲ來ス者ナリ殊ニ實扶的里ニ於テ最甚シトス但シ慢性炎症ニ在テモ亦屢其腫脹ヲ見ル可シ

口蓋及咽頭ノ疾患ニ於ケル顯微鏡的検査

(九)口蓋及咽頭ノ疾患ニ於ケル顯微鏡的検査 此検査ハ通常唯左ノ二症ニ於テ行フヲ有ルノミ
結核性潰瘍ノ疑有ル者ニ在テハ屈撓ス可キ顯微鏡検査用筈ヲ用キテ其一部ヲ爬取シ喀痰検査ニ於ケルガ如ク覆蓋硝子標本ヲ作り結核桿菌ノ有無ヲ檢ス可シ然レ該患者ハ常ニ肺臟若クハ喉頭ノ結核ニ罹レルヲ以テ此検査ヲ行フニハ患者ヲ十分含嗽シテ口内ヲ清淨ナラシメ粘膜ニ附著セル

痰ノ管上ニ附著シ來ルヲ避ケザル可カラズ
 上文既ニ述ベタルガ如ク諸種ノ安魏那ハ時ニ真正ノ實扶的里ト鑑別シ難
 キ一有ルヲ以テ此疑ヲ存スルキハ宜シク實扶的里桿菌ノ有無ヲ檢シ以テ
 之ヲ診定スベシ是真正ノ實扶的里ハ必ズロエフレル氏ノ實扶的里桿菌ニ因
 テ發スル一吾人ノ今日毫モ疑ヲ容レザル所ナレバナリ
 實扶的里桿菌 *Diphtheriebakterien* (第百六十八及第百六十九圖)ハ大小不同ナル僅ニ彎曲
 セル桿狀菌ニ其長徑ハ結核桿菌ニ比ス可ク幅ハ其二倍ナリ但此桿菌ハ
 他種桿菌ノ如ク其形
 態ノ整然タル者稀ニ
 ノ榮養ノ狀況ニ由リ
 種々其形態ヲ異ニシ
 義膜中ニ在テハ亦種
 種ノ形態ヲ呈スル者
 ヲ存シ且義膜中ニ於
 テハ往々特異ノ聚合

四八 實扶的里桿菌ノ培養ニ關シテ



ロエフレル氏
 加里めちーれ
 んぶらうチ以
 テ染色シホニ
 テ洗ヒタル者

ヲ爲ス而本菌ハロエ
 フレル氏ノ亞爾加里
 性めちーれんぶらう
 溶液ニ由テ最能ク染
 色スルモ菌ノ全體平
 等ニ著色セズ爲ニ往
 往連鎖狀球菌ノ觀ヲ
 呈スルヲ有リ又此桿

四九 實扶的里患者ノ義膜ニ存在スル桿菌ノ培養ニ關シテ



ロエフレル氏
 加里めちーれ
 んぶらうチ以
 テ染色シホニ
 テ洗ヒタル者

ヲ爲ス而本菌ハロエ
 フレル氏ノ亞爾加里
 性めちーれんぶらう
 溶液ニ由テ最能ク染
 色スルモ菌ノ全體平
 等ニ著色セズ爲ニ往
 往連鎖狀球菌ノ觀ヲ
 呈スルヲ有リ又此桿

菌ハ實扶的里患者ノ義膜及其部ノ粘膜ニ存在スルヲ以テ之ヲ檢出スルニ
 ハ殺菌セル錐子ヲ以テ義膜ノ一部ヲ取り覆蓋硝子上ニ之ヲ細分シ次デ他
 ノ覆蓋硝子ヲ取り之ヲ壓挫シタル後之ヲ離チ乾燥セシメテ後三十立方仙
 迷ノ亞爾個保兒性めちーれんぶらう飽和溶液ト〇〇一%ノ加里滴汁百立
 方仙迷ノ混液(所謂ロエフレル氏液)中ニ投ズルニ在リ二三十分時ヲ經ルキハ能
 ク著色ス可シ但他ノ球菌モ亦咽頭ニ類似ノ被膜ヲ生ズルヲ有ルノミナラ
 ズ實扶的里桿菌ハ形態上或ハ染色上特別ナル性狀ヲ具有セザルヲ以テ之

ヲ確實ニ證明センニハ培養法ヲ行ヒ之ヲ動物ニ接種セザル可カラズ其詳細ノ一ニ至テハ宜シク細菌學書ニ就テ觀ルベシ

咽喉一於テ往々れぶこいりきすノ繁殖ヲ來スコト有リ即チ扁桃腺ヲ視ルニ其凹窩ニ見ク暗ト無刺戟性ノ栓子ヲ著ケ或ハ又平坦ニ其粘膜ニ附著シ時トシハ亦扁桃腺ヨリ廣ク蔓延シテ舌根ノ齶狀腺ニ至リ加之ラズ氣管内ニ蔓延スルコト有リ蓋シテ斯ノ如キ者ハ數多ノ境界判然タル隆起セル黃白色ノ斑紋ヲ呈スルヲ以テ之ヲ如ク可シ咽喉れぶこいりこい菌病 (Pharyngomycosis lephthirica) 是ナリ

口臭

口腔ノ検査ニ就テ茲ニ尙診斷上肝要ナル者ヲ所謂口臭 (Fœtus ex ore) トス殊ニ其厭フ可キ惡臭ハ齶齒消化不良其他齒牙ノ不潔ナル輩ニ來ル者ニシテ重症患者ニ於テ粘稠ノ舌苔ヲ有スル者ニ來ル所ノ一種腐敗様ノ惡臭ハ之ト異ナリトス又極テ重症ノ患者ニ在テハ間死戰期ニ方リ口内至テ清潔ナルモ一種腐敗様ノ臭氣ヲ放ツコト有リ此他診斷上是等ノ臭氣ヨリ遙クニ肝要ナル者ヲ青酸、磷、亞爾個保兒、噶囉仿護ノ中毒ニ來ル臭氣トス但シ兩者ハ新ノ症ニ於テモ屢缺如スルコト有リ

菓食

妙ニ尙掲グ可キ者ヲ所謂菓臭 (Obscurus) (新鮮ノ林檎ニ酷似セル「あちごん臭」

「Acetongeruch」トス是往々糖尿病患者ニ於テ其昏睡前或ハ此期ニ來ル者ニシテ此際尿ヲ検査スルニ間格魯兒磁反應ヲ呈スルヲ見ル可シ(尿検査法中ニ詳ナリ)

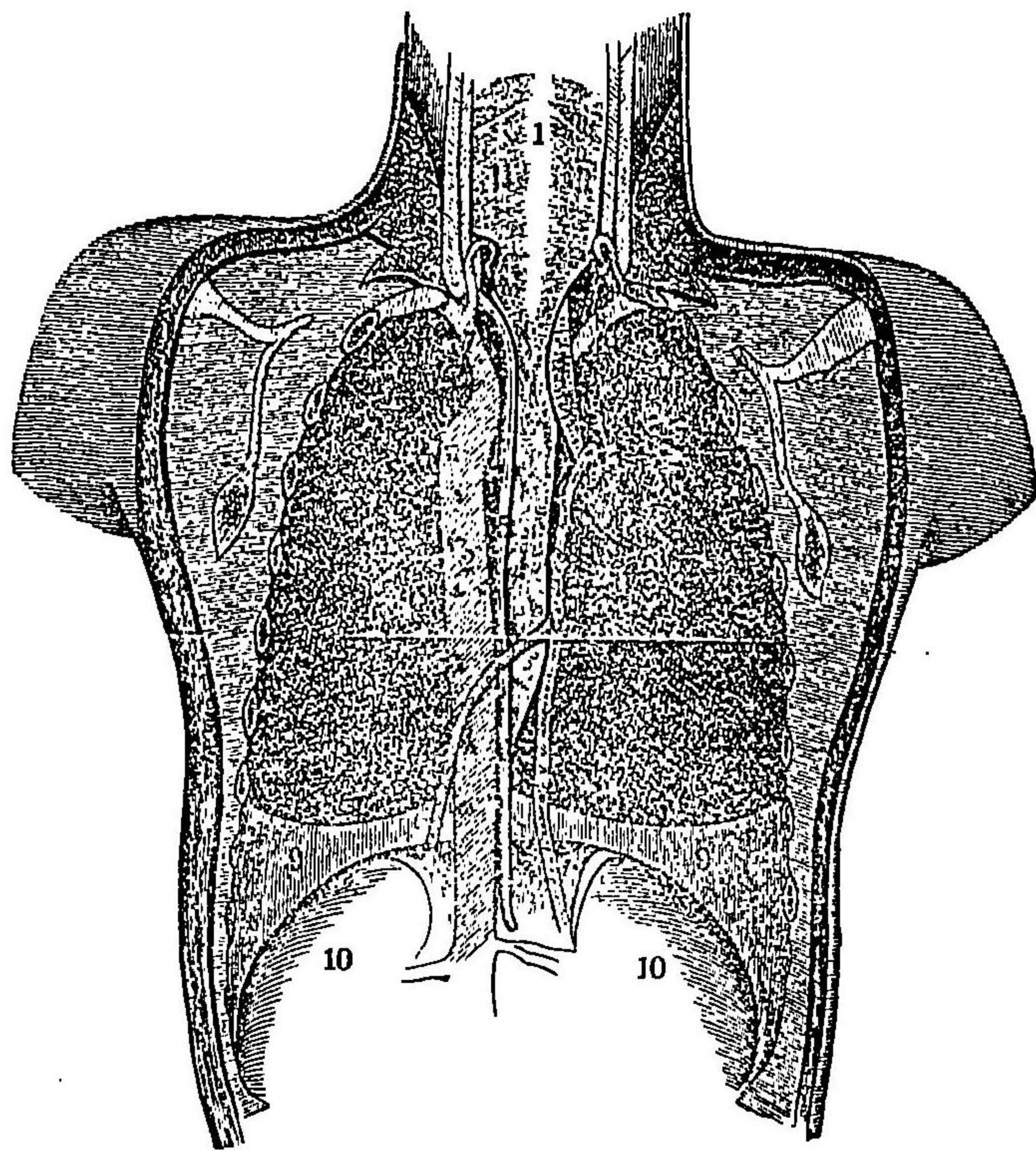
第二章 食道検査法

解剖摘要

食道ノ解剖

食道(二百七十四)ハ喉頭環狀軟骨ノ高(即チ第六頸椎ノ下緣)ニ起リ始ハ中央ニ位シ正ニ脊柱ノ前面ニ在ルモ胸廓ノ上部ニ於テハ稍左方ニ偏シ氣管ノ左側ニ沿テ下行シ左側氣管枝ト交叉シ次デ又脊柱ノ前面ニ來リ第七胸椎部ニ在テハ稍其右方ニ遷リ再ビ左方ニ轉シ劍狀突起ノ基部ノ高ニ於テ迷走神經ト共ニ横隔膜ノ食道孔ヲ通過シテ腹腔ニ入り直ニ胃ノ噴門ニ移行ス」食道ノ長ハ大人ニ在テハ大約二十五仙迷ニノ齒列ヨリ食道起端ニ達スル距離ハ約十五仙迷ナリ故ニ齒列ヨリ胃ニ至ル全長ハ大約四十仙迷ヲ

食道ノ大動脈ニ對スル位置
(胸廓後面ヨリ)



- (1) 食道
- (2) 胸部
- 大動脈
- (3) 肺臟
- (4) 氣管
- (5) 胸管
- (6) 膈
- 脈及半奇
- 靜脈(7)
- 左鎖骨下
- 動脈(8)
- 無名動脈
- 幹(9) 横
- 膈膜(10)
- 腎臟

算ス又大人ニ在テハ齒列ヨリ氣管分岐部ニ至ル距離ハ大約二十二仙迷ナリ
 食道ハ空虚ノ際ハ凋萎シテ前後兩壁互ニ接著シ其間ニ僅ニ横裂ヲ餘

スニ過ギザルモ食餌ノ通過スルニ當テハ擴張シテ圓筒狀ト爲ル而シテ其廣
 狭ハ全道同一ナラズ其最狹部ハ食道ノ起始部及其横隔膜ヲ通過スル部位
 ニ在リ
 食道ノ隣接器官ニノ諸般ノ疾患ニ貴要ノ關係ヲ有スル者次ノ如シ即チ食道
 最上部七乃至八仙迷ノ部位ニ當ル氣管、氣管枝、胸膜、心囊、氣管分岐部在下
 ノ大動脈、同部以上ノ返廻神經是ナリ

嚥下困難

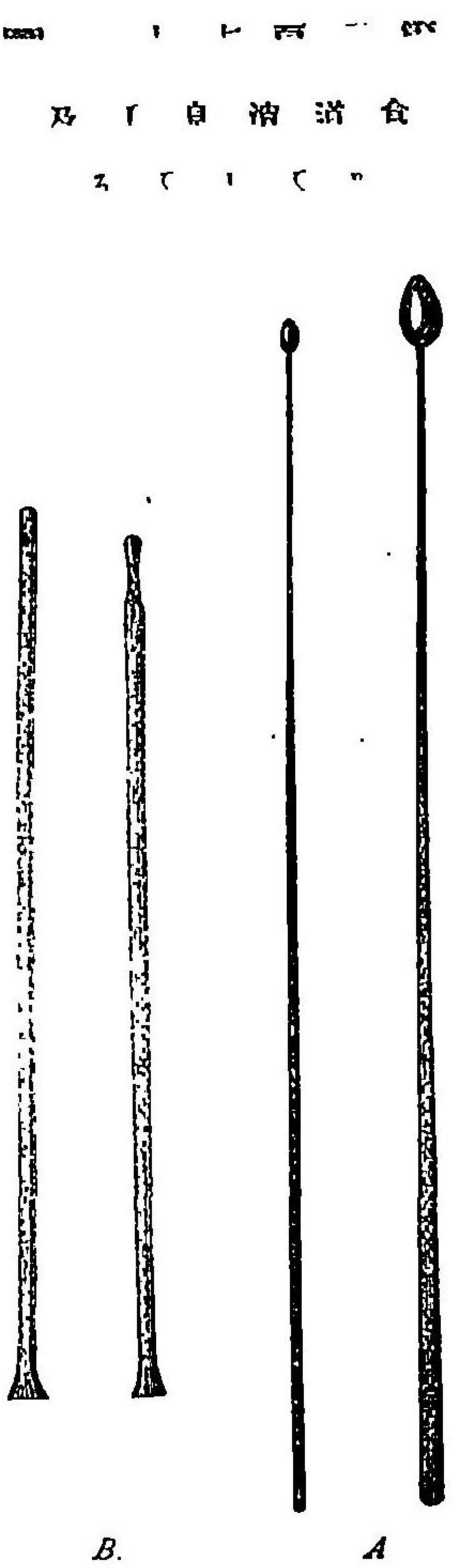
食道ニ狹窄ヲ生ズルモハ食物嚥下ニ際シ特異ノ障礙ヲ來ス者ニシテ患者飲食
 攝取ノ際頸部或ハ胸内ニ於テ壓感或ハ疼痛ヲ覺エ嚥下セル食餌ハ食道ヲ通過
 セルガ如キ感覺ヲ來ス(嚥下困難 *Das Schlundbeschwerden, die Dysphagie*)但シ此嚥下困難
 ハ狹窄ノ部位及其度並ニ攝取セル食餌ノ状態等ニ由リ固ヨリ異ナリトス此他
 嚥下セザルナル食餌ハ食後暫時ニシテ其全量若クハ一部反嘔セラルトシ有レバ
 酸性反應及鹽酸ヲ缺如スルヲ以テ能ク之ヲ吐物ト識別スルヲ得可シ(憩室中ニ
 積積セル食物ハ往々惡臭ヲ放ツ)又食道狹窄ノ徵候無キ者ニ於テ嚥下ノ際疼痛
 ヲ起ストキハ食道粘膜炎若クハ食道自己或ハ其近接部(縦隔膜)ニ炎症有ルヲ識
 ル可シ

食道ノ疾患ハ其種類多カラズ唯僅ニ其狹窄擴張憩室腫瘍潰瘍等ヲ檢知スルニ過ヤズ而シテ其検査ハ主トシテ觸診ニ據ルモ亦視診打診及聽診ニ頼ルコト有リ

第一 食道觸診法(消息子検査法)

食道觸診法
(消息子検査法)

食道觸診法 Die Palpation des Oesophagus ノ外部ヨリ直接ニ施シ得可キハ只頸部食道ニシテ以下ニ至テハ一定ノ方法ニ據ルニ非ザレバ觸診スルコト能ハズ即チ外部ヨリ觸診シ得可キ者ハ頸部ノ癌腫及憩室ニシテ前者ニ在テハ亦頸腺ノ腫脹ヲ伴ヒ後者ハ其充盈セル際ニ觸知シ得可ク又壓之ヲ目撃シ得可キコト有リ又食道最下端部ニ發シタル癌腫ニシテ噴門ヲ侵セル者ハ腹部ヨリ之ヲ觸察シ得可キコト有リ此他前記ノ諸症及炎症ニ在テハ試ニ食道ノ頸部ヲ壓迫スルニ疼痛ヲ起ス者ナリ
食道ヲ檢スルニ最モ肝要ナル法ハ食道消息子ヲ用キテ介達ニシテ觸診スルニ在リ消息子検査法 Die Sondenerforschung 是ナリ即チ之ニ由テ先其廣狹ノ如何ヲ檢知ス可シ而シテ之ヲ行フニハ尖端ニ橄欖實様橢圓形ノ象



鯨骨消息子
食道消息子
食道消息子

牙球ヲ有スル屈撓性ノ鯨骨消息子(第百七十二圖A)若クハ紅色ノ護膜圓環桿即チ食道ガ一〇一〇或ハ尖端部ニ一二ノ卵圓ナル窓孔ヲ有スル屈撓性ノ護膜管即チ食道ガ一〇一〇用ユ但シ後ノ兩者ハ使用ニ臨ミ之ヲ温湯ニ浸シ屈撓シ易カラシム可シ食道ノ狹窄ヲ檢スルニハ細大各種ノ消息子ヲ備ヘザル可カラズ之ヲ測ルニ一定ノ番號ヲ附シタル測度計ヲ用ユ(第百七十二圖)而シテ此検査ヲ行フニハ先シ患者ヲ椅子ニ凭ラシメ少シク頭ヲ後方ニ屈シ廣ク口ヲ開キ舌ヲ挺出セシメ檢者ハ左手ノ示指ト中指トヲ患者ノ舌背上ニ置キテ(此際咬傷ヲ避ケンガ爲メ齒牙ノ間ニ栓子ヲ嵌入スルコト有リ)可及的

食道消息子ノ度測號番ノ

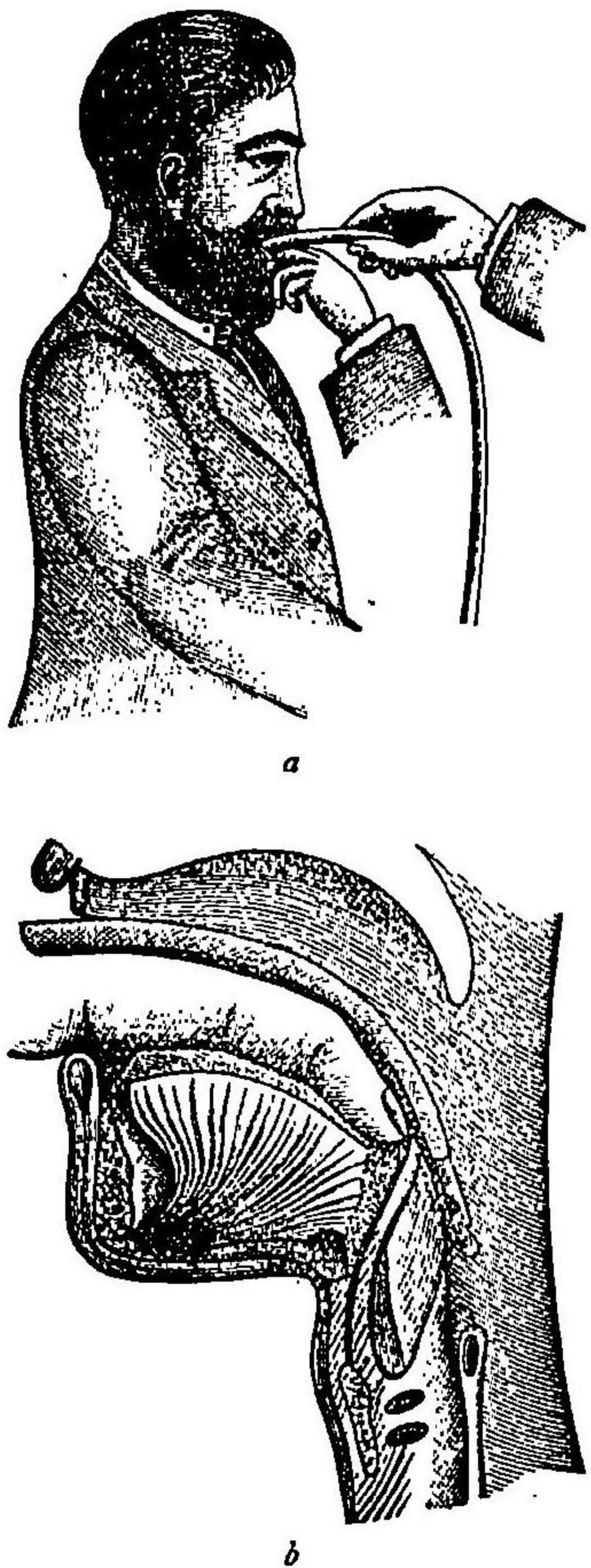
番號 1	2	3	4	5	6	7
○	○	○	○	○	○	○
7/5	6	6/2	7	8	9	9/2
番號 8		9	10	11		12
○	○	○	○	○	○	○
7/10	11	11/2	12	13		

之ヲ送入スルヲ能ハザルハ細キ消息子ヲ用キ更ニ前法ヲ試ム可シ時ト
 ノ消息子ノ刺戟ニ由テ食道筋ノ痙攣ヲ起シ以テ其送入ヲ妨グル有リ斯
 ノ如キ際ハ一二秒時間送入ヲ中止シ靜ニ其緩解ヲ待ツ可シ若シ嘔吐ヲ來ス
 片ハ直ニ消息子ヲ抜キ去ル可シ又咽頭後壁ニ觸レ爲ニ絞扼運動ヲ起シ或

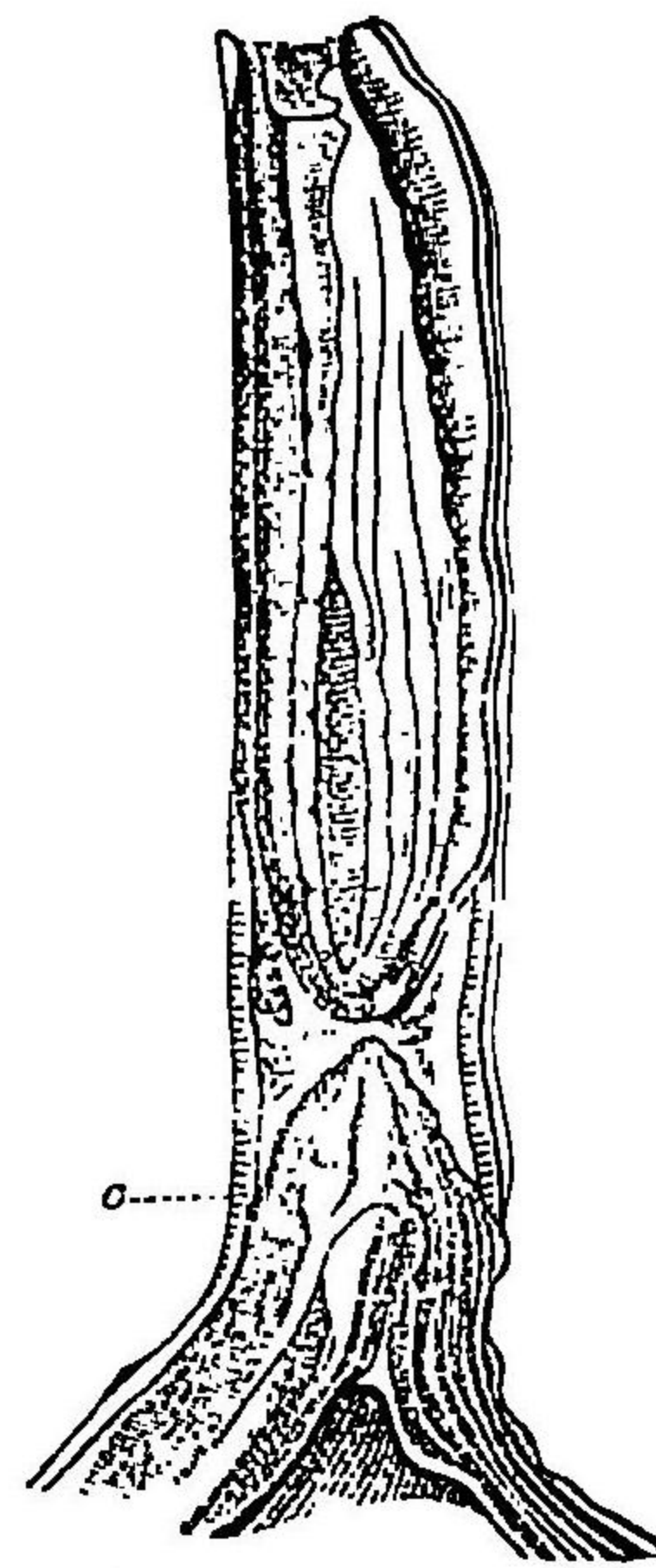
之ヲ遠ク後方ニ送入シ置キ右手ヲ以テ執
 筆スルガ如ク豫備里設林ヲ塗レル消息子
 ヲ把リ之ヲ舌背ニ在ル所ノ指ノ媒助ニ由
 テ咽頭後壁ニ至ル迄送達シ其一端ヲ強ク
 口外上方ニ提舉シ以テ食道口内ニ送ル可
 シ此際若シ輪狀軟骨障礙ヲ加フルハ患者
 ヲノ嚥下運動ヲ爲サシム可シ而シテ細心注
 意シ觸察シツ、漸次之ヲ下方ニ送入シ毫
 モ強力ヲ用ユルヲ無ク若シ障礙物ニ抵觸ス
 ルハ之ヲ抜キ戻シ再ビ觸察シツ、之ヲ
 送入シ數回之ヲ反覆ス可シ狹窄甚シクノ

ハ嘔氣ヲ催ス者ニ在テハ消息子送入前咽頭及舌根部ニ二十倍ノ古加乙涅
 水ヲ塗布若クハ撒霧スルヲ良トス(第百七十三圖 a 及 b)
 抑、食道消息子ハ殊ニ食道狹窄(Oesophagusstenose oder stricture)ヲ檢スルニ用フル
 者ニシテ其狹窄ハ癌腫ニ由テ來ルヲ最多トス而シテ癌腫性狹窄ハ多クハ食道

食道消息子送入法



ノ左側氣管枝ト交叉スル部位(齒列ヲ距ル約二十二仙迷)或ハ噴門近部(齒
 列ヲ距ル約三十六乃至四十仙迷)ニ發生ス又食道狹窄ハ癥痕ニ由テ生ズ
 ル者ニシテ其癥痕ハ通常強酸類若クハ強亞爾加里類ノ腐蝕ニ起因スル潰瘍
 ニ基キ其發生徐々ニシテ其部位亦甚廣大ナルヲ有リ(第百七十四圖)此他食道内

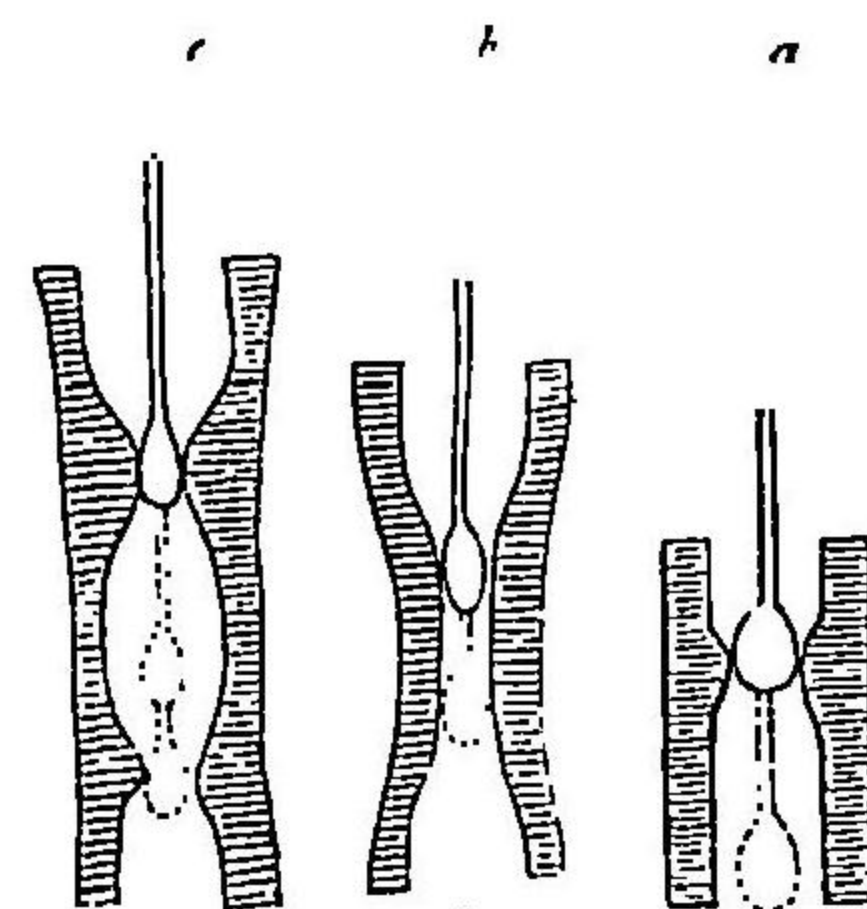


加里蘭汁ノ腐蝕ニ因ル者ニシテ喉門部ニ噴門(ノ)ノ上方約一仙迷ノ所ニ在リ

ニ竄入セル異物或ハ外部ノ壓迫(殊ニ大動脈動脈瘤ニ因ル)ニ由テ狭窄ヲ來スヲ有リ

咽頭機頭状態ノ消化

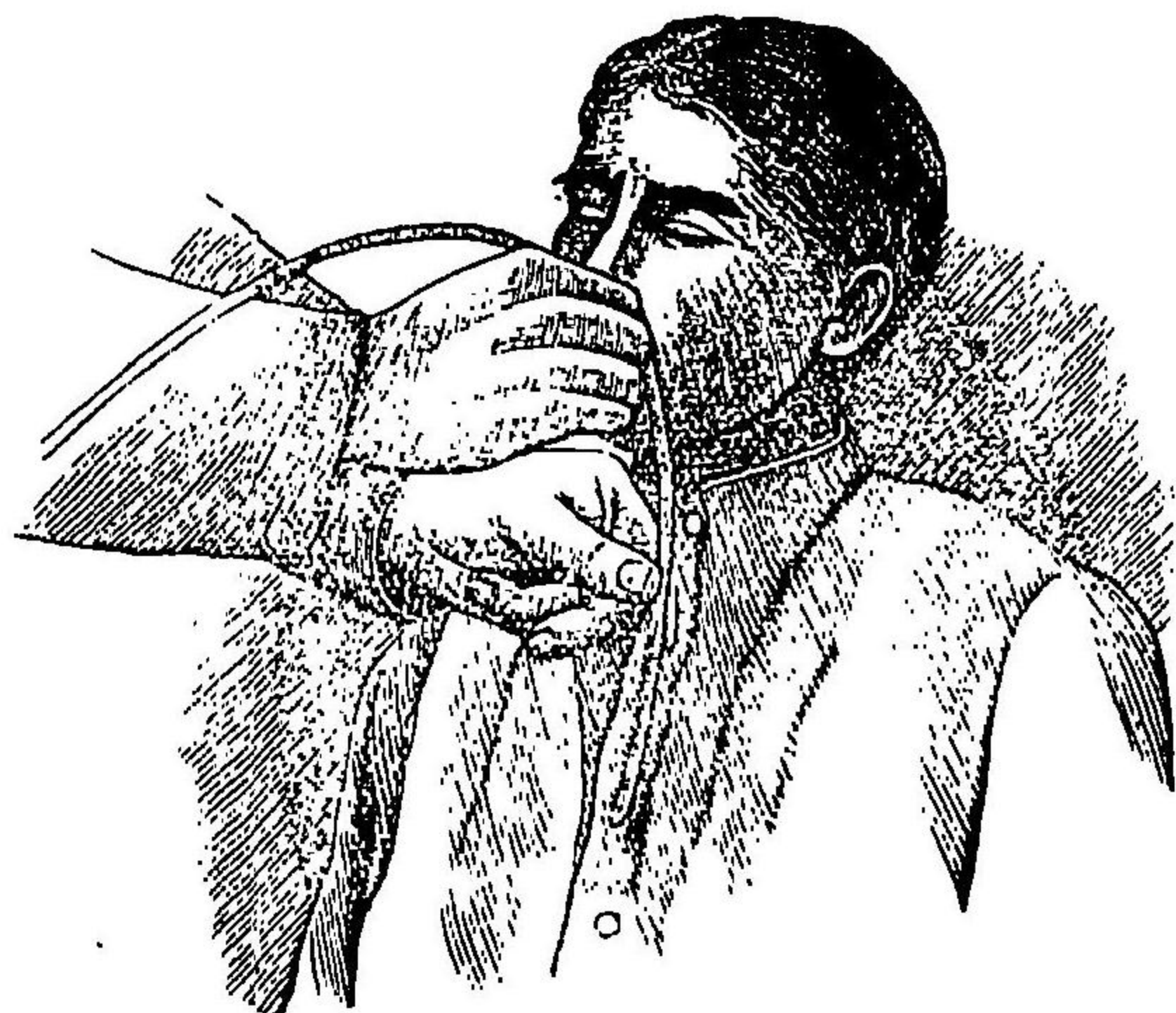
短長及重量ノ検査法



若シ大動脈瘤ニ由テ食道狭窄ヲ來シタルノ疑有ルキハ消息子送入ノ爲ニ往々菲薄ノ隔壁ニ穿孔ヲ生ゼシメ爲ニ危険ヲ速クノ虞有ルヲ以テ未熟ノ士ハ須ク之ヲ避クベシ

瘻管性食道狭窄ハ消息子検査ノ際發スルノ有ル者ニシテ神經性ノ人ニ在テハ一種ノ疾患トシテ現ハレ間、癌腫ト誤診セラル、一無キニ非ザレモ多クハ若干時間消息子ヲ食道内ニ送置スルキハ全ク治療ス可シ

食道狭窄ノ部位ヲ検査スル法

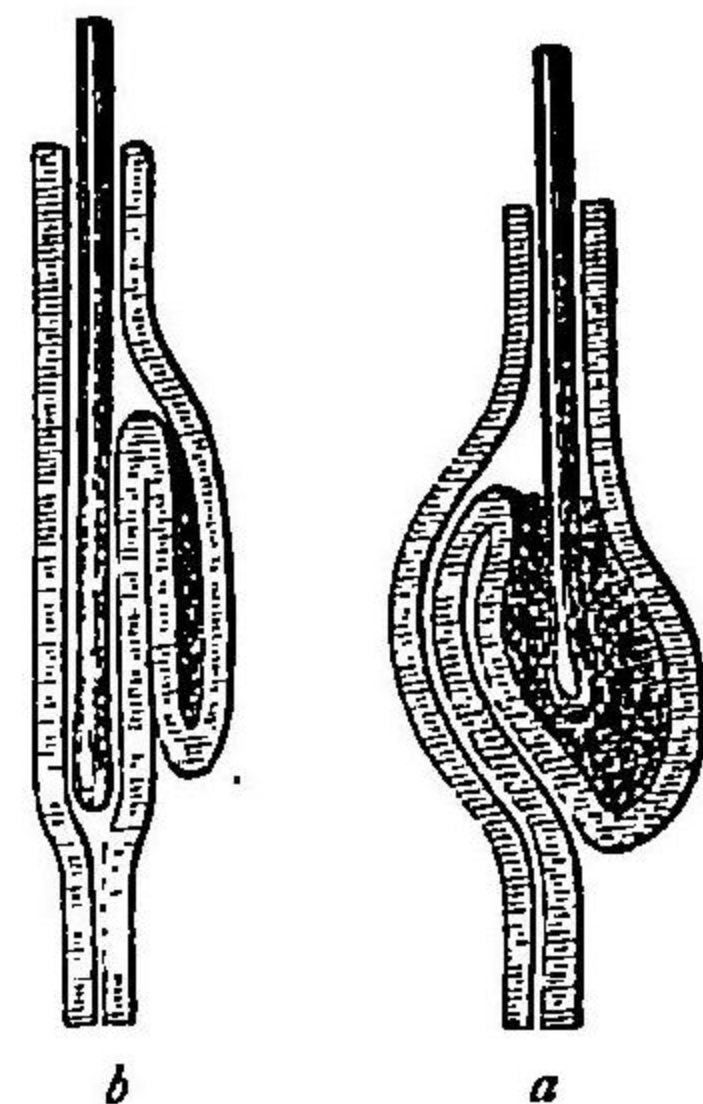


極ノテ等ニハ瘻口瘻菌食道内ニ繁殖シ爲ニ其狭窄ヲ來スヲ有リ消息子検査法ハ管ニ食道狭窄ノ輕重ヲ探知スルニ止マラズ其抵抗ニ由テ狭窄部ノ硬軟ヲ檢知シ得ク又消息子通過ノ際起ル所ノ抵抗ニ由テ狭窄部ノ長短若クハ重複ヲ推測シ得ル者トス(百七十五圖abc)

食道狭窄ノ部位ヲ定ムルニハ消息子ヲ其部ニ至ル迄送入シタルノ後之ニ標目ヲ記シ之ヲ抜去シテ口腔及食道ノ通路ニ適合セル部位(頭頸及背部)ト其長ヲ比較ス可シ通常消息子ノ尖端ニ當レル所ノ脊柱ノ點ハ概シ狭窄部位ニ適合ス或ハ又送入セル消息子ノ長ヲ測ル可シ上文既ニ述べタルガ如ク、食道ノ長

ハ大人ニ在テハ平均二十五仙迷ニノ齒列部ヨリ食道口ニ至ルノ距離ハ約十五仙迷ナリ(第百七十六圖)
 狹窄部上ニ在ル所ノ食道ノ變廣ハ消息子ヲ送入スルニ此部ニ於テ其運轉自在ナルヲ以テ之ヲ知ル可シ
 此他食道ニ消息子ヲ送入スルニ始モ毫モ障礙無クノ能ク胃内ニ通達シタルモ再三之ヲ行フニ當リ一定ノ部位ニ至リテ抵抗ヲ起シ之ヲ送下スルヲ能ハザルキハ食道ノ一局部ニ擴張部即チ憩室(Diverticel)ノ存スルヲ徵知ス可シ(第百

食道憩室ノ檢査

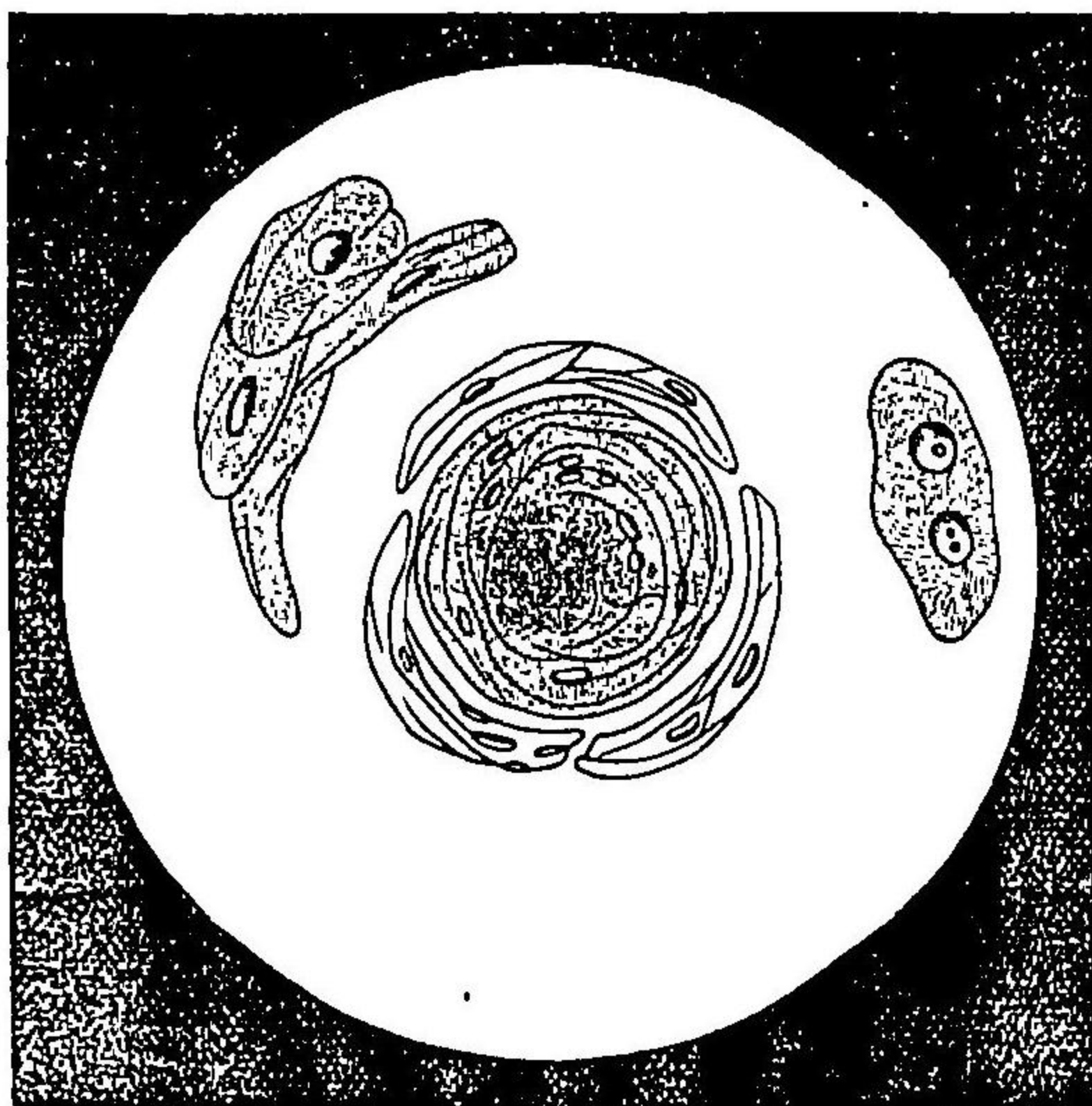


(a) 充盈時ニ於ケル消息子ノ送入ヲ示ス
 (b) 空虚時ニ於ケル消息子ノ送入ヲ示ス

七十七圖)此原發性憩室ハ多ク食道ノ起始部ニ占居スル者ニシテ食道筋ノ間ニ罅隙ヲ生ジ粘膜之ヨリ外方ニ膨出スルニ因テ發生ス而シテ盲囊ヲ形成スル所ノ憩室漸次擴張スルキハ食物其中ニ竄入シ其此所ニ蓄積スルヤ食道ヲ壓迫シテ食物ノ嚥下ヲ妨ゲ又消息子ノ通過ヲ許サザルモ空虚ナルキハ毫モ

之ヲ妨礙スルヲ無シ而シテ此盲囊中ニ蓄積セル食物ハ再ビ反嘔セラレ惡臭ヲ放ツ者ナリ

食道癌腫ノ檢査
 (氏トスルカヒイア・ハ)



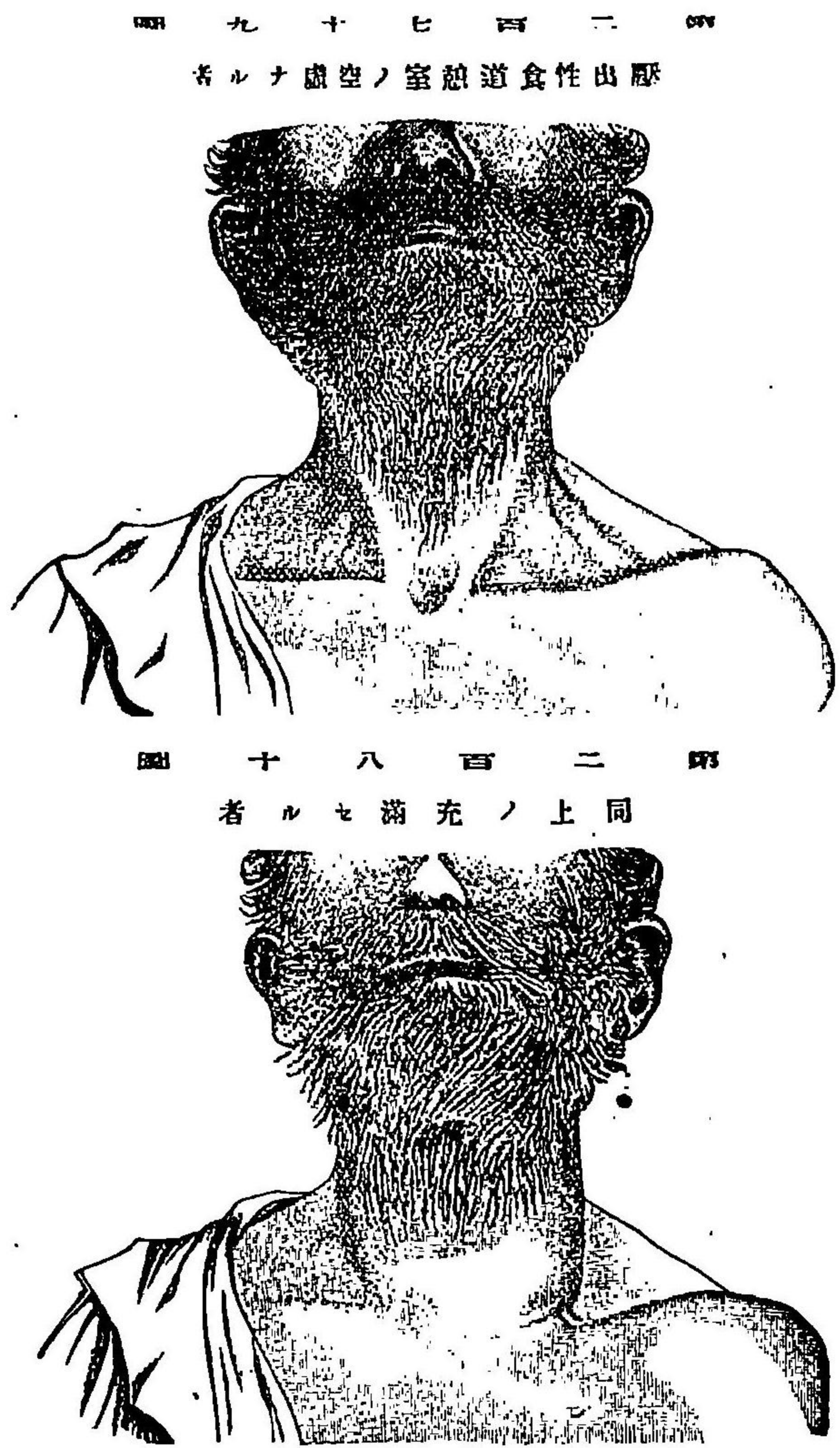
消息子ノ窓ノ口ニ著シキ來リタルモノ

往々消息子ニ其一小片ヲ繫著シ來ルヲ有リ之ヲ顯微鏡下ニ檢スルキハ其狹窄ノ何物ニ起因スルヤヲ確知ス可シ(第百七十八圖)

第二 食道視診法

食道視診法

食道視診法 Die Inspection des Oesophagus、唯其頸部ニ於テ行フ



ヲ得可キ者ニシテ該部ニハ時トシテ擴張シタル所謂壓出性憩室(Pulsions-
divertikel)ヲ見ルコト有リ是、殊ニ其左側ニ生ズル者ニシテ右側若クハ兩側ニ生
 ズル者ハ稍、罕ナリ第二百七十九及第二百八十圖ニ示スハピルロート氏ノ
 切除セル壓出性食道憩室ニシテ患者水ヲ嚥下スルキハ直ニ左側頸部ニ漸次
 増大スル腫瘤ヲ呈シタル者ナリ

食道鏡検査

照明装置ヲ用キテ食道ヲ視診スルノ法(食道鏡検査法 Die Oesophagoskopie)ニ就テハ從
 來諸家ノ考察有リト雖未ダ全ク良好ノ結果ヲ得テ廣ク之ヲ診斷上ニ應用スル
 ニ至ラズ

第三 食道打診法

食道打診法

食道打診法 Die Percussion des Oesophagus、ハ甚々罕ニ應用セラレ、
 所ニシテ頸部ニ存スル大ナル憩室ニシテ充實スルキハ之ヲ打診スルニ濁音ヲ
 發シ又胸部ニ存スル狭窄ノ上部ニ變廣部有リテ充實スルキハ時トシテ又濁
 音ヲ發スルコト有ルガ如キニ過ギズ

第四 食道聽診法

食道聽診法

Die Auscultation des Oesophagus 亦診斷上ニ價值寡キヲ以テ之ヲ實際ニ應用スルコト多カラズ』食道ノ頸部ハ頸ノ左側氣管ノ後部ニ於テ之ヲ聽診ス可シ其胸部ハ左第六胸椎ノ高ニ至リ之ヨリ胸椎ニ密接セル右第九胸椎ニ至ル迄之ヲ聽診スルヲ得可シ健體ニ在テハ液物ヲ嚥下スル際此部ニ於テ含嗽様雜音ヲ聽キ上方ニ至ルニ從ヒ其音愈高朗ナレテ食道狹窄ニ在テハ其下際ニ於テ雜音或ハ全然消失シ或ハ久時ノ後現出シ或ハ著シク減弱シ以テ大ニ其性質ヲ變ズルヲ認ム可シ

竄透雜音及壓榨音

健體ニ在テハ嚥下ノ後胃窩ヲ聽診スルトキハ二種ノ雜音ヲ聽取ス即チ竄透雜音 *Durchspritzgeräusch* 及壓榨音 *Durchpressgeräusch* 是ナリ(クロネツクル及メルチエルク氏ベ。フレンケル氏)而シテ是等雜音ノ變化ヲ食道疾患ノ診斷ニ應用セントセシ者有レテ是レ固ヨリ精確ナル法ニ非ズ

食道周圍部ノ検査

茲ニ尙食道検査ニ就テ甚ク肝要ナルハ食道周圍部(即チ頸及胸廓)ノ検査ナリ

トス即チ之ニ由テ食道ヲ壓迫スル所ノ腫瘍ノ存否ヲ識ル可ク又喉頭ヲ檢シ返廻神經ノ麻痺ヲ發見スルキハ其診斷ヲ補助ス可シ是レ該神經ノ壓迫ハ殊ニ食道瘤腫或ハ大動脈ノ動脈瘤(此症ニ於テハ就中左側ニ來ル)ニ來ルコト多ケレバナリ其他ノ胸膜炎、肺壞疽、氣管或ハ氣管枝ノ破開(食餌片ノ喀出)又ハ心囊外膜炎、皮膚氣腫ニ於ケルガ如キ破開症狀ヲ呈スル者ニ在テハ固ヨリ胸部ノ検査ヲ怠ル可カラズ

第三章 胃之検査法

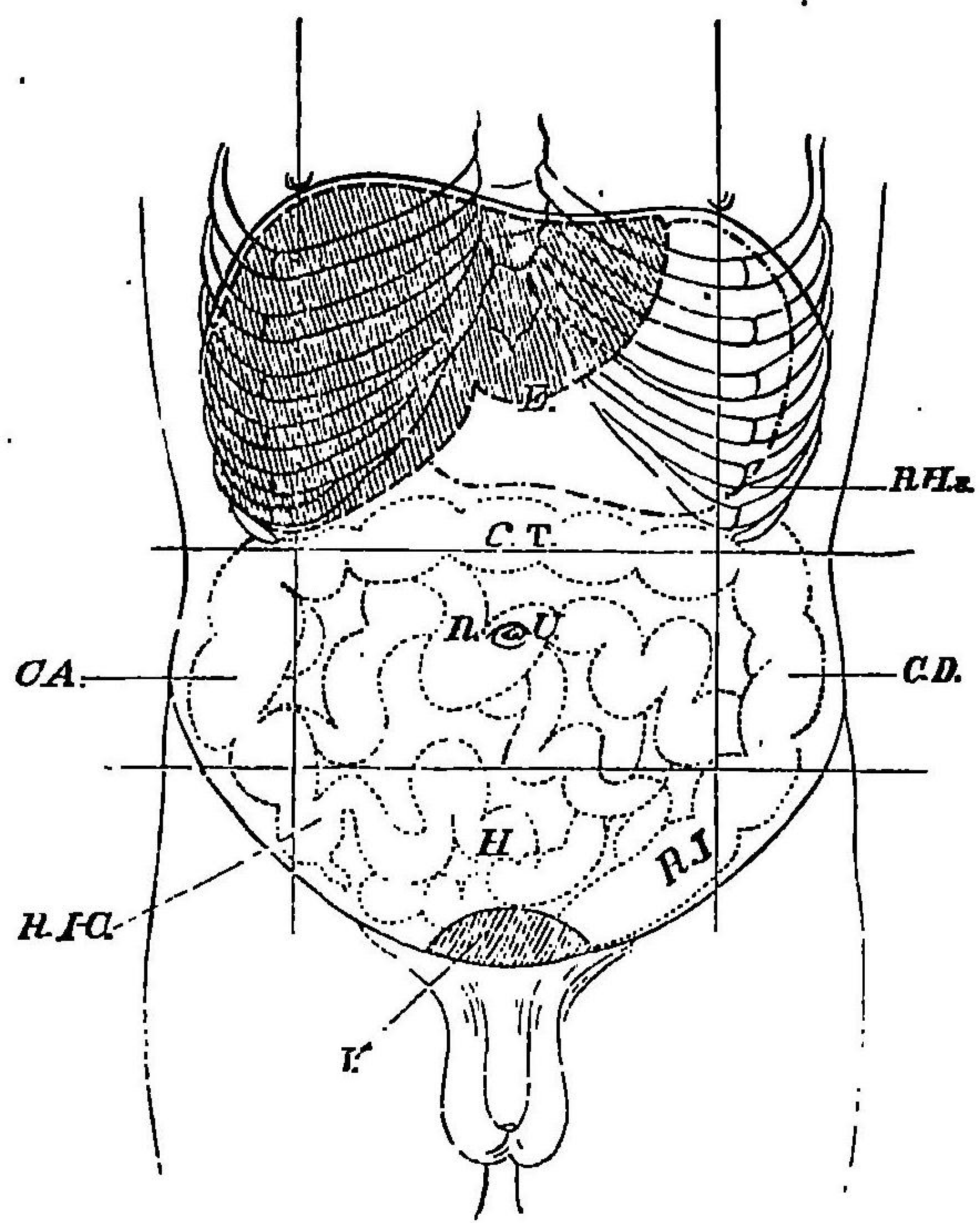
解剖摘要

腹部ノ局所

茲ニ胃ノ解剖ヲ述ルニ當リ先ツ腹部一般ノ局所解剖ヲ敘述セムトス
 腹部ノ局所解剖 腹内臓器ト腹壁トノ位置ノ關係ヲ了解シ易カラシメ且其部位ヲ診定シ易カラシメムガ爲メ腹部ニ於テ種々ノ部位ヲ區別ス(第百八十一圖)即チ左右ノ鼠蹊韌帶ノ中央ヨリ胸廓ニ向テ各一直線ヲ畫キ之ヲ直角ニ横

斷スルニ二直線ヲ以テスルキハ(其一線ハ肋骨弓ノ最下點ヲ通ジ他線ハ左
右ノ腸骨前上棘ヲ連結ス)九個ノ部位ヲ得可シ即チ上腹部(上三區部ノ中央)

腹部局部所解剖



(C.A)上行結腸
(C.T)橫行結腸
(C.D)下行結腸
(R)回腸盲腸
(R.J)腸盲部
(R.H.s)左季肋部
(E)上腹部
(R.U)臍部
(H)下腹部

左右ノ季肋部(上腹部ノ兩側)臍部(上腹部ノ下方)左右ノ腰部(臍部ノ兩側)
下腹部(臍部ノ下方)及左右ノ腸骨部(下腹部ノ兩側)是ナリ
上腹部 Epigastrium ノ腹壁ニ接スル所ハ即チ肝臟及胃ノ在ル所ニシテ其下部ニハ
橫行結腸横アリ深部ニハ十二指腸及脾臟ヲ有ス
右季肋部 Regio hypochondrium dextra ハ肝臟右葉ノ在ル所ニシテ其後下部ハ結腸
ノ右彎曲ヲ容レ左季肋部 Regio hypochondrium sinistra ハ胃ノ大彎及結腸彎曲ノ
所在ニ適應シテ腎臟其後部ニ占居ス
臍部 Regio umbilicalis ニ於テハ橫行結腸ノ下部ニ回腸ヲ有シ其深部ニハ第四
腰椎ノ左側ニ於テ分岐スル所ノ腹部大動脈在リテ甚ク羸瘦セル者ニ在テハ
之ヲ觸知スルコトヲ得可シ
右腰部 Regio lumbalis dextra ハ上行結腸ノ在ル所ニシテ左腰部 Regio lumbalis sinis-
tra ハ下行結腸ノ在ル所ナリ
下腹部 Hypogastrium ハ小腸ヲ容ル、所ニシテ其後方ニハ直腸在リテ下行シ膀胱
及子宮ハ通常恥骨縫際ヲ越ユルコト無シ
右腸骨部 Regio iliaca dextra ハ盲腸ノ在ル所ニシテ回腸ノ盲腸ニ移行スル所ナ

リ故ニ又之ヲ回腸盲腸部(又回盲部) *Regio ileocecalis* ト名ク』左腸骨部 *Regio iliaca sinistra* ハ結腸S字狀彎曲ノ在ル所ナリ

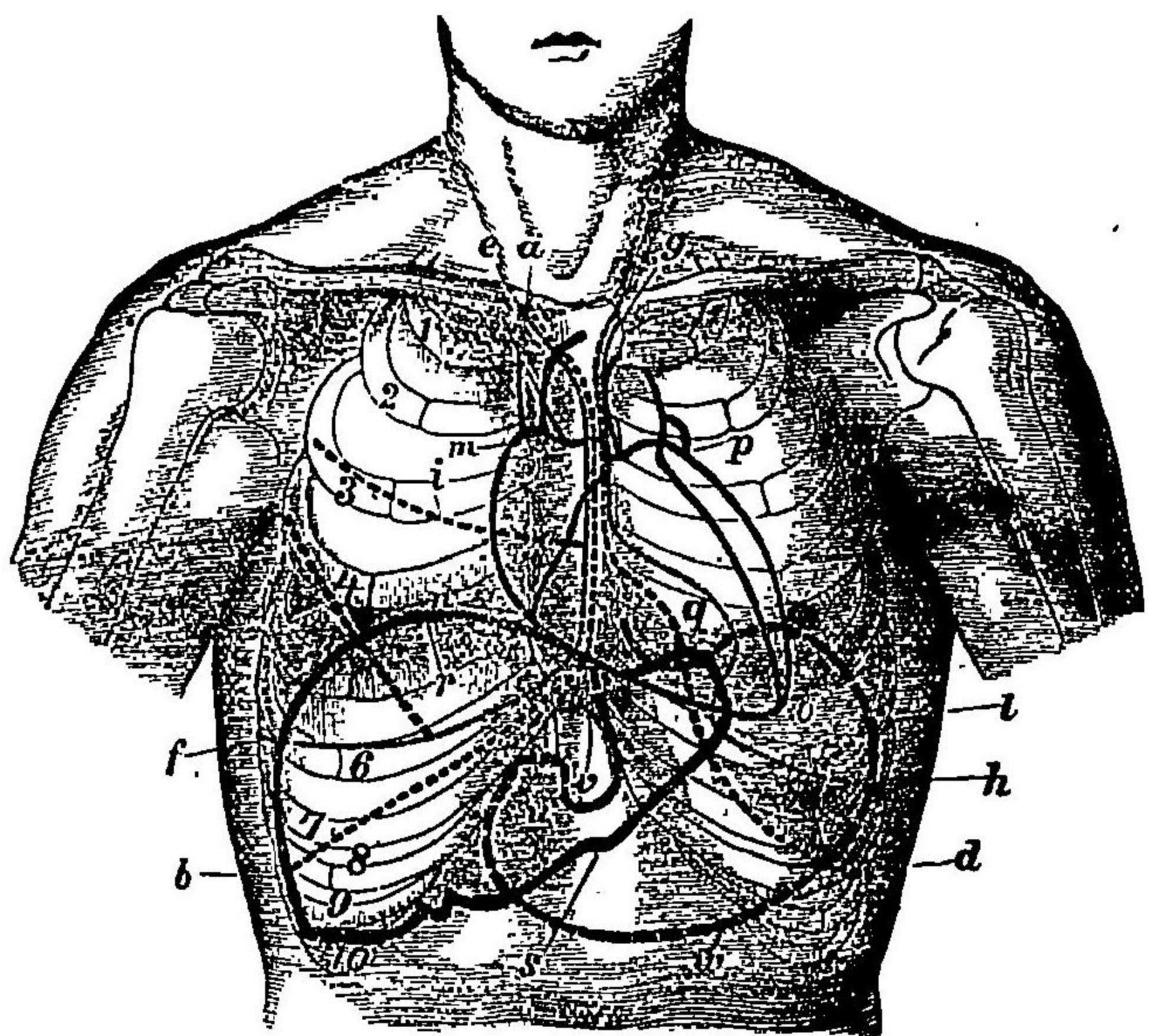
胃ノ解剖

胃(第百八十二乃至第百八十四圖)ハ左季肋部及上腹部ニ在リテ其容積六分ノ五ハ左半身ニ屬シ幽門及其周邊ヲ領スル所ノ五分ノ一ハ右半身ニ屬ス而シテ其位置ハ水平ナルヨリモ稍斜ニシテ左上方ヨリ右下方ニ向ヒ噴門 *Cardia* ハ約左第七肋骨ノ胸骨附著部ノ後方ニ當リ幽門 *Pylorus* ハ右胸骨線ト副胸骨線トノ間ニ於テ劍狀突起ノ尖端ト同高部ニ在リ胃底 *Fundus* ハ胃ノ最高部ニシテ左側橫隔膜隆起ニ接著シテ第四肋間ノ高ニ聳ユ小彎 *Curvatura minor* ハ斜ニシテ左下方ニ突隆セル弧線ヲ作り脊柱ノ左側ニ沿ヒ噴門ヨリ殆ド鉛直ニ下行シ次デ右方幽門部ニ向テ彎曲シ且稍後方ニ向ヒ之ト共ニ肝臟ヨリ掩ハルルモ大彎 *Curvatura major* ハ前方腹壁ニ向ヒ其位置ハ胃ノ充實度ニ從ヒ大差有ル可キモ其最低部ハ健常ノ者ニ在テハ(適宜ニ胃ノ滿セル際)臍上二乃至四仙迷ノ所ニ在リ

胃ノ境界

胃ノ境界 胃ハ其底面ヲ以テ橫隔膜、脾臟及左側腎臟ニ接シ大彎(胃後面ノ

胸腹臟器ノ前面位置圖



— 心臓 — 胃 — 肝臟
—— 肺線 —— 胸膜蓋ノ境界
及葉間蓋痕ノ經過
(a b) 右胸膜蓋ノ境界
(c d) 左胸膜蓋ノ境界
(e f) 右肺線 (g h) 左肺線 (i) 右肺上葉間蓋 (j) 同下葉間蓋 (k) 左肺葉間蓋 (m n) 心臓ノ右緣 (o) 同下緣 (p o) 同左緣 (q) 心臓蓋痕 (r) 肺臟ヨリ蔽ハルル肝臟ノ最高部 (s) 肝臟ノ下緣 (t) 胃ノ噴門部 (u) 幽門部 (v) 小彎 (w) 大彎

下部ノ所)ヲ以テ橫行結腸ニ隣リ幽門小彎及此兩者ニ接スル胃ノ前面ハ肝臟ヨリ蔽ハレ胃ノ後面ノ上部ハ網膜蓋ニ由リ離隔セラレテ其後方ニ位ス

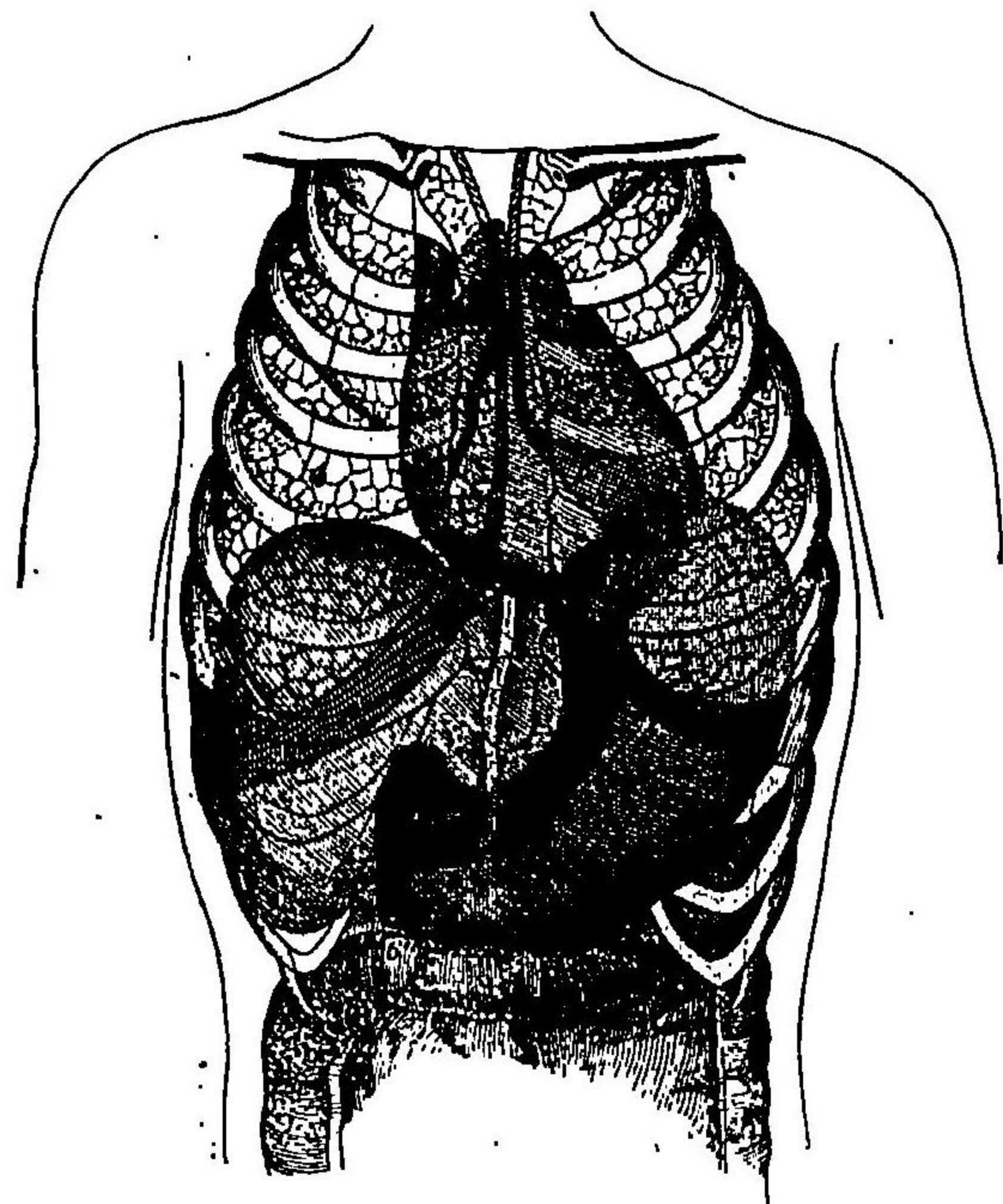
ル脾臓ニ接ス

胃ノ適宜ニ充滿セル際ニハ其前面及大彎ノ一部ハ上方ヨリハ肺臓若クハ心臟ヨリ、左方ヨリハ脾臓ヨリ、右上方ヨリハ肝臓ノ左葉ヨリ蔽ハル、部ヲ

圖三十八百二第

見所面前ノ胃

(氏トスルホヒイア・ハ)

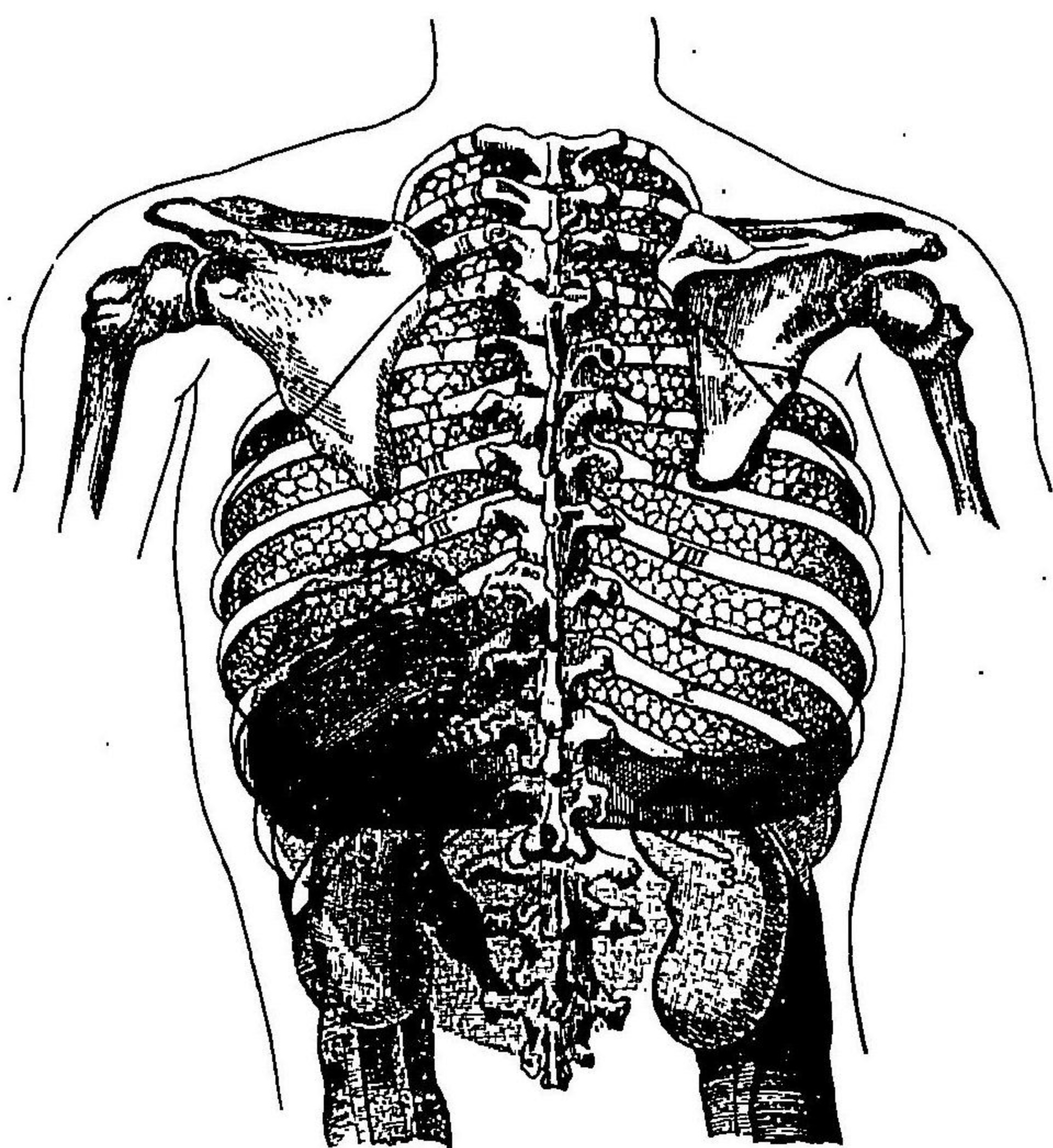


- (1) 胃
- (2) 肝臓
- (3) 心臟
- (4) 肺臓
- (5) 胸膜ノ補充實
- (6) 横行結腸

圖四十八百二第

見所面後ノ胃

(氏トスルホヒイア・ハ)



- (1) 胃
- (2) 脾臓
- (3) 腎臓

除クノ外ハ腹壁ニ接著スル者ニシテ此肋骨ノ左下方ヨリ蔽ハル、所ハトラ
ウベ氏以來「半月狀部」"Der halbmondförmige Raum"ト命名セラレタル肝要ナル

部域トス

以上記述スル所ニ據レバ胃ノ稍充滿セル際ニ於テモ健態ニ在テハ唯其一小部分ノミ直接ニ検査セラレ得キ者ニ噴門及幽門ノ如キ貴要ノ部分ハ深ク潛匿スル者ナルヲ知ル可シ但病的ニ於テハ幽門部ハ小彎ト共ニ肝臟ノ下部ニ下垂スルヲ有ルヲ以テ之ヲ檢知シ得キヲ有リ

第一 胃ノ視診法

胃ノ視診法

Die Inspection des Magens ハ其觸診法ト最親密ノ關係ヲ

有スレバ茲ニ先其視診法ヨリ説ク可シ

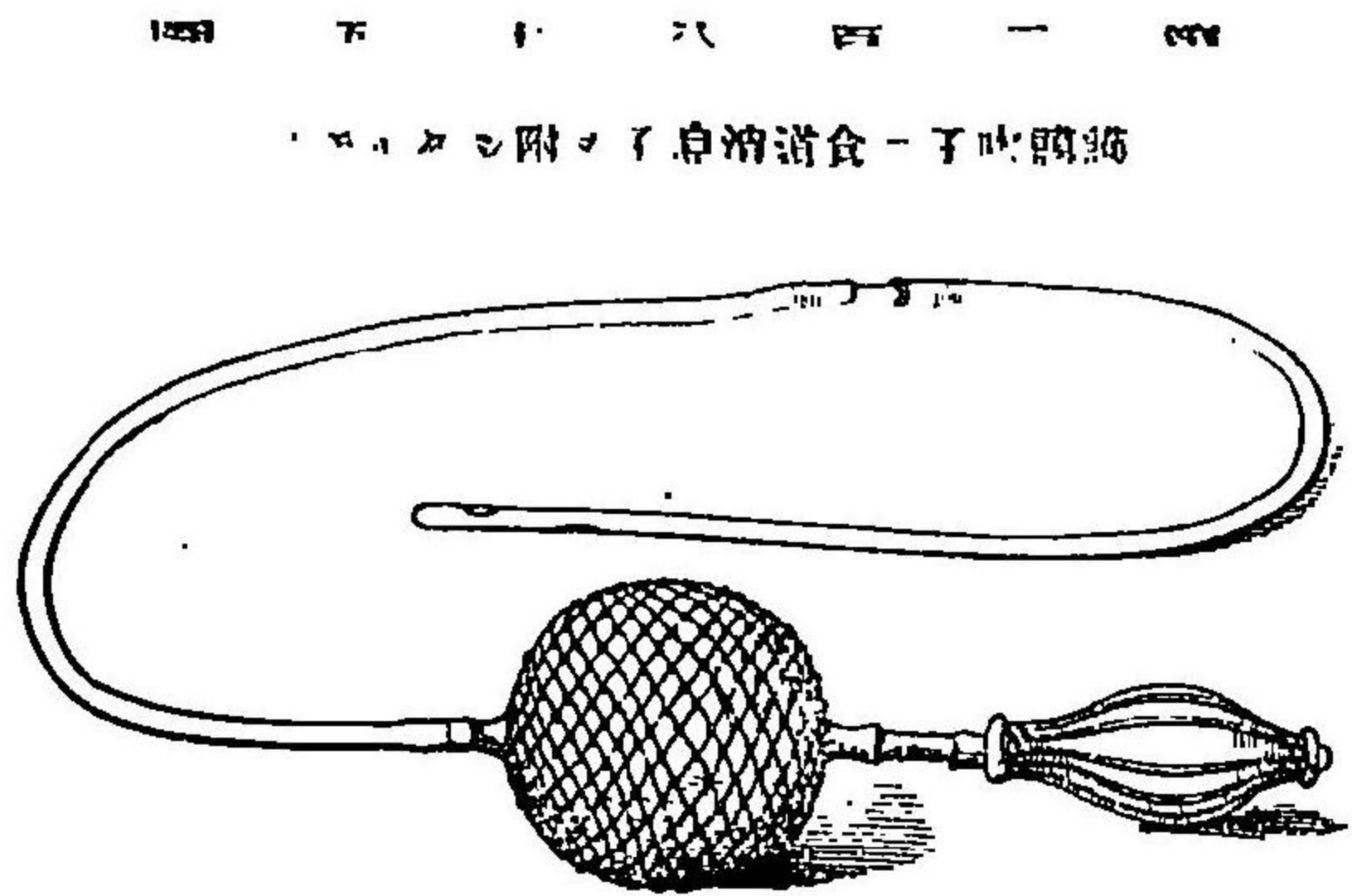
上腹部ノ隆起

常態ニ在テハ胃部ヲ視診スルニ毫モ異常ヲ認ムルヲ無ク又其周圍ニ向テ隆起スルヲ無シト雖胃擴張症ニ於ケルガ如ク其容積増大スルキハ已ニ視診ニ由リ上腹部隆起シテ下方ニ向テ凸隆ヲ生ジ胃ノ大彎ハ多クハ臍下部ニ至リ罕ニハ又恥骨縫際ニ達スルヲ有リ然レ該隆起ハ每常明カニ認知スルヲ能ハザル者ニ唯瓦斯ニ由テ胃ノ膨滿セル際殊ニ著明ナル者ナリ又其隆起ハ仰臥セシムルキハ最明カニ見ルヲ得キモ直立セシムルキハ腹筋

胃ノ人工的膨滿法

ノ收縮ニ由リ多少減少スル者トス而シテ大彎ノ位置ハ固ヨリ胃ノ充實ノ度ニ由リ甚異ナル者ナレモ胃擴張症ニ在テ人工的ニ其内容ヲ排出セザル者ニ在テハ其位置ハ臍上部ニ達セザルヲ常トス又胃ノ小彎ハ左肝葉ヨリ掩ハルヲ以テ通常之ヲ視察スルヲ能ハズト雖胃擴張症ニ於テ其一時充滿セル時ニ當テハ患者起立スルキハ幽門部下方ニ牽制セラレ之ト共ニ間、小彎下降シ上腹部ニ於テ下方ニ突隆スル線ト爲リテ目撃セラレ間、亦觸知セラル、ヲ有リ

胃ノ境界ヲ明知センガ爲フオンチームゼン氏ハ患者ニ沸騰散ヲ内服セシメ炭酸瓦斯ヲ以テ人工的ニ之ヲ膨滿スルノ法ヲ稱用セリ其法先少量ノ水ニ溶解セシメタル四〇ノ酒石酸ヲ服用セシメ次デ直ニ五〇ノ重碳酸曹達水ヲ飲用セシムルニ在リ之ニ由テ胃内ニ忽チ炭酸瓦斯ヲ發生スルヲ以テ其膨滿ニ由リ胃ノ位置及大小ヲ認知スルヲ得可シ但トノハ之ヲ内服セシメタルノ後胃ノ膨滿ニ次デ速ニ小腸及結腸ノ膨滿ヲ來シ以テ全腹部膨滿スルヲ有リ或ハ又胃ノ膨滿ヲ來サズノ直ニ腹部膨滿スルヲ有リ斯ノ如キハ幽門閉鎖不全 (Incontinencia pylori) ノ徵候ナリトス是、殊ニ潰瘍或ハ癌腫



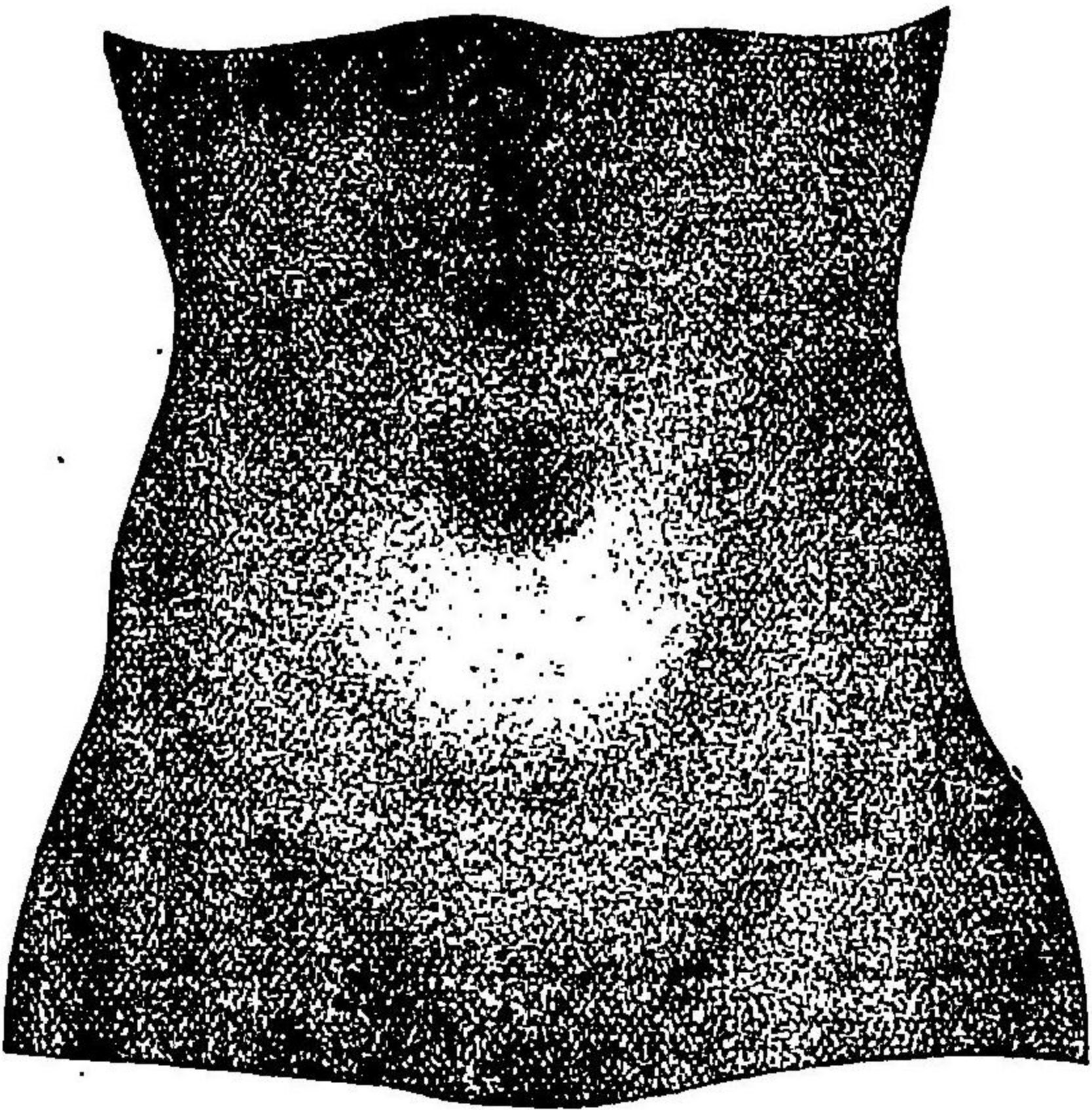
シ而ノ患者自ラ胃ノ緊満ヲ堪ヘ得ル迄之ヲ吹送スルニ在リ此法ヲ以テス
ルホハ適量ノ空氣ヲ吹送シ得ルノミナラズ又消息子ニ由テ隨意ニ其空氣
ヲ排出スルコトヲ得可シ

ニ由テ幽門筋質ノ破壊セラレタル時ニ來ル
者ニノ罕ニハ劇甚ノ加答兒ニ因スル該筋ノ
弛緩ニ因ルコト有リ然レモ炭酸瓦斯ヲ以テ胃ヲ
膨満セシムルノ法ハ間、患者ヲ苦悶セシメ加
之ラ時ニ虚脱状態ニ陥ラシムルコト有ルヲ以
テ近時ニ至リテハ子ラトン氏ノ胃消息子ニ
頼リ護謨吹子ヲ以テ空氣ヲ胃内ニ吹送シ之
ヲ膨満スルノ法ヲ賞用ス(第百八十五圖)其法先
食道消息子ヲ胃内ニ送入シ之ニ通常ノ護謨
吹子ヲ附シ患者ヲ仰臥セシメ腹部ヲ曝露シ
テ徐々ニ空氣ヲ吹入シ上腹部ノ著シク膨大

アイヒホルスト氏ハ胃ノ膨満法ニ由リ生體ニ就テ所謂砂漏胃(Sanduhrmagen)(胃ノ

中央ニ存スル癭痕收縮ニ由リ其砂漏狀(第百七十五圖)ニ二分セル者)ヲ認メタリ
ト云フ

胃下垂症(Gastroptosis)ニ於テモ試ミニニ胃ヲ人工的ニ膨満セシムルニ心高ノ上部陷
凹シ下部膨隆スルヲ見ル之ヲ熱視スルニ其陷凹部ハ小彎ニ當リ膨隆部ハ大彎
ニ當リ呼吸ニ由テ上下ニ運動スルヲ認ムベシ(第百八十六圖)蓋シ本症ハ歐洲ニ於テ



ハ婦人ニ多ク見ル所
ニ其原因一ハ妊娠
後ノ腹部弛緩ニ在ル
可シト雖其主ナル原
因ハこゝろせつとチ用キ
テ胸廓ノ下部ヲ壓迫
スルニ在リト云フ
イゲル氏ハ胃下垂症
ノ特ニ麻痺胸、鳩胸及
漏斗胸ニ多キヲ主張
セリマイノルト氏ハ
婦人科外來患者ニ在

テハ本症ヲ見ルル九〇%ノ多キニ達スルモ男子ハ僅ニ五%ニ過ギズト云フ醫學博士井上善次郎氏ノ實驗ニ照レバ本症ハ男性七四・三%、女性二五・七%ニシテ本邦ニ於テハ衣服ノ附紐(或ハヘビ帶又ハ普通ノ帶)ヲ以テ胸廓ノ下部ヲ緊約スル惡習有リ是レ亦こるせつと均シク胃下垂症ノ原因ト爲ル可シト而シテ同氏ハ本症ノ特ニ胸廓ノ細狹ナル者ニ來ルル多キヲ實驗シ其上流社會、教員、學生等ニ多クノ勞働者ニ少キハ恐ク胸廓ノ長否ニ關スル者ナラムト云ヘリ(明治三十八年發行井上内科全書ニ據ル)

腹壁上ヨリ又往々胃ノ蠕動運動ヲ目撃シ或ハ之ヲ觸知スルル有リ該運動ハ間、自發シ又ハ輕微ノ皮膚刺戟例之、脱衣セシムルニ由テ發スルル有ルモ又胃壁ヲ輕ク打觸スル際生ズル者ニシテ其運動ハ通常左方ヨリ右方即、幽門部ニ向テ進行スルモ間、又殊ニ重症ノ幽門狹窄ニ在テハ逆行スルル有リ或ハ又胃ノ中央ニ始リ左右ニ向テ波及スルル有リ又其運動ハ極テ不整ナルヲ有リ而シテ該現象ハ殊ニ胃ノ擴張及其筋質ノ肥大ヲ致シタル幽門狹窄ニ於テ最多ク見ル所ナリ然レモ胃ノ蠕動運動ハ絶、罕ニハ亦擴張症ヲ存セザル者ニ來ルル有リク羅斯マウル氏ハ之ヲ以テ一種ノ胃運動ノ機能神經症ト爲シ之ニ胃ノ蠕動不安症(Peristaltische Unruhe des Magens)ナル名ヲ命ゼリ

腫瘤

時トシテ上腹部殊ニ最モ臍ノ右上方ニ於テ平坦我ハ結節狀ノ腫瘤ヲ見ルル有リ是、通常幽門部ノ癌腫ヨリ來ル者ニシテ常態ニ在テハ該部ハ肝臟ノ左葉ヨリ蔽ハル、モ之ヲ認ムルハ腫瘍ノ重力ニ由リ幽門部ノ下降スルニ因ルナリ而シテ此腫瘤ハ(肝臟ト癒著セザル片ハ)通常呼吸運動ニ由テ其位置ヲ變ゼザル者トス(胃部觸診法ノ條下ヲ參照セヨ)

胃照檢法

近時電氣燈ヲ胃内ニ送入シテ直接ニ之ヲ視診スルノ法ヲ行フ者有レモ(胃照檢法。Gastroskopie)此検査法ハ實地上果シテ他ノ理化學的診法ニ比シテ優ルル有リヤ否ト尙疑フ可シ

第二 胃ノ觸診法

總テ腹部ヲ觸診スルニ當テハ一定ノ注意ヲ要ス可キ有リ即チ先ツ觸診スル手ハ溫暖ナラザル可カラズ然ラザレバ患者反射的ニ腹壁ヲ緊張シテ診斷ノ目的ヲ達シ得ザル有レバナリ又觸診ノ際ハ手指ノ衝突的運動ヲ避ケ絶エズ徐々ニ深部ニ及ブ可シ腹壁ヲ可及的弛緩セシメンニハ患者ヲノ膝ヲ屈シテ立テシメ開口ヲ命ズルカ或ハ談話ヲ試ミテ其意思ヲ他ニ轉セシム可シ或ハ又短ク且速クニ呼吸セシムル有リ是等ノ諸法ヲ以テスルモ其目的ヲ達スルル能ハズ且疑診

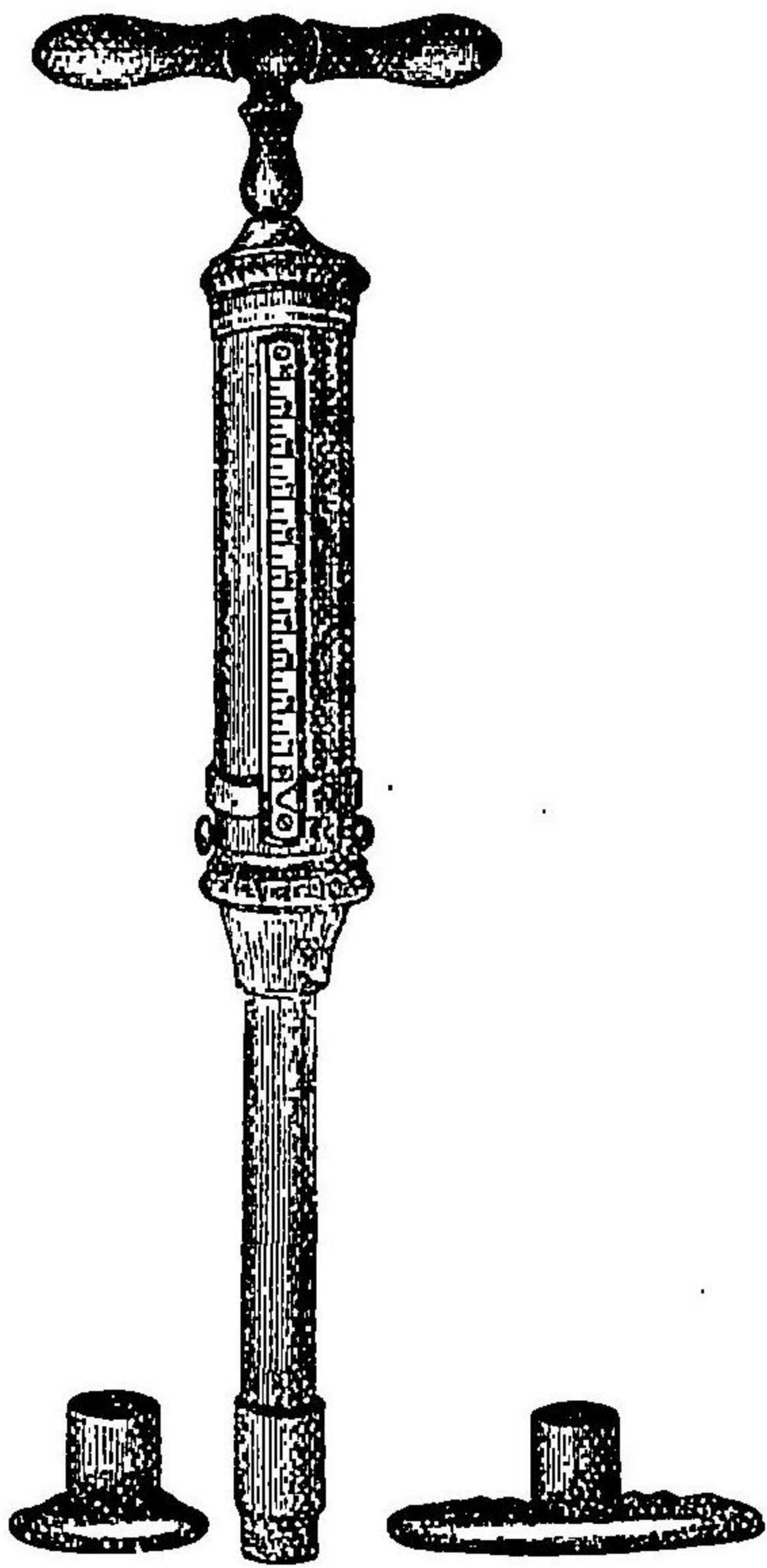
胃ノ觸診法

チ腹ク場合ニハ時ニ呼吸仿誤麻酔ヲ施シテ検査スルヲ必要トスルコト有リ

胃ノ觸診法 Die Palpation des Magens ハ仰臥ノ位置ニ於テスルヲ最良トスルモ間、直立位置ニ於テ之ヲ行フコト有リ而シテ此際先、注意ス可キト壓痛トス蓋シ其疼痛ニハ限局性ノ者有リ或ハ彌蔓性ノ者有リ前者ハ殊ニ胃潰瘍ニ來ル者ニ劇痛ヲ發スルヲ常トシ多クハ心窩ノ正中線ニ限局スルモ又屢、背部殊ニ左方(左第八乃至第十二胸椎部若クハ第一及第二腰椎ノ間)ニ向テ放射シ時トシハ兩肩胛骨ノ中間ニ疼痛ヲ發スルコト有リ後者ハ諸般ノ胃疾患ニ來ル者トス然レモ胃疾患ニ在テモ亦全ク疼痛ヲ缺如スルコト少カラズ又胃痛ニ在テハ觸診スルモ間、疼痛ヲ訴ヘザルコト有リ或ハ輕重種々ノ稍、彌蔓性若クハ限局性ノ疼痛ヲ起スコト有リ

胃潰瘍ニ在テハ上腹部ヲ輕ク摩擦シ或ハ指頭ニテ打ツモ疼痛ヲ發スル者ニシテホアス氏ハ此疼痛ノ輕重ヲ知ランガ爲メ自家ノ發明シタルあるげじめにてる。Boas (第二四八七號)ヲ使用セリ同氏ノ試驗ニ據レバ其最大重壓感ハ二乃至四基瓦ニシテ四基瓦以上ナルキハ潰瘍ニ非ズト又胃部ノ壓痛ハ第十一乃至第十二胸椎ニ於テ幅二乃至三仙迷ニシテ高一乃至四仙迷ノ部分ニ存シあるげじめ

二四八七號 ありめじける



しては、以テ檢スルニ其最大重壓感ハ五乃至六基瓦ナリト云フ胃部ニ持續的限局

性ノ、壓痛、有リテ時々劇痛ヲ特發シ體、軟、ニ由テ、著、シク、増、劇、スル者ハ胃或ハ網膜ノ腹壁ト癒著スルニ由テ來ルコト有リ(ランデレル氏)蓋シ斯ノ如キ症ハ往時胃潰瘍ニ罹リタルカ又ハ既往ノ限局性外傷ニ由來スル者ニシテ神經的胃痛若クハ内臟神經痛ト鑑別シ難キ者トス

健體ニ在リテ腹壁緊張セザルキハ胃部ヲ觸診スルニ他腹部ノ如ク柔軟ナリト雖病態ニ於テハ屢、異常ノ抵抗ヲ觸知スルコト有リ是、殊ニ胃擴張ヲ起シ其筋質ノ肥大セル時ニ於テ然リトス斯ノ如キ胃ニシテ尙瓦斯ニ由テ膨滿ス

抵抗ノ概

ルキハ宛モ緊張セル空氣枕ヲ按壓スルガ如キ感覺ヲ起ス者ナリ而シテ其抵抗若ク限局シ殊ニ上腹部ノ右側ニ偏在スルキハ癌腫ノ疑ヲ起サシム可シ但此際宜シク注意スベキハ收縮セル直腹筋ハ亦限局セル抵抗ヲ起スル有ルヲ是ナリ

蠕動運動

上文既ニ述ベタルガ如ク胃部ニハ亦胃ノ蠕動運動ヲ觸知スルヲ有リ斯ノ如キハ多クハ胃ノ擴張及肥大ノ徵候ナリトス

腫瘤

胃部ニ於テ屢々腫瘤ヲ觸知スルコト有リ是通常胃癌ニハ硬勁ナル潰瘍ノ癥痕ヨリ來ル者ニ之ヲ觸知スルニ固ク不平且結節狀ニシテ疼痛有ルヲ常トスルモ罕ニハ平滑ナルヲ有リ該腫瘤ハ臍部ノ右上方ニ於テ觸ル、ト最多ナリト雖稀ニハ其下部ニ於テ之ヲ觸ル、ト有リ是其幽門部ニ生ズルト最多キヲ以テ其重力ニ由リ下降スルニ因ルナリ而シテ癌腫ハ通常觸診ノ際移動スルモ呼吸ニ由テ移動スルヲ無キヲ常トスルヲ以テ毎呼吸ノ際著シク下降スル所ノ肝脾兩臟ノ腫瘍ト鑑別スルヲ得可シ是蓋胃壁ハ壓縮ヲ受ケ易ク又擴張シ易キノ性ヲ有スルヲ以テ吸氣ノ際橫隔膜扁平ト爲リテ下降スルモ胃ハ移動スルヲ無ク唯側方ニ向テ擴張スルニ因ルナリ然レモ甚大

ナル癌腫ニシテ橫隔膜ニ接著シ癌腫性浸潤ニ由リ胃壁硬變スルキハ其腫瘍ハ橫隔膜ノ呼吸的運動ニ伴テ昇降ス其腫瘍肝臟ト癒著セル時ニ於ケルモ亦然リ

然レモ腫瘤ノ觸診ハ必ズシモ常ニ癌腫ノ診斷ニ必要ナル者ニ非ズ何者硬勁ナル潰瘍ノ癥痕及稀有ナル幽門部肥厚其他嚙下セル異物、橫行結腸内ノ糞塊モ亦宛モ腫瘍ノ如ク觸知セラル、ト有ルト又屢々該疾患ノ全經過中癌モ之ヲ觸察スルヲ能ハザルヲ有レバナリ殊ニ其肝臟或ハ肋骨ノ後方ニ伏在スル時ニ於テ然リトス即チ噴門、小彎及胃ノ後壁ニ生ズル者ノ如キ是ナリ又彌蔓性癌浸潤ニ由リ胃壁硬變スルキハ唯胃部ニ異常ノ抵抗及硬結ヲ觸知スルヲ有ルノミニシテ往々收縮セル直腹筋腹トシテ看過セラル、ト有リ」胃癌者腹部大動脈上ニ横ハルキハ間、強キ搏動ヲ呈シ爲ニ動脈瘤ト誤診セラル、ト無キニ非ズ

胃内ニ大量ノ液體及瓦斯ヲ有スルキハ之ヲ衝突狀ニ觸壓スルニ打水響ノ如キ水液ノ鳴動即震盪音ヲ觸レ又之ヲ聽ク該鳴動ハ健全ノ者ニ在テモ起サシムルヲ得ルモ其著明ナル者ハ殊ニ胃擴張症ニ於テ屢々認ムル所ナリ」食道消息子検査法ニ於ケルガ如ク噴門部ノ癌腫性狹窄ニ於テモ亦食道消息子ヲ用キテ之ヲ検査スルヲ有リ

震盪音

ロイベ氏ハ長キ消息子ヲ胃内ニ送入シ患者ヲ仰臥セシメ腹壁上ヨリ其尖端ノ
在ル所ヲ細察シテ胃ノ下界ヲ檢定シ以テ胃擴張ヲ檢セリ氏曰ク其下界若シ左右
ノ腸骨上棘ヲ連結スル所ノ水平線下ニ在ルキハ胃擴張ノ確證ト爲スコシト然レ
此檢査ヲ行フニハ最モ注意ヲ加ヘザル可カラズ

第三 胃ノ打診法

(天) 健態

胃ノ打診法

胃ノ打診法 Die Percussion des Magens、通常仰臥ノ位置ニ於テ行フ
者ニシテ其打診シ得可キ部位ハ唯胃前壁ノ腹壁及前胸壁左下方ニ接著スル
所ナリ

健態ニ於ケル
胃ノ打診的所

上記ノ位置ニ於ケル胃ノ打響ハ健態ニ在テモ甚ク異ナル者ニシテ通常甚ク低キ
鼓音ヲ發シ間、胃壁強ク緊張スルキハ清非鼓音ヲ發シ又胃充實スルキハ殊
ニ起立ノ際一部純濁音ヲ發スルモ上記ノ腹壁及前胸壁ニ接著スル胃部ニ
於テハ純濁音ヲ發スルヲ殆ド全ク之レ無シトス是レ胃ハ食餌ノ他ニ常ニ亦多
量ノ瓦斯ヲ有スレバナリ其他胃ノ鼓音及非鼓音ハ屢、鑢性響ヲ呈ス而シテ胃

若シ瓦斯ヲ有スルキハ鼓音ヲ發スルヲ以テ左上方ニ於テハ肺臟ノ清音ト境
畫シ得可ク右上方ニ於テハ肝臟ノ濁音ト境畫シ得可シト雖其下界ハ之ニ
隣接スル所ノ結腸上ニ於テ他音ヲ發スルニ非ザルヨリハ之ヲ打定スルコ
能ハザル者トス

胃及結腸若シ同一音ヲ發スルキハ人工的ニ炭酸瓦斯ヲ以テ胃ヲ膨滿セシム
レバ容易ニ之ヲ打定シ得可シ(本編四三頁參照)或ハ患者ニ大量ノ液體ヲ飲マシ
メ起立ノ位置ニ於テ打診スルキハ液體ヲ有スル所ノ胃ノ下部ニ於テハ濁
音ヲ發シ上界ハ水平ヲ爲シ下界ハ胃ノ下界ニ適應シテ下方ニ向テ凸隆線
ヲ畫クヲ以テ其境界(大彎ノ位置)ヲ定ムルコトヲ得可シ

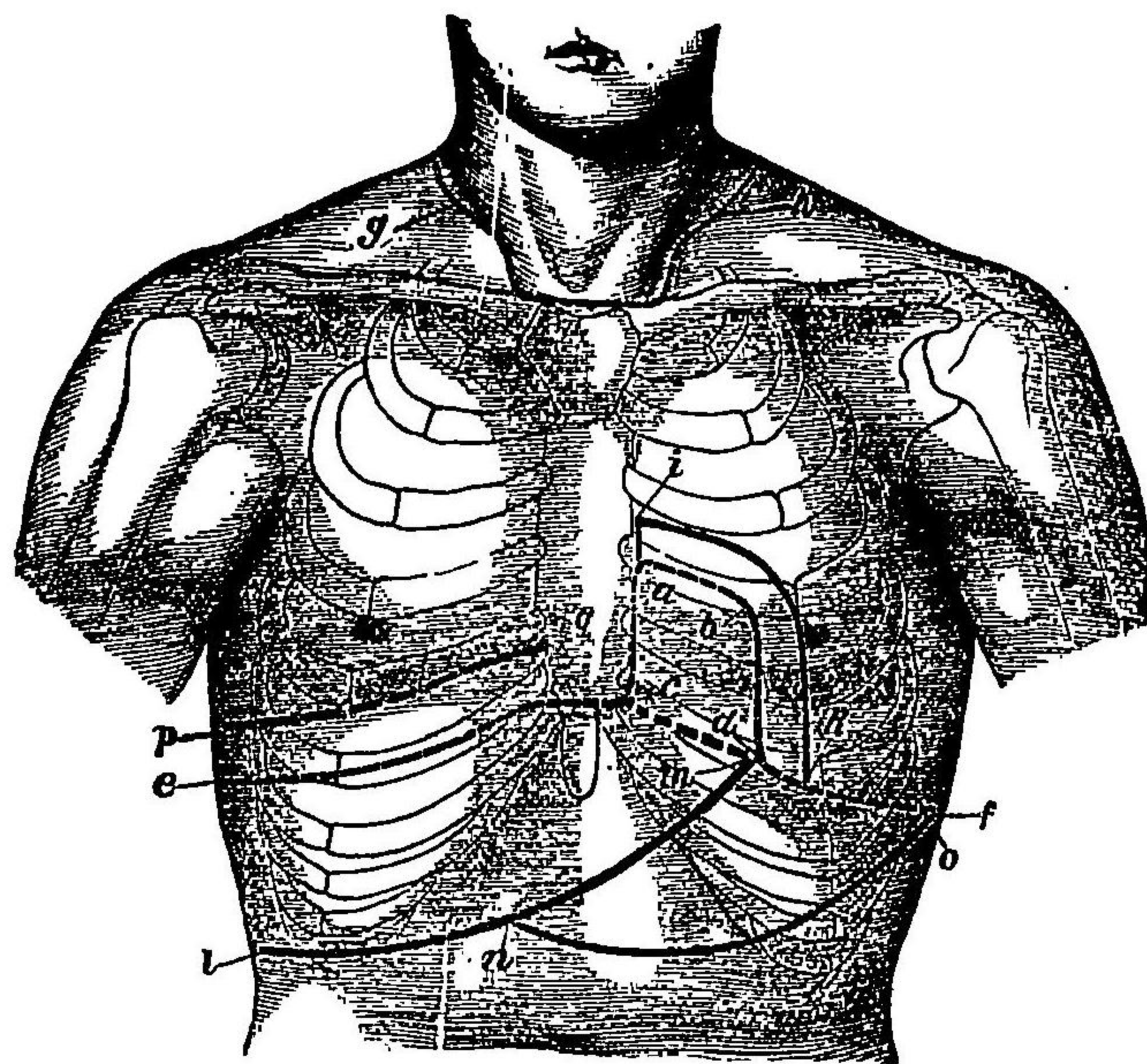
胃ノ發音區
域(トラウマ)
ハ氏ノ半月
狀部

胃ノ發音區域(二百八十八圖参照)ハ左胸廓下部ニ於テ肝脾兩臟ノ間ニ在ル
肺臟下部ノ一區域ニシテ殆ド半月狀ヲ呈シ(所謂トラウマ)ハ氏ノ半月狀部ノ
充滿適宜ナルキハ左方ニ於テハ左前腋下線ニ達シ右方ニ於テハ右副胸骨
線ニ達シ下方ニ於テハ臍下二乃至四仙迷ノ所ニ達シ其上界ハ第六肋骨ノ
乳線部ニ在リテ其長徑ハ平均十二仙迷、最大橫徑ハ八乃至十仙迷ナリ而シ
該部ハ健態ニ在テハ通常一種ノ鼓音(多クハ胃音)ヲ發スルモ罕ニハ腸音ヲ

胃ノ打診法

五三

肺心肝及胃前而ノ打診的的境界



(a b) 純心濁音部ノ上界
(a c) 同上ノ右界(c d)
同上ノ下界(b d) 同上ノ
左界(c e) 右肺ノ下界
(d f) 左肺ノ下界(g h)
兩肺ノ上界(a i b d) 比
較的心濁音部ノ境界(i
m) 肝濁音部ノ下界(p
q) 比較的肝濁音部ノ上
界(n o) 中等大ニ擴張シ
タル胃ノ下界

發シ或ハ又該兩音ヲ發ス之ヲ打診スルニハ弱打法ヲ以テス可シ然レモ健能
ニ在テモ亦罕ニ濁音ヲ發スルヲ無キニ非ズ例之胃ノ著シク充滿セル際或

ハ充實セル橫行結腸ノ腹壁ニ接著スル際或ハ又大網膜ノ非常ニ脂肪ニ富
ムキノ如シ

(地) 病態

病態ニ於ケル
胃ノ打診的所

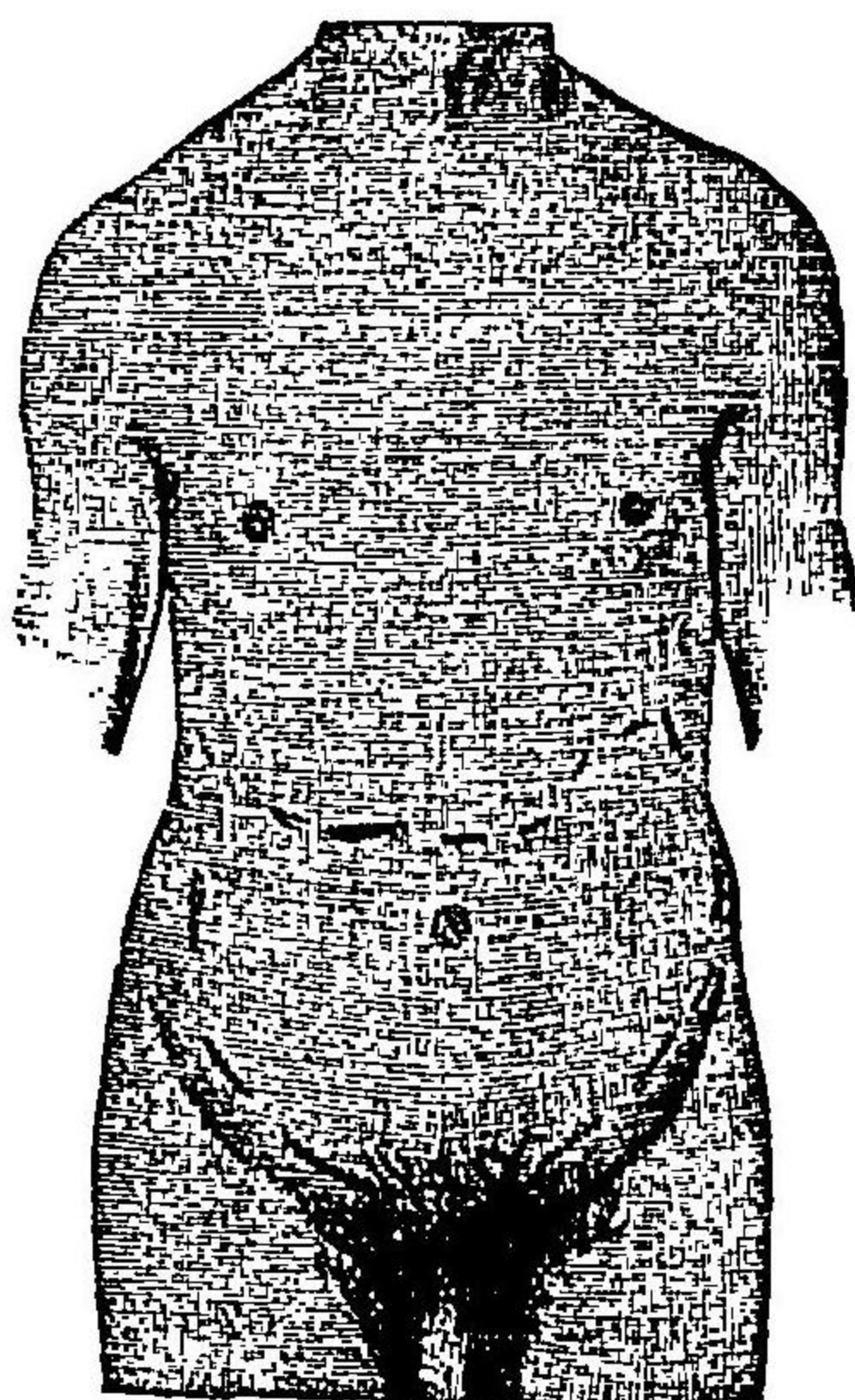
胃發音部ノ
狹縮

胃發音部ノ
増大

病態ニ在テハ胃ノ發音部即チトラウベ氏ノ半月狀部ハ或ハ狹縮シ或ハ増大
シ或ハ轉位ス
胃發音部ノ狹縮ハ左肝葉ノ増大左側ノ胸膜炎性滲出物心嚢内水液瀦溜心
臟肥大及脾臟ノ腫瘍ニ因ル者ニシテ左側胸膜炎性滲出物ニ在テハ液體ハ最
初胸膜ノ補充資ニ瀦溜スルヲ以テ比較的早ク該部ノ上界ニ濁音ヲ呈スル
ト多シ
胃發音部ノ増大ハ左肝葉ノ縮小左肺萎縮及殊ニ胃擴張ニ於テ見ル所ニシ
胃擴張ニ在テハ殊ニ其下界下降シ右界ハ變位スルト少シト雖左界及上界
モ亦増大ス而シテ人工的ニ胃ヲ膨滿セシメ其下界臍下ニ至ルキハ常ニ其擴
張症タルヲ確知ス可シ(第百八十九圖)

擴張セル胃内ニ同時ニ瓦斯及液體ヲ蓄フルキハ患者身體ノ位置ヲ變ズル

胃擴張症に於ける打診の増進
(ハイツェル・ス・ト氏)



際亦其發音部ヲ變ズ
即仰臥ノ位置ニ於テ
ハ液體後方ニ沈降ス
ルヲ以テ胃ノ全部ニ
鼓音ヲ發スルモ起立
セシムルハ其下部
ニ濁音ヲ發ス

胃發音部ノ轉位ハ肺氣腫、腹水、鼓脹等ニ因スル橫隔膜ノ變位ニ於テ見ル所
ニシテ胃ノ腫瘍モ亦重力ニ由リ之ヲ(殊ニ幽門部ヲ)下方ニ牽制シ胃ノ下界ヲ
下降セシメ以テ發音部ヲ増大セシムルヲ有リ茲ニ尙注意ス可キハ胃ノ
腫瘍ニ於テハ(著大ノ者ヲ除クノ外ハ)打診スルニ通常半濁鼓音ヲ發スト雖
(每常必ズ然ルニ非ズ)肝臟、脾臟ノ如キ無氣臟器ハ殆ド常ニ濁音ヲ發スルヲ
是ナリ

第四 胃ノ聽診法

胃ノ聽診法

Die Auscultation des Magens ハ診斷上甚ク肝要ナル者ニ

震盪音

非ザルモ胃内ニ瓦斯及液體ヲ有スルハ患者ヲ動搖シ或ハ胃ヲ震盪セシ
ムルハ(指頭ヲ以テ短ク且患者知覺ノ銳鈍ニ從ヒ多少強ク胃部ヲ打撃ス)
著シキ鏽響性ノ震盪音 Pitscherni ヲ起シ少シク患者ヲ離ル、モ尙能ク之ヲ
聽取シ得可シ是蓋シ夫臍氣胸ニ於ケル震盪音ト同一ノ理ニ由テ發スル者ニ
シテ患者體位ヲ變ジ或ハ衝突狀ニ呼吸スル際ニ於テモ之ヲ聽キ全ク健能ノ
者ニ在テモ亦之ヲ聽クヲ有リト雖是主トシテ胃擴張症ニ認ムル所ナリ然レ
斯ノ如キ雜音ハ亦腸(虎列拉ニ於ケルガ如キ劇甚ノ下劑ノ際)或ハ腹膜腔(限
局性穿孔性腹膜炎ニ於テ)ヨリ來ルヲ有リ
此他耳ヲ胃部ニ抵ルニ一種沸騰スルガ如ク或ハ歌フガ如キ雜音ニシテ恰モ
許多氣泡ノ破裂スルガ如キ感ヲ起ス者有リ是恐ク胃内容ノ發酵ニ由テ生
ズル者ニシテ亦往々胃擴張患者ニ認ムル所ナリ

胃ノ疾患ニ於テ解剖的ニ病變ヲ起スモ毫モ理學的徵候ヲ呈セザルヲ有リ斯ノ
如キハ亦殊ニ著シキ自覺的苦痛ヲ訴フル所ノ諸般ノ「神經性」胃疾患ニ於テ嗜ル
所ナリ故ニ胃ノ疾患ニ於テハ局所検査ニ於ケルヨリモ寧ろ胃内容ノ検査ヲ遂ケ

ヲ以テ最モ肝要ト爲スコト多シ

第五 胃内容検査法(胃消化検査法)

胃内容検査法
(胃消化検査法)

胃内容検査法(胃消化検査法) Die Untersuchung des Mageninhalts (der Magenverdauung) ニ途有リ即チ一ハ患者ノ之ヲ吐出スルル之ヲ檢シハ胃消息子ヲ用キ之ヲ排出シテ檢ス而シテ胃消息子ノ使用ハ亦治療ノ目的ニ出ヅルコト有レモ通常之ヲ診斷上ニ應用スルヲ多シトス蓋シ胃ノ消化及胃液分泌ノ檢定ハ唯胃消息子ヲ用キテ其内容ヲ檢スルヨリ他ニ良法無ケレバナリ然レモ胃出血ノ候有ルカ或ハ酸類亞爾加里等ノ中毒ニ由テ食道或ハ胃内ニ損傷有ルキハ消息子ノ送入ヲ禁忌ス可シ又既ニ一回吐血シタル患者竝ニ胃潰瘍及胃癌ノ疑診有ル患者ニ於テハ最モ謹戒ヲ加ヘ軟性消息子ヲ用キテ検査ヲ行ハザル可カラズ(此際吸引ス可カラズ)其他大動脈瘤ノ疑有ル患者ニハ常ニ胃消息子ノ送入ヲ避ケザル可カラザルコトハ既ニ上文ニ述タルガ如シ

蓋シ胃液分泌及胃消化試験ノ必要ニ三種ノ要因有リ即チ(一)視診、觸診等ノ外部

諸診法ニ由リ未ダ胃ノ疾患ヲ發見スルコト能ハザル際トイヘモ此内容検査ニ由テ能ク之ヲ診定スルコトヲ得可ク又(二)他ノ診法ニ由テ既ニ胃病ノ診斷ヲ下スコトヲ得可キモ尙此検査ニ由テ其診斷ヲ確實ナラシム可ク又(三)患者切ニ胃ノ苦痛ヲ訴フルモ此検査ニ由テ胃ノ消化作用ニハ毫モ變常無キコトヲ發見スルコト是ナリ(二種ノ「神經性消化不良」故ニ此検査法ハ胃症ノ診斷及治療上最モ緊要ナリトス

胃ノ消化機能及其障礙ヲ検査スルニ當テハ先ツ左ノ數項ニ留意ス可シ

澱粉分解

(一)蛋白質及澱粉質ヨリ成ル所ノ食餌(脂肪ハ胃内ニ於テ消化セザルヲ以テ之ヲ除ク)ヲ攝取スルルキハ先ツ唾液素ノ作用ニ由テ其澱粉ハマダミミリ入及少許ノ葡萄糖ニ分解セラレ醗酵ヲ起ス所ノ微生體ノ作用ニ由リ葡萄糖ノ一部ハ乳酸醗酵ヲ醗シテ所謂醗酵乳酸ヲ生ズ(澱粉分解期 Amylolytische Periode)而シテ之ニ要スル時間ハ食餌ノ多少ニ由テ同シカラズト雖平均大約四十五分時ヲ費ス者トス但レ純ニ肉食スルルキハ固ヨリ此作用ヲ缺知スルヲ以テ從テ亦乳酸ヲ生ズルコト無シ凡テ食後ハ直ニ胃粘膜上ニ鹽酸及ペプシンノ分泌ヲ始メ此胃液ハ亞爾加里性ノ食餌ト混和ス而シテ鹽酸ハ始メ亞爾加里性液ト固ク抱合スルモ一定時期(平均三十分乃至四十五分時)ヲ經ルルキハ多量ノ遊離鹽酸ヲ生シ以テ澱粉ノ分解期ヲ

終ル是レ唾液ノ糖化作用ハ酸性液中ニ於テハ休止スレバナリ是ニ於テ乎胃液ハ之ニ代テ蛋白質ニへぶとーん化作用ヲ起サシメあるふもーぜん及へぶとーんヲ生シ乳酸ハ大約一時間ヲ經ルキハ殆ド全ク消失シテ其痕跡ヲ留メザルニ至リ胃内ノ遊離鹽酸ハ漸次増量シテ速カニ極量(〇・二%)ニ達ス此時期ハ蛋白質ニ乏シキ食餌(例之ハ馬鈴薯)ニ在テハ大約食後二時間ノ後ニ來ルモ蛋白質ノ食餌(〇・五基瓦ノ燒肉)ニ在テハ食後第四時間ニ來ル其他胃内ニハ亦へぶとーん及其前階級タルしんごにーん及ぶろへぶとーんヲ生ズ

遊離鹽酸ノ發生スルト同時ニ亦凝乳酶酵素ヲ生シ攝取セル所ノ乳汁ヲ凝固シテ乾酪質ヲ沈澱セシム

胃中ノへぶとーん及凝乳酶酵素ハ始、ぶろへぶとーん及凝乳ちもーげんとン顯ハレ鹽酸ノ作用ニ由テ前兩者ニ變化ス

鹽酸期

胃消化ノ第二期(鹽酸期 Salivary period)ニ至リテ鹽酸ヲ發生スルハ甚ダ肝要ノ件タリ(鹽酸ノ制處作用)即チ飲食物ニ混シテ嚥下セラレタル微生體殊ニ其酶酵及腐敗ヲ起ス所ノ者並ニ偶然混入セル病原的細菌(例之ハ虎列拉菌)ハ多クハ皆之ヲ爲ニ撲滅セラレ或ハ一時其作用ヲ制止セララル而シテ此作用ハ胃内ニ於テ未ダ遊離ノ鹽酸ヲ生セザル際ロリ既ニ行ハル、者ナリ

食餌ノ胃内ニ在ル間ハ胃ノ蠕動機ニ由テ酶酵素ノ作用ヲ助ク即チ食物ハ之ニ由

テ細分セラレ又ハ酶酵素ト混和セラレ且食餌ハ悉ク順次胃壁ニ到リ之ヨリ流出スル所ノ比較的濃厚ノ分泌液ニ觸接セラレ此他胃ハ其運動作用ニ由テ食物ヲ攝取後直ニ固形物ト流動物トヲ分離スル者ニシテ後者ハ幽門部ニ輸送セラレ此所ヨリ又其有調的閉閉ニ由テ十二指腸内ニ排出セララル斯ノ如クニ胃内ニハ常ニ固形物ヲ殘スチ以テ其内容ハ濃厚ト爲ルガ如キ感ヲ起サシムルモ胃ノ粘膜ハ亦水分ヲ分泌シテ新々ニ之ヲ稀釋セシムルノ作用ヲ有ス(フオン・メーリソグ氏)然レモ不溶性ノ食物残渣ハ亦遂ニ幽門ヨリ十二指腸内ニ輸出セララル

胃ハ水分ヲ吸收スルコト少量ナル者ニシテ溶解成分愈、少量ナルキハ愈、速カニ之ヲ十二指腸内ニ輸送ス然レモメーリソグ氏ノ試驗ニ據レバ亞爾爾保兒ハ多量ニ吸收セラレ糖類ハ中量ニ吸收セラレ(亞爾爾保兒性ノモノハ水溶液ヨリ吸收セララルコト多シ)デキテシリん及へぶとーんハ少量ニ吸收セラレ其他炭酸ハ多量ニ吸收セララルト云フ之ヲ要スルニ溶液愈、濃厚ナルキハ吸收愈、盛ナルモ胃壁ノ吸收作用愈、多キキハ其胃内ニ水分ヲ分泌スルコト亦愈、多キ者ナリ

又種々ノ食餌ハ其理學的及化學的性狀ニ從ヒ胃ノ鹽酸分泌機能上及運動作用上ニ各種ノ刺戟作用ヲ呈ス

(二)中量ノ混合食後大約六時間ヲ經ルキハ(少量ナレバ固ヨリ之ヨリ早ク)胃ハ全ク消化ヲ終リテ空虛ト爲リ只僅ニ二三ノ食物殘片ヲ留ムルノミニシテ大同ノ

食時ニ至ル中間時ニ於テハ健全ノ者ニ在テハ只少量ノ中性反應ヲ呈スル證明液ヲ有シ毫モ鹽酸及へぶしんヲ有セザル者トス

哺乳兒ニ於ケル胃ノ消化機ニ就テハ未ダ充分ノ研究ヲ遂ゲタル者無シト雖レ、氏ノ説ニ據レバ哺乳兒ノ胃ハ空心ノ時ニ在テモ殆ド常ニ遊離ノ鹽酸ヲ有スレモ消化時ニ於テハ毫モ之ヲ見ルヲ無ク或ハ漸ク一時間ノ後ニ至リテ之ヲ見ルコト有リ是レ蓋シ消化時ニ於テハ鹽酸ノ分泌休止スルニ非ズン乳汁ノ爲ニ中和セラル、カ爲ナラムト又哺乳兒ニ在テハ半時間ヲ經ルハ乳汁ノ大部ハ既ニ腸内ニ輸送セラル、者ニ一時間乃至二時間ノ後ニ至レバ胃ハ全ク空虚ト爲ル者トス

(三)胃液分泌及胃ノ運動機ニ病的障礙ヲ起スルハ胃ノ消化機及糜爛ノ殺菌作用

ヲ障礙シ又胃内容ヲ腸内ニ輸送スル機能ヲ障礙スルヲ大略次ノ如シ

鹽酸ノ分泌減少(胃酸減少症 *Subacidit, Hypacidit*)スルハ蛋白質ノ消化障礙セラ

レ且胃内ノ腐敗及發酵作用ノ制止機能減弱ス

鹽酸ノ分泌增多(胃酸過多症 *Superacidit, Hyperacidit*)スルハ遊離鹽酸ノ發生早キ

ニ過ギ以テ澱粉質ノ消化ヲ障礙ス是レ澱粉質ハ只胃内容ノ中性反應ヲ呈スル際

ニ非ザレバ消化セラレザル者ナレバナリ而シテ此際蛋白質ハ尋常或之ヨリ早ク

又時トノ徐々ニへぶさーん化セラル、者トス然レモ斯ノ如キ消化障礙ヲ起スル

胃酸減少

胃酸過多

ハ胃ノ運動機能ヲ害スルヲ以テ食物ハ尋常ヨリ長ク胃内ニ停滯シ遂ニ其擴張ヲ來シ又繼發的ニ胃粘膜ニ障礙ヲ與ヘ以テ間、反テ鹽酸分泌ノ減少ヲ將來スルコト有リ

鹽酸ノ分泌減少スルハ隨テへぶしんノ量モ亦共ニ並行シテ減少スルコト多シト雖胃酸過多ノ時ニ在テハへぶしんハ之ト共ニ増量スルコト無ク却テ其缺乏ヲ見ル者ノ如シ遊離ノ鹽酸ハ増量スルモ蛋白質ノへぶさーん化作用ノ緩慢ナルハ蓋シ之ニ由テ了解シ得可シ

胃酸缺乏

上文既ニ述ベタルガ如ク鹽酸減少或ハ缺乏(胃酸缺乏症 *Inacidit*)ノ際ハ蛋白質ノ消化不良ナルノミナラズ微生體ノ發生盛ナルヲ以テ著シキ分解及發酵ヲ起シ乳酸及他ノ有機酸ノ發生過多ナリトス而シテ此過剩ノ酸類發生ハ胃ノ蠕動機及筋ノ緊張力ヲ鈍麻セシムル者ニシテ爲ニ食物長ク胃内ニ停滯シテ消化振ハズ其極途ニ胃擴張症ヲ誘發スルニ至ル

幽門狹窄ニ於テモ亦前者ト同一ノ結果ヲ來セモ其障礙ヤ之ヨリ甚シトス即チ本症ニ在テハ始、胃筋質ノ肥大ニ由テ能ク其内容ヲ腸内ニ輸送スルモ漸次其代償ヲ失フヤ食物漸ク胃内ニ滯積シテ遂ニ其擴張ヲ來シへぶさーん、あるふみな、て、格魯兒鹽及磷酸鹽ハ胃内ニ集積スルヲ以テ鹽酸ト抱合シテ其消化及殺菌作用ヲ減殺シ爲ニ益、消化不良ヲ來シ多量ノ乳酸、酪酸、醋酸、亞爾爾個保兒ヲ化生シ鹽

酸、少、症、若、ク、ハ、胃、酸、缺、亡、症、ハ、消、化、ノ、全、時、期、中、ニ、於、ケ、ル、遊、離、鹽、酸、ノ、%、量、ノ、減、少、若、ク、ハ、其、缺、如、ニ、由、テ、之、ヲ、識、ル、可、ク、又、異、常、ノ、隱、匿、症、(即、チ、久、シ、ク、多、量、ノ、乳、酸、ヲ、發、牛、ス、ル、者)ヲ、呈、ス、ル、ニ、由、テ、之、ヲ、知、ル、可、シ、而、シ、テ、此、際、胃、壁、ノ、運、動、機、能、減、弱、ス、ル、ヲ、以、テ、胃、内、容、ノ、運、輸、ヲ、妨、グ、消、化、多、ク、ハ、緩、慢、ト、爲、リ、食、後、七、時、間、ヲ、經、ル、モ、胃、ハ、空、虛、ナ、ル、ヲ、能、ハ、ズ、尙、不、變、ノ、肉、片、ヲ、有、ス、ル、ヲ、見、ル、試、ニ、此、胃、液、ヲ、採、リ、酵、化、罐、内、ニ、於、テ、

(四)胃、内、容、ハ、異、常、ニ、因、ス、ル、症、狀、ノ、主、要、ナ、ル、者、次、ノ、如、シ

胃、酸、減、少、症、若、ク、ハ、胃、酸、缺、亡、症、ハ、消、化、ノ、全、時、期、中、ニ、於、ケ、ル、遊、離、鹽、酸、ノ、%、量、ノ、減、少、若、ク、ハ、其、缺、如、ニ、由、テ、之、ヲ、識、ル、可、ク、又、異、常、ノ、隱、匿、症、(即、チ、久、シ、ク、多、量、ノ、乳、酸、ヲ、發、牛、ス、ル、者)ヲ、呈、ス、ル、ニ、由、テ、之、ヲ、知、ル、可、シ、而、シ、テ、此、際、胃、壁、ノ、運、動、機、能、減、弱、ス、ル、ヲ、以、テ、胃、内、容、ノ、運、輸、ヲ、妨、グ、消、化、多、ク、ハ、緩、慢、ト、爲、リ、食、後、七、時、間、ヲ、經、ル、モ、胃、ハ、空、虛、ナ、ル、ヲ、能、ハ、ズ、尙、不、變、ノ、肉、片、ヲ、有、ス、ル、ヲ、見、ル、試、ニ、此、胃、液、ヲ、採、リ、酵、化、罐、内、ニ、於、テ、消、化、試、驗、ヲ、行、フ、ニ、蛋、白、質、ヲ、消、化、ス、ル、力、減、少、シ、或、ハ、全、ク、消、失、ス、ル、ヲ、見、ル、可、シ、胃、酸、過、多、症、ニ、在、テ、ハ、消、化、ノ、際、若、ク、ハ、其、極、度、ノ、時、ニ、至、リ、遊、離、鹽、酸、ヲ、増、生、ス、ル、者、ニ、通、常、其、發、生、ハ、早、キ、ニ、過、ギ、爲、ニ、澱、粉、質、ノ、分、解、期、ヲ、短、縮、セ、シ、メ、胃、内、ニ、不、變、ノ、澱、粉、質、ヲ、存、ス、酵、化、罐、内、ニ、於、ケ、ル、蛋、白、質、ノ、消、化、ハ、早、キ、者、ト、ス、斯、ノ、如、キ、症、ニ、在、テ、ハ、胃、ノ、内、容、ニ、粘、液、ヲ、混、ズ、ル、ト、罕、ナ、ラ、ズ、是、ハ、胃、粘、膜、ノ、加、答、兒、症、ニ、基、因、ス、ル、者、ナ、リ、胃、内、容、ノ、排、出、困、難、(殊、ニ、幽、門、狹、窄、ニ、因、ル、者)ハ、遊、離、鹽、酸、ノ、減、少、或、ハ、缺、亡、ヲ、伴、フ、者

胃酸分泌過多症

ナ、レ、ハ、鹽、酸、ノ、分、泌、ニ、ハ、異、常、無、ク、或、ハ、却、テ、增、進、ス、ル、ヲ、有、リ、是、レ、其、分、泌、セ、ル、鹽、酸、ハ、胃、内、ニ、澱、滯、セ、ル、多、量、ノ、蛋、白、質、ベ、ト、一、人、及、鹽、類、等、ト、結、合、ス、ル、ヲ、以、テ、尋、常、ノ、反、應、ニ、由、テ、ハ、之、ヲ、鑑、識、ス、ル、ヲ、能、ハ、ザ、ル、ニ、由、ル、ナ、リ、乳、酸、(酪、酸、醋、酸)ノ、多、量、ナ、ル、ハ、隱、匿、ノ、強、キ、ヲ、示、ス、者、ト、ス、食、物、ノ、消、化、ハ、明、カ、ニ、不、良、ナ、リ、酵、化、罐、内、檢、査、ニ、於、テ、毒、田、蛋、白、質、ノ、消、化、ヲ、見、ズ

(五)茲、ニ、尙、胃、液、分、泌、ニ、一、種、ノ、異、常、有、リ、即、チ、胃、内、空、虛、ノ、際、ト、イ、ヘ、ハ、鹽、酸、ハ、多、シ、人、及、凝、乳、酪、素、ヲ、分、泌、ス、ル、者、是、ナ、リ、之、ヲ、胃、酸、分、泌、過、多、症、(Superecretion, Hypersecretion)ト、云、フ、而、シ、テ、斯、ク、空、心、時、ニ、發、生、セ、ル、胃、液、ハ、甚、ダ、多、量、ナ、ル、ヲ、有、ル、者、ニ、シ、テ、此、際、亦、唾、液、ノ、分、泌、ヲ、能、進、ス、ル、ヲ、以、テ、之、ヲ、嚥、下、ス、ル、ト、ハ、愈、其、容、量、ヲ、增、加、セ、シ、ム、然、レ、モ、此、唾、液、ハ、以、テ、胃、酸、ヲ、中、和、ス、ル、ニ、足、ラ、ザ、ル、者、ト、ス

近、時、シ、コ、ラ、イ、ベ、ル、氏、ハ、健、全、ノ、者、ニ、於、テ、モ、亦、胃、ノ、空、虛、ナ、ル、際、少、量、ノ、酸、性、胃、液、ヲ、檢、出、セ、シ、リ、有、リ、ト、云、フ

凡、ソ、胃、ノ、機、能、ハ、之、ヲ、三、種、ニ、區、別、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、可、シ、即、チ、(一)胃、液、ノ、化、機、的、作、用、(二)消、化、若、ク、ハ、殺、菌、セ、ル、糜、粥、ノ、腸、内、輸、送、及、(三)其、一、部、ノ、吸、收、是、ナ、リ、而、シ、テ、是、等、ノ、作、用、ハ、上、文、ニ、述、タ、ル、ガ、如、ク、健、體、ニ、在、テ、ハ、一、定、時、間、内、ニ、於、テ、營、マ、ル、者、ナ、ル、ヲ、以、テ、胃、ノ、消、化、機、能、ヲ、檢、査、ス、ル、ニ、ハ、先、ツ、(一)消、化、時、間、ヲ、檢、定、シ、次、デ、(二)消、化、時、ニ、於、ケ、ル、化、學、的、作、用、ヲ、檢、シ、終、リ、(三)糜、粥、ノ、腸、内、輸、出、及、其、吸、收、ヲ、檢、セ

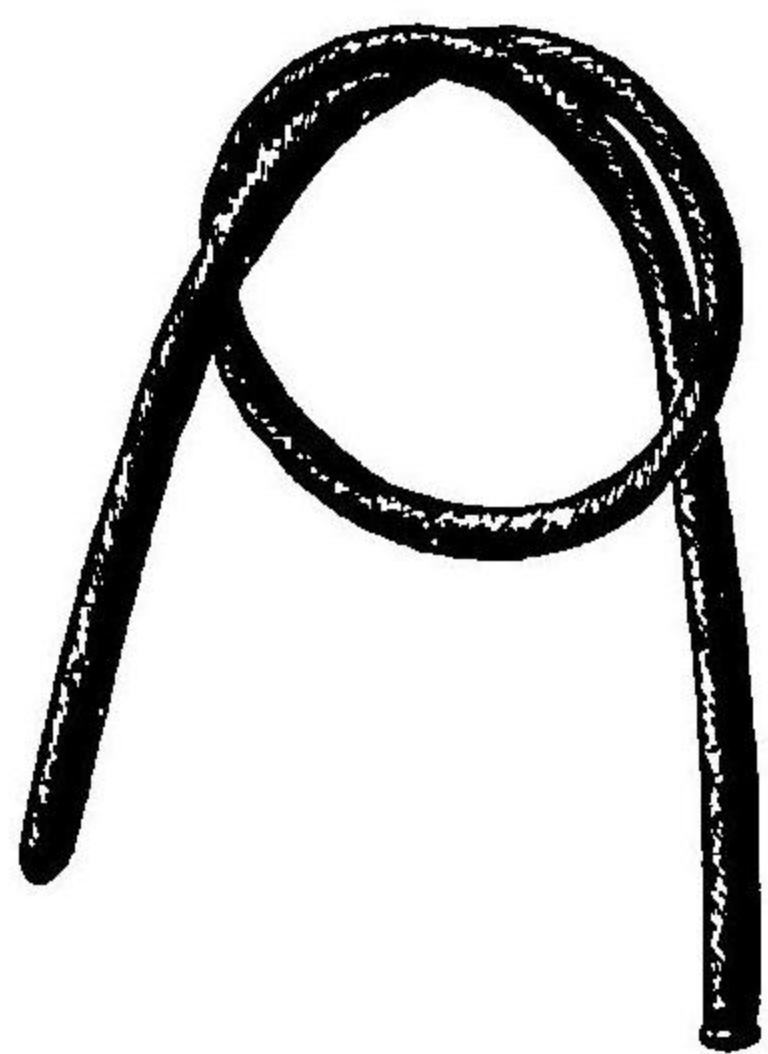
胃ノ消化時
間ノ検査

シコヲ要ス

(一)胃ノ消化時間。胃ノ消化時間ハ飲食物ノ種類及其多少ニ從ヒ甚異ナルヲ以テ之ヲ檢定スルニハ一定ノ方法ニ據ラザル可カラズロイベ氏ハ試驗食餌 (Probennalzeit) トノ一盞ノすーぶ中等大ノビーふてき及小白麵麩一小片ヲ食セシメタル後七時間全ク飲食ヲ禁ジ而シテ後胃消息子ヲ用キテ其内容ヲ検査セリ消化力尋常ノ者ニ在テハ此時間内ニ於テ試驗食餌ハ全ク消化セラレ胃ハ空虚ト爲リ只僅ニ一二ノ食片ヲ留ムルコト有ルノミ

ナリ此検査ニ於テハ胃ノ健全ナル者ニ在テハ食後六時間ニシテ試驗食餌ハ消化セラレ腸内ニ輸出セララル

圖十九百二第 軟性防護管息子



胃ノ内容ヲ排出シ或ハ胃ヲ洗滌スルニ通常咽頭消息子及曲注管裝置ヲ用ユルモ時トシテハ亦胃唧筒ヲ使用スルコト有リ而シテ通常胃洗滌ニ供用スル所ノ咽頭消息子ハ少クモ直徑〇六仙迷大ノ軟性防護管ニシテ其一端ニ大約一迷長ノ防護管ヲ附シ之ヲ大

圖十九百二第 胃洗滌用器具裝置



ナル硝子製漏斗ニ連著セシム(第一四九十四圖)胃ノ充滿セル者ニ在テハ消息子ヲ送入スルルルハ内容忽チ自ラ排出スト雖然ラザル者ニ在テハ患者チン努力セシムルニ非ザレバ内容排出スルコト無シ(所謂榨出法 Expressionsmethode)之ニ由テ内容ヲ排出シ能ハザレバ又唧筒ヲ用井テ之ヲ吸出スルノ法有レ也(但シ此法ハ頗ル注意ヲ要ス)尙之ニ由テ排出

胃内容検査法



シ得ザルハ胃内ヲ洗滌シ以テ食片ノ存否ヲ檢スルヲ有リ其法先ツ護膜管及漏斗ニ微温湯ヲ滿タシ其管端ヲ消息子ト連絡シ漏斗ヲ高举シテ温湯ヲ胃内ニ送り次テ漏斗内ノ温湯全ク盡キザル前之ヲ下降シテ液

體ヲシテ再ビ胃ヨリ流出セシムルニ在リ(第百九十二圖)

此他彎曲セル硝子管ト護膜管トヲ以テ消息子ヲ一個ノ硝子瓶ト連絡シ吸引法ニ由テ胃内容ヲ排出スルノ法有リ(第百九十三圖)

ロイベ氏ノ法ニ從ヒ試驗食餌ヲ與ヘ食後七時間ヲ經テ胃洗滌ヲ行ヒ食物

ノ殘片ヲ見ザルキニ胃ノ消化力尋常ニノ胃液分泌ノ減少及胃外排出ノ障礙無キヲ識ルヲ得可シト雖此際亦胃酸過多症或ハ分泌過多症ヲ存スルヤ知ル可カラズ故ニ斯ノ如キ場合ニ在テハ第二回ノ検査ニ於テ一、二時間早ク消息子ヲ送入シ以テ試驗ヲ反覆スルキハ消化時間ヲ檢定スルヲ得可シ而シテ食後七時間ヲ經ルモ尙胃内ニ多量ノ食物殘片ヲ留ムルキハ以テ消化ノ緩慢ナルヲ知ル可シ是レ鹽酸ノ減少或ハ幽門狹窄蠕動機ノ減弱或ハ胃擴張ニ因ル者ナリ

胃消化ノ化學的作用檢

(三)胃消化ノ化學的作用 胃消化ノ化學的作用ヲ検査スルニモ亦ロイベ氏ノ試驗食餌ヲ以テス可シ即チ食後七時間ヲ經テ胃尙充實スルキハ其消化ノ不良ナルヲ知ル可シト雖既ニ空腹ナルキハ再ビ試驗食餌ヲ與ヘテ五時間ノ後ニ檢シ尙空腹ナルキハ四時間後ニ短縮シ以テ試驗ヲ反覆ス可シ既ニ遊離鹽酸ヲ發見スルキハ其最多量ナル時期ニ於ケル胃内容ヲ檢スルヲ努ム可シ此時期ハ胃消化ノ終末前大約一時間ニ在リ然レモ此検査ハ時間ヲ費シ實地上不便少カラザルヲ以テエワルド氏ハ之ヨリ單簡ナル法ヲ稱用セリ即チ氏ハ朝間空心時ニ三十五瓦ノ小白麵麩及三百

瓦ノ微温湯或ハ稀薄ノ茶ヲ與ヘタリ(試驗朝食 *Probefrühstuck*) 此検査ヲ以テスルキハ大ニ消化時間ヲ短縮スルコトヲ得テ既ニ一時間ヲ經ルキハ胃ノ消化力ハ其最高點ニ達ス

試驗食餌トシテ前記ノ如ク一椀ノ味噌汁、二三椀ノ米飯及一個ノ鶏卵ヲ用キ又試驗朝食トシテハ一椀ノ米飯、一椀ノ茶及少許ノ食鹽ヲ用ユルモ可ナリ此検査ニ於テハ前者ニ在テハ食後二時間ヲ經テ胃内容ヲ檢シ後者ニ在テハ半時間ノ後ニ檢ス可シ此時間ハ從來ノ經驗ニ由テ確定セラレタル者ニシテ殊ニ朝食試驗法ハ適カニ簡便ナルヲ以テ最モ常用ス可シ

胃ノ化學的消化作用ヲ検査スルニハ左ノ順序ニ憑ル可シ

胆汁、血液
膽ノ検査
濾過殘物ノ
検査
濾液反應ノ
検査

- (一) 先ツ胃内容中ニ胆汁、血液或ハ膽ノ有無ヲ檢シ(次章吐物検査ノ條ヲ看ヨ)次デ其一部ヲ濾過シテ他ノ検査ニ供ス
- (二) 肉眼ヲ以テ濾過殘物ヲ檢シ以テ其中ニ尙不消化ノ食片ヲ存セザルヤ否ヲ見ル可シ(其顯微鏡的検査ハ亦吐物検査ノ條下ヲ觀ル可シ)
- (三) 斯クテ濾液ヲ取りら、くむす紙若シハらくむす丁幾ヲ以テ其反應ヲ檢ス其反應ハ殆ド何ノ場合ニ於テモ酸性ナルモ(即チ青色試驗紙ヲ赤變ス)(第二百九十四圖)

九十四圖) 此酸性反應ハ以テ遊離鹽酸存在ノ徵ト爲ス可カラズ是レ此反應ハ亦乳酸及他ノ有機酸其他溶解セル酸性鹽類殊ニ磷酸鹽類ニ由テ起ル者ナレバナリ

遊離鹽酸ノ
定性試験

(四) 是ニ於テ先ツ遊離鹽酸及乳酸ノ定性検査ヲ行ハザル可カラズ
遊離鹽酸ヲ檢スルニ左ノ數法有リ

(一) こんご紙試驗法 こんご赤ハ遊離ノ鹽酸ニ由テ青變セラル、モ酸性鹽類ニ由テ青變セラル、ト無ク〇〇五及之ヨリ以上ノ鹽酸ニ遇ヘバ暗青色(第二百九十五圖)ヲ呈シ其量少キキハ弱青色或ハ薑花色ヲ呈ス 〇〇五以下ノ有機酸ハ毫モ反應ヲ呈セザルカ或ハ只微カニ薑花色ヲ呈スルモ(乳酸其量多キキハ)是レ胃中ニ見ザル所ナリ)亦暗青色ヲ呈ス而シテ此試驗ニ最モ適當ナルハ通常ノ試験紙ノ如クこんご赤ヲ以テ紙片ヲ染メタル者即チこんご紙ヲ用ユルニ在リ

試驗法 胃液一滴ヲ試験紙上ニ點滴ス可シ其部全ク強暗青色ヲ呈スルキハ少クモ〇〇五%ノ鹽酸ヲ含有スルヲ知ル可シ之ニ反シテ只幽微ノ青色斑ヲ呈スルカ或ハ其周縁ノミ暗青色ヲ呈スルキハ(青色輪)遊離酸ノ存在ヲ

知ル可シト雖其鹽酸ナリヤ或ハ有機酸ナリヤ或ハ兩者ノ混合物ナリヤ之ヲ判別スルヲ能ハザルナリ故ニ精確ナル成績ヲ得ンニハ尙左ノ試験法ヲ行フヲ良トス

(二)ふるろぐるちんわにりん試験法 ふるろぐるちん二瓦わにりん一瓦ヲ

三十瓦ノ純亞爾個保兒ニ溶解シタルモノ(所謂ギンツプルグ氏ノ試薬二三

滴ニ同量ノ胃液ヲ加ヘテ小瓷皿ニ入レ沸騰セザルニ注意シ之ヲ文火上ニ

發散セシム鹽酸ヲ含有スルキハ○・○一%ノ少量ナルモ美紅色ノ輪ヲ呈ス

レモ(兩二百九十六四a)有機酸ハ設令モ多量ナルモ此反應ヲ呈スルヲ無シ而シテ此

試験法ハ最モ確實ニシテ而モ鋭敏ナリ

(三)めちーるうをれと試験法 此色素ノ稍強螢花色ヲ呈スル水溶液ハ○・

○三%ノ鹽酸ニ由テ青色ヲ呈シ(兩二百九十七四b)○・九%ニ由テ脱色ス之ニ反

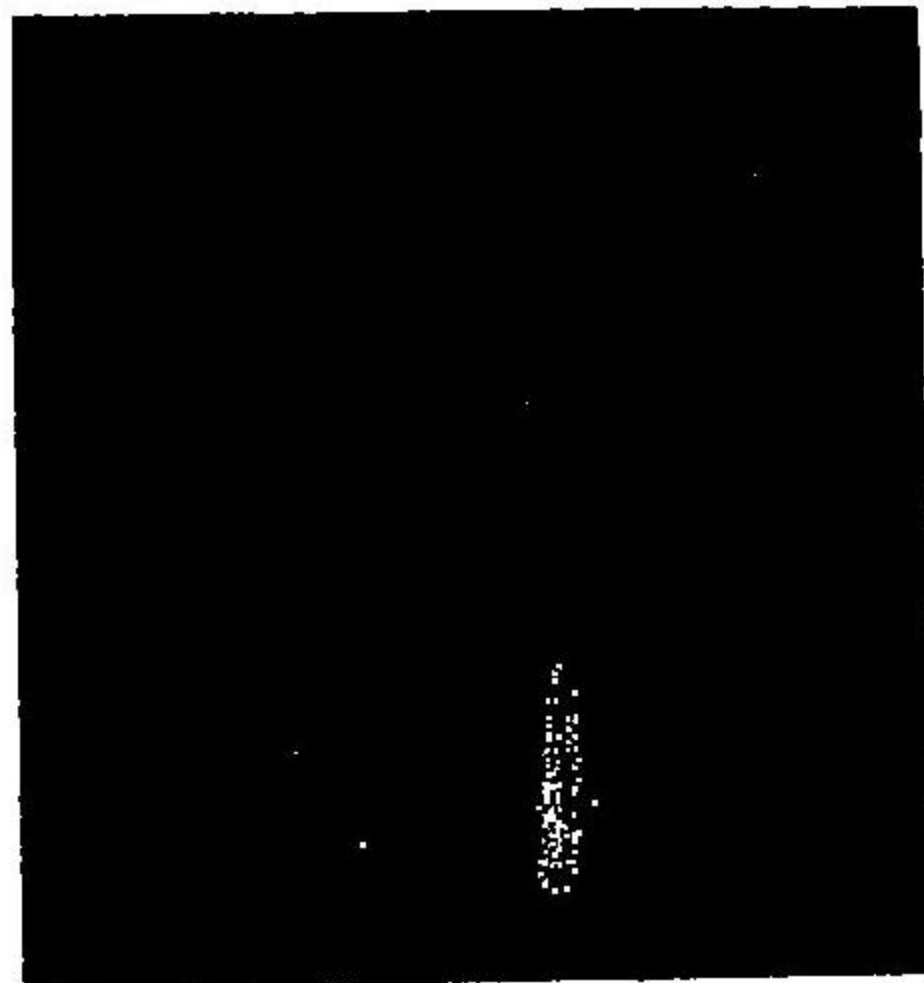
シテ有機酸ハ之ヨリ多量ナルニ非ザレバ變色ヲ來スヲ無シ即チ乳酸ハ○・五

%醋酸ハ二・五%ニ於テ此反應ヲ呈ス

試験法 試験管ニ水五乃至十瓦ヲ容レ之ニめちーるうをれとノ濃厚水溶

液二乃至三滴ヲ加ヘ著明ノ螢花色ヲ呈スルニ至ラシム可シ次デ之ト同量

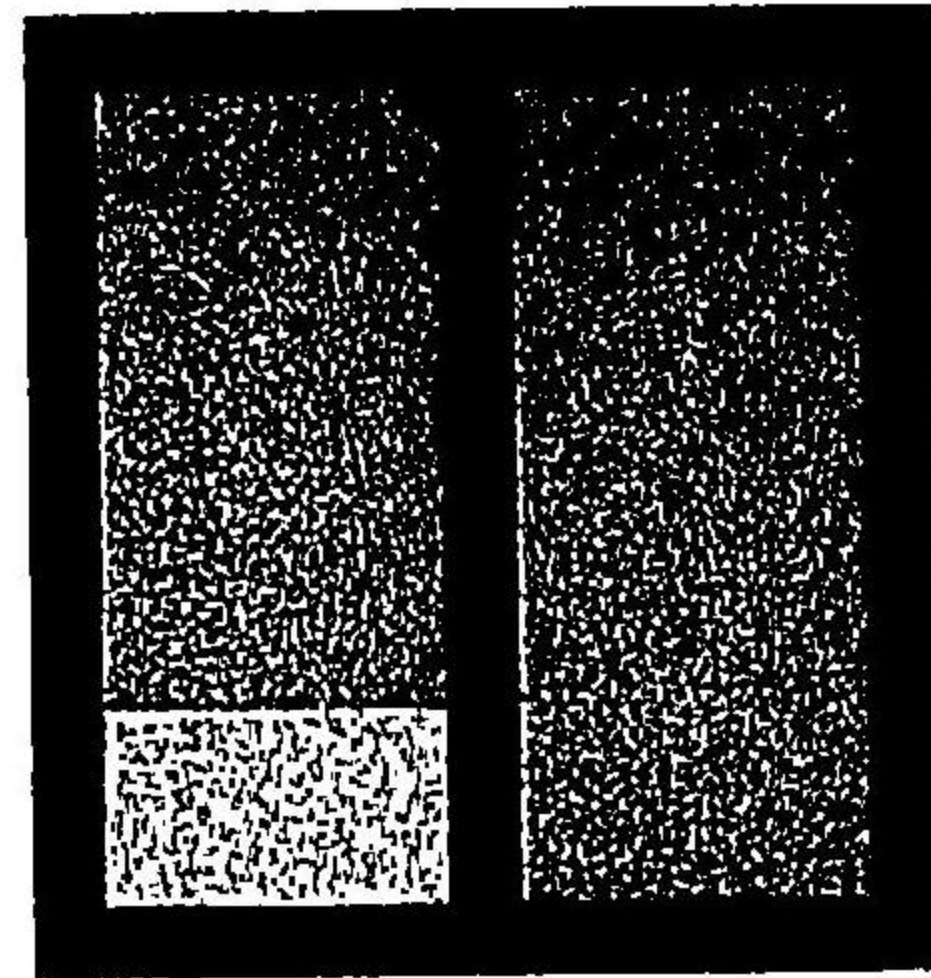
圖五十九百二第
法驗試紙「こんこ」
(氏アロヤ) (酸鹽)



b

a

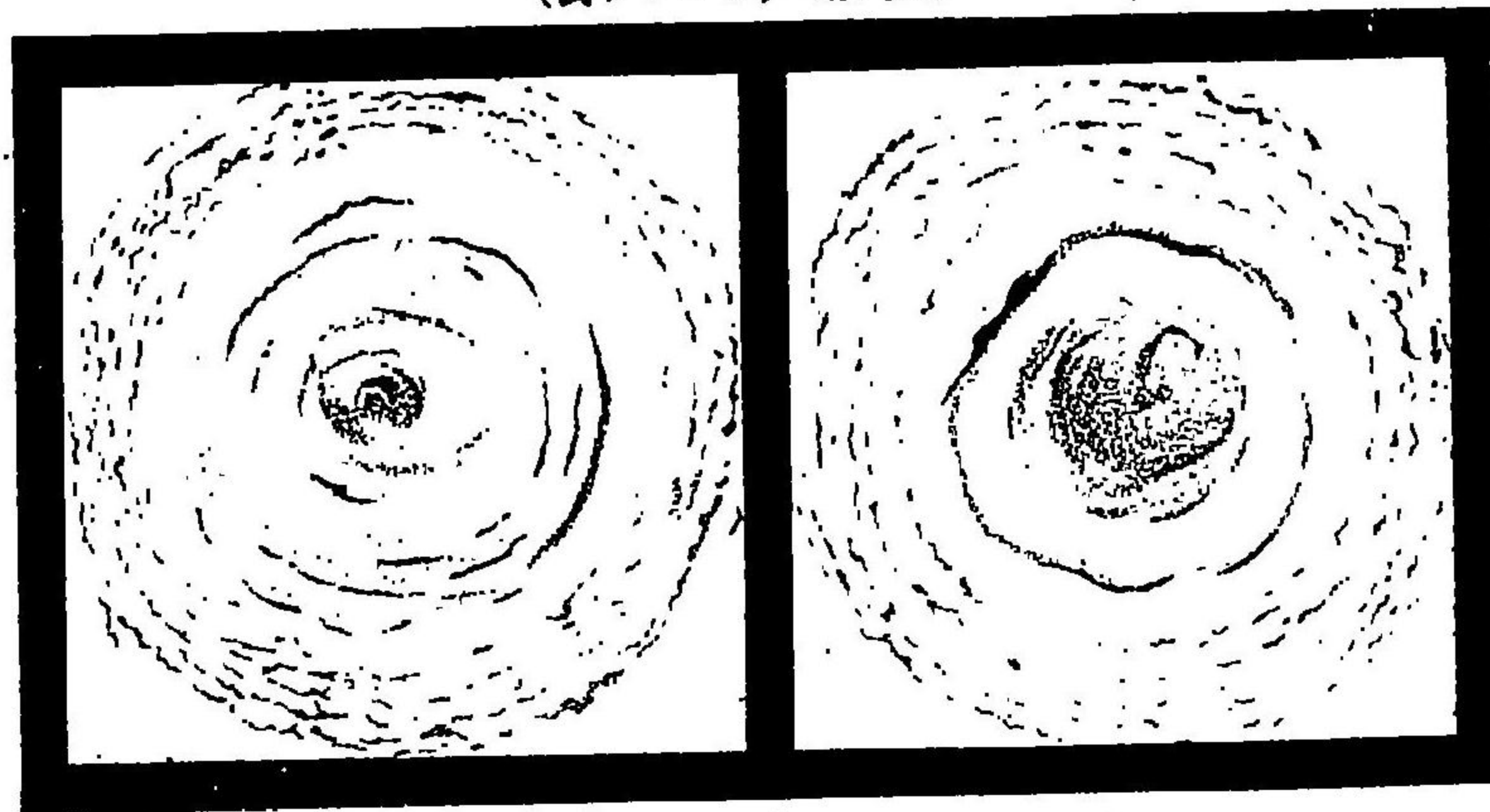
圖四十九百二第
法驗試紙驗試色青
(氏アロヤ)



b

a

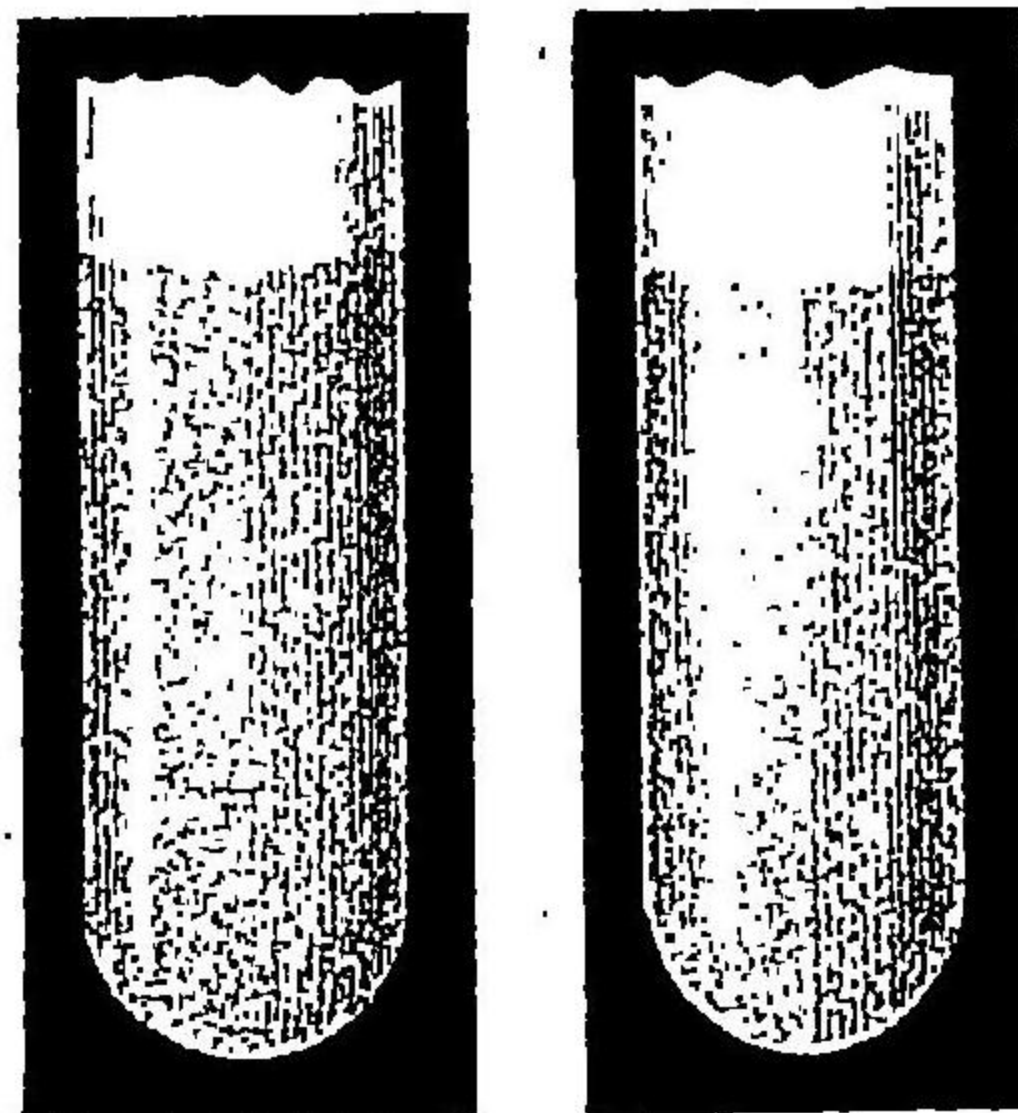
圖六十九百二第
法驗試んにわんちるぐいろふ
(氏アロヤ) (酸鹽)



b

a

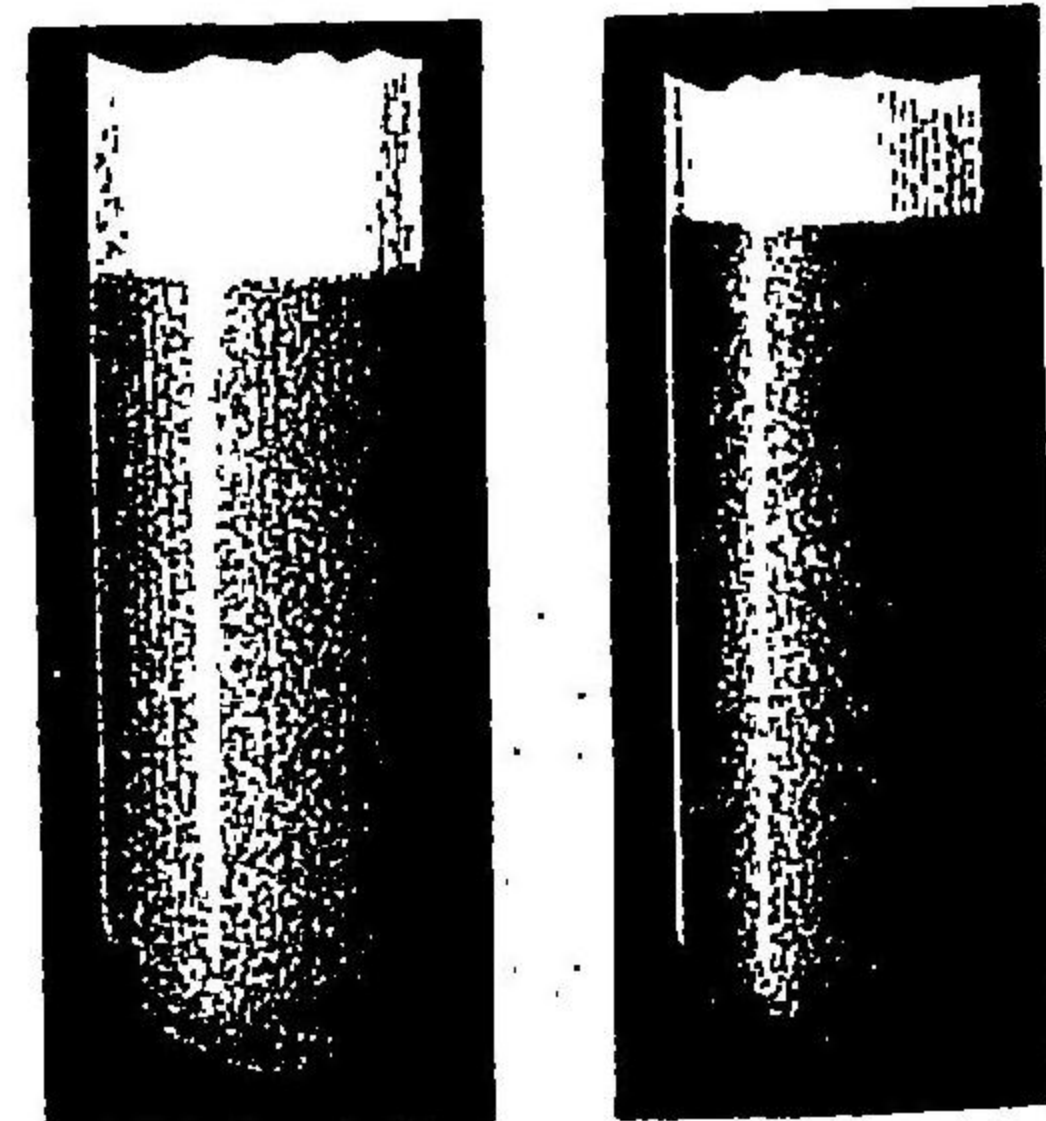
圖八十九百二第
法驗試酸炭石鏡兒魯格
(氏アロヤ) (酸乳)



b

a

圖七十九百二第
法驗試とつれをみるいちめ
(氏アロヤ) (酸鹽)



b

a

試乳酸ノ定性

ノ濾過セル胃液ヲ採リ之ト同一ノ試験ヲ行ヒ兩液ノ反應ヲ比較ス可シ胃液若シ著明ノ青色ヲ呈スルトキハ〇・〇三%以上ノ鹽酸ヲ含有スルヲ知ル可シ

(四) 〇。ろ。べ。を。り。ん。紙。試。驗。法。 とろべをりんノ黄色乃至黄赤色ノ水溶液ハ〇・〇二%ノ鹽酸ヲ加フレバ薔薇紅色或ハ褐赤色ヲ呈スルモ〇・五%以下ノ有機酸ハ只黄色ヲ呈スルノミ而シテ此試験ヲ行フニハ暫時濾紙片ヲとろべをりんノ濃厚亞爾個保兒性溶液中ニ浸シ之ヲ乾燥シタル者ヲ用ユルヲ最簡便トス但シ久シク之ヲ浸スルハ反應鋭敏ナラズ

試驗法 胃液一滴ヲ試験紙上ニ滴落ス可シ其部忽チ暗褐赤色ヲ呈シ之ヲ小籤上ニ乾燥シテ鮮青赤色ヲ呈スル片ハ少クモ〇・〇五%ノ鹽酸ヲ含有スルヲ知ル可シ有機酸ハ多量ニシテ弱褐色ヲ呈スルノミ

然レモ一層精確ナル胃液検査法ヲ行ハント欲セバ鹽酸ヲ定量セザル可カラズ(下文ニ詳ナリ)

乳酸ヲ檢スルニハ左ノ法ヲ以テス

(二) 格魯兒鐵試驗法 五十立方仙迷ノ水中ニ一半格魯兒鐵液一滴ヲ點ズル

片ハ薄層ニ於テハ殆ド其黄色ヲ認ムルヲ能ハザレモ其一立方仙迷ヲ取り之ニ〇・〇二%ノ乳酸溶液一立方仙迷ヲ加フレバ忽チ著明ノ黄色ヲ呈ス之ニ反シテ醋酸及酪酸竝ニ鹽酸ハ〇・三%ニ至ル迄ハ變化スルヲ無シ而シテ蛋白質、鹽類、ペプトーんの如キハ此反應ニ殆ド妨害ヲ與ヘザル者ナリ故ニ此試驗ハ胃液中ノ乳酸ヲ鑑識スルニ甚ク恰當ニシ且鋭敏ナル者トス

(二)格魯兒鐵石炭酸試驗法 一半格魯兒鐵液一滴、四%石炭酸十立方仙迷及水二十立方仙迷ノ混液(ウッフェルマン氏試薬)ノ新製ノ者ハ堇花様色ヲ呈スレモ之ニ〇・一%ノ同量ノ乳酸溶液ヲ混ズルハ忽チ純黄色乃至綠黄色ヲ呈ス(二百九十八回)胃液中ノ他ノ酸類(鹽酸、醋酸、酪酸)ハ〇・三%ノ多量ニ於テ唯淡黄色或ハ淡灰白色ヲ呈スルノミ

此反應タル元、前者ト同一ナレモ唯乳酸反應ノ特性(黄色)ヲ呈スルニ先チ石炭酸反應(青色)消散セザル可カラズ

醋酸及酪酸ノ定性試驗ハ其臭氣ニ由ル可シ即チ辛辣樣酸性ノ臭氣ハ醋酸ノ存在ヲ示シ臊臭ヲ放テバ酪酸ナルヲ知ル可シ然レモ尙精密ノ検査ヲ施スニハ次ノ法ヲ以テス即チ濾過セル胃液少許ニ多量ノ依的兒ヲ加ヘテ數回振盪

醋酸及酪酸ノ定性試驗

有機酸存在スルキハ其發散後酸性反應ヲ呈スル液體ヲ殘留シ揮發性脂肪ヲ含有スルキハ特異ノ臭氣ヲ放ツ尙左ノ試驗ニ由テ其何物タルヤヲ檢ス可シ

醋酸ノ鑑識 殘留物ノ一部ヲ取り水ヲ加ヘ且之ヲ中和シテ格魯兒鐵一滴ヲ加フ可シ醋酸存在スルキハ血紅色ヲ呈シ之ヲ煮沸スレバ鹽基性醋酸酸化鐵ノ褐赤色ノ沈澱ヲ生ズ

酪酸ノ鑑識 爾餘ノ殘留物ヲ一二滴ノ水ニ溶解シ之ニ格魯兒石灰ノ最小片ヲ入ル可シ酪酸ハ鹽溶液中ニ不溶ナルヲ以テ小ナル油滴ト爲リテ其表面ニ浮游ス

(五)鹽酸ノ定量試驗 正確ナル胃液検査法ヲ行ハント欲セバ鹽酸ヲ定量セザル可カラズ蓋シ鹽酸ノ胃液中ニ存スルヤ一ハ遊離ノ狀ヲ爲シ一ハ抱合ノ狀ニ在ル者ニシテ遊離ノ鹽酸ハ胃内容ノ蛋白質全ク鹽酸ト抱合シタル後殘留スル者ナリ而シテ蛋白質ノ尙進デ消化セラル、ハ實ニ此遊離鹽酸ノ力ニ藉ル者トス然レモ胃液中ノ抱合及遊離鹽酸ノ全量ヲ檢定スルノ法ハ頗ル繁雜ニシテ臨牀上ニ應用スルハ亦甚ク不便ナルヲ以テ通常胃液ノ全酸度(Ca-

鹽酸ノ定量試驗

胃液全酸度ノ檢定法

種ノ酸類(鹽酸、磷酸鹽、其他乳酸、醋酸、酪酸等)ニ因ル酸性ノ全量ニ之ヲ檢定スルニハ次ノ法ヲ以テス

胃液ノ全酸度ヲ檢定スルニハ濾過セル胃液十立方仙迷ヲ一硝子壺ニ盛り之ニふたのけるふたれいんノ酒精溶液五滴ヲ加フ此際胃液ハ變化セズ只微カニ潤濁チ早メリノミナレモ鹽酸ニハ毫モ關係無シ斯クテ之ニ度目ヲ附シタルびのれつこヨリ十分一定規那篤倫濾汁ヲ滴加シテ硝子壺ヲ間斷無ク攪拌シ胃液ノ赤色ヲ帶ブニ至リテ止ム蓋しふたれいん溶液ハ試驗セラル、胃液ノ酸性反應ヲ早メル間ハ無色ニ止マルモ胃液少シク過剩ノ亞爾加里ヲ含有スレバ直ニ赤色ヲ呈スルヲ以テ此試驗ニ由リ奈篤倫濾汁ハ胃液中ノ總テノ酸類ヲ飽和シ尙最終一滴ノ胃液中ニ止マリタルヲ表示ス、今十立方仙迷ノ胃液ニ四立方仙迷ノ濾汁ヲ使用シタリト假定スルハ胃液百立方仙迷ハ濾汁四十立方仙迷ヲ要ス故ニ此際胃液ノ全酸度ヲ四十ト名ク健康者ニ在テハ胃液ハ三十乃至六十ハ全酸度ヲ有スル者ニ三十以下ニ下レバ以テ胃酸ノ減少ヲ微知シ六十ヲ超ユレバ其過多ナルヲ微知ス可シ

胃酸減少症ハ胃液ノ遊離鹽酸ニ乏シキニ非ザレバ來ル者ニ非ズ故ニ又之ヲ

遊離鹽酸ノ檢定法

弱酸減少症 (Hypochlorhydrie) ト稱スルヲ得可シ然レモ胃酸過多症ハ有機酸類ノ増加ニ因ルト有ルヲ以テ此際更ニ遊離鹽酸ト有機酸トヲ各別ニ定量セザル可カラズ

遊離鹽酸ヲ定量スルニハ濾過セル胃液ニ同量ノ依的兒ヲ加ヘ分離漏斗ニ入レ強ク振盪シ再ビ胃液ヲ一硝子壺ニ移ス之ニ由テ依的兒ハ有機酸ヲ胃液ヨリ奪取スルヲ以テ斯ノ如クニ得タル胃液十立方仙迷ヲ取り之ニ十分一定規奈篤倫濾汁ヲ徐々ニ滴加シ其胃液ノ一滴ヲ傍ニ裝置セルふるいぐるちんわにりん溶液ノ一滴ト混シテ加熱シ赤色ヲ呈セザルニ至リテ濾汁ノ滴落ヲ止ム是ニ於テ該胃液中ノ鹽酸ハ滴加セル奈篤倫濾汁ト全ク飽和シタルヲ知ル可シ今之ヲ算定スルノ左ノ如シ

十分 定規奈篤倫濾汁一立方仙迷ハ〇・〇〇三六五五ノ鹽酸ヲ飽和スル者ナルヲ以テ今假ニ四立方仙迷ノ該液ヲ使用シタリトセバ之ニ一致スル鹽酸ノ量ハ〇・〇一四六瓦ナリ而シテ此量ハ十立方仙迷ノ胃液中ニ存在スル者ナルヲ以テ百立方仙迷ノ胃液中ニハ其十倍即チ〇・一四六瓦ノ鹽酸ヲ含有ス故ニ其量ハ〇・一四六ナルヲ知ル可シ健康者ニ在テハ前記ノ試驗食餌(味噌汁一椀、米飯二三椀及鶏卵一個)ヲ用ユレバ胃液中ニ現出スル遊離鹽酸ノ量ハ〇・一五乃至〇・二五%

有機酸ノ定量

有機酸ヲ定量スルニハ上記ノ振盪セル依的兒ヲ蒸散セシメ其残渣ヲ水ニ溶解シ此溶液ヨリ前法ノ如ク奈篤倫油汁及ふのゝるふたれいん液ニ由テ其酸度ヲ檢定ス可シ

消化器内ニ於ケル消化試驗

六) 消化器内ニ於ケル消化試驗 胃液ノ消化力ヲ檢スルニハ又へふしんヲ鑑識スルヲ殊ニ肝要ナリトス從來ノ經驗ニ潑ルニ遊離鹽酸存在スルキハ通常必ズへふしんヲ缺如セズ又鹽酸ヲ缺如スルキハへふしん存在セザル者ノ如シ故ニ胃ノ消化ヲ檢スルニハ多クハ只鹽酸ノ檢査ヲ施スヲ以テ足レリトス可シト雖其完全ヲ求ムルニハ亦此消化試驗ヲ要ス

此試驗ヲ行フニハ煮タル鷄卵白ヨリ厚徑一密迷直徑一仙迷ノ切片ヲ作り之ヲ佩里殿林中ニ貯ヘタル者ヲ用ユ其法二個ノ卵白切片ヲ水ニテ洗ヒ各別ニ試験管ニ投シ之ニ濾過セル胃液十立方仙迷ヲ加ヘ其一方ニ一、二滴ノ濃厚(二五%)鹽酸ヲ加ヘタル後兩管ヲ攝氏三十八度ノ溫度ヲ有スル孵卵器内ニ置ク可シ鹽酸及へふしんヲ含有スルキハ通常二時間ヲ經レバ兩卵白片ハ著シク消化セラレ鹽酸ヲ缺亡スルキハ鹽酸ヲ加ヘタル管内ノ卵白片ノミ消化セラレへふしんヲ缺如スルトキハ兩試験管内ノ卵白ニ毫モ著シキ變化ヲ見ルヲ無シ

凝乳酶酵素ノ試驗

(七) 凝乳酶酵素モ亦殆ド每常胃液中ニ含有セラル者ナレモ胃粘膜腺ノ崩壞セラレハ之ヲ缺如ス之ヲ檢スルニハ牛乳十立方仙迷ニ胃液五滴ヲ加ヘ之ヲ

孵卵器内ニ入レ體溫ヲ保タシム可シ十五分乃至三十分時間ニシテ牛乳凝固スルキハ凝乳酶酵素ノ存在スルノ證ト爲ス可シ

胃ノ運動作用ノ檢査

(三) 消化時ニ於ケル胃ノ運動作用ニ就テハ從來諸種ノ試験ヲ企テタル者有リト雖未ダ完全ナル結果ヲ得ザル者ノ如シ

エウアルド氏ハ此試験ニ供スルニざるゝるヲ以テセリ(ざろゝるゝる試験)是れざるゝるハ腸内ニ於テ始メテ撒里矢兒酸及ふのゝるニ分解スル者ニシテ撒里矢兒酸ハ容易ニ尿中ニ檢出シ得可キヲ以テナリ即チ此試験ヲ行フニハざるゝる一瓦ヲ膠囊ニ盛リ消化時ニ服用セシム同氏ノ試験ニ據レバ健體ニ在テハ其服用後半時乃至一時間ヲ經ルキハ尿中ニ撒里矢兒酸ヲ鑑識シ得可キモ胃ノ運動作用ニ障礙有リキハ之ヨリ後ル者ナリト尿中ノ撒里矢兒酸ヲ檢スルニハ其ニ格魯兒鐵液ヲ加フ可シ撒里矢兒酸ヲ含有スルキハ尿ハ莖花色ノ反應ヲ呈ス然レ其成績ハ全ク確實ナラザル者ノ如シ是れざるゝるハ犬ノ胃粘膜ヨリ吸收セラル者ニシ(スライム)井上善次郎氏(加之ヲススライム)氏ニ據レバざるゝるハ胃粘液ノ爲メニ分解セラル者ナレバナリ

又胃ノ運動ヲ檢スルニげらちん、チ、衣、タル、沃、度、丸ヲ用井タル者有リ沃度ノ吸收ヲ檢スルニハ尿ヲ以テセズ唾液ヲ用フルヲ得レモスチンチング氏ノ發見セルガ如ク此丸劑ハ間、既ニ胃内ニ於テ溶解スル者ナリト云フ

此他クレムベレル氏ハ精確ノ法ヲ行ヒタレモ實地上ニハ施シ難シ其法空虚ナル胃ニ阿列布油百瓦ヲ送り一定ノ時間ヲ經テ之ヲ排除スルニ在リ同氏ノ試験ニ依レバ健全ノ胃ニ在テハ二時間ヲ經ルルハ其七十乃至八十五ハ既ニ腸内ニ排出セラル、モ胃加答兒ニ在テハ其半量粘膜萎縮ニ在テハ其四分一量ヲ腸内ニ輸送シタリト

胃ノ吸收作用ノ検査

胃ノ吸收作用ニ就テハ亦諸種ノ試験有リ

・シムレット氏ハ沃度加里〇・二ヲ膠蓋ニ容レテ與ヘ服用後直ニ唾液ヲ檢セリ即チ膠蓋密封セラレ且其表面ニ沃度加里ヲ附著セザリシヤ否ヤヲ證明シタル後毎一分時澱粉溶液ニ蘸セル濾紙上ニ唾セシメ其上ニ發煙硝酸ヲ加ヘタリ唾液中ニ沃度加里ヲ發顯スルルハ該紙ニ赤色及青色ヲ呈スルヲ以テ之ヲ識ル可シ
健全ノ者ニ在テハ胃空虚ナルカ或ハ食後三時間ヲ經タルルハ六分時半乃至十分時ニ沃度ヲ顯出シ食後直ニ服セシムルルハ二十分乃至四十五分時ニ之ヲ顯出ス又胃擴張ニ在テ其空虚ナル者ニ於テハ早クモ十五分乃至三十分時ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ顯出スルヲ無ク其他癌腫、慢性胃加答兒、發熱時ニ於テモ其顯出後ル、者ナリ然レモ茲ニ疑ヲ容ル可キハ此沃度ノ吸收状態如何ニ由テ直ニ消化産物ノ吸收作用ヲ推定ス可キヤ否ヤノ問題ナリトス

空心時ニ於ケル胃ノ検査

空心時ニ於ケル胃ノ検査ハ胃ノ消化ヲ完了シタル後胃液ノ分泌狀況如何ヲ知ルヲ以テ目的トスル者ニシテ此際又同時ニ胃液ノ分泌過多ヲ檢定シ得可シ

此検査ヲ行フニハ器械的刺戟ニ因スル胃液ノ分泌ヲ抑制セザル可カラザルヲ以テ頗ル注意ヲ加ヘ快手ニ行ハザル可カラズ而シテ之ニ用ユルニハ尖端ニ數多ノ小孔ヲ有スルネラトソン氏ノ消息子ヲ良トス即チ先ツ胃ヲ洗滌シテ其空虚ナルヲ認メタル後或ハ又豫メ消化時間ヲ檢定シ置キ最後ノ食事後胃ヲ安靜ナラシメ上記ノ消息子ヲ胃内ニ送入シ速クニ之ニ胃唧筒ヲ附シテ其内容ヲ吸引シ清淨ノ器ニ移シテ先ツ其反應ヲ檢シ酸性ナルルルハ鹽酸ノ有無ヲ試シ又其消化力ヲ檢ス

胃消化試験成績ノ診斷上價値

(一)消化時間ヲ檢シテ其時期延長セザルルハ消化作用ハ尋常ト認ム可シ但其短縮スルコトハ固ヨリ之レ有リトス是レ間、胃酸過多症ニ見ル所ナリ而シテ消化時間若シ延長スルルハ尙續テ之ヲ檢ス可シ
(二)通常消化ノ極期ニ當リ全ク遊離鹽酸ヲ缺如スルコト有リ(胃酸缺亡症)是レ

胃消化試験成績ノ診斷上價値

通常胃粘膜ノ全ク破壊セラレタル際(腐蝕)其萎縮及澱粉變性ニ於テ睹ル所ニノ胃擴張ヲ兼タル胃癌ニ於テモ殆ド常ニ鹽酸ヲ缺乏シ又他ノ擴張症ニ於テモ屢之ヲ缺乏スルコト有リ而シテ殊ニ爰ニ揭グ可キハ慢性胃加答兒ニ於ケル者トス又潰瘍ノ癍痕(幽門部)ニ因スル擴張或ハ潰瘍ヲ存スル同症ニ於テ遊離鹽酸ノ減少若クハ缺乏ヲ來スコト有レテ絕々ナリトス此他胃酸減少症或ハ胃酸缺乏症ハ又諸般ノ重症貧血症發熱時及或神經性消化不良ニ來ルコト有リ

斯ノ如ク遊離鹽酸ノ缺乏スル症ニ於テハ乳酸(酪酸、醋酸、亞爾個保兒)ノ發生多少増進ス是レ發酵ノ盛ナル一徵ニシテ重症ノ者ニ在テハ胃ノ内容ニ腐敗性分解ヲ起スコト有リ又其甚シキ者ニ在テハ久時ヲ經ルモ尙不消化ノ肉片ヲ認ムルコト有リ

肺癆患者ノ胃消化作用ニ就テハ從來人ノ多ク研究ニ從事シタル所ナルモ其成績ニ懸レバ(リーメル、マイステル、ヒルテアランド、ブリーゲル等ノ諸氏)稽留熱ヲ呈スル重症ノ肺癆患者ニ在テハ遊離ノ鹽酸ヲ缺乏スルコト甚多ク加之ラズ時トシテハ毫モ凝乳も上げんヲ存セス又間、弛張熱ヲ呈スル者ニ在テハ遊離ノ鹽酸

ヲ缺乏スト云フ故ニ肺癆患者ニ於テ胃ノ消化試驗ヲ行フハ豫後醫治療上ニ有益ナリトス

(三)胃ノ消化最盛時ニ鹽酸ノ含量増加シ乳酸存在時ノ短縮スルハ胃酸過多症ノ徵ナリトス而シテ此際消化時間ハ減縮シ或ハ平常或ハ又間、延長スル者ニシテ澱粉質ハ此際消化セラレザル者トス
胃酸過多症ハ多クハ胃ノ潰瘍ニ來リ又或神經性消化不良其他急性及間、慢性ノ胃加答兒ニ來ル者ナリ此他精神病患者ノ鬱抑症ニ於テモ亦之ヲ來スコト有リ

慢性消化不良ニ在テハ胃酸過多症ハ間、胃ノ運動不能症ト合併スル者ニシテ爲シテ擴張症ヲ起サシメ途ニ胃ノ粘膜炎ニ繼發的障礙ヲ來シ以テ漸ク胃酸減少症ヲ招カシム

(四)空胃内ニ於ケル酸性胃液ノ検査ハ診斷上ニ應用スルコト難シ是レ検査ノ際消息子ノ刺戟ニ由テ既ニ其分泌ヲ喚起スレバナリ然レテ輕妙ノ検査ニ由テ二百立方仙迷ノ酸性胃液ヲ排出シ得ルハ胃液分泌ノ過多ナルヲ診定シ得可シ該症ハ脊髓癆ノ胃神經痛及或機能神經症(歇斯的里)其他間、胃潰瘍

胃癌、急性及慢性ノ胃加答兒ニ於テ認ムル所ナリ

第六 嘔吐及吐物ノ検査法

(甲) 嘔吐

嘔吐 Das Erbrechen (Vomitus)ハ屢諸般ノ疾病ニ來ル所ノ一症候ニシテ其動機ハ速ニ發スル所ノ胃ノ收縮ニ因ル但劇甚ノ嘔吐ニ在テハ強度ノ腹壓(即横隔膜及横腹筋ノ強キ收縮)之ニ加ハル者ニシテ此際胃ノ收縮ハ幽門部ニ止リテ該部固ク閉鎖セラル、モ噴門部ハ靜止スルカ或ハ開大スルヲ以テ其内容ヲ上方ニ吐出ス而シテ嘔吐劇甚ナルルハ其動機ノ終ニ當リ逆衝ノ中間時ニ於テ幽門部ノ閉鎖不全ト爲ルヲ以テ數回嘔吐ヲ反覆スルルハ亦胆汁ヲ吐出スルコト少カラズ

食道ノ狭窄或ハ憩室ニ於テ其擴張部ニ堆積セル食餌ヲ吐逆スルハ茲ニ屬セズ宜シク食道検査法ノ條下ヲ參照スベシ

嘔吐ノ中樞ハ延髓ニ在リ而シテ該中樞ハ末梢部殊ニ主トシテ迷走神經ノ刺激

反射的嘔吐
中樞性嘔吐

ニ由リ以テ反射的ニ嘔吐ヲ來スコト有リ(反射的嘔吐)或ハ其中樞ハ直達ニ刺激セラレ以テ嘔吐ヲ來スコト有リ(中樞性嘔吐)

一般ニ小兒ハ大人ニ比シレバ嘔吐シ易キ者ノ如ク又各人其傾向ヲ異ニスル者トス

嘔吐ノ種別

臨牀上原因ニ從ヒ嘔吐ヲ左ノ三種ニ區別ス

- (一) 胃ヨリ起ル反射的嘔吐 毒物ヲ食シ或ハ胃過盈シ又諸般ノ胃病ニ於テ見ル所ノ嘔吐之ニ屬ス吐劑作用モ亦之ト同一ノ理ニ基ク
- (二) 爾他下腹臟器ヨリ起ル反射的嘔吐 女子生殖器ノ諸病、月經時、腸管及腹膜ノ疾患(就中急性腹膜炎及腸管閉塞症)其他腎石疝痛及膽石疝痛等ニ來ル所ノ嘔吐是ナリ

咽頭ヲ刺激シテ嘔吐ヲ發セシムルハ諸人ノ熟知スル所ニシテ劇甚ハ咳嗽發作(痰咳、肺癆)ニ伴ヒ發スル所ノ嘔吐モ亦之ニ屬ス可シ

(三) 嘔吐中樞ノ直達刺激ニ因ル中樞性嘔吐 是諸般ノ腦疾患(腫瘍、腦膜炎)及歇斯的里其他尿毒症ニ見ル所ナリ或ハ急性傳染病(肺炎、猩紅熱、痘瘡、丹毒)ノ初期ニ來ル所ノ嘔吐モ亦之ニ屬スル者ニシテ診斷上甚ク肝要ナリトス

或ハ麻酔藥ハ屢々嘔吐中樞ヲ刺戟シテ嘔吐ヲ發セシム嘔嘯仿膜、依的兒其他阿片、莫爾比涅、抱水格魯刺兒、實斐多利斯等ノ如キ是ナリ煙草、酒精ノ如キモ亦然リ

惡心

嘔吐ノ際ニハ殆ド常ニ他ニ二三ノ症狀ヲ伴フ者ナリ即チ先惡心ヲ起シ顔面蒼白色ヲ呈シ屢々冷汗淋漓、脈搏亢進ヲ來シ倦怠ヲ覺エ又虛脫症狀ヲ發スルコト有リ但シ腦ノ疾患ニ在テハ惡心ヲ覺エズ間、期セズノ俄ニ嘔吐スルコト有リ此他嘔吐ハ甚ク容易ナルコト有ルモ亦眞ノ嘔吐ヲ發スルニ至ラズ惡心ト共ニ頗ル苦悶ヲ伴フ發動所謂「絞扼運動」(Würgbewegung)ニ止マルコト有リ而シテ嘔吐ハ胃ノ虛實ニ拘ラズ發スルモ概スルニ胃ノ内容愈々多量ナルキハ(例之、胃擴張症ノ如シ)愈々輕易ニ愈々少量ナルキハ(例之、神經性嘔吐、尿毒症、腸疾患、腎石疝痛及膽石疝痛等ノ如シ)愈々困難ナリトス

絞扼運動

嘔吐發來ノ時期ハ一定セザルモ胃ノ疾患ニ在テハ屢々(每常然ルニ非ズ)食物攝取後直ニ來リ腹膜炎ニ在テモ亦食後直ニ發スルコト多キモ本症ニ於テハ亦毫モ之ニ拘ラズ發來ス而シテ食時ト嘔吐トノ間ノ時間ハ診斷上頗ル肝要ナルコト有リ即チ噴門狹窄ヲ起ス所ノ胃癌ニ在テハ食後直ニ嘔吐ヲ來スモ幽門癌ニ在テハ一、二時間ノ後ニ之ヲ來シ又胃酸過多症及胃擴張症ニハ食後久

嘔吐發來ノ時期

時ヲ經テ往々夜間ニ至リ嘔吐スルコト有リ其他酒客ハ每朝空心時ニ當リ嘔吐ヲ催スヲ常トシ(酒客晨朝嘔吐)或ハ神經性消化不良症ニ在テモ亦主トシテ空心時ニ嘔吐ヲ來ス者トス

胃及爾他下腹臟器ニ一定ノ症狀ヲ見ズノ劇甚ノ嘔吐發作有ルキハ上記ノ諸症(急性傳染病、腦疾患、尿毒症、歇斯的里等)ニ注意セザル可カラズ

嘔吐ノ次數

嘔吐ノ次數ハ甚ク異ナル者ニシテ診斷上價值少シト雖茲ニ注意ス可キハ幽門狹窄ニ因スル高度ノ胃擴張症ニ在テハ多クハ數日ヲ隔テ、整然嘔吐ヲ來スコト是ナリ而シテ此際吐物ノ量ハ甚多キヲ常トス

嘔氣

嘔氣 Aufstossen (Ructus) ハ又屢々嘔吐ヲ伴フ者ニシテ諸般ノ胃疾患ニ於テ認ムル所ナリ又呑酸嘔噯 Saures Aufstossen u. Sodbrennen (Pyrosis) ハ或ハ多量ノ乳酸菌(胃酸減少症)ニ由リ或ハ多量ノ鹽酸發生ニ由テ來ル者トス此他神經性ノ人ニ在テハ全く無臭ノ嘔氣(嘔下セル空氣)ヲ發シ甚ク苦悶ヲ感ズルコト有リ

呑酸嘔噯

(乙) 吐物ノ検査法

吐物及其検査

吐物ノ検査法 Die Untersuchung des Erbrochenen ニ就テハ其量、外狀、

反應、臭氣及其顯微鏡的成分ニ注意ス可シ

(一) 吐物ノ量

吐物ノ量

吐物ノ量 Die Menge des Erbrochenen ハ嘔吐ノ時期及度数ニ由リ又攝取セル食物ノ量ニ由リ甚異ナル者ニ空心時ニ在テハ多クハ只少量(罕ニハ多量)ノ粘液或ハ嚥下セル唾液若クハ胃液(胃酸過多症)ヲ吐出スルニ過ギズト雖胃擴張症ニ在テハ食物久シク胃内ニ停滞シテ吐出セラル、ヲ以テ其量頗多キ者ナリブラウメンタール氏ハ其十六磅ノ大量ヲ見タルヲ有リト云フ之ニ反シテ急性傳染病、腦疾患、尿毒症等ニ在テハ吐物ノ量僅少ニノ間、亦全ク之ヲ見ザルヲ有リ

(二) 吐物ノ外狀

吐物ノ外狀

吐物ノ外狀 Das Aussehen des Erbrochenen ハ固ヨリ攝取セル飲食物ノ種類ニ由リ亦甚異ナル者ニ珈琲、柯々阿、赤葡萄酒等ノ如キ者ハ著シク吐物ヲ著色シ之ヲ粗忽ニ檢スルキハ時トノ吐血ト誤認スルヲ有リ其他鐵劑ヲ服

吐物ノ種類

水液嘔吐

酒客晨朝嘔吐(吐水疝)

粘液嘔吐

用スルキハ吐物ハ黑色ヲ呈シ急性鉛中毒ニ於テモ亦往々黑色ノ吐物ヲ睹ルヲ有リ而シテ吐物ハ或ハ胃内ニ在ル所ノ飲食物ノ遺殘物ヨリ成リ或ハ腸管ヨリ逆出シ胃内容ニ混和セル者ヨリ成ル者ニ之ニ由テ其種類ヲ區別スルヲ左ノ如シ

(イ) 水液嘔吐 Das wässrige Erbrechen. 慢性胃加答兒患者殊ニ酒客ハ晨朝稀薄

水樣ニノ多少清澄シ通常亞兒加里性反應ヲ呈スル液物胃粘膜ノ粘液及嚥下セル唾液ヨリ成ルヲ吐出スルヲ稀ナラズ(所謂酒客晨朝嘔吐 Vomitus matutinus potatorum, 吐水疝 Wasserhohle) 亞細亞虎列拉ニ在テモ亦稀薄水樣ノ無色或ハ膽色素ニ由テ染色セラレタル液物ヲ吐出スルヲ有リ(該吐物ハ後章述ブレル所ノ所謂「米泔汁樣便」ニ同シ)

水樣吐物酸性ニノ鹽酸ノ反應ヲ呈スルキハ空胃ヨリ吐出セル胃液タルヲ知ル可シ(分泌過多症)而シテ此胃液ハ屢強酸性(三%以上)ヲ呈スルヲ有リ(胃酸過多兼分泌過多症)是一種ノ神經性消化不良、歇斯的里其他脊髓癆及慢性尿毒症等ニ來ル者ニ急慢性ノ胃加答兒ニ於テモ亦之ヲ見ル可シ (ロ) 粘液嘔吐 Schleimerbrechen. 慢性胃加答兒ニ在テハ通常食物ノ殘渣ヲ混シ

胆汁嘔吐

タル粘著性膠様無色或ハ胆汁ニ由リ黄色或ハ綠色ヲ呈スル粘液物ヲ吐出
(八)膽汁嘔吐 Galliges Erbrechen. 是殊ニ劇甚ノ嘔吐ニ來ル者ニノ吐物ハ胆汁
ノ混合ニ由テ綠色或ハ黄色ヲ帶ビ苦味ヲ有シ又壓純粹ノ胆汁ヨリ成ル
有リ而シテ腹膜炎及重症ノ腸管閉塞ニ於テハびりうるちんニ由テ蒼綠色ヲ
呈スル一種ノ濃厚物ヲ吐出スルヲ察カラズ是診斷上宜シク注意スベキ所
ナリ

吐血

(二)吐血 Hämorrhagen, Haematemesis. 時トノ強劇ノ嘔吐運動ニ當リ胃粘膜ヨリ
些少ノ鬱血性小出血ヲ來シ之ニ由テ吐物中ニ血點或ハ血線ヲ混ズルヲ有
レテ深ク介意スルニ足ラズ著シキ胃出血ハ胃ノ潰瘍、癌腫、胃粘膜ノ中毒性
炎症(就中酸及腐蝕亞爾加里中毒)銳利ノ異物ニ因ル胃粘膜ノ創傷、胃若クハ
食道内ニ穿孔セル動脈瘤ニ來ル者トス又肝臟硬變症或ハ門脈閉塞ニ因ス
ル門脈系ノ血行障礙ニ由リ胃靜脈ニ強キ過盈ヲ起スルハ胃出血ヲ來ス
有リ此他出血素因、血友病、黃熱、初生兒黑吐病(十二脂腸ノ潰瘍ニ因ル)ニ在テ
モ亦吐血ヲ來ス

吐血患者ニ就テハ翌朝必ズ其糞便ヲ檢ス可シ糞便ハ血液ノ爲ニ多クハ黑色ナ
ル又胃出血ノ疑有ルモ嘔吐ヲ缺如スル者ニ在テハ宜シク亦糞便ノ檢査ヲ行
フヤシ胃潰瘍ニ在テハ胃出血ノ爲ニ顔面蒼白ニ若白色ヲ呈シ加之ラズ虛脱ニ陥リ又
時トノ致命スルヲ有ルモ往々吐血セザルヲ有レバナリ故ニ胃潰瘍ヲ確診セン
一ハ絶エズ糞便ヲ精査スルヲ肝要トス

吐血ノ量ハ甚ク種々ニ多クハ黯黑色ノ凝塊ヲ作り胃液ノ混合ニ因テ酸性
反應ヲ呈スレテ出血甚著シクノ速ニ吐出セラル、其ハ血液ハ尙其本色ヲ
變ゼザル者トス是殊ニ胃潰瘍ニ多ク暗ル所ナリ
若シ胃内ニ再三小出血有リテ血液久シク其内ニ停滞スルハ酸性胃液ノ作
用ニ由リ血色素分解シ醜褐色或ハ帶黑色ノ所謂珈琲渣様物ヲ吐出ス此
吐物ハ擴張症ヲ伴フ胃癌ニ來ルヲ最多シトス之ヲ顯微鏡下ニ檢スルモ赤
血球ハ全ク分解セルヲ以テ毫モ其内ニ血球ヲ檢出スルヲ能ハズト雖血液
試驗法ヲ行フハ明ニ之ヲ鑑識スルヲ得可シ

血液試驗法

血液試驗法 之ニ左ノ二法有リ但一般ニ多ク使用セラル、ハヘムン試驗法ト
ス是該法ハ確實ニシテ而シテ銳敏ナレバナリ
(一)ヘムン試驗法 先少許ノ吐物ヲ採リテ濾過シ之ヲ硝子小蓋ニ入レテ蒸散乾

ルハ極テ稀有ニ唯罕ニ胃ノ蜂窩織炎或ハ其隣接器ノ膿瘍内ニ破開セル際之ヲ見ルコト有ルノミ而シテ吐物中ノ膿ハ多量ニ且速クニ胃内ニ入り其内容ヲノ亞爾加里性タラシムルニ非ザレバ之ヲ認知スルコト能ハザル可シ否、サレバ膿汁ハ直ニ消化シ了セラレバナリ

(三) 吐物ノ反應

吐物ノ反應

吐物ノ反應 Die Reaction des Erbrochenen ハ或ハ鹽酸ニ由リ或ハ有機酸ニ由テ多クハ酸性ヲ呈シ青色試験紙ヲ赤變ス殊ニ胃擴張症ニ在テハ酸性反應極テ顯著ナル者ニシテ此反應ハ炭化水素ノ發酵ニ由テ生ズル有機酸ヨリ來リ遊離鹽酸ハ全ク缺如ス

亞兒加里性反應ハ多量ノ吐血吐水痘亞細亞虎列拉ノ水様吐物其他腎臟患者ノ吐物等ニ於テ之ヲ見ル可シ而シテ食道内ニ堆積セル食餌ノ吐出セラレタル者ハ每常亞爾加里性反應ヲ呈スルコトハ既ニ上文ニ述べタルガ如シ

(四) 吐物ノ臭氣

吐物ノ臭氣

吐物ノ臭氣 Der Geruch des Erbrochenen ハ多クハ酸味様ニシテ胃内ノ發酵盛ナルキハ殊ニ甚シトス

腎臟病殊ニ尿毒症ニ在テハ吐物ハ屢安謨尼亞ノ如キ刺激性臭氣ヲ有ス是レ尿素ハ胃粘膜炎ヨリ排泄セラレ胃内ニ於テ炭酸安謨尼亞ヲ化成スルニ因ルナリ胃出血及胃癌ニ在テハ時トノ嫌惡ス可キ腐敗様ノ臭氣ヲ放チ吐糞症ニ在テハ糞臭ヲ放チ又中毒症(磷、苦扁桃油、石炭酸等)ニ於テハ該毒物ニ特有ノ臭氣ヲ放ツ者トス

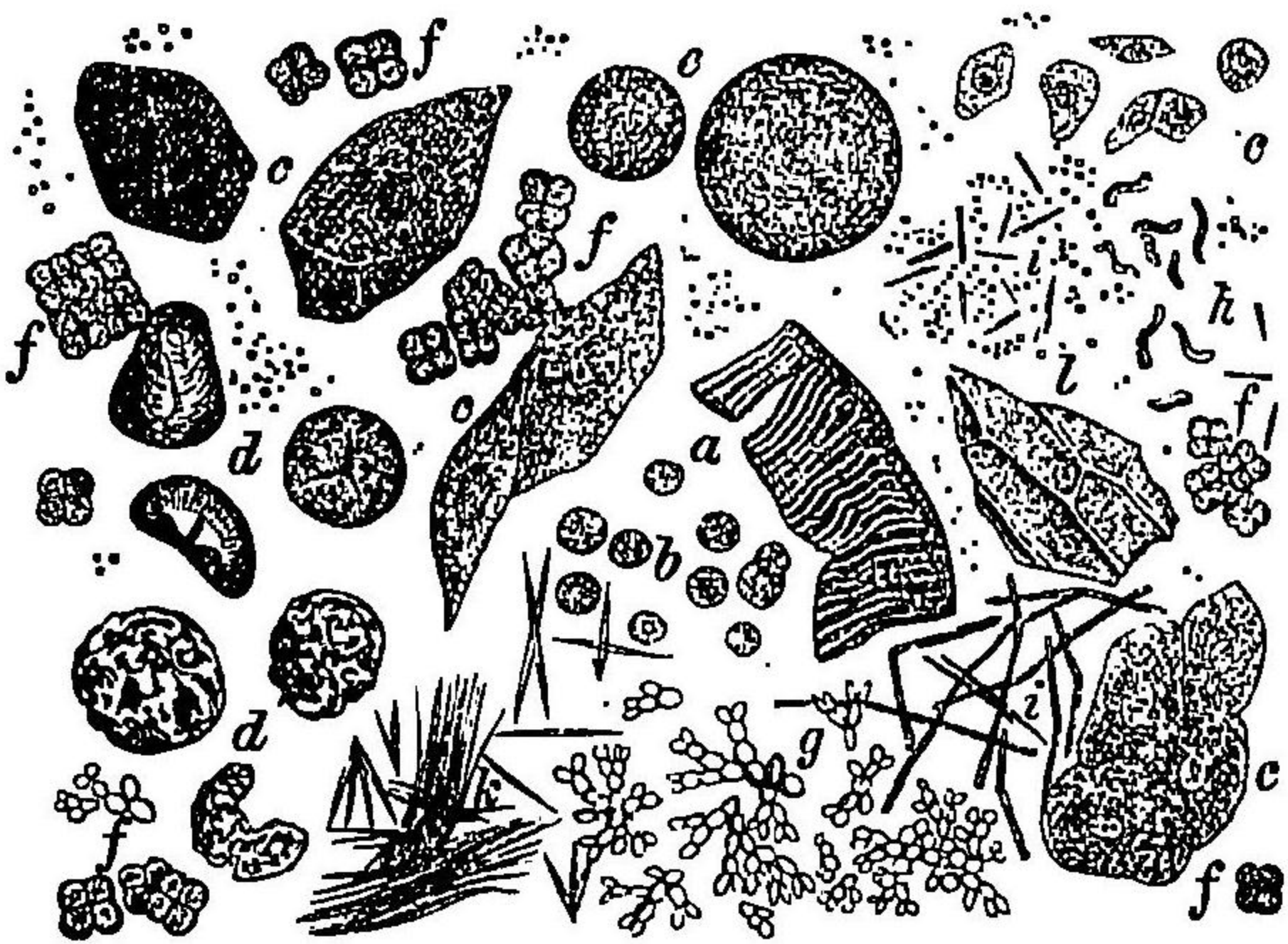
(五) 吐物ノ顯微鏡的検査

吐物ノ顯微鏡的検査

吐物ノ顯微鏡的検査 Die mikroskopische Untersuchung des Erbrochenen

ハ亦肝要ナリ而シテ其顯微鏡的成分ハ固ヨリ主トシテ食物ニ由來シ筋纖維、結締組織、彈力纖維、脂肪球、澱粉球、植物性細胞等ヨリ成ルモ亦其中ニ口腔或ハ胃ノ上皮ヲ含有スルコト稀ナラズ(第三圖)又屢ニ二ノ膿球ヲ見ルコト有リ而シテ吐血ニ於テハ赤血球ハ能ク其形狀ヲ保有スル者有リ或ハ無色ノ圈輪ニ變ジタル者有リ或ハ萎縮シテ復殆ド識別ス可カラザル者有リ

吐物の顯微鏡的検査 (氏ノシヤト)



- (a) 筋纖維
- (b) 白血球
- (c) 扁平上皮
- (d) 澱粉
- (e) 脂肪
- (f) 植物性細胞

吐物中ニハ問、植物性微生物ヲ存スルヲ有リ就中胃微及釀母微(第百四ノ及五)ハ多ク見ル所ナリ殊ニ胃擴張症ニ於テ食物久シク胃内ニ停滞シ酸酵ヲ醸ス際ニ然リトス近時胃内ニ諸種ノ球菌及桿菌ヲ發見セシト雖未ダ診斷上ニ價値有ル者ヲ見ズ

此他吐物中ニハ又腸口、瘡菌(恐ク食道ヨリ來ル者ナラン)及白痢菌(シエーライン氏あひよりおん)ヲ嗜タルコト有リト云フ

吐物の化學的検査

吐物の化學的検査ハ時ニ亦胃消化力ノ如何ヲ檢スルニ用キラル、コト有リ是レ殊

一定ノ法ニ由リ胃ノ内容ヲ排出シ能ハザル際ニ行フ者ニシテ殊ニ出血ノ傾向有リキ、於ケルガ如シ此際亦食時ト吐物ノ狀況等ニ注意ス可キハ固ヨリ言テ俟

第四章 腸之検査法

解剖摘要

腸ノ解剖

消化器ノ全長ハ大約九乃至十迷突ヲ算シ腸管ハ其五分ノ四ヲ占ム就中五分ノ三ハ小腸ニ屬シ殘餘ノ五分ノ一ハ大腸ニ屬ス而シテ腸管ノ最上部ニシテ胃ニ直接セル部ヲ十二指腸 Duodenum ト稱ス該部ハ全ク腹腔ノ後壁ニ接シ胃及肝臟ニ由テ掩ハル其間部ニ肝臟及脾臟ノ排泄管開口ス又十二指腸ニ連続スル小腸 Duodenum ノ上半部ヲ空腸 Jejunum ト稱シ其下半部ヲ回腸 Ileum ト稱ス此兩部ハ共ニ腹腔内ノ中央ニ占位スル者ニシテ右腸骨窩ニ於テ結腸 Dickitarum ニ移行ス而シテ結腸ハ始、盲腸 Caecum 及之ニ懸垂スル蟲樣突起ヨリ成リ上行シテ上行結腸 Colon ascendens ト爲リ右腎ノ前部ニ至リテ横行

結腸 *Colon transversum* ニ移リ該部ハ弓狀ヲ爲シテ左方ニ向ヒ左腎ノ前ニ抵
 リ再ビ屈折シテ下行結腸 *Colon descendens* ト爲リ左腸骨窩ニ至リテ所謂 S 字
 狀部 *Ficula sigmoides* s. *Sigmoidum* ヲ形成シ之ヨリ直腸 *Mastarum* ニ移リ遂ニ
 肛門 *Anus* ニ終ル

第一 腸ノ視診法

腸ノ視診法

Die Inspection des Darms. ニ就テハ先下腹ノ容積ニ注意

ス可シ

健能ニ於テハ腹壁脂肪ニ富ムルハ腹部一般ニ肥滿膨出ス但其膨滿ハ一時
 瓦斯ノ蓄積ニ由來スルヲ有リ

氣脹又鼓

病態ニ於テ腸内ニ多量ノ瓦斯ヲ蓄積スルハ肚腹ノ容積増大シ腹部膨滿
 ス氣脹又鼓脹 *Meteorismus intestinalis*, *Tympanites* 是ナリ是諸般ノ疾患(急性及慢

性腸加答兒腸管狭窄急性及慢性腹膜炎腸室扶斯等)ニ來ル者ニ其高度ノ
 者ニ至テハ腹部四方ニ膨大シ恰モ太鼓ノ如ク腹壁緊張シ肝臟及橫隔膜ハ
 心肺兩臟ト共ニ腹腔内ノ壓力増加ニ由リ上方ニ壓迫セラレ心跳部上昇シ

腹部陷沒
(舟狀陷沒)

ヲ稍外方ニ轉位ス之ニ反シテ腸ノ内容極テ僅少ニ腹壁菲薄ナルキハ肚
 腹ノ容積減少シ腹壁ハ腹部大動脈ニ接シ其搏動ヲ傳達スルヲ有リ斯ノ如
 キ腹部ノ陷沒 *Einsziehung*, *Eingesunkenheit des Leibes* ハ諸般ノ消耗性疾疾病ニ因ス
 ル高度ノ羸瘦患者ニ見ル所ナリ又小兒ノ腦底腦膜炎ノ初期ニ當リ全腸筋
 質ノ收縮ニ因リ腹部舟狀ニ陷沒スルヲ稀ナラズ所謂「舟狀陷沒」*Kahnformige
 Einziehung* 是ナリ此他鉛毒疝痛ニ於テモ亦肚腹ノ陷沒ヲ來スヲ有リ

腸局性膨

腸内ニ腫瘍有リテ漸次腸管ノ狭窄ヲ起スカ或ハ急劇ニ狭窄症ヲ發スルキ
 ハ狭窄直上部ノ腸管膨大スルヲ以テ肚腹ニ腸局性膨出ヲ來スヲ有リスノ
 如キ者ニ在テハ其局部全ク靜止スルヤ或ハ蠕動ヲ呈スルヤ或ハ轉位スル
 ヤ或ハ又時ニ扁平ト爲リ若クハ消散スルヲ無キヤ等ニ注意ス可シ但腹部
 ノ腸局性隆起ハ亦腹膜ノ疾患ニ因ルヲ察カラズ

蠕動

腹壁菲薄ニ弛緩セル者ニ在テハ腸管ニ疾患無キモ時トノ其蠕動ヲ目睹
 スルコト有リ是多クハ數回分娩セル婦人ニ見ル所ニ此際他ニ病的變常
 ヲ呈セザルヲ以テ病的ノ蠕動ト區別ス可シ蓋病的蠕動ハ腸管狭窄ニ來ル
 所ノ視觸シ得可キ貴重ノ徵候ニ狹窄部ノ上方ニ來リ徐々ニ圓形ノ隆起

腸ノ視診法

ヲ牛ジ次デ再ビ消失シ又其近接部ニ同一ノ隆起ヲ生ズルヲ見ル而ノ膨出セル部ノ抵抗ハ腸管ノ肥厚ヲ存スル慢性腸管狭窄ニ在テハ稍強キ者ナリ又問其膨出(狭窄部ノ直上ニ於テ)著大ニノ高キ鳴動(Curren od. Polern)ヲ發シテ消散スルコト有リ此症狀ハ多クハ歴スルガ如ク絞メルガ如キ疼痛ヲ伴フ者ニシテ其發作ノ度數ハ一定ナラザルモ亦輕度ノ刺戟ニ由テ起ルコト有リ

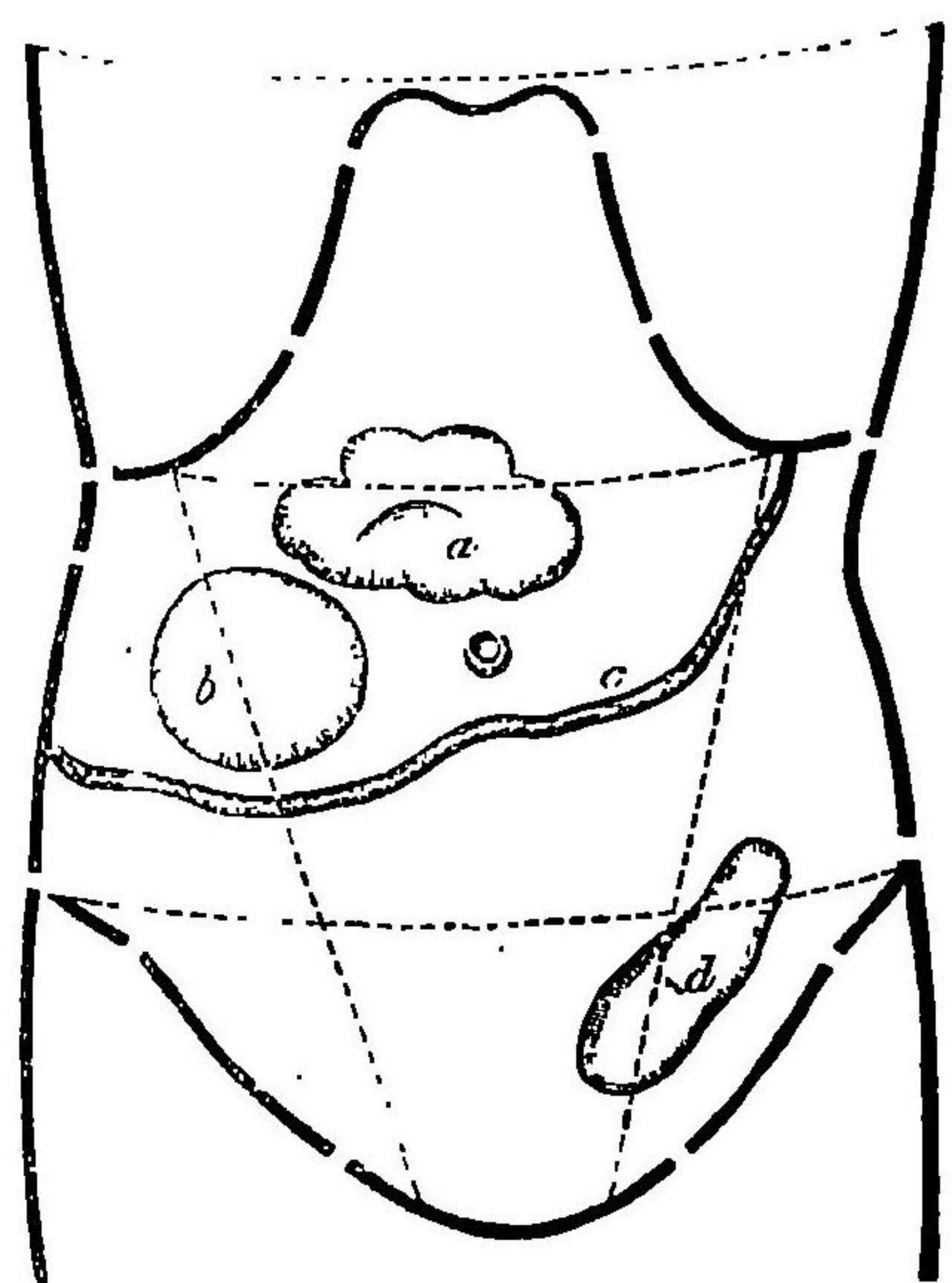
第二 腸ノ觸診法

腸ノ觸診法

Die Palpation des Unterleibesニ就テハ先ツ其壓痛ニ注意ス可シ即其部位ノ廣狹ニ由テ疾患ノ限局セルヤ或ハ蔓延セルヤヲ識ル可シ瀰蔓性ノ壓痛ニ殊ニ劇甚ナルハ急性汎發性腹膜炎ニ來ルモ限局性ノ疼痛ハ殊ニ右側腸骨窩ニ來ルコト多シ該部ハ則チ回腸ノ盲腸ニ移行スル所(所謂回盲部)ニ最疾ノ侵襲ヲ受ケ易キヲ以テ患者ノ屢疼痛ヲ訴フル所ナリ例之腸室扶斯腸結核盲腸炎及盲腸周圍炎等ニ於ケルガ如キ是ナリ又左腸骨窩部ニ於ケル疼痛ハ下行結腸ニ發スル者ニシテ該疼痛ハ殊ニ赤痢ニ於

凝塊物

テ多ク見ル所ナリ其他小腸ノ限局性疾患ニ在テハ局限ニ強劇ノ疼痛ヲ發シ屢其部位ヲ轉換スルコト有リ
 下腹ニ於テ往々硬固ノ凝塊物ヲ觸知スルコト有リ(第三圖)是ハ多クハ固形糞塊(Schubala)ノ結腸内ニ滯積シタル者ニシテ屢念珠狀ニ排列シ亦其軟クノ壓陷シ得可キ者有リ而シテ硬便ノ凝塊ハ時トシテ腸ノ新生物就中癌腫ト誤診セラレ、コト有リ殊ニ峻下劑ヲ與フルノ後モ糞塊ノ全ク消失セザル時ニ於テ然



(a) 數週間持続セル硬結狀ノ腫瘤ニシテ横行結腸ニ發見ノ滯積セルモノ (b) 數月間持続セル圓形ノ腫瘤ニシテ上行結腸部ニ發見ノ滯積セルモノ (c) 腹線ヲ以テ示セル全面ニ滯積セル所ノ變硬ニシテ主トシテ結腸内ニ大量ノ糞便ヲ滯積セルニ由ル (d) 新發ノ腫瘤ニシテ腸S字狀彎曲部ニ發見ノ滯積セルモノ

腸ノ觸診法

101

抵抗及嘔

リトス又盲腸炎及盲腸周圍炎ニ在テハ回盲部ニ於テ稍蔓延セル抵抗ヲ觸知シ或ハ固軟ノ稍境界有ル腫瘤ヲ觸知ス可シ

腹鳴(同盲部)

腹内ニ流動物及瓦斯ヲ蓄積スルキハ之ヲ壓スルニ腹鳴(Borborygmi)ヲ發ス是屢下利ノ際聽ク所ニ殊ニ腸察扶斯ニ於テハ回盲部ニ之ヲ聽クイ多シ所謂回盲部雷鳴(Ileocecalgurgit)是ナリ

直腸觸診法

直腸觸診法 糞便排泄ノ際直腸ニ一定ノ症狀ヲ呈スルカ或ハ糞便ノ状態ニ由リ該部ニ或疾患ノ存スル疑有ルカ或ハ又之ニ近接セル器官(小骨盤壁攝護腺精囊子宮子宮周圍部)ニ疾患有ルノ疑ヲ起スルハ直腸内ニ手指ヲ送入シ之ヲ觸診スルヲ肝要トス但直腸内ノ検査ヲ行フニ際シテハ先肛門及其周圍(痔核痔瘻扁平胼胝腫等)ノ有無ヲ検査シ又時トシテ豫メ十分排便セシメザル可カラズ此法ハ殊ニ直腸ノ腫瘍就中癌腫發生ノ際行フ所ニ之ヲ行フニハ患者ヲ側位若クハ背位ヲ取ラシメ指頭ニ油ヲ塗リテ可及的深ク之ヲ直腸内ニ送入シ細心注意シテ諸部ヲ觸察ス可シ之ニ由テ検査シ得可キ部ハ大凡直腸ノ下三分一部ナリ尙其上部ヲ検査セント欲セバ嚼囉仿謨麻醉ヲ施シ全手ヲ直腸内ニ送入セザル可カラズ又直腸ノ狹窄ニ在テハ

大腸ノ瓦斯膨滿

診斷的ニ治療上直腸消息子(食道消息子ニ似タル者)ヲ深ク直腸内ニ送入シテ之ヲ觸察シ或ハ一種ノ照明裝置若クハ肛門鏡ヲ使用シテ之ヲ視察スルヲ有リト雖其詳細ハ外科學ニ譲リ爰ニ之ヲ詳論セズ

茲ニ尙近時フンチームゼン氏ノ行ヒタル大腸ノ人工的瓦斯膨滿法ヲ掲ゲム其法先十乃至二十瓦ノ重碳酸奈篤倫ト九乃至十八瓦ノ酒石酸ヲ各別ニ水ニ溶解シ三乃至四分時ヲ隔テ其三乃至四分ヲ取り單一ノ漏斗裝置ニ由テ之ヲ直腸内ニ流入セシムルニ在リ即其膨滿ニ由テ大腸ノ位置形狀廣狹パウヒニー氏瓣ノ閉鎖結腸ト隣接臟器トノ連絡腸管ノ狹窄及閉塞ノ部位ヲ知ルヲ得可シ

此瓦斯膨滿法ニ代フルニ肛門ヨリ軟性ノ護膜管ヲ腸内ニ送入シ護膜吹子ヲ用キテ空氣ヲ其中ニ吹送スルヲ至便トス(第二百八十五圖參照)

第三 腸ノ打診法

腸ノ打診法

腸ノ打診法 Die Percussion des Darms ニ於テハ通常鼓音ヲ聽取スト雖其強弱及高低ハ腸ノ内容及周壁ノ緊張如何ニ由リ甚異ナリトス但腸内

腸ノ打診法

ニ多量ノ糞便滯積スルキハ濁音ヲ發スルモ多クハ尙鼓音ヲ帶ブル者トス
 又高度ノ鼓脹ニ在テハ鼓音消失シテ之ニ代フルニ清非鼓音ヲ以テス然レモ
 打診ニ由テ腸管ノ境界ヲ區別スルハ至テ難シトス是ハ小腸瓦斯ニ由テ著シ
 ク緊満スルキハ其打診音毫モ大腸ニ於ケル者ト異ナラザレバナリ
 腸ノ腫瘍ハ其大濁音ヲ發スルニ至ル者少シト雖之ヲ打診スルニハ左指ヲ
 深ク腹壁上ニ貼著シ之ヲ行フ可シ(ワイル氏ノ所謂「深打法」)

第四 腸ノ聽診法

腸ノ聽診法

腸ノ聽診法 Die Auscultation des Darms ハ診斷上甚ク肝要ナル者ニ非
 ズ腸内ニ流動物及瓦斯ヲ蓄積スルキハ屢々蠕動機ニ由テ鳴動ヲ起シ少シク
 患者ヲ離ル、モ尙能ク之ヲ聽知スルコト有リ所謂腹鳴是ナリ是ハ殊ニ腸加答
 兒及腸管狹窄ノ際聽ク所ナレモ該鳴動ハ亦健能及病能ニ論無ク共ニ發ス
 ル者ニ殊ニ回盲部ヲ觸壓スルキハ屢々之ヲ聽ク可シ又瓦斯ノ他ニ大量ノ
 液體ヲ存スルキハ之ヲ打壓スルニ胃部ニ於ケルガ如ク震盪音ヲ發ス是ハ屢々
 諸般ノ下利症ニ於テ認ムル所ナリ

腹鳴

第五 大便ノ検査法

大便ノ検査法

大便ノ検査法 Die Untersuchung des Faeces ハ腸諸病ノ診斷ニ甚ク肝

要ナリ是其諸病ハ通常腸排泄物ノ變化ニ由テ識別セラル、者ニ其變化
 タル或ハ攝取セラレタル食物ノ消化及吸收ノ障礙ニ基キ或ハ腸管内ニ發
 生セル異常成分若クハ發病素(寄生蟲或ハ微生物)ヲ混入スルニ因ルナリ而
 ノ大便ヲ検査スルニハ先其度數、量、硬軟、形、色、反應、臭氣並ニ其肉眼的及顯
 微鏡的成分ニ注意ス可シ

(一) 大便ノ度數

大便ノ度數
(便通)

大便ノ度數(即便通) Die Häufigkeit der Stuhlentleerung (der Stuhlgang)

ハ健體ニ在テハ二十四時間中一回稀ニハ二回ヲ常トシ唯哺乳兒ニ在テハ
 一日二回乃至四回ニ及ブ可シト雖病的ニ於テハ其度數或ハ増加シ或ハ減
 少ス前者ヲ下利ト稱シ後者ヲ便秘ト稱ス
 下利 Diarrhoe ハ腸加答兒ニ最も主要ノ徵候ニシテ此際大便ハ稀薄ナルヲ常ト

腸ノ聽診法○大便ノ検査法○大便ノ度數

ス其原因ハ腸粘膜ノ器械的、化學的、細菌的(若クハ細菌化學的)刺激又ハ感冒ニシテ下利ノ輕度ナル者ニ在テハ一日中ノ度數三乃至四回ニ過ギザレハ小兒ノ腸加答兒赤痢、虎列拉ニ於ケルガ如キ最高度ノ症ニ在テハ二十回或ハ尙之ヨリ多キニ至ルコト有リ蓋シテ下利便ノ稀薄ナル所以ノ者ハ一ハ唯腸蠕動機ノ亢進ニ由リ其吸收機ノ妨害セラル、ニ在レモ亦一ハ腸粘膜分泌機能ノ増進スルニ因ルナリ此他藥物若クハ毒物ニ由テ腸ノ蠕動機ヲ亢進セシメ又ハ腸加答兒ヲ誘起シ以テ下利ヲ來スコト有リ

便秘

便秘 Obstitution ノ原因ハ多クハ腸蠕動機ノ減弱ニシテ腸ノ内容長ク其内ニ停滯スルヲ以テ水分ヲ失ヒテ乾燥固結シ以テ益々其通過ヲ難カラシム但シ稀ニハ腸ノ狹窄、閉塞、嵌頓、軸旋、新生物或ハ外部ノ壓迫ノ如キ器械的障礙ニ起因スルコト有リ而シテ其輕度ノ者ニ在テハ多クハ一時若クハ常習的(常習便秘 Habituelle Obstitution)ニ二日三日四日ヲ隔テ、便通有リト雖稀ニハ例之腸狹窄ニ於テハ便秘數週日ノ久シキニ互ルコト有リ(大便秘塞 Obstruction)又腹膜炎ニ於テハ腸管ノ麻痺ニ由リ便秘ヲ來ス者ニシテ其初兆タルコト有ルヲ以テ診斷上肝要ナリトス此他頑固ノ便秘ハ多ク婦人ニ見ル所ナリ殊ニ歇斯

大便秘塞

常習便秘

便秘時疼痛

的里性ノ者ニ於テ然リトス
 茲ニ尙注意ス可キ者ヲ便通時ノ疼痛トス是レ肛門部、直腸内或ハ其周圍ノ炎症疾患ニ於テ肛圍或ハ下腹部ニ感ズル所ノ疼痛ニシテ其高度ノ者ハ大ナル炎症性滲出物ニ由テ直腸ノ下部ヲ壓迫スル時ニ之ヲ發ス(殊ニ子宮外膜炎及子宮周圍炎ニ於テ之ヲ見ル)又肛門裂創及直腸周圍蜂窩織炎ニ於テモ劇痛ヲ起スコト有リ此他該疼痛ハ癌腫、微毒、麻疹等ニ因スル直腸狹窄ニ來ル者ニシテ持核ニ於テモ亦屢々疼痛ヲ起ス者トス而シテ往々上記ノ諸症並ニ大腸ノ炎症殊ニ赤痢ニ於テハ便意頻數ニシテ便通ノ後尙疼痛ヲ起スコト有リ所謂裡急後重 Tenesmus 是ナリ』是故ニ便通時ニ際シ疼痛有ルキハ毎ニ肛門ヲ精密ニ視察シ又直腸ヲ觸診スルヲ肝要トス
 大便秘塞 不隨意ノ大便排泄即大便失禁 Incontinentia alvi ハ屢々重症患者ノ意識溷濁セル際或ハ麻痺(殊ニ脊髓病ニ因ル)ニ來ル者ニシテ排泄物稀薄ナルトキハ殊ニ失禁ヲ起シ易シ』大便失禁ニ反スル者ヲ大便閉止 Retentio alvi トス是レ神經的作用ニ基ク者ニシテ其高度ノ症ハ腹筋ノ衰弱或ハ麻痺ニ因ルコト甚ク多シ

裡急後重

大便失禁

大便閉止

(二) 大便ノ量

大便ノ量 Die Menge des Faeces ハ健體ニ在テハ飲食物ノ量及種類ニ關スル者ニシテ純肉食スルキハ其量最少ク植物性ノモノヲ食スルキハ其量最多シ而シテ往々久シク秘結スル後一時多量ノ糞便ヲ排泄スルコト有リ又下利ノ際ハ腸ノ蠕動機亢進シ其内容ノ吸收少キヲ以テ糞便ノ量從テ多シ殊ニ同時ニ腸粘膜ノ分泌機能盛ナルキハ其量頗多シトス故ニ最多量ノ腸排泄物ハ亞細亞虎列拉ニ於テ睹ル可シ

(三) 大便ノ硬軟

大便ノ硬軟 Die Consistenz der Stühle ハ主トシテ之ニ含有スル水分ノ多少ニ關スル者ニシテ尋常ノ糞便ハ固形或ハ濃厚粥狀ナレバ秘結時ニ於テハ其水分腸管ヨリ吸攝セラルコト多キヲ以テ硬度ヲ増シ頑固ノ便秘後ニハ硬キコト恰モ石ノ如キ硬便 Harter Stuhl ヲ下スコト有リ然レバ腸ノ蠕動機強盛ナルキハ軟便 Weicher Stuhl ヲ下シ又水様便 Wasseriger Stuhl 後者

(四) 大便ノ形狀

大便ノ形狀 Die Form der Stühle ハ其硬軟ニ關シ唯其固形ノ者ノミ形狀ヲ保ツ者ニシテ尋常ノ糞便ハ蠟腸狀ナレバ時トシテ球塊狀ヲ呈スルコト有リ所謂糞塊 Scybala 是ナリ而シテ大腸下部ノ狹窄殊ニ其癌腫ニ起因スル者ニ在テハ往々小塊狀或ハ羊糞ノ如キ壓平セラレタル糞塊ヲ見ル然レバ毫モ狹窄ヲ有セザル單純ノ秘結ニ於テモ亦斯ノ如キ糞塊ヲ下スコト有リ又狹窄部高所ニ在ルキハ毫モ大便ノ形狀ニ影響ヲ及ボサル者トス

(五) 大便ノ色

大便ノ色 Die Farbe der Stühle ハ大人ニ在テハ通常黃褐色或ハ褐色ヲ呈

大便ノ量○大便ノ硬軟○大便ノ形狀○大便ノ色

ス。是主ニ膽色素ノ分解産物ニ由來スル者ナリ。但、其色ハ飲食物ノ種類ニ關スルヲ寡カラザル者ニ主トシ、肉類ヲ食スル者ニ在テハ稍、暗色ヲ帶ブルモ常ニ蔬菜ヲ多食スル者ニ在テハ其色稍、稀淡ナリ。又哺乳兒ノ糞便ハ通常卵黄色ヲ呈ス。又一一定ノ藥物ハ糞便ノ色ヲ變化セシム。例之、鐵劑ヲ内服スルハ、褐色或ハ黒綠色ト爲リ、蒼鉛ヲ内服スルモ黒色ト爲リ、甘汞ハ綠色ヲ呈セシメ、大黃ヲ内服スレバ黄色或ハ黄褐色ヲ呈スル等ノ如シ。但、頑固ノ便秘ニ在テハ糞便ハ暗黒色、暗褐色或ハ黒樣色ヲ帶ブルヲ常トス。此他膽色素ノ過不及ニ由リ大便ニ異常ノ色ヲ呈セシム。殊ニ小兒ノ腸加答兒ニ於テ屢、綠色ノ稀薄便ヲ見ルガ如キハ膽色素多量ニシテ其未ダ分解セザルニ先チ排泄セラハ、ニ因ル又黄疸ニ在テハ膽色素ニ缺亡ヲ來シ且之ガ爲、便中ニ脂肪ヲ含有スルヲ多キヲ以テ大便ハ汚穢、灰白色所謂粘土樣色ヲ呈ス。而シテ多量ノ下利ヲ起スキハ膽汁ノ量ハ同一ナルモ流動物ノ最過多ナルヲ以テ大便黄褐色ヲ失シテ、愈、稀淡ト爲ル。即、虎列拉ニ於テハ大便甚速ニ其黄色ヲ失シテ無色或ハ米泔汁樣ト爲ルガ如キ是ナリ。

常便ハ不變ノ膽色素ヲ含有スルヲ無シト雖小腸加答兒ニ在テハ其一定度ニ至

ルマテ此色素ヲ含有スレバ、ハ、リ、氏、ノ、試驗法、(檢尿法ノ條下ヲ看ヨ)ニ由テ容易ニ鑑識スルヲ得可シ

血便

大便ニ血液ヲ混ズレバ(血便 *Bloister Stuhl*) 赤色、赤褐色乃至類黑色ヲ呈スル者ニシテ其之ヲ混和セル状態ニ由リ、略出血部位ヲ推定スルヲ得可シ。即チ出血部愈、腸ノ上部ニ在ルキハ其混和愈親密ニシテ分解スルヲ愈、多シ然レモ其分解ノ度ハ血液ノ量ニ關スル者ニシテ其量愈、多ケレバ其變化愈、寡シトス。胃或ハ小腸最上部ノ出血ニ在テハ大便暗赤褐色ニシテ、嬰兒ノ如キ觀ヲ呈ス。但、此變色ハ果シテ血液ノ混和ニ由來スルヤ否ヤ宜シクヘ、みん試驗法ニ由テ之ヲ確知スベシ(本編九三頁參照)又腸出血ニ在テハ血液ハ唯大便ノ表面ニ混ジ其變化尙甚、少キヲ常トス。

血便ハ殊ニ腸窒扶斯、赤痢、直腸ノ微毒性潰瘍、結核性腸潰瘍(稀ナリ)、胃及十二指腸ノ潰瘍、其他腸靜脈ノ過盈ニ因スル其破綻(痔疾、肝臟硬變症)ニ於テ略ル可シ。

(六) 大便ノ反應

大便ノ反應

大便ノ反應 Die Reaction der Stühle 甚一定セザル者ナルヲ以テ診斷上必要ノ件ニ非ズト雖其反應ハ多クハ亞兒加里性ニ稀ニハ酸性或ハ中性ヲ呈スル一有リ蓋其酸性反應ハ酸酵ニ由テ生ジタル脂酸(醋酸、酪酸等)ニ起因スル者ニ小兒ノ下利ニ於ケルガ如ク酸酵作用盛ナルキハ殊ニ顯著ナリトス但シ亞爾加里性反應モ亦「亞爾加里性酸酵(蛋白質ノ腐敗)ニ因ルコト有リ

(七) 大便ノ臭氣

大便ノ臭氣

大便ノ臭氣 Der Geruch der Stühle 吾人ノ熟知スル所ニ該臭氣ハ揮發性脂酸及他ノ腐敗產物並ニ硫化水素ニ由來ス而シテ制腐的性質ヲ有スル膽汁若シ腸内ニ流出スルヲ妨ゲラハハ大便ハ厭フ可キ腐敗性ノ臭氣ヲ放ツ者トス小兒ノ腸加答兒久シク持續スルキハ大便ハ厭フ可キ惡臭ヲ放チ直腸ノ癌腫性及微毒性潰瘍ニ在テモ亦惡臭ヲ放ツト雖劇甚ノ下利ニ在テハ糞臭全ク消失ス夫、虎列拉ノ米泔汁様大便ニ於ケルガ如キ即チ是ナリ

(八) 大便ノ肉眼的検査

大便ノ肉眼的検査

大便ノ肉眼的検査 Die makroskopische Untersuchung der Stühle ニ就テハ左ノ數者ニ注意ス可シ

飲食物成分

(一) 飲食物成分 Nahrungsstandtheile. 全然不消化ノ者(例之、櫻核、葡萄核、植物纖維等)ヲ食スルキハ常便中ニ之ヲ排出ス但シ大便中ニハ亦消化サレ得可キ

完腹下利

者(肉片、乾酪、澱粉質)ノ殘物ヲ見ル一有リ古人ノ所謂完腹下利(Lienterie)是ナリ後者ハ常ニ小腸若クハ胃ノ消化障礙(小腸若クハ胃ノ加答兒)ニ基因スル者ニ熱病性消化不良、蠕動機充進(下劑ニ因ル)ニ於テモ亦之ヲ見ル一有リ此他消化サレ得可キ食物ノ多量ニ大便中ニ混ズルハ罕ニ胃及結腸ノ交通(胃潰瘍ノ穿孔ニ因ル)ニ於テ見ル所ナリ

粘液

(二) 粘液 Schleim. 健全ノ腸ニ在テハ粘液ヲ作ル一常ニ甚僅少ニ常便中ニハ之ヲ見ル一無シト雖多量ノ硬便ヲ排泄スルキハ一時腸粘膜ノ刺戟ニ由リ其分泌増進シ糞塊ニ粘液ノ附著スルヲ見ル一有リ但シノートナーゲル氏ハ硬便ニ粘液小片ノ散點スル者ヲ以テ尙常態ノ者ト爲セリ然レモ大便ニ稍

粘液便

多量ノ粘液ヲ混在スル者(粘。液。便。Schleimiger Stuhl)ハ病的ニ屬シ常ニ大腸加答兒ノ徵候ト爲ス可シ小圓形ニシテ西穀米粒ニ類スル粘液小塊モ亦多クハ大腸ヨル來ル又固形糞塊ノ外部ニ粘稠濃厚ノ粘液ヲ附著スル者ハ必ズ大腸加答兒ニ來ル者ナリ殊ニ其慢性症ニ於テ然リトス』稀薄便ニ饒多ノ粘液ヲ混ズル者ハ殊ニ急性腸加答兒ノ共ニ大腸ヲ侵セル者ニシテ赤痢ニ於テモ亦之ヲ見ル可シ

粘液疝痛

圓柱狀ノ管ニシテ全ク粘液(或ハ一部ハ又纖維素)ヨリ成リ大腸ノ模型ヲ備フル者有リ是即腸印華爾屈篤(Darmdrüse)ト稱スル者ニシテ慢性大腸加答兒ニ來リ其排泄セラルトヤ多クハ劇痛(粘。液。疝。痛。Schleimkolik)ヲ伴フ

又固形ノ糞塊ニ微細ニシテ且平等ニ分佈セル粘液ヲ著クルキハ小腸加答兒タルヲ察知ス可シ稀薄便ニ混在セル粘液モ亦均シク小腸ヨリ來ルモノトス

米泔汁樣便

亞細亞虎列拉ニ在テハ大便水樣ニシテ其中ニ粘液小片ヲ混ズ所謂米泔汁樣便。Reisswasserstihl是ナリ

水樣便

水樣便 Wasseriger Stuhlハ上文既ニ述タルガ如ク亦急性腸加答兒及赤痢ニ來ル者ニ

膽汁便

劇烈ノ下痢ヲ起シ爲ニ糞便ハ全ク排泄セラレ加之ラズ其中ニ膽汁ヲ混ズルコト有リ

大便中ニ不變ノ膽色素ヲ含有スル者之ヲ膽汁便。Galliger Stuhlト稱ス是レ殊ニ小兒ノ急性腸加答兒ニ來ル者ニシテ糞便ハ純黃色、綠黃色若クハ綠色ヲ呈ス

脂肪

(三)脂肪 Fett 常便中ノ脂肪ハ唯顯微鏡的検査ニ由テ之ヲ知ル可シト雖黃疸或ハ脾臟ノ疾患ニ在テハ便中脂肪ノ含量多キヲ以テ肉眼ヲ以テ容易ニ之ヲ檢知スルヲ得可シ(脂肪便。Fetstihl)即該便ハ一種ノ光澤ヲ有シ粘稠ニシテ脂肪極テ多量ナルキハ粘土樣色ヲ呈シ白色ノ光澤ヲ帶ブ

膿

(四)膿 Eiter 大便ニ混ゼル膿ハ殊ニ直腸ノ潰瘍症(赤痢、直腸微毒、癌腫等)大腸最下部ノ加答兒(粘液ヲ混ズ)及腸殊ニ直腸内ニ膿瘍ノ破開セル者(肝臟膿瘍、骨盤内結締織炎若クハ子宮外膜炎ニ因スル者)等ニ見ル所ニシテ時トシテ大便ハ純膿ヨリ成ルコト有リ(膿便。Eitriger Stuhl)故ニ下腹ノ熱性疾患ニシテ膿ヲ確診スルカ若クハ其疑ヲ存スル者ニ在テ體溫俄然下降スルキハ必ズ大便(亦尿ヲモ)ヲ検査スルヲ肝要トス

血液

(五)血液 Blut 大便中ニ來ル血液(血便。Blutiger Stuhl)ハ已ニ上章ニ之ヲ述タ

大便ノ肉眼的検査

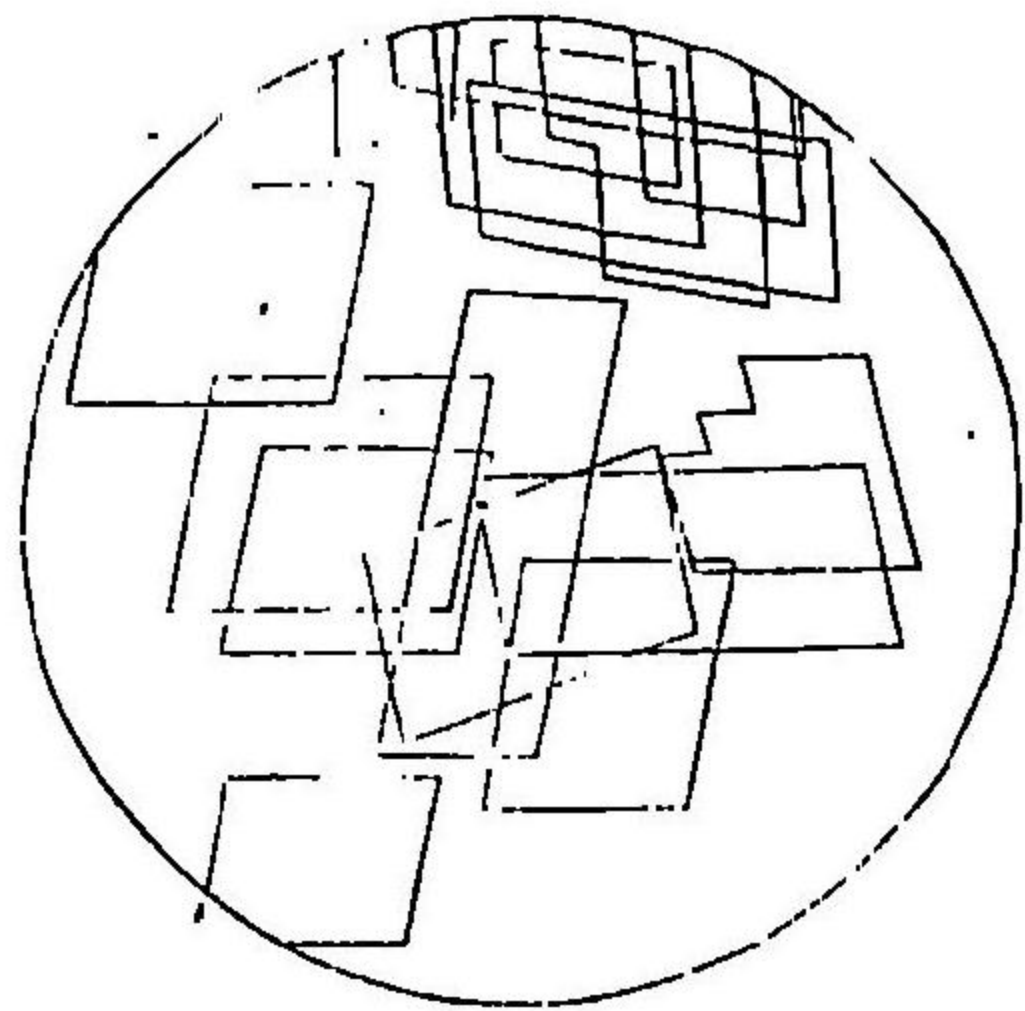
リ(本編一三三四巻)

(六)膽石 Gallenstein. 是時トノ屢劇甚ノ疝痛發作(膽石疝痛)及黃疸症ヲ伴ヒ或ハ膽囊若クハ肝臟内膽道(即ハ肝臟内膽石) Intrahepatische Steine ニノ他者ニ比スレバ遙ニ細微ニシ稀ナリ)ヨリ輸膽管ヲ經テ腸内ニ來ル者ナリ故ニ下腹ニ疝痛ヲ起シ殊ニ黃疸ヲ併發セル者ニ在テハ(又總ジテ黃疸症ニ於テ)毎ニ便中ニ膽石ノ有無ヲ檢ス可シ稀ニハ膽囊壁結腸ト癒著シ該部ニ穿孔ヲ生ジテ直ニ膽石ヲ腸内ニ排出スルコト有リ

膽石ヲ檢索スルニハ大便ヲ篩中ニ入レ硬便ニ在テハ之ニ水ヲ加ヘテ分碎シ攪

これすてありん試験法

品結入りあてすれこ



并ス可シ該石ハ表面滑澤ニシ不正多角形ヲ呈シ主トシコレすてありんヨリ成リ又膽色素ヲ含有ス」之ヲ化學的ニ檢スルニハ(コレすてありん試験法)先ツ粉碎シテ熱亞爾筒保兒中ニ溶解セシメ濾過シテ其一滴ヲ載物硝子上ニ點滴ス可シ乾燥スルキハ特異ノコレすてありん結晶ヲ生ズ(本編三四二)

腸石

(七)腸石 Darmstein. 是絶稀ニ見ル所ニ主トシ固形異物(例之果實ノ核或ハ不消化性食物殘片ノ周圍ニ石灰及麻痺涅矢亞鹽類ノ沈著スルニ由テ生

シ又時トシ腸内(殊ニ蟲様垂)ニ自生スルコト有リ

腸管ノ組織成分

(八)腸管ノ組織成分 Gewebestandtheile des Darmcanals. 是劇甚ノ腸炎及諸般ノ潰瘍性疾患ニ於テ頗罕ニ大便中ニ來ル者ニシテ赤痢性腸潰瘍ニ於テハ粘膜片ヲ見ルコト有リ

動物性寄生物

(九)動物性寄生物 Tierische Parasiten. 人體ノ腸管内ニ棲息スル所ノ寄生蟲ニハ全然無害ナル者有ルモ亦甚有害ニシテ諸般ノ障礙ヲ誘起スル者少カラズ然レ此有害ナル寄生蟲若クハ其卵子ノ檢索ハ往々等閑ニ附シ去ラル者ニシテ爲ニ或疾患ノ原因ヲ探知スルコト能ハズ以テ治療ノ方針ヲ誤ルコト有リ是實地醫家ノ日常最モ戒心ス可キ所ナリトス是故ニ腸内寄生蟲ニ因ルガ如キ障礙及症狀ヲ認ムルカ或ハ總テ腸疾患ノ徵候ヲ存スル者ニ在テハ固ヨリ論無ク其他各種ノ貧血症各種ノ神經的障礙等ヲ存スル者ニシテ發病ノ原因不明ナル者ニ在テハ必ズ大便ヲ精査シ寄生蟲ノ有無ヲ檢索スルヲ忘ル可カラズ然レ此檢査ハ間頗困難ニシテ一片ノ條蟲片節ヲ發見シ得ルニモ

大便ノ肉眼的檢査

屢、大ニ時日ヲ費シ甚々容易ナラザルコト有リ
 腸管内ノ寄生蟲ハ屢、偶然或ハ驅蟲劑服用後大便ト共ニ排出セラル、者ニ
 ノ人體ノ腸内ニ寄生スル所ノ蟲類中殊ニ注目ス可キ者概テ次ノ如シ
 諸種ノ滴蟲ハ次項顯微鏡的検査ノ條下ニ述ブ可シ

(甲) 條蟲類

條蟲類

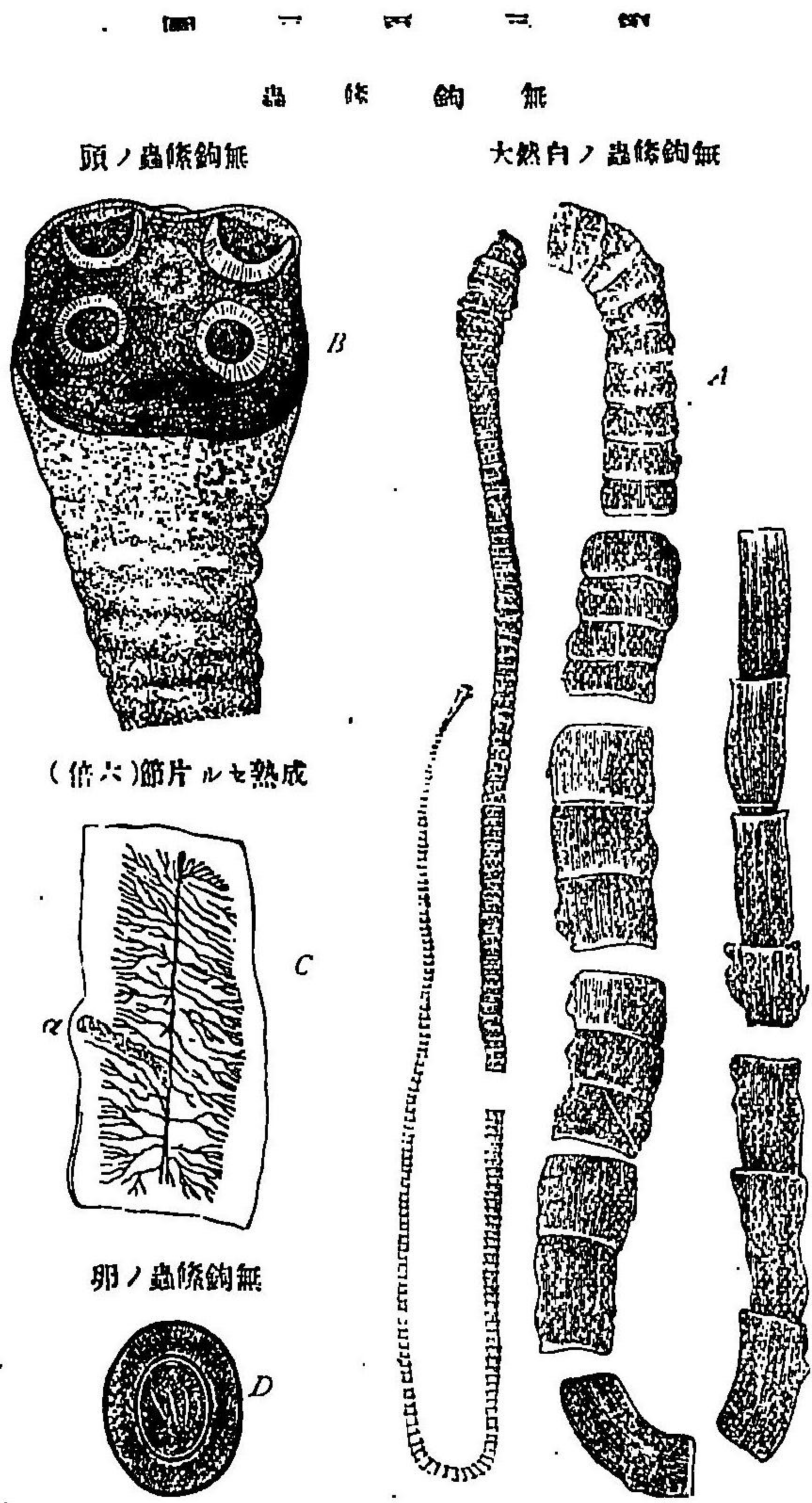
條蟲類 Bandworm, Cestodes ハ蠕蟲 (Worms, Vermes) ニ屬スル者ニシテ小腸内
 ニ占居シ多ク無害ノ者ニ屬スト雖亦時トノ腸加答兒、貧血、輕重種々ノ神經
 障礙 (甚シキハ癲癩様癩變) ヲ起サシム

條蟲ハ一個ノ甚小ナル頭頸 (此兩者ヲ合稱シテスケレキス) (Scolex) ト云フ及
 多數ノ扁平ナル片節 (Proglottiden) ヲ成リ其成熟セル下端ハ絶エズ脱落スト
 雖サこれキスニシテ尚存在スル片節ハ更ニ新體ヲ生出ス而シテ蟲頭ハ固有ノ吸
 盤器ヲ以テ小腸壁ニ固ク吸著スシク其構造發育等ノ詳密ナルコトニ至リテハ宜
 人體ニ寄生スル條蟲ニシテ吾人ノ注目ス可キ者次ノ如シ

無鉤(巨頭)條蟲

(イ) 無鉤(巨頭)條蟲 Taenia mediocanellata s. saginata (第三三三圖) ハ長大ノ條蟲ニシ

四乃至九迷突ニ達シ頭モ亦大ニシテ四個ノ大吸盤ヲ有シ吻狀突起及鉤又ヲ
 具ヘズ唯其中央ニ小ナル一個ノ額吸盤ヲ有シ頸短ク直ニ片節ニ移リ其
 成熟セル者(中A)ハ縱徑一六乃至二〇密迷、橫徑五乃至七密迷ヲ算シ子宮
 ハ其縱行管ヨリ許多ノ分岐ヲ生シ纖細ト爲リテ二枝ニ分レ生殖門(Cノa)

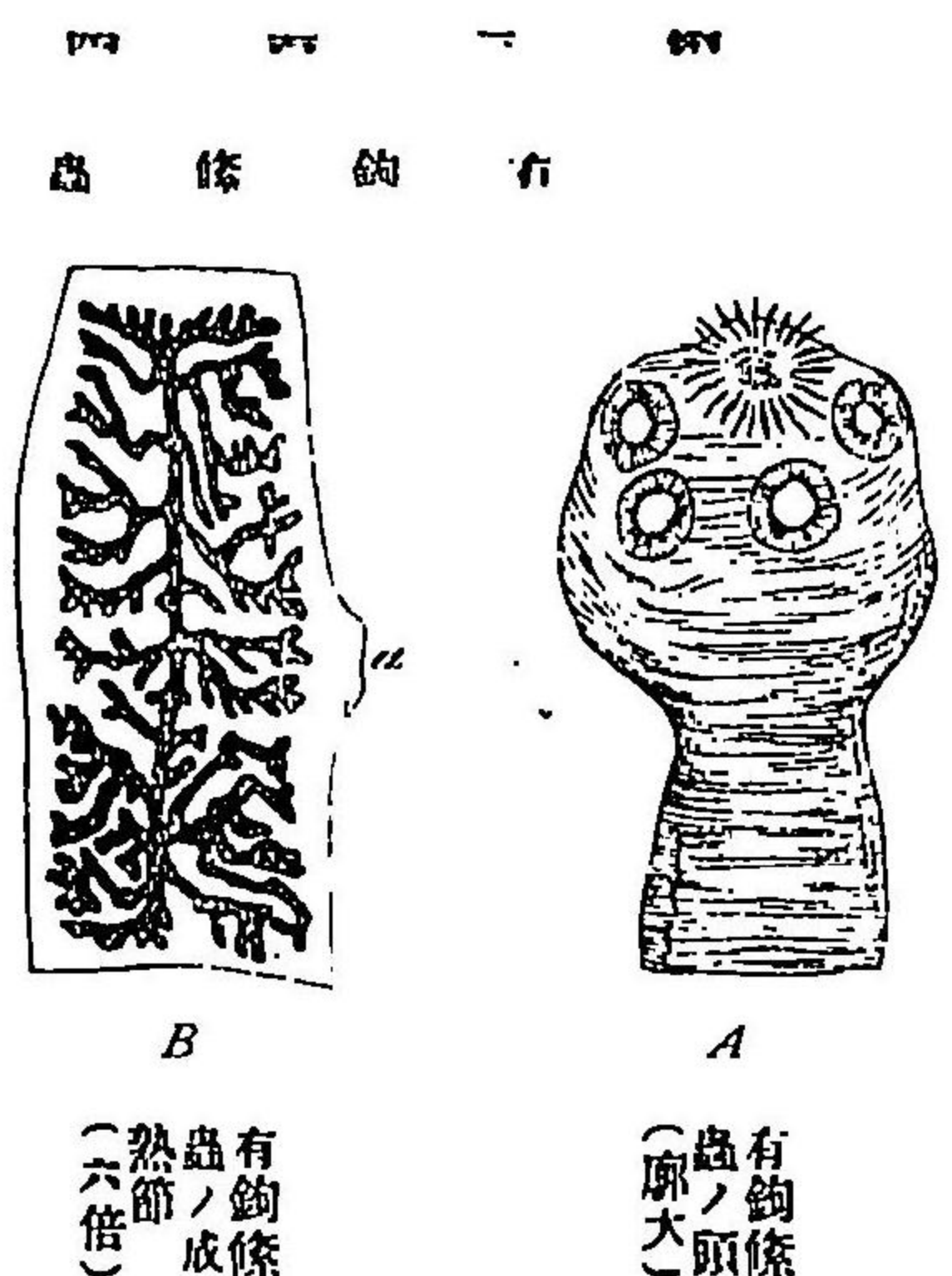


大便ノ肉眼的検査

ハ其側邊ニ在リ而シテ該蟲ハ小腸ニ棲息スル者ニシテ通常單獨ニ存スト雖亦一患者ニ就テ三乃至七個ヲ發見シタルコト有リ
 無鉤條蟲ハ到處最廣ク蔓延スル者ニシテ本蟲ノ中間宿主ハ牛ナリ故ニ其人體ノ腸中ニ寄生スルハ牛ノ生肉、肝臟、心臟、腦等ヲ食シタルガ爲メ其胞囊蟲人ノ胃ニ達シ胞膜ハ胃液ニ由テ消化セラレ頭部ハ腸ニ至リテ成蟲ト爲ルニ由ルナリ而シテ該寄生蟲ハ本邦ニ於テモ廣節裂頭條蟲ニ次デ多ク發見セラレモ胞囊蟲ハ未ダ人體内ニ於テ發見セラレズト云フ
 無鉤條蟲ノ卵(三三四D)ハ小桿狀體ヲ有スル厚キ皮殻ヲ具ヘ卵圓形ニシテ其縱徑〇・〇三五密迷、横徑〇・〇三密迷ヲ算ス

有鉤條蟲

(口)有鉤條蟲 *Tania solium* (三三四A)ノ發育セル者ハ其全長二乃至三密突ヲ算シ頭ハ帽針頭大ニシテ梨子狀ヲ呈シ四個ノ吸盤ヲ具ヘ其上端ハ吻狀ニ突出シ(吻狀突起)此部ニ大小二列ノ鉤又有リテ環列ス頭ハ大約三仙迷長ニシテ絲狀ヲ爲シ下リテ體ニ到レバ悉ク片節ヲ作り其片節ハ頭首ヲ距ルニ從ヒ長大ト爲リ(片節ノ縱徑九乃至一一密迷、横徑四乃至六密迷)各片節ニ雌雄兩性ヲ具ヘ其中央ニ子宮ヲ有シ七乃至十二條ノ側枝ヲ生ジ更ニ分岐シテ宛モ樹



A 有鉤條蟲ノ頭(原大)

B 有鉤條蟲ノ成熟片節(六倍)

C 有鉤條蟲ノ卵(原大)

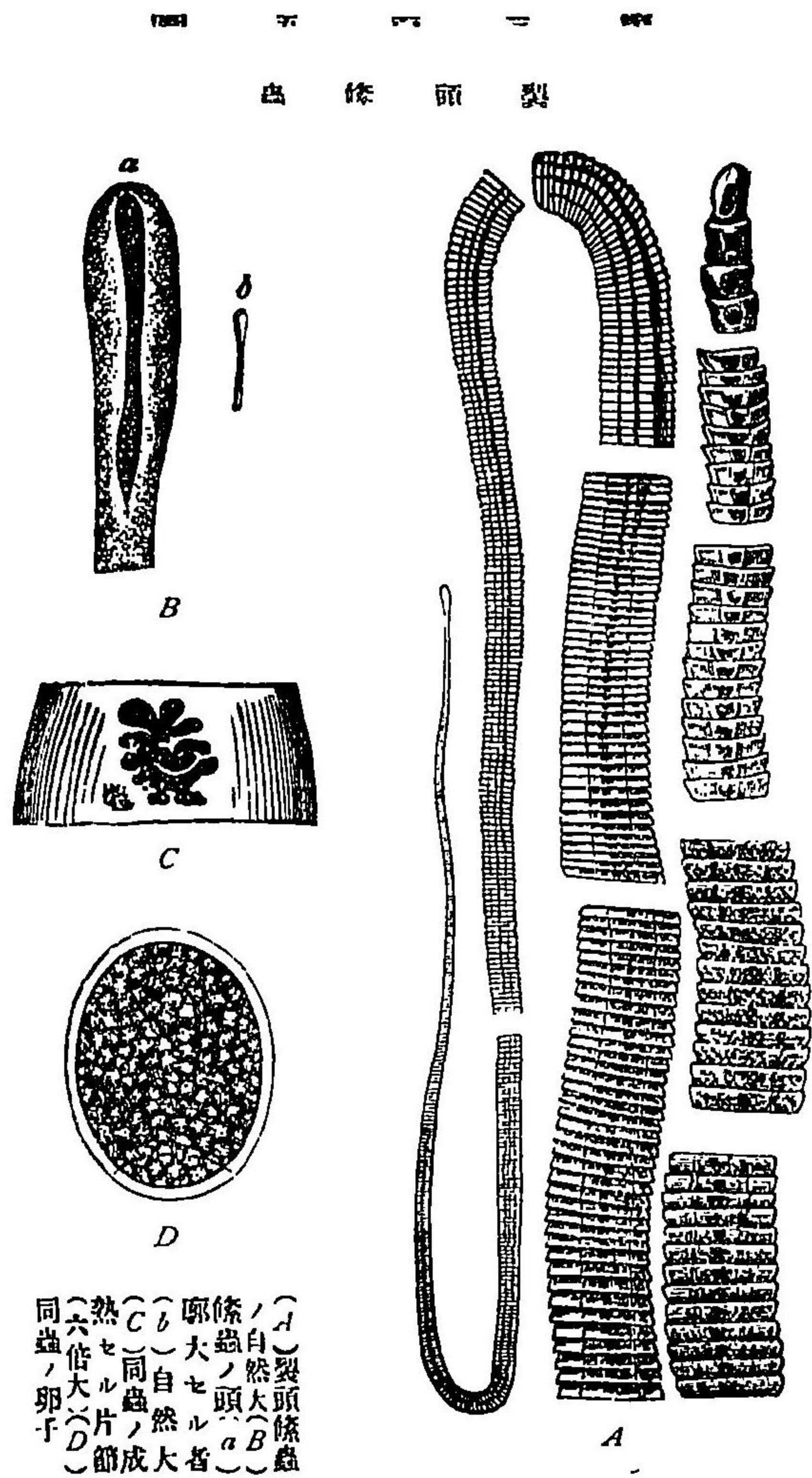
枝ニ類似シ各片節ノ側縁ニ生殖門(口Bノa)ヲ有ス而シテ該蟲ノ人體内ニ在ルハ必ズ小腸内ニ頭ハ通常其始部ニ懸著ス

有鉤條蟲ハ歐洲ニ於テハ屢々發見セラル、モ本邦ニ於テハ絶々罕ナリ而シテ胞囊蟲(ちすちつるくす、つるるーせ)ハ豚肉ニ寄生ス故ニ之ヲ含有スル豚肉ヲ生食スルキハ其被膜ハ胃液ノ爲メニ消化セラレ只頭ノミヨリ成レル幼蟲ニ遊離セラレテ小腸ニ

達シ此所ニ成蟲ト爲ル而シテ胞囊蟲若シ人體内ニ在ルキハ所謂胞囊蟲病(Cysticercosis)ヲ發ス其好占部ハ筋肉、腦及皮膚ナリ
 有鉤條蟲ノ卵(三三四C)ハ稍、卵圓形ニシテ其長徑大約〇・〇三六密迷、横徑〇・〇三密迷ヲ算シ其成熟セル者ハ甚ク厚キ皮殻ヲ被ムリ且放線狀ノ細線ヲ現

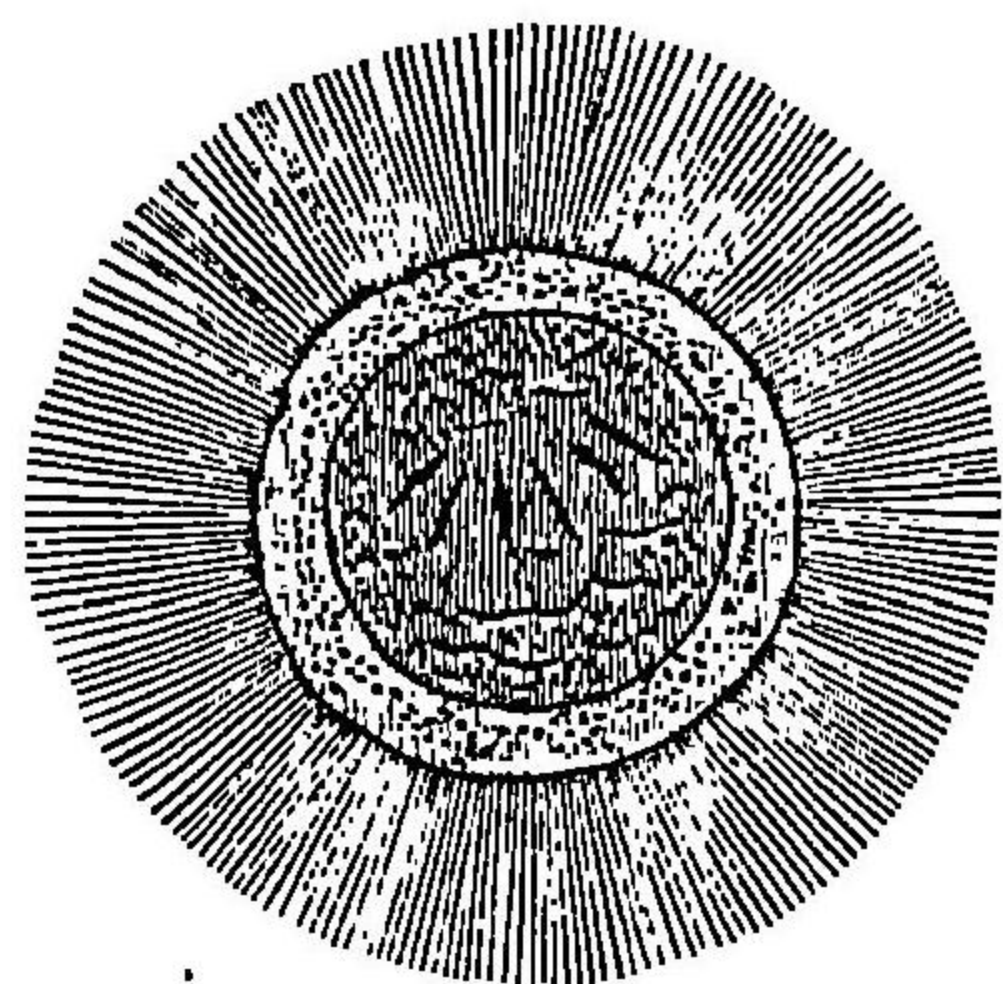
廣節裂頭條蟲

ハシ卵内ニ既ニ子蟲ノ鈎ヲ認メ得可シ
 (ハ廣節裂頭條蟲 *Poteriocephalus latius* (第三百五乃至第三百七圖) ハ人體ニ寄生スル所ノ
 蟲類中最長ナル者ニシテ其全長五乃至九迷突ニ至リ頭ノ縱徑約二密迷橫徑
 密迷ヲ算シ其兩側ニ裂溝ヲ有シテ吸盤ノ用ヲ爲ス頭ハ細長ナレモ片節

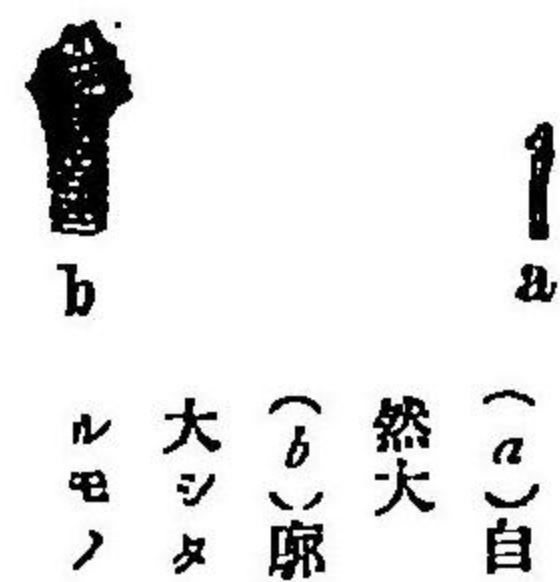


(A) 裂頭條蟲ノ自然大 (B) 條蟲ノ頭 (a) 膨大セル者 (b) 自然大 (C) 同蟲ノ成熱セル片節 (六倍大) (D) 同蟲ノ卵

裂頭條蟲ノ胎蟲 (氏トルカイロ)



第三百七圖 裂頭條蟲ノ幼蟲



ハ短厚ニシテ縱徑三乃至四密迷、橫徑一〇乃至一五密迷ヲ算シ末端ニ至ルニ隨ヒ縱徑減ジテ橫徑ヲ

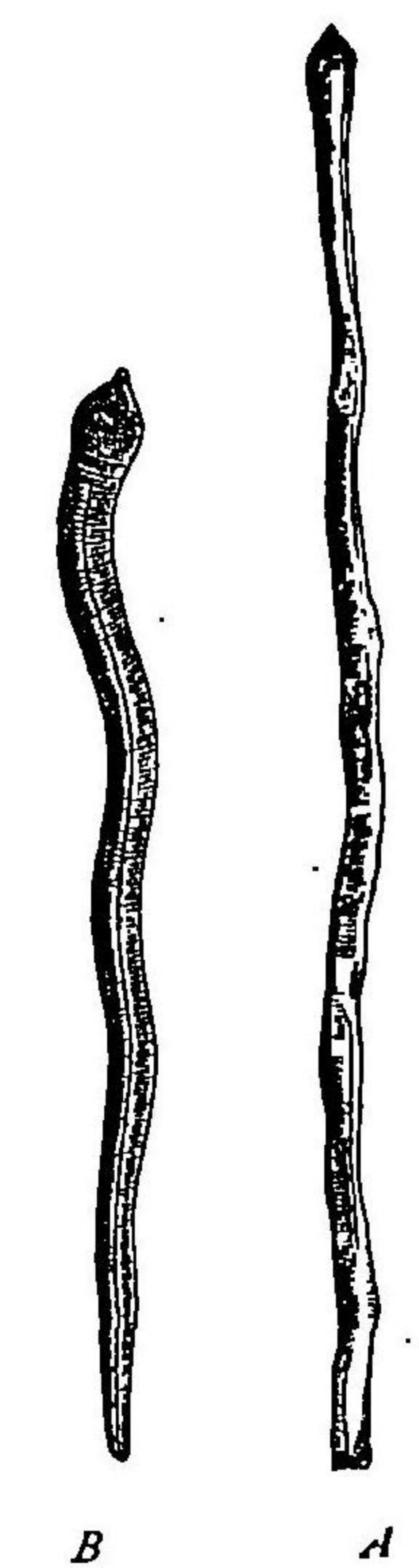
増シ殆ド方形ト爲リ生殖門ハ片節中央ノ面上ニ在リ子宮ハ其形狀恰モ葉簇セル葡萄實ノ如シ
 廣節裂頭條蟲ハ本邦ニ於テ最モ屢々發見セララル、條蟲ニシテ殊ニ淡水魚若クハ
 間水魚ノ多ク捕獲セラレ食料ニ供セラル、地方ニ多シ是其幼稚體タル胞囊
 蟲ハ鮭、鱒等ノ生肉中ニ占居スル者ニシテ其中ニハ六乃至八密迷ノ幅ヲ有ス
 ル包圍セラレタル頭アリ此頭ノ魚肉ト共ニ人類ノ腸ニ達スルヤ數週ニシテ
 發育シテ成蟲ト爲ルニ因ルナリ
 裂頭條蟲ノ卵(第三百五圖D)ハ楕圓形ニシテ茶褐色ノ殼ヲ被リ縱徑〇・〇七密迷

りぐら裂
頭條蟲

横徑〇〇四五密迷ニノ其一端ニ蓋ヲ具ヘ粗大顆粒狀ノ内容ヲ有ス

柱ニ尙附肥ス可キ者ナリぐら裂頭條蟲(マンソン氏りぐら又マンソン氏裂頭條蟲) *Bothrioccephalus liguloides* (*Ligula Mansonii*, *Bothrioccephalus Mansonii*) (第三四八圖)ト爲ス但其成蟲ハ未ダ發見セラレズ人體ニ於テ實見セラレタルハ只其幼蟲ニシテ該條蟲ハ長サ二〇仙迷幅二・五密迷白色柔軟紐帶狀ニシテ恰モ尋常ノ條蟲ニ類似スト雖片節分界及生殖器ヲ認メズ其末端ハ細小ト爲リ前端擴大シテ乳嘴狀ノ突起ヲ具ヘ其前ニ頭

虫條頭裂らぐり



(A)ロイカ
ルト氏(B)
コボルト氏

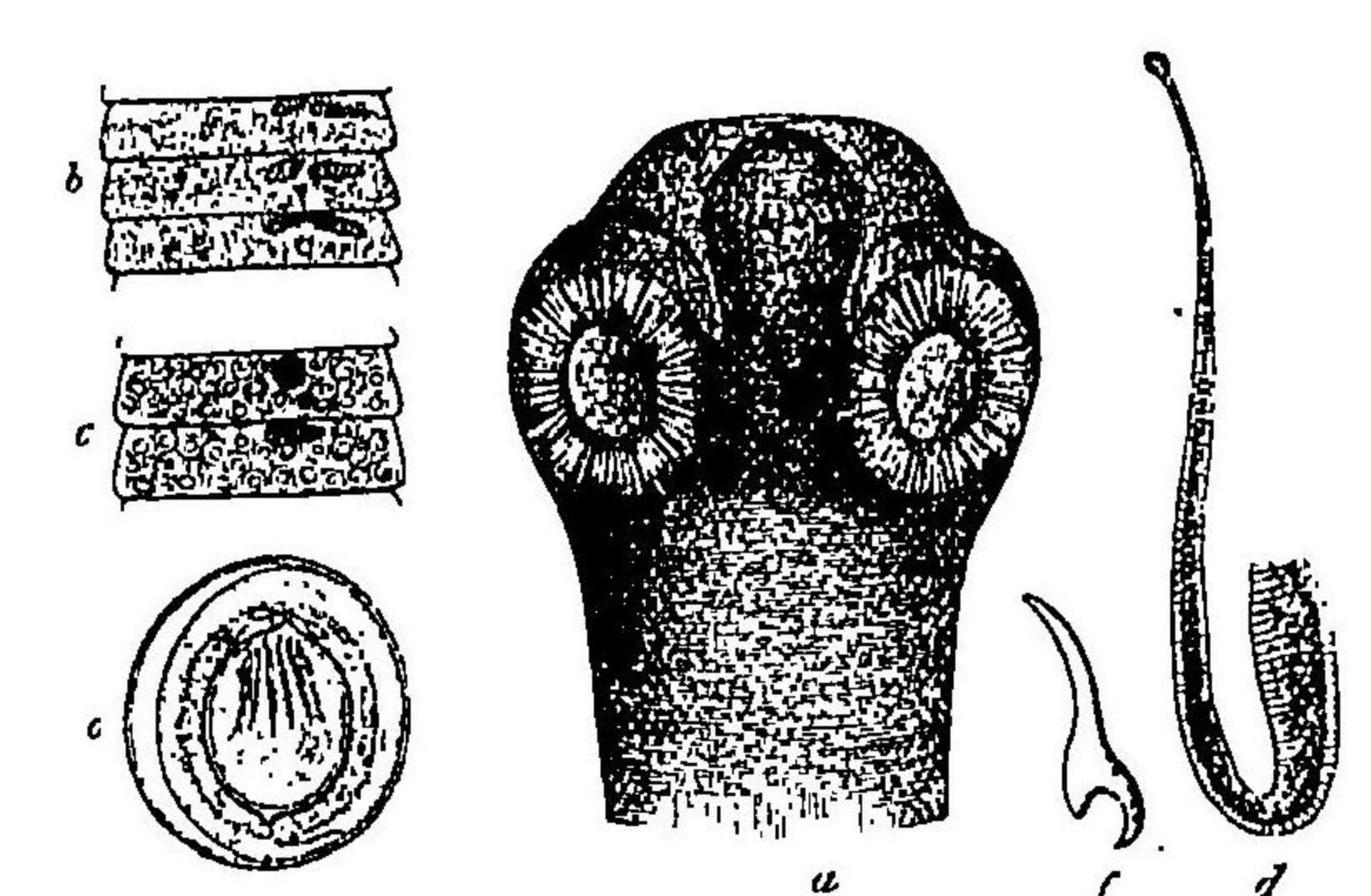
アトテ二個ノ吸盤ヲ有シ多少内方ニ凹陷ス蓋本蟲ハ本邦ニ於テハ一千八百八十一年シロイヘ氏ガ尿道ヨリ發見セルニ始マリ次テ其翌年マンソン氏ハ一支那人ノ赤痢及食道狹窄ヲ病ミ且陰囊象皮病ニ罹リテ手術後死シタル者ノ屍體中(胸腔及腎臟後部ノ腹膜下結締織中)ニ發見シタリシガ其後本邦ニ於テ亦之ヲ發見セル者少カラズ(飯島及村田、西村、三宅等諸氏)

那那條蟲

(二)那那條蟲(矮小條蟲) *Taenia nana* (第三四九圖)ハ條蟲中ノ最モ矮小ナル者ニシテ其

全長ハ大約一五密迷幅〇・五密迷ヲ算シ後部ニ於テ幅最モ廣ク前方ニ向ヒ漸次狹細ト爲リ其片節ハ廓大スルニ非ザレバ見ルヲ能ハザルモ其數ハ百九十乃至二百個ヲ算シ終末ノ二十乃至六十個ハ黄色ヲ呈シ成熟セル卵子ヲ備フルモ最終ノ三乃至四個ハ卵ヲ失フヲ以テ縮小ス而シテ球狀ノ頭(直徑〇・三密迷)ニハ吻狀突起ト四個ノ圓キ吸盤ヲ備ヘ突起ニハ二十二乃至二十四ノ小鉤ヨリ成レル單列ノ鉤環有リ該蟲ハ埃及カイロニ於テ曾テ人ノ腸中ニ發見セラレタリト云フモ本邦ニ於テハ山崎筆造、三浦謹之助ノ兩氏之ヲ人體ニ發見シ井上善次郎氏モ亦

蟲條(小矮)那那



(a)頭
(b)成熟セザル片節(c)成熟シタル片節(d)矮小條蟲ノ自然大(e)卵大(f)鉤

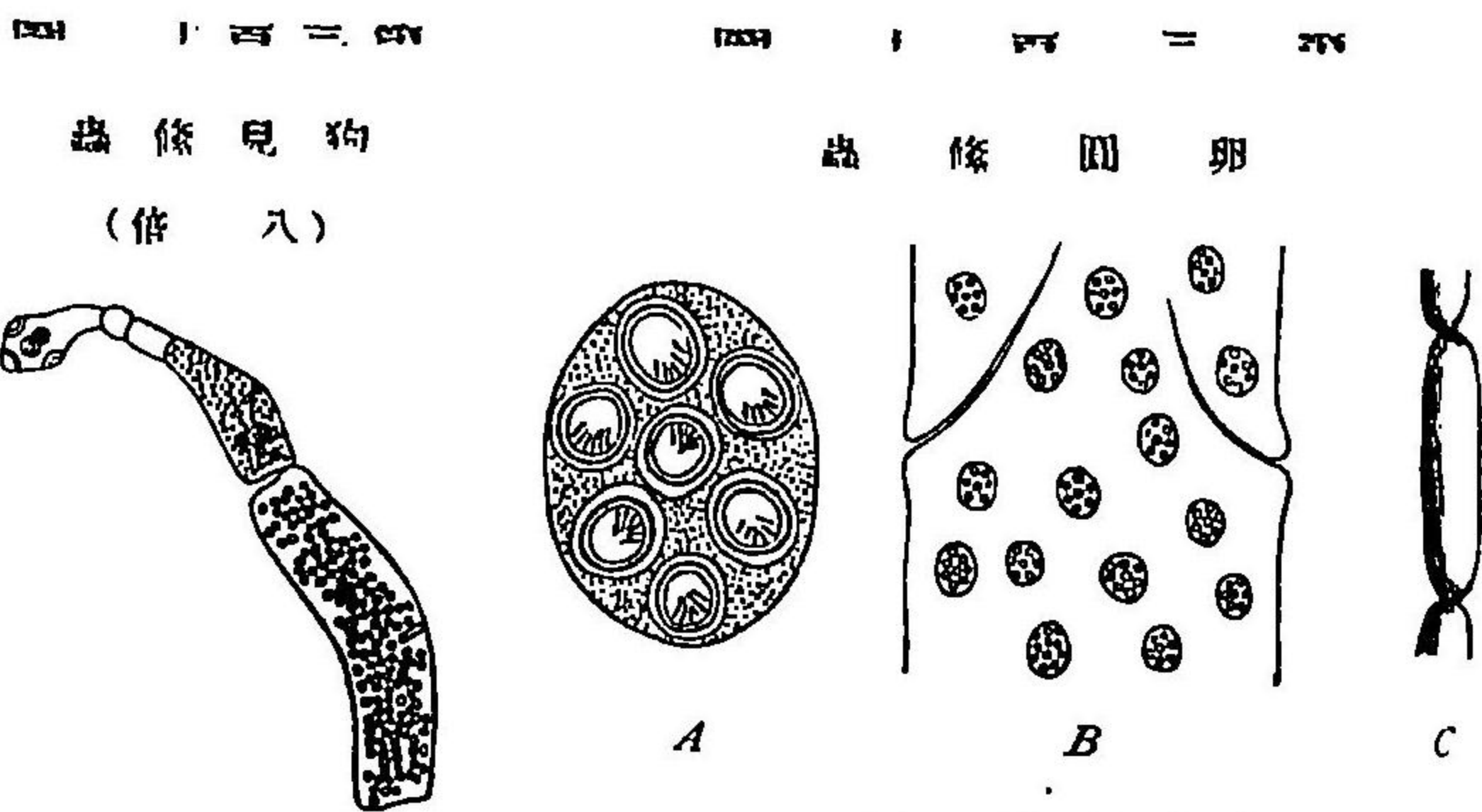
大便ノ肉眼的検査

千葉縣佐原町ニ於テ十七歳ノ少女ニ之ヲ實驗セリト云フ
 那那條蟲ハ小腸ニ生活シ深ク粘膜内ニ穿入シテ之ニ著明ナル變化ヲ起シ
 得ル者ニ多クハ群集シテ生活シ其數四十乃至五十ヨリ四千乃至五千ノ
 多キニ達シ好シデ小兒ヲ侵シ其胞囊蟲ハ鼠ノ腸絨毛中ニ存在ス
 那那條蟲ノ卵(爾三九四)ハ無色透明ニシテ楕圓形ヲ爲シ殼ハ甚ク厚ク内外ノ
 二膜ヲ有シ内膜ノ兩極ヨリ縦ニ外方ニ向テ膨隆スル部有リテ強ク光線ヲ
 屈折シ兩膜ノ中間ニハ透明硝子樣體ニシテ其内ニ彎曲セル纖維ヲ見ル而シ
 テ卵ノ大ハ長徑〇・〇四七乃至〇・〇四八密迷、横徑〇・〇三八乃至〇・〇三九密
 迷ナリト云フモ(メルテンス氏)山崎及三浦ノ兩氏ニ憑レバ其縱徑〇・〇五〇
 七横徑〇・〇四二九ナリト云フ又其子蟲ハ六個ノ鈎ヲ有ス

卵圓條蟲

(水卵。圓條蟲(瓜實條蟲) *Taenia cucurbitina* (爾三四四)ハ縱徑五乃至二十仙迷、横徑二密
 迷ヲ算スル一種ノ條蟲ニシテ其頭ハ楕圓形、長クシテ六十個ノ鈎又チ有シ末節ニ至レバ
 稍、赤色ヲ帶ビ其卵ハ六乃至十五個宛、所謂齒内ニ集合ス面ノ該條蟲ハ犬及猫ニ
 寄生スルコト多シト雖亦人體(殊ニ小兒)ニ寄生スルコト罕ナラズト云フ(ロイカル
 ト氏)

狗兒條蟲



(A) 片節 (自然大)
 (B) 同上 (十二倍)
 (C) 齒 (大約二百倍)
 (ハ) 狗兒條蟲 *Taenia echinococcus* (爾三〇一及三
 四十二)ハ他ノ條蟲ト異ニシテ其胞囊蟲ハ
 人類ニ存在ス故ニ其中間宿主ハ人類ニ
 ノ大體ニ入りテ始メテ成蟲ニ發育スル
 者ナリ此條蟲ハ大々四乃至五密迷ニ過ギ
 ス頭ハ小ニシテ數多ノ小鈎ト四個ノ吸盤
 ト一個ノ吻狀突起トヲ具ヘ片節ハ三乃
 至四個ニシテ其終末ノ者成熟ス而シテ其卵
 膜或ハ片節ハ人類ノ胃ニ於テ消化セラ
 レ遊離セラレタル胞囊蟲即チ包蟲ハ腸管

大便ノ肉眼的成分

家犬ノ腸管ヨ
 リ採リタルモ
 ノニシテ終末
 シテ將ハ自然
 脱落セントス
 (アイヒホル
 スト氏)



(a) 六鈎ヲ
 有スル胎蟲
 (b) 卵膜
 (c) 蛋白質
 性ノ被膜
 (アイヒホ
 ルスト氏)

ヲ穿通シ淋巴及血行ニ由テ體組織殊ニ肝臟、脾臟、腎臟等ニ入り包蟲胞ニ變化ス

包蟲ハ稀ニ人ノ腸ヲ侵シ其包蟲胞腸内ニ於テ破裂シ或ハ腸隣接器官(殊ニ肝臓)ノ包蟲胞腸内ニ穿通破開シ大便中ニ其胞膜及鉤ヲ見ルコト有リ(前掲第百三十三頁ハ包蟲ヲ見ルニ注意ス)

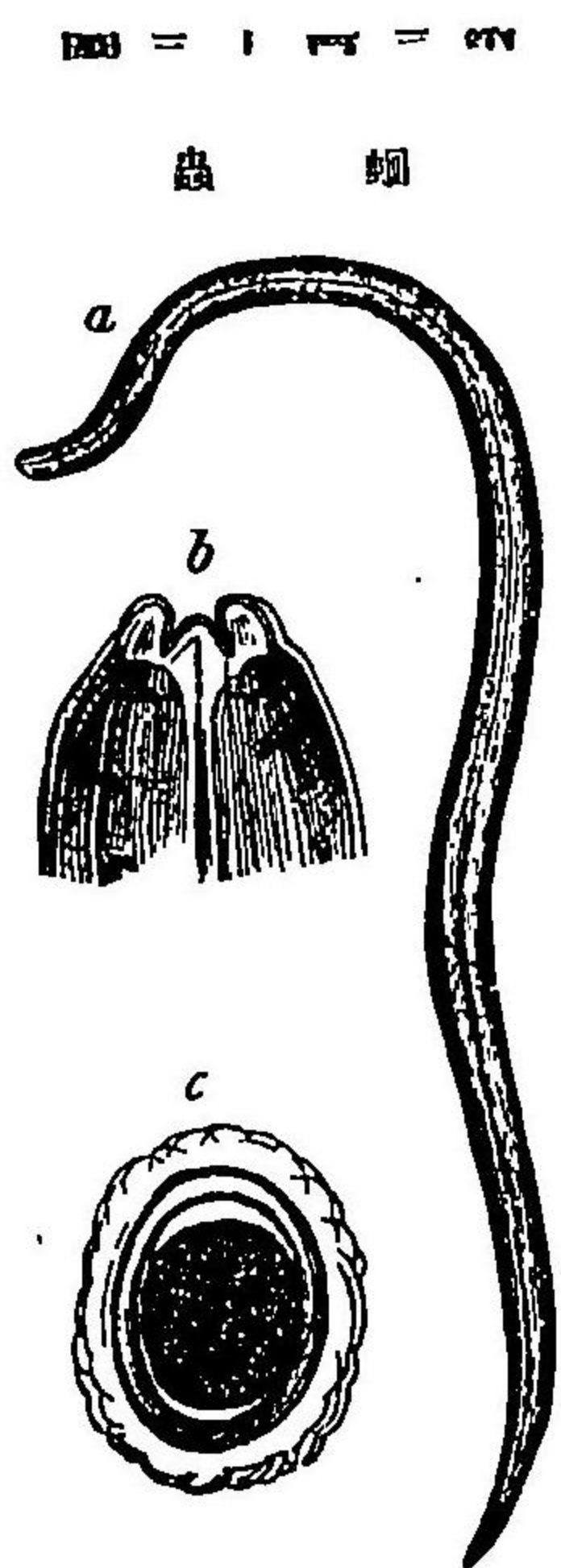
(乙) 圓蟲類

圓蟲類

圓蟲類 *Rundwürmer, Nematodes* モ亦蠕蟲ニ屬スル者ニシテ其形體圓筒狀ヲ爲シ單ニ輪狀ノ外皮ヲ有シ關節ヲ備ヘズ前端ニハ稀ニ乳頭或ハ尖牙ヲ具ヘ雌雄兩性ヲ異ニシ雌蟲ハ雄蟲ニ比スレバ大ニシテ其數多ク此蟲類ハ腸管寄生蟲中最モ多ク嗜ル所ナリ

蛔蟲

(イ) 蛔蟲(尋常蛔蟲) *Ascaris lumbricoides, gemeiner Spulwurm* (第百三十三頁) ハ白色或ハ帶赤白色ノ圓柱狀蟲ニシテ(蚯蚓ニ酷似ス)雄蟲ノ長ハ二五〇密迷、雌蟲ハ四〇〇密迷ニ達ス而シテ該



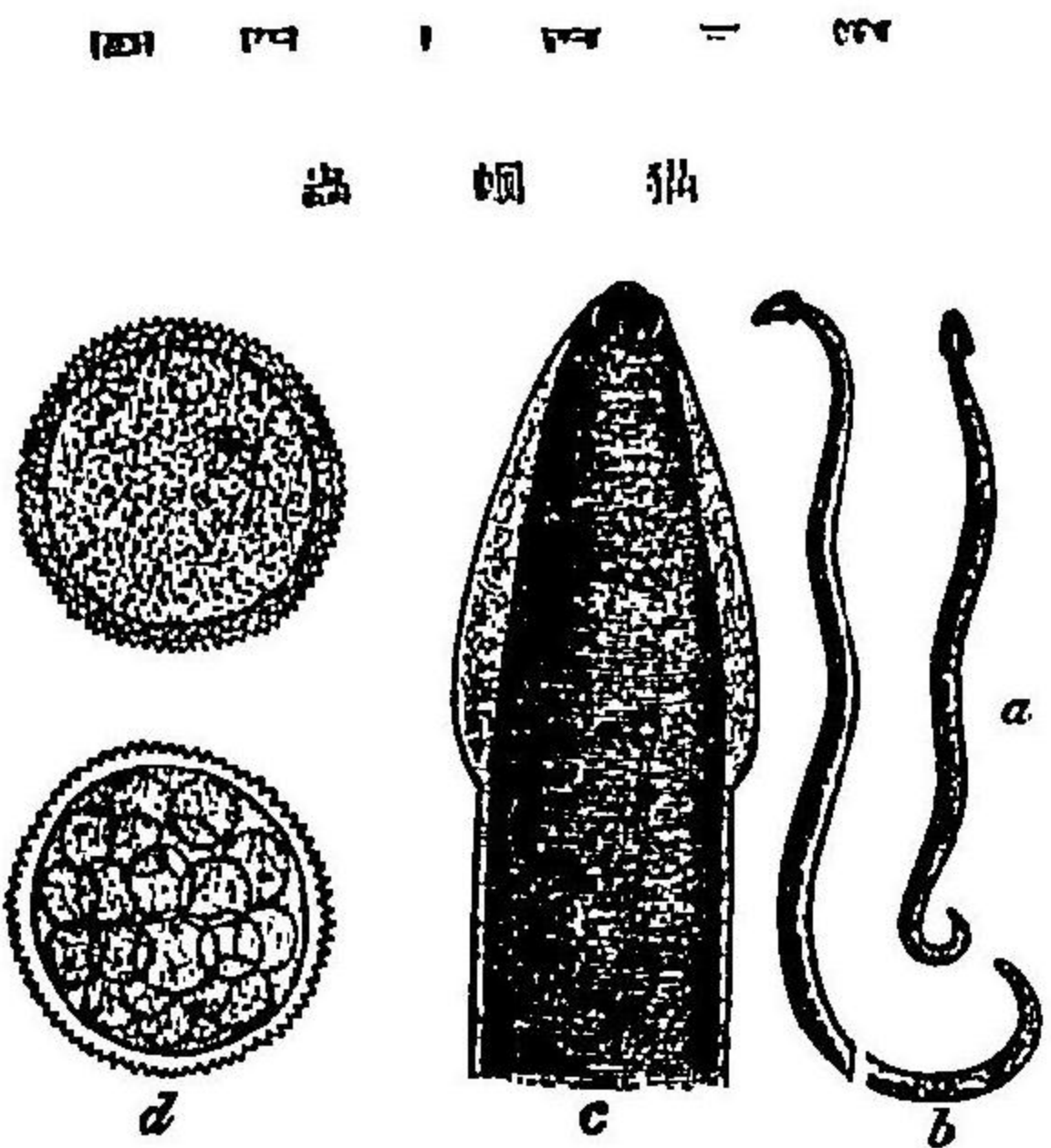
(a) 自然大ノ蟲體
(b) 其頭
(c) 卵子
蟲ハ小腸ニ占居シ通常毫モ病苦ヲ起サシムルコト無ク或ハ只僅ニ病苦(食思

不振、善餓、嘔氣、暖氣、腹痛、流涎等)ヲ惹起スルコト有ルノミナレバ時トノ殊ニ小兒ニ在テハ諸般ノ不快ナル症狀就中神經系統ノ症狀(鼻腔搔痒ノ感、瞳孔不同、稀ニ眩暈、失神發作、視力及聽力障礙、斜視、吃逆、其他甚シキハ痙攣及癲癩樣發作等)ヲ起サシムルコト有リ又該蟲ハ強嘔吐ノ際屢、胃ニ到リテ吐出セララルコト有リ或ハ稀ニハ輸膽管ニ入り頑固ノ黄疸ヲ發セシムルコト有リ此他該蟲ハ通常大便ト共ニ排出セララル、モ時トノ殊ニ睡眠時ニ在テハ獨リ肛門ヨリ出ヅルコト有リ

蛔蟲ノ人體内ニ入ルハ一定時水中若クハ濕地ニ在リテ發育シタル胎蟲ヲ有スル卵子ノ野菜、果實、飲料水等ニ混ジ腸中ニ達スルニ因ル者ニシテ其蔓延ハ一般ニ飲食物ノ不潔ニ因ルヲ以テ特ニ小兒及精神病者ニ之ヲ見ルヲ多シトマ
蛔蟲ノ卵(第百三十三頁)ハ圓形或ハ楕圓形ニシテ二層ノ殼ヲ有シ其直徑〇・〇六乃至〇・〇七密迷ヲ算シ内容ハ黯黑顆粒狀ノ一團塊ヲ形成シ三層ノ厚キ殼ト表面凹凸ナル蛋白質ノ膜ヲ被ムリ被膜ハ通常膽色素ニ由テ黃褐色ヲ呈ス

猫蛔蟲

近時三浦滿之助、西内條綱氏等ハ其内容及被膜ノ狀況通常多ク見ル所ノ蛔蟲卵ト異ナリ者有ルヲ發見シ研究ノ結果氏等ハ之ヲ受精セザル蛔蟲卵ナリト論セリ(明治三十五年三月發行東京醫學新誌第千二百四十九號)

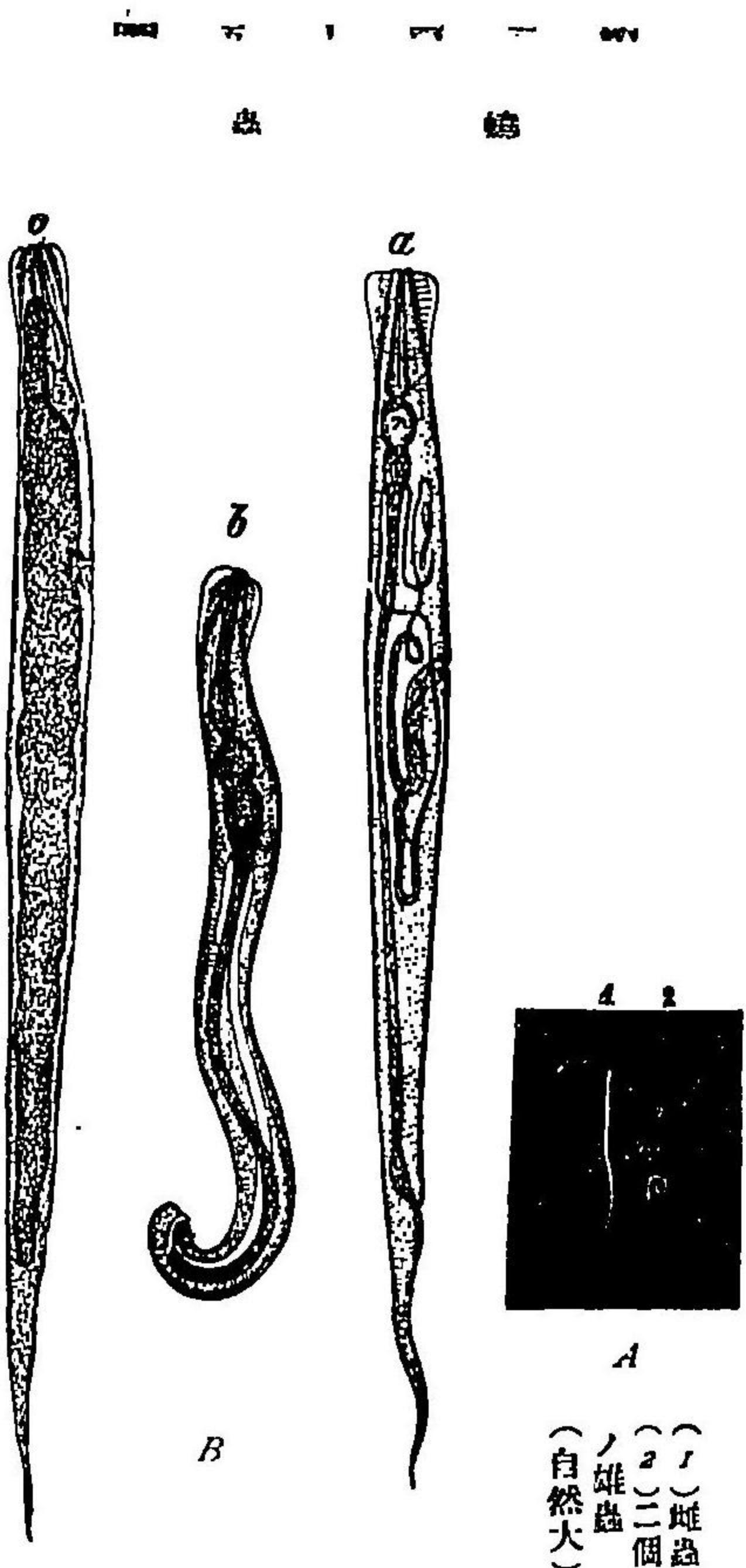


(a) 雄蟲
(b) 雌蟲
(c) 其頭
(d) 卵子

兩側ニ翼狀體有リ」卵子(第三十四圖d)ハ圓形ヲ爲シ尋常蛔蟲ノ卵ニ比スレハ稍大ニシテ殼皮ニ許多ノ小凹陷部ヲ備フ

口嚙蟲

口嚙蟲 *Oxyuris vermicularis*, *Prymenschewans*, *Madameum* (第三十五圖)ハ白色絲狀ノ小蟲ニシテ雄蟲ハ長キニ乃至四密迷、厚キ〇・二密迷、雌蟲ハ長キニ二密迷、厚キ〇・四乃

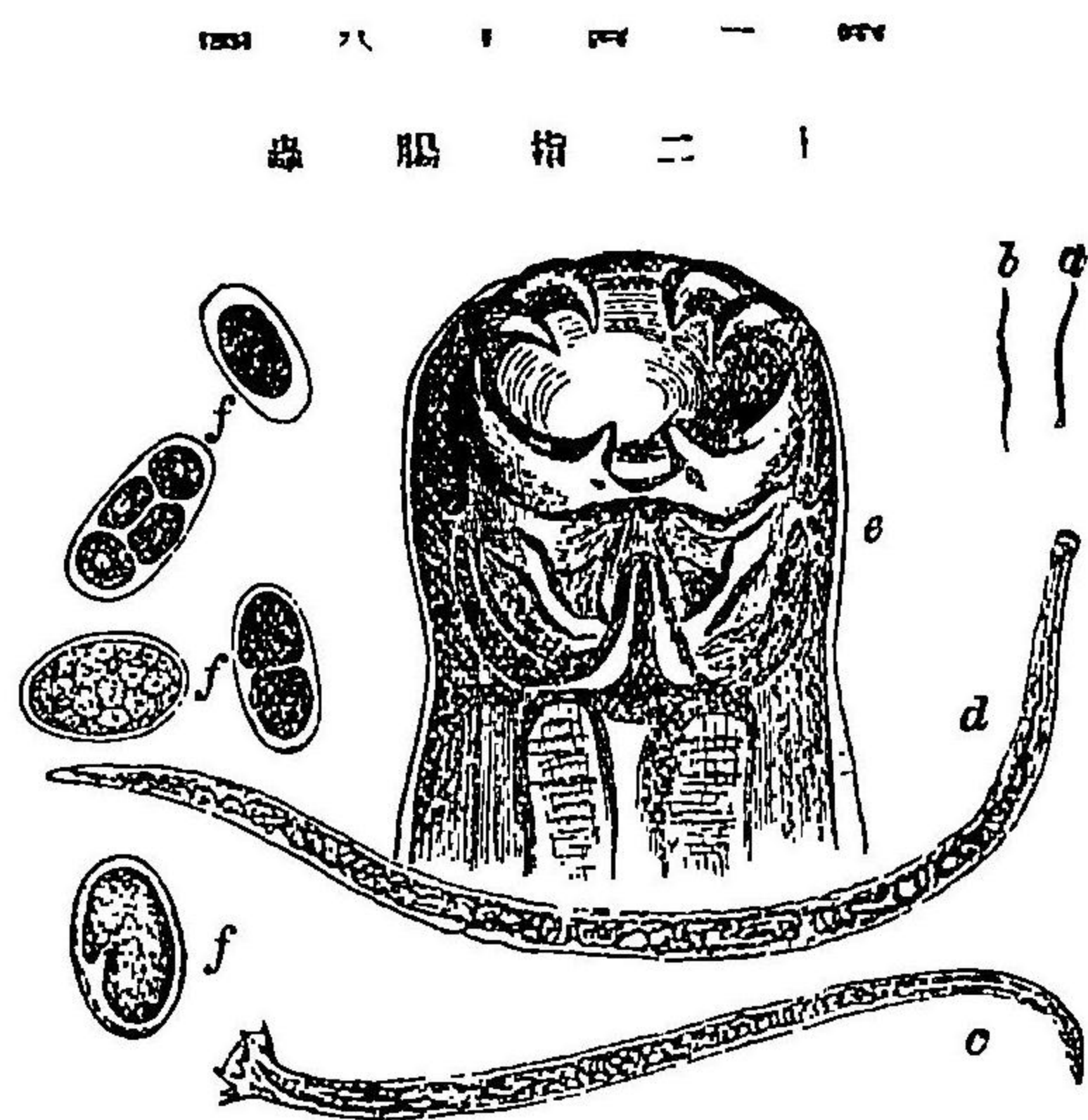


(a) 成育セル不孕ノ雌蟲
(b) 雌蟲ヲ有スル雌蟲
(c) 卵子ヲ有スル雌蟲

(1) 雌蟲
(2) 雌蟲
(自然大)

至〇六密迷アリ小ナル頭部ニ三個ノ口唇ヲ具ヘ雌蟲ハ二個ノ子宮ヲ有シ腺ハ體ノ上半部ニ開口シ雄蟲ノ尾端ハ腹面ニ向テ卷縮ス本蟲ノ人體内ニ入ルハ食物(殊ニ果實及野菜等)或ハ不潔ナル指ニ由リ蟲卵ノ消化器官ニ達スルニ因ル者ニシテ卵殼ハ胃液ノ爲ニ溶解セラレ胎蟲ハ小腸ニ達シテ交接シ盲腸ニ至リ卵成熟スルハ雌蟲ハ大腸ニ至テ卵子ヲ産生ス而シテ該蟲ハ殊ニ小兒ノ大腸就中直腸部ニ占居スルヲ常トスルモ時ト

大腸ノ肉眼的成分



(a) 雄蟲
(b) 雌蟲
(自然大)
(c) 雄蟲
(d) 雌蟲
(e) 其頭
(f) 卵子
(放大ス)

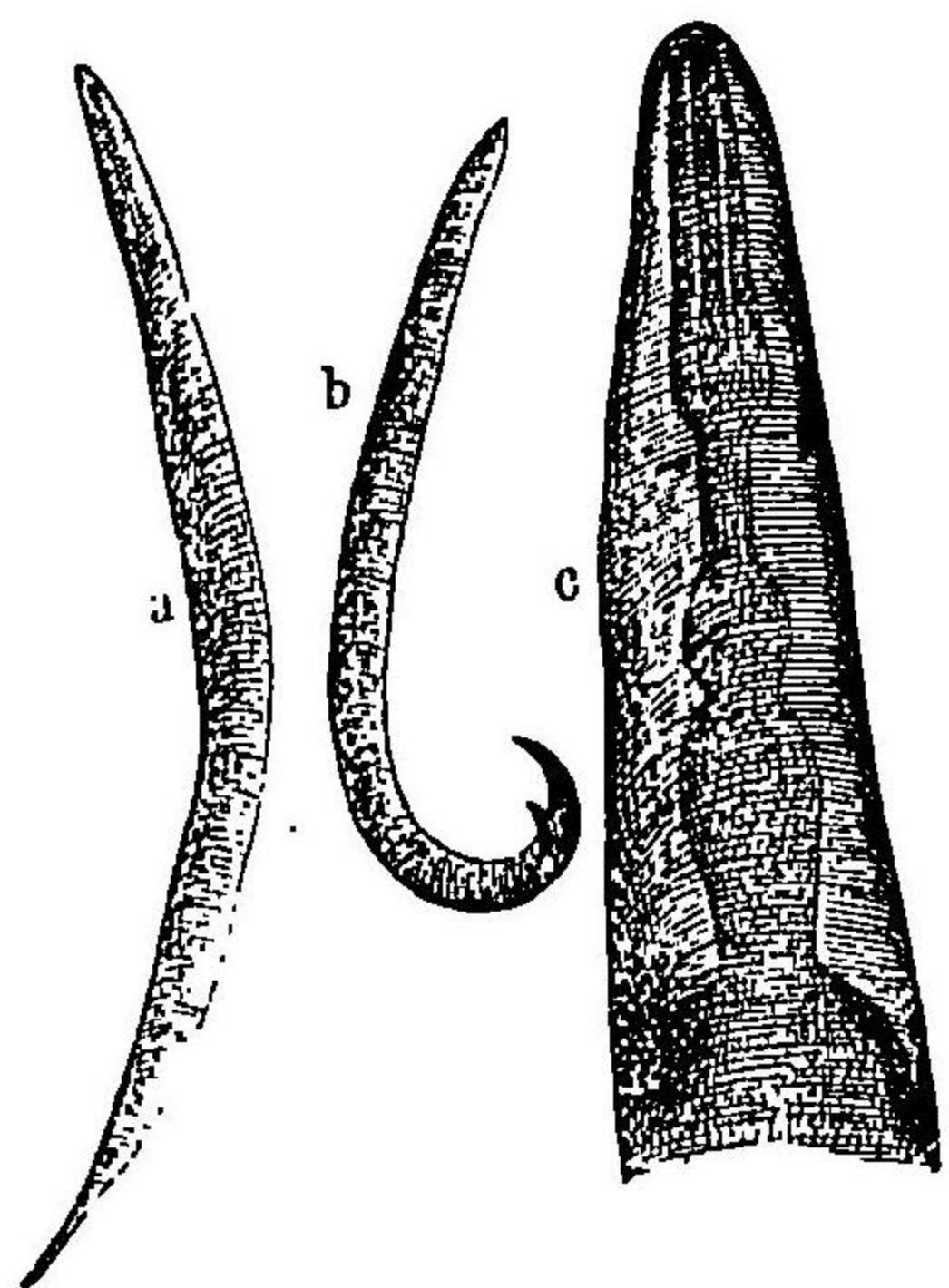
長ク有シ兩性共ニ口腔ヲ具ヘ背縁ノ兩側ニ各一個腹縁ノ兩側ニ各二個ノ鈎狀齒ヲ有シ之ニ由テ吸角ノ如ク腸粘膜炎ニ固著シテ血液ヲ吸攝シ以テ榮養ヲ取ル者トス而テ其人體内ニ寄生スル多寡ハ一様ナラズト雖十五乃至三千個或ハ之ヨリ以上ニ達スル者ナリ

十二指腸蟲ノ卵(第百十八圖)ハ楕圓形ニシテ透明ナル薄キ殻ヲ被ムリ其縱徑〇・〇五乃至〇・〇六密迷、横徑〇・〇三乃至〇・〇四密迷ナリ内容ハ稍、類褐色ニシテ始、二・四・六等ノ細胞ニ分割セラル、モ濕地若クハ水中ニ在テ一定ノ溫度ヲ得ルキハ卵ノ内容發育孵化ス

該寄生蟲ハ一種ノ貧血症所謂十二指腸蟲病(Anchylomoniasis)ノ原因ト爲ルル多キヲ以テ左ニ其主徴ヲ略彼ス可シ即チ其症狀ニハ固ヨリ輕重ノ差異有リト雖全身ノ皮膚類黃蒼白色ヲ呈シ殊ニ顔面ニ於テ著シク眼瞼結膜及口唇粘膜炎白色ヲ呈スルモ皮下脂肪及筋肉ハ通常ノ状態ヲ保チ患者眩暈耳鳴心悸亢進全身倦怠等ヲ訴ヘ又屢、口渴ヲ訴ルモ食慾ハ敢テ減損スルコト無ク或ハ却テ増進スルコト有リ而シテ大便ハ或ハ秘結シ或ハ下利シ又下肢ニ浮腫ヲ來スコト寡カラズ

近時ノ研究ニ憑レバ十二指腸蟲病性貧血ハ單ニ寄生蟲ノ人體ヨリ血液ヲ吸攝スルニ因ルノミナラズ

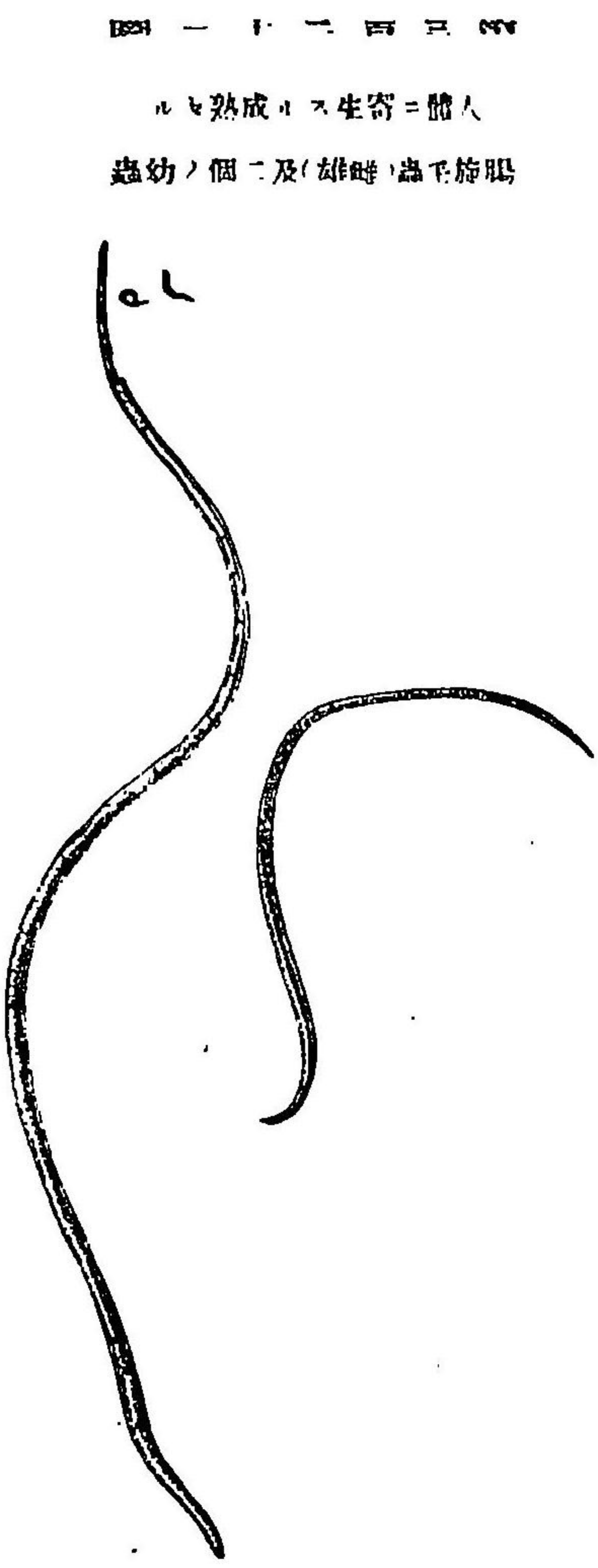
カ、ト、四、ニ、三、一、
あり、ら、こ、る、く、す、ら、る、い、ぐ、ん、あ



(a) 雌蟲
(b) 雄蟲
(c) 其頭

亦之ガ寄生ニ由テ起ル一種ノ毒物ノ作用ニ因ル者ニシテ血液検査上常ニ互をじん嗜好細胞ノ著シク増多スルヲ認ムト云フ
(ホ) あんぐい、ら、す、て、る

Anguillula streperis (第三四十九圖)ハ三密迷以下ノ縦徑(厚)〇〇四密迷)ヲ有ス
 小腸一ノキトノ小腸ニ占居シ全ク無害ノ者ニ屬スレモ其卵子ハ十二指腸蟲
 ノ卵一酷似スルヲ以テ容易ニ誤認セラレ、
 日ゼハ、
 楕圓ニシテ、
 兩端稍、
 尖銳ナリ、
 貝ルツ氏ハ曾テ十二指腸蟲卵子ノ發育ヲ
 研究スルニ
 當リ十二指
 腸蟲ノ發生
 ヲ豫期シタ



Trichina spiralis (第三四十九圖)ハ三密迷以下ノ縦徑(厚)〇〇四密迷)ヲ有ス
 Distoma spatulatum (第三五十圖)ハ三密迷以下ノ縦徑(厚)〇〇四密迷)ヲ有ス

旋毛蟲

卵丁ロリ二回めぐらして、
 (a) 旋毛蟲 Trichina spiralis (第三四十九圖)ハ腸或ハ筋肉ニ見ル所ニシテ腸旋毛
 蟲ハ腸ヲ穿ナルモ時トシテ旋毛蟲病 Trichinosisノ初期ニ於テ大便中ニ之ヲ觀ルル有
 り而シテ其大ハ凡ク腸蟲ノ三分一ナルヲ以テ肉眼ヲ以テ檢シ得ルヲ能ハズ

(丙) 吸蟲類

吸蟲類

吸蟲類 Sanguinifer, Trematodes ハ扁平ニシテ關節ヲ有セズ人體ノ膽管及腸管ニ
 寄生スル者ハちとま(二口蟲)ニ屬スル者ニシテ二個ノ吸盤ヲ有ス其一ハ口
 吸盤ニシテ概テ前端ニ存シ一ハ腹吸盤ト稱シ腹面ノ正中線ニ在リ

鉤形肝蛭

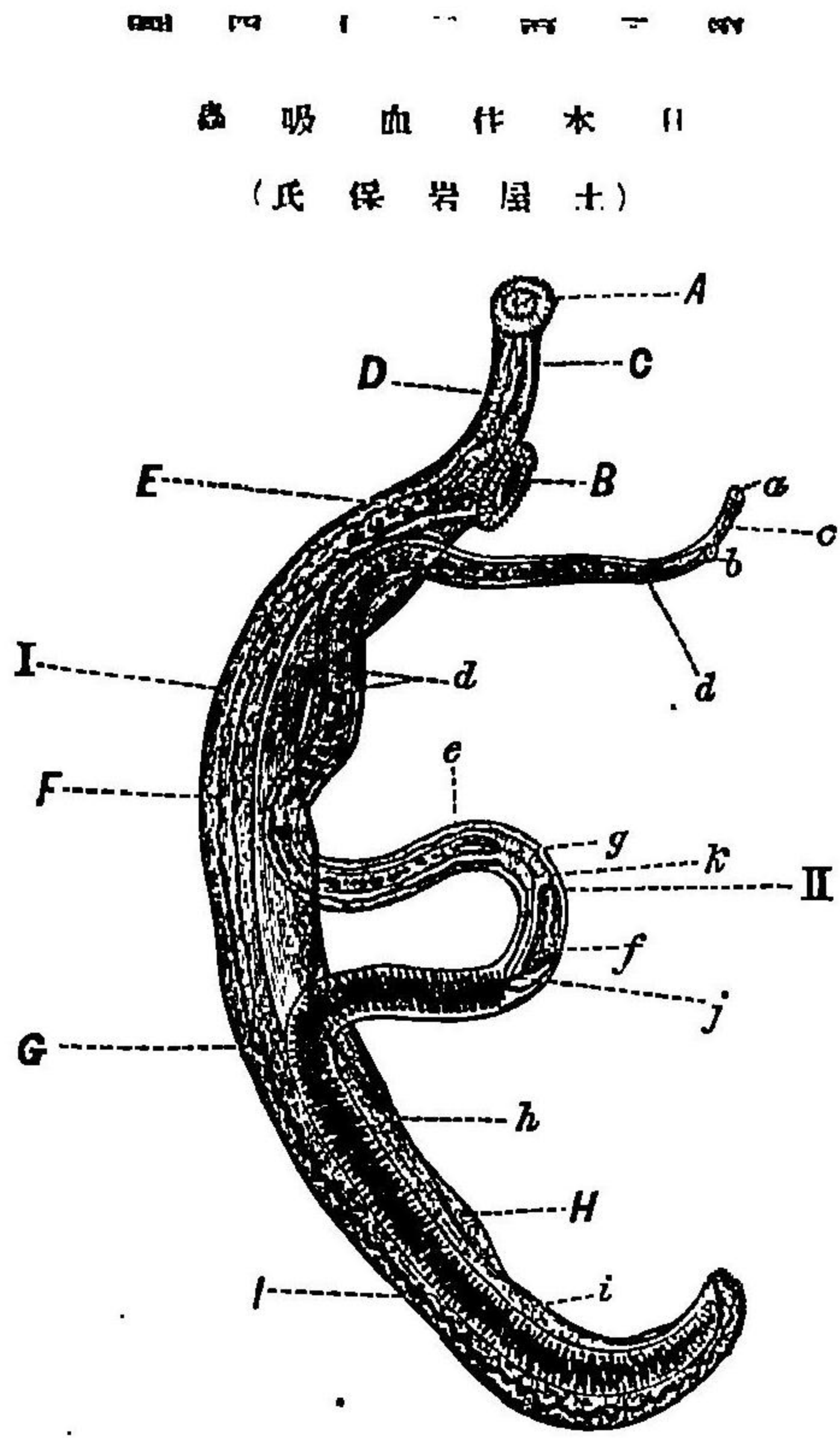
(イ) 鉤形肝蛭(鉤形二口蟲) (Distoma spatulatum) 又地方病性二口蟲 Distoma endemicum
 三百二十二圖ハ其體形細長ニシテ葉狀、扁平、透明ノ吸蟲ナリ其縦徑一・七五密迷、
 横徑二乃至二・七五密迷ヲ以テ常トスレモ又稍之ヨリ大ナル者有リ體面ハ
 平滑ニシテ刺ヲ具ヘズ口吸盤ハ腹吸盤ヨリ稍大ニシテ生殖門ハ腹吸盤ノ前ニ
 在リ該蟲ハ亦本邦人ノ膽管ニ見ル所ニシテ明治十六年岡山縣ニ於テ始テ發
 見セラレ次デベルツ氏モ亦之ガ報告ヲ爲シ爾來本邦各所ニ之ヲ發見セリ
 岡山地方ニ於ケル本病患者ノ症候ハ貧血、腹水、腸胃症(下利或ハ便秘)其他季

大便ノ肉眼的成分

郎氏ニ憑レバ本病ノ多キ岡山縣下兒島郡都宇郡ノ諸村ニ於テハ善良ナル飲料水ヲ得難ク飲用水及飲用水共ニ溝渠ノ水ヲ用ユル者ニ本病ニ罹ル者最多ナリト(井上内科全書ニ據ル)此他水草及魚貝モ亦本寄生蟲侵入ノ媒介ヲ爲スト云フ

日本住血吸蟲

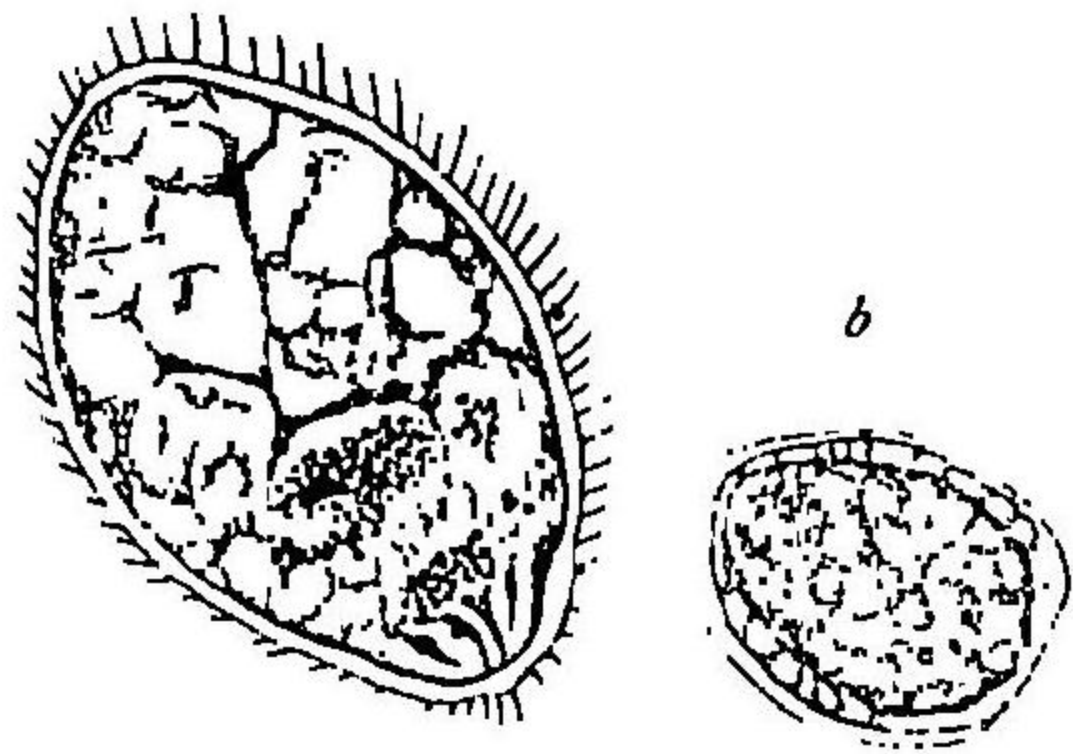
(日本住血吸蟲) *Schistosomum haematobium japonicum* (桂田富士郎氏) (第三百二十四圖卵



雌雄兩蟲相抱合スル者
 (I) 雄蟲
 (A) 口吸盤 (B) 腹吸盤
 (C) 食道 (D) 腸管
 (E) 子宮 (F) 卵管
 (G) 腸管 (H) 腸管
 (I) 腸管 (J) 腸管
 (II) 雌蟲
 (a) 口吸盤 (b) 腹吸盤
 (c) 食道 (d) 分岐セル腸管
 (e) 子宮 (f) 卵管
 (g) 卵 (h) 卵
 (i) 卵 (j) 卵
 (k) 卵
 (l) 卵

日本住血吸蟲 (氏保岩屋士)

日本住血吸蟲卵 (氏保岩屋士)



(a) 子蟲ヲ包藏セル者 (b) 子蟲殼皮外ニ脱出セルモノ

子ハ醫學士河西健次氏始テ所謂「片山病」患者ノ糞便中ニ發見シ次テ藤浪及桂田ノ兩博士其母蟲ヲ人及猫ニ於テ發見セリ醫學士土屋岩保氏ニ據レバ本蟲雄蟲ノ大、ハ一・五・五密迷ニシテ灰白色ヲ呈シ表面平滑ニシテ淺キ絞部ニ由テ短キ前體ト長キ後體トニ區分セラレ前體中ニ口吸盤及腹吸盤有リ後體ハ甚ク長ク其末端ハ急ニ狹小ト爲リ蟲體ノ兩側縁ハ全部腹側ニ向テ彎曲シ殆ド管狀ヲ爲シ雌蟲ヲ抱擁ス雌蟲ハ長一・八・七密迷ニシテ圓筒狀ヲ爲シ細長ノ前體ト太ク且稍短キ後體ヨリ成リ黑色乃至黑褐色ヲ呈シ表面亦平滑ニシテ前半部ノ末端ニ口吸盤ヲ具ヘ腹吸盤ハ其少シク後方ニ在リ蟲體ハ前部ヨリ後方ニ至ルニ從ヒ増大シ中央部ハ殊ニ膨大シ此所ニ卵巢ヲ藏シ子宮ハ腹吸盤ノ直後ニ開口シ腔内ニ夥多ノ蟲卵ヲ容ル而シテ其卵(第三百二十五圖)ハ卵圓形若クハ楕圓形ニシテ其一端ハ他端ヨリ稍狭小ナリ殼ハ淡黄色若クハ淡

褐黄色ニノ内外ノ二層ヨリ成リ蓋ヲ具ヘズ宮内ニ有スル卵子ノ内容ハ大小不同ノ顆粒狀物ヨリ成レヒ糞便中ニ現ル、卵子中ニハ既ニ子蟲ヲ存ス子蟲ハ端鈍圓ナレヒ他端ハ漸次狹小ト爲リ體表ニ纖毛ヲ密生シ其大縦徑〇・〇八七五密迷横徑〇・〇六四三密迷ヲ算ス

本蟲ハ飲料水ノ媒介ニ由リ人體内ニ侵入スル者ニノ土屋氏ノ説ニ憑レバ其未ダ充分ニ成長セザル者若クハ其交接セザル者ハ門脈枝別内ニ住スレヒ既ニ交接セル者ハ漸次腸間膜靜脈ニ溯リ腸壁ニ於ケル細靜脈枝ヲ充塞シ多數ノ卵ヲ此所ニ蓄積シ遂ニ血管ヲ破リテ腸壁ニ出ルト云フ而シテ寄生蟲ハ殊ニ廣島縣備後國安那深津諸郡及山梨縣甲府附近諸村ニ發見セラレタル者ニノ其人體内ニ寄生スルヤ初期ニハ食慾亢進及下痢ヲ來シ稀ニ持重スル弛張熱ヲ發シ最初肝臟ノ肥大ヲ來シ次テ脾臟ノ腫大ヲ起シ脾腫ハ漸次頗著明ト爲リ此間胃腸ノ出血腹水等ヲ發シ其經過甚々緩慢ニノ遂ニ死ニ歸スル者少カラズ

肝經及檢形吸蟲

(八)肝。經。Dionium hepaticum 及檢形吸蟲。Dionium lanceolatum ハ人體内ニ寄生スルコト共ニ甚々稀有ナルモ其卵。子。(圖三百二十六及三百二十七圖)ハ膽汁ト共ニ腸内ニ來ルヲ以テ大

圖六十二百三第
卵ノ經肝
(氏ルレルへ)



圖七十二百三第
卵ノ蟲吸形檢
(氏ルレルへ)



便中ニ之ヲ見ルコト有リト云フ

(九) 大便ノ顯微鏡的檢查

大便ノ顯微鏡的檢查

大便ノ顯微鏡的檢查 Die mikroskopische Untersuchung des Stühle ヲ行フ

ニハ其一小部ヲ取り之ニ水或ハ半%ノ食鹽水ヲ加ヘテ細分ス可シ但稀薄ノ便ニハ之ヲ加フルコトヲ要セズ暫ク之ヲ安置シテ檢査ノ目的ニ從ヒ之ヨリ其一部ヲ取り鏡檢ス可シ而シテ其廓大ノ度ハ概ノ強キヲ要スルモ寄生蟲卵ヲ檢スルニハ中等度ノ廓大ヲ以テスルヲ良トス

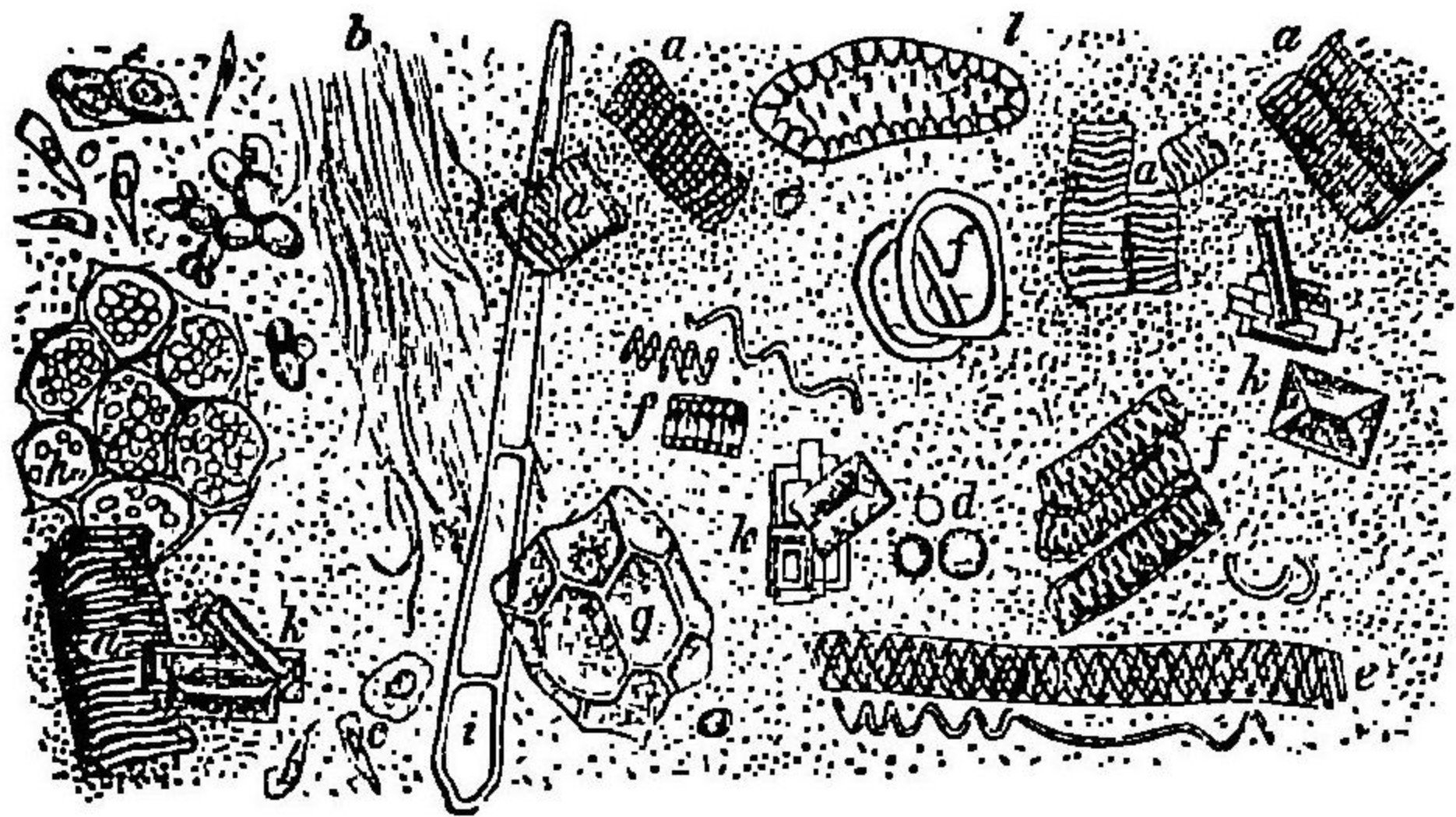
不消化性食物成分
植物性細胞ノ被膜

(一)不消化性食物成分。Unverdauliche Nahrungsbestandtheile. 該成分ハ何レノ糞便中ニモ存スル者ニノ攝取セル食餌ノ品質ニ從ヒ固ヨリ多少有レヒ多クハ植物性細胞ノ被膜其他彈力性纖維等ナリトス

可消化性食物成分
筋纖維、結締組織、澱粉、脂肪等

(二)可消化性食物成分 *Verdauliche Nahrungsbestandtheile*. 此成分ニノ肉眼ヲ以テ認メ得可キキハ小腸消化ニ障碍有ルヲ察知スルニ足ル可シト雖筋纖維(横紋ヲ存スルヲ有リ)結締組織澱粉顆粒脂肪等ノ顯微鏡的小分子ハ常便中ニ於

大腸ノ顯微鏡的検査
(氏ニシテ)

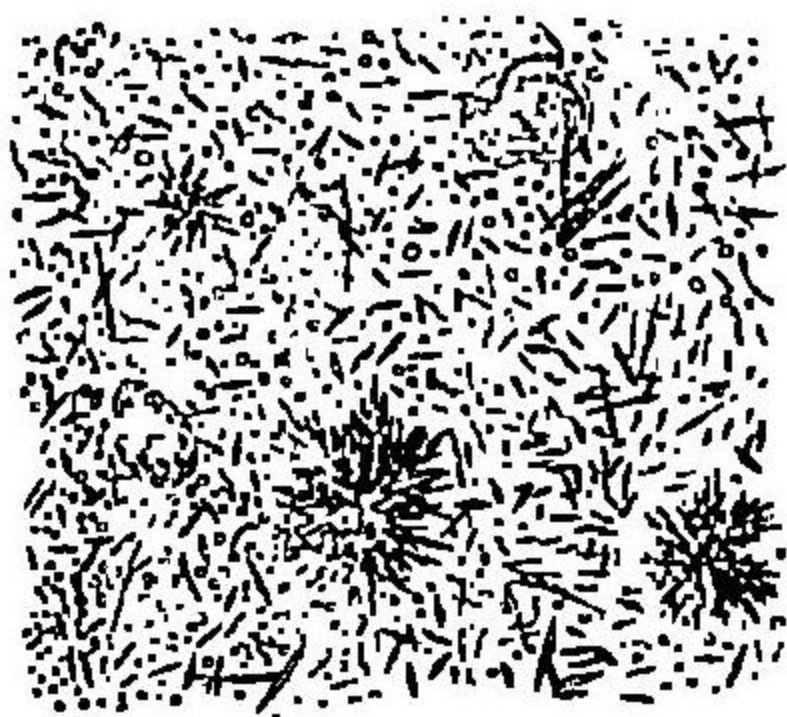


(a)筋纖維
(b)結締組織
(c)上皮
(d)白血球
(e)螺旋狀細胞
(f)種々植物性細胞
(g)磷酸安眠尼亞麻
(h)個體失亞
(i)結晶(石細胞)植物質(其他此間ニ諸多ノ微生物有リ)

テモ僅ニ之ヲ存ス(第三百二十八圖)然レ是等ノ成分ニノ若ク多量ニ存在スルキハ病的ニ小腸(若クハ又胃)ニ消化障碍有ルノ徵ト爲ス可シ而シテ殊ニ筋纖維小片及間諸多ノ大便成分ノ鏡檢上濃黃色ヲ呈スルハ便中ニ尙變化セザル膽汁ノ存在スルニ因ルモノニシテ亦小腸加答兒ノ徵ト爲ス可シ

脂肪結晶

無膽汁ノ顯微鏡的検査
脂肪結晶



多角硝子樣片塊滴狀ヲ呈スル脂肪及針狀結晶ハ屢大便中ニ認ムル所ニシタルノハ之ニ硫酸ヲ加ヘテ熱スルキハ脂肪滴ニ化スルヲ以テ之ヲ識ル可シ(ミユルル氏)脂肪滴ハ乳汁ヲ飲用シ(故ニ小兒ニ多シ)又肝油蓖麻子油等ヲ服用スルキハ大便中ニ多ク存ス殊ニ腸加答兒ヲ有スル者ニ於テ最モ甚シトス又針狀ノ脂肪結晶(第三百二十九圖)ハ診斷上注意ス可キ者ニシテ其數饒多ナル者ハ脂肪ノ吸收ニ障碍有ルノ徵ナリ而シテ該障碍ハ胆汁ノ腸内ニ流注スルヲ妨ゲラル、カ或ハ諸種ノ腸炎(結核澱粉樣變性)其他腸間膜腺ノ疾患ニ因ル者トス

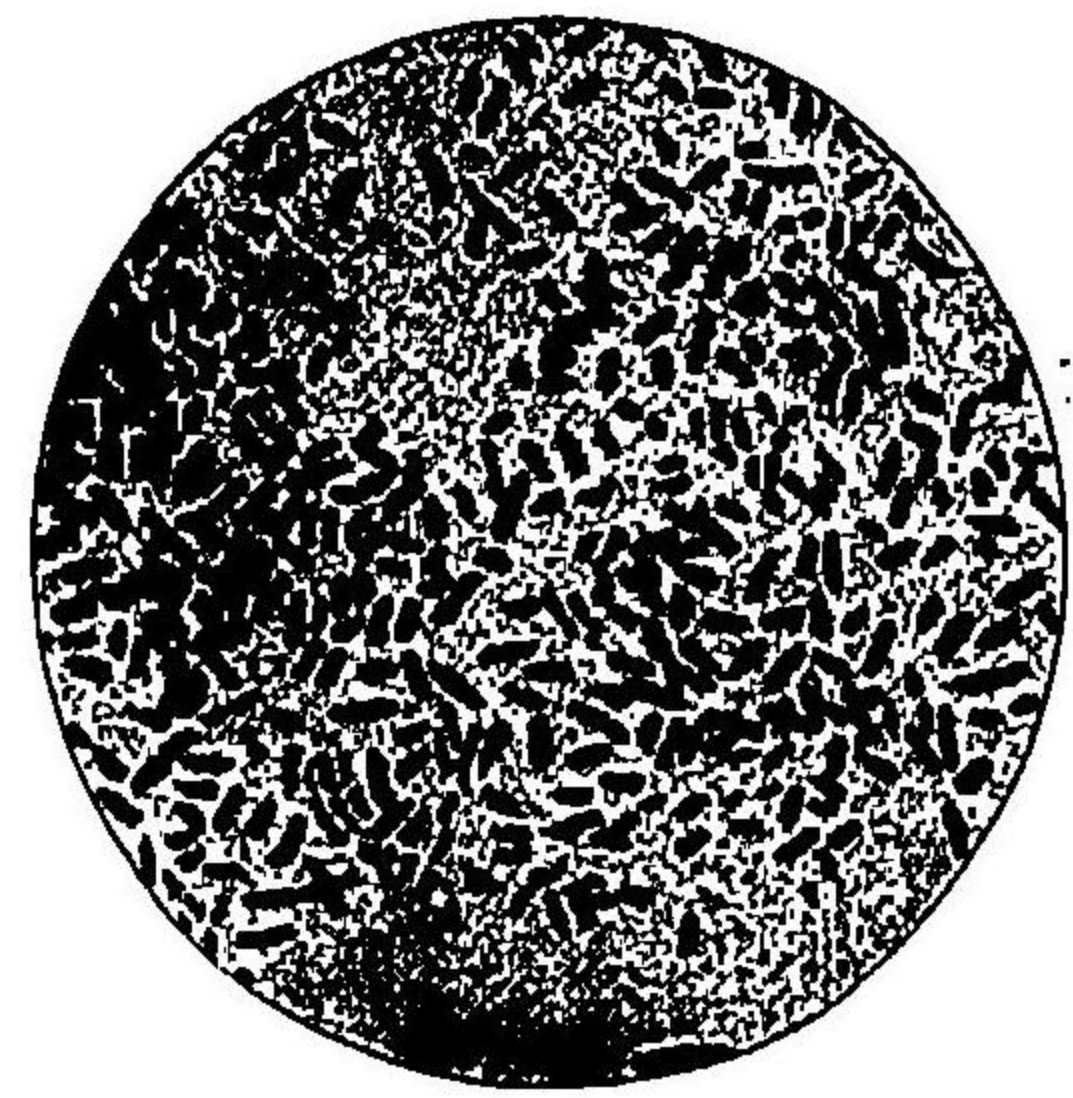
近時ノ研究(アーベルマン氏)ニ憑レバ脂肪消化ハ腺臟ノ摘出ニ由テ著シク減少セラレ若クハ歇止セラレ、者ナルヲ以テ慢性ノ脂肪下利症ニ在テハ常ニ亦腺臟ノ疾患ニ意ヲ注ガザル可カラズト

此他大便中ニハ亦食物ノ分解ニ由テ生ズル所ノ諸種ノ頽敗物 *Detritus* ヲ見

大便ノ顯微鏡的検査

普通大腸菌

普通大腸菌



純粹培養法ヲ行フヲ肝要トス

(八)普通大腸菌 *Bacterium coli commune* (第三十三九圖)ハ短キ桿狀菌ニシテ大腸中ニ在リテ通常無害ノ腐敗細菌タルモ亦時ニ病的有害ノ者ニ變ズル者ニシテ近時益之ヲ證明スルニ至レリ即チ該菌ハ傳染性腸加答兒症ニ於テ屢々饒多存在スル者ニシテ間、虎列拉様ノ米泔汁便中ニ

許多存在シ又瘻扶斯ニ似タル症狀ヲ惹起シ或ハ腸壁ヲ通過シテ腹膜炎ヲ起シシメ又血中ニ達シテ遂ニ遠隔ノ臟器ニ抵リ炎症若クハ膿瘍ヲ發セシムルコト有リ而シテ該細菌ハ頗々瘻扶斯桿菌ニ肖似スルモ其諸般ノ性質ニ至テハ全ク之ト異ナル者ニシテ固ヨリ異種ノ細菌ニ屬ス可シ

結核桿菌

(二)結核桿菌 *Tubercle bacillus* リヒトハイム氏ハ始テ結核性腸潰瘍患者ノ大便中ニ於テ此桿菌ヲ發見シ次デ他ノ諸家之ヲ檢出セシモ肺結核患者ニ在

テハ腸結核ヲ有セザルモ往々其大便中ニ結核桿菌ヲ見ルコト有リ是、其痰ヲ

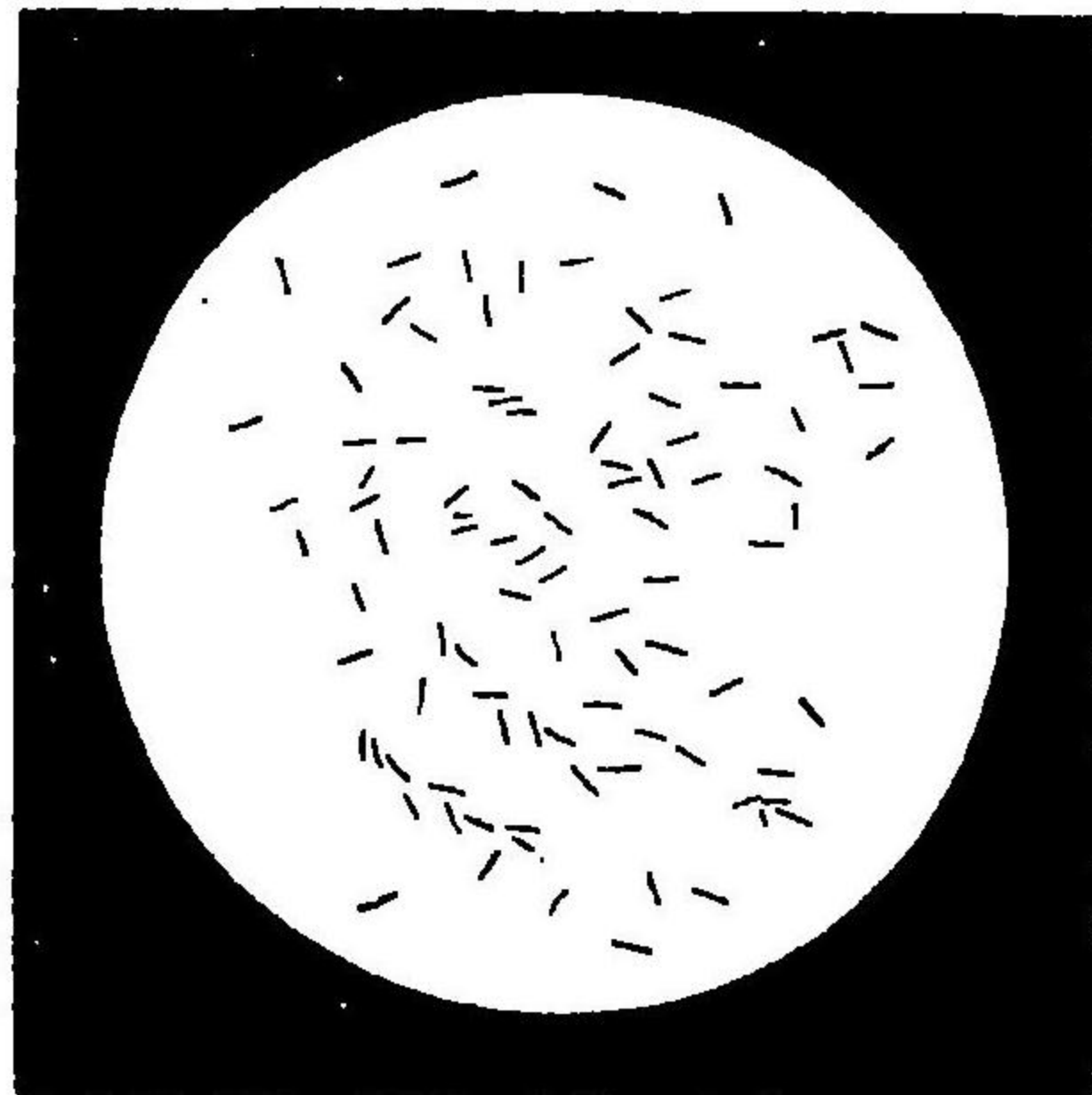
嚥下スルニ因ルハリ其検査法ハ前編痰ノ検査法ニ掲ゲタル法ニ同ジ(前編三二八頁參照)

赤痢桿菌

(九)赤痢桿菌 *Bacillus dysentericus* 赤痢ノ病原ニ關シテハ泰西諸國ニ於テモ從來諸説

一定セス或ハ之ヲ一定ノおめーばニ歸シ或ハ之ヲ一種ノ細菌ト爲スモ我邦ニ於テハ近ニ緒方正規氏赤痢患者ノ排泄物中ニ一種ノ桿菌ヲ發見シ次テ明治三十年志賀潔氏ハ腸瘻扶斯患者ノ血液ヲ同名菌ノ肉汁培養ニ滴加シ以テ特異ノ凝集反應(所謂カサダール氏反應)(前編五三三頁參照)ヲ呈スル事實ニ基キ赤痢患者ノ

志賀氏赤痢桿菌 (くよくよ染色)



排泄物及腸壁等ヨリ一種ノ桿菌ヲ發見シ之ヲ赤痢桿菌ト名ケ世ニ公ニセリ(明治三十年十二月發行細菌學雜誌第二十五號)該菌(前編三四十四)ハ大腸菌ト略シ同大ノ桿菌ニシテ通常孤立スルモ罕ニハ二個連結シめち一れん膏溶液ニ由リ其兩端著シク染色シテグラム氏染色法ニ由リ脱色ス固有運動

ハ之ヲ有スレモ活潑ナラズ又げらちんナ液化スルノ性無シト云フ然レモ志賀氏ノ所謂赤痢桿菌ハ果シテ赤痢固有ノ病原菌ナリヤ否ヤ未ダ普ク學者ノ是認スル所トナラザル者ノ如シ

動物性寄生

(六)動物性寄生體

Thierische Parasiten.

目睹シ得可キ動物性寄生體竝ニ其卵

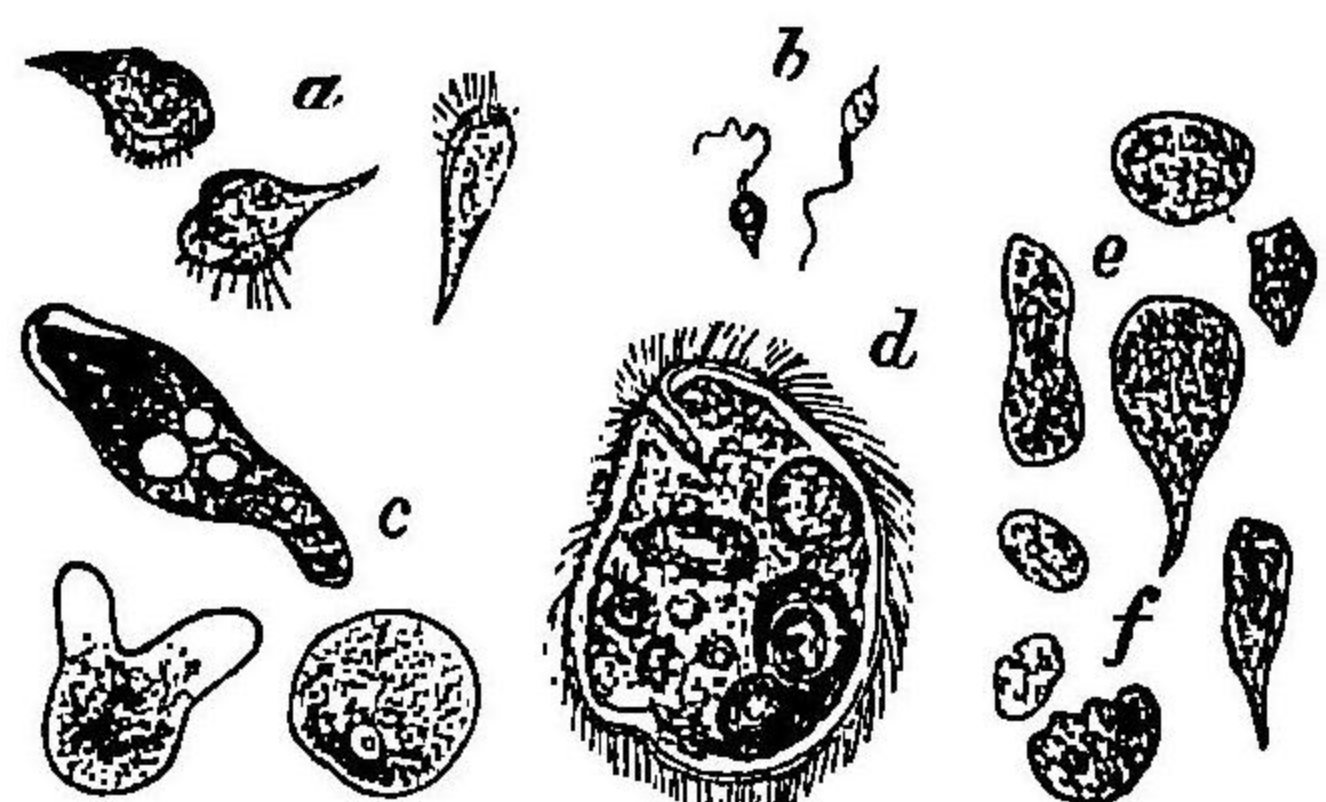
子ハ既ニ上章ニ敘述セリ茲ニ尙人體ノ腸管内ニ寄生スル二三ノ原生動物

*Protozoa*ヲ略述セム之ニ根足蟲胞子蟲滴蟲等ノ諸種有リ

根足蟲

(1)根足蟲 *Rhizopoda*ニ又左ノ數種有

十個ノ中ノ族大腸ノ内ニ

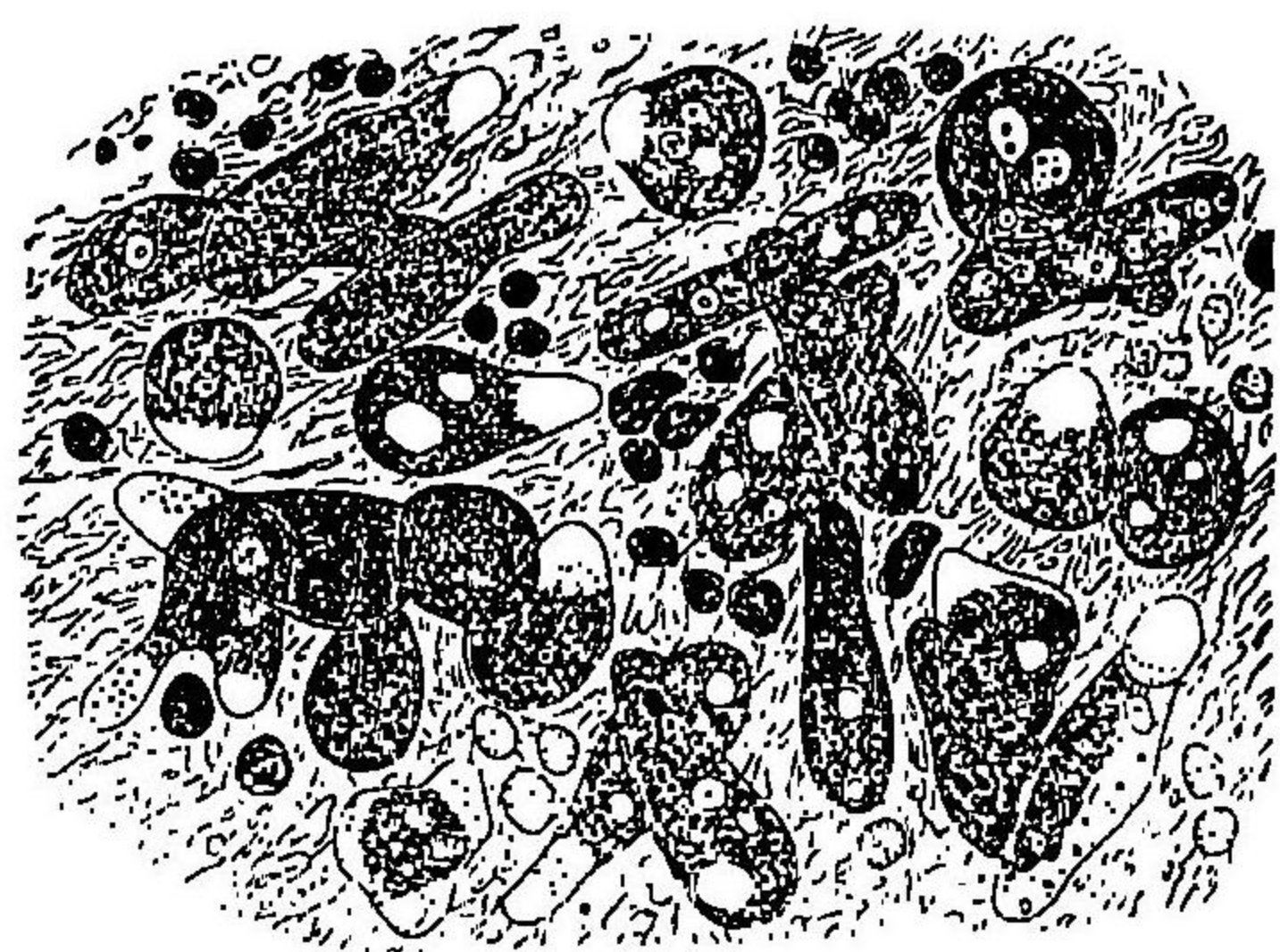


(a)腸より
(b)腸中
(c)腸内
(d)腸内
(e)腸内
(f)腸内

リ
もナリ
族 *Monaden.* ノトナゲ
ル氏ハ屢肺癆窒扶斯及心臟病ニ罹
レル患者ノ下利便中ニ此種ノ寄生
小體ヲ發見シタリシガ該寄生體ハ
糞便排泄後直ニ検査スルニ非ザレ
バ生存セズ其死シタル者ハ大小種
種ノ環圓狀體(第三百四十一圖)ヲ呈スレ

凡生活セルもナリでんハ梨子狀ニ屢著シキ尖銳ノ突起(鞭毛)ヲ有シ該突
起ハ活潑ニ運動ス(同圖e)ヤクシユ氏ハ哺乳兒及小兒ノ糞便中ニ於テ屢斯ノ
如キ成形物ヲ見タルヲ有リト云フモノトナゲル氏ニ憑レバ該寄生體
ハ病理學上肝要ナル者ニ非ズト云フ
大腸
あめ
いば
Amoeba coli (第三百四十一圖) 及第三百四十二圖ハ根足蟲ニ屬スルあめい

腸液ニ於テ大腸ノ内ニ



ばニノ人體ノ大腸中ニ寄生シ其形狀
類圓楕圓梨子狀其他種々ニノ虛足ハ
透明ナルモ蟲體ハ原形質顆粒核及空
胞ヲ有ス而シテ此單一ノ細胞ヨリ成レ
ル小體ハ滲水ノ如キ液體ノ分解スル
所ニ好デ棲息スル者ニシテ又腸潰瘍及
多數ノ下痢症患者ノ腸排泄物中ニ之
ヲ見ルヲ有リ殊ニ該寄生體ハ熱帶地
方ニ於テハ赤痢患者ノ便中ニ發見セ
ラレ又之ニ繼發セル肝臟膿瘍中ニ之

ル氏ノちることもなす *Cercomonas intestinalis* ト同一ノ者ナラムト云フ(第三百四十四圖a)
 腸とりのこともなす(第三百四十一圖a)ハ腸ちることもなすニ比スレバ稍大ニノ梨子
 状ヲ呈シ體ノ一端ニ許多ノ毘毛ヲ具フルヲ以テ之ト識別ス可シ
 大腸ばらめちらうむ(又之ヲ大腸ばらんちらうむ *Balanidium coli* ト名ク(第三百四十二圖d)ハマルムステン氏ノ始テ發見セル所ニノ下利便中ニ存シ形體卵圓
 狀ニノ其周圍ハ毘毛ヲ以テ被ハレ體内ニ一個ノ核ト二個ノ收縮性小胞ト
 ヲ具ヘ其他屢澱粉小體及脂肪小球ヲ含有ス而シテ此寄生物體内ニ存スルハ
 ハ下利ヲ起ス可キモ絶エテ病理的ノ關係ヲ有セザル者トス

上記ノ動物性寄生物ヲ鏡檢スルニハ新鮮ノ大便ヲ採リ加温載物硝子上ニ於テ
 檢ス可シ

ルツツ氏ハ之ニ體温ト同度ノ新鮮ナル唾液ヲ加フルヲ稱用セリ該寄生物ハ運
 動スル間ハ容易ニ發見セラレ得ルモ冷却スルハ忽チ靜止スルヲ以テ之ヲ發
 見スルヲ甚難シトス

大便ノ化學的検査

大便ノ化學的検査(灰分、窒素、脂肪等ノ定量)ハ診斷上ニ應用セラレ、
 ナ以テ茲ニ之ヲ贅セズ

第五章 肝臟検査法

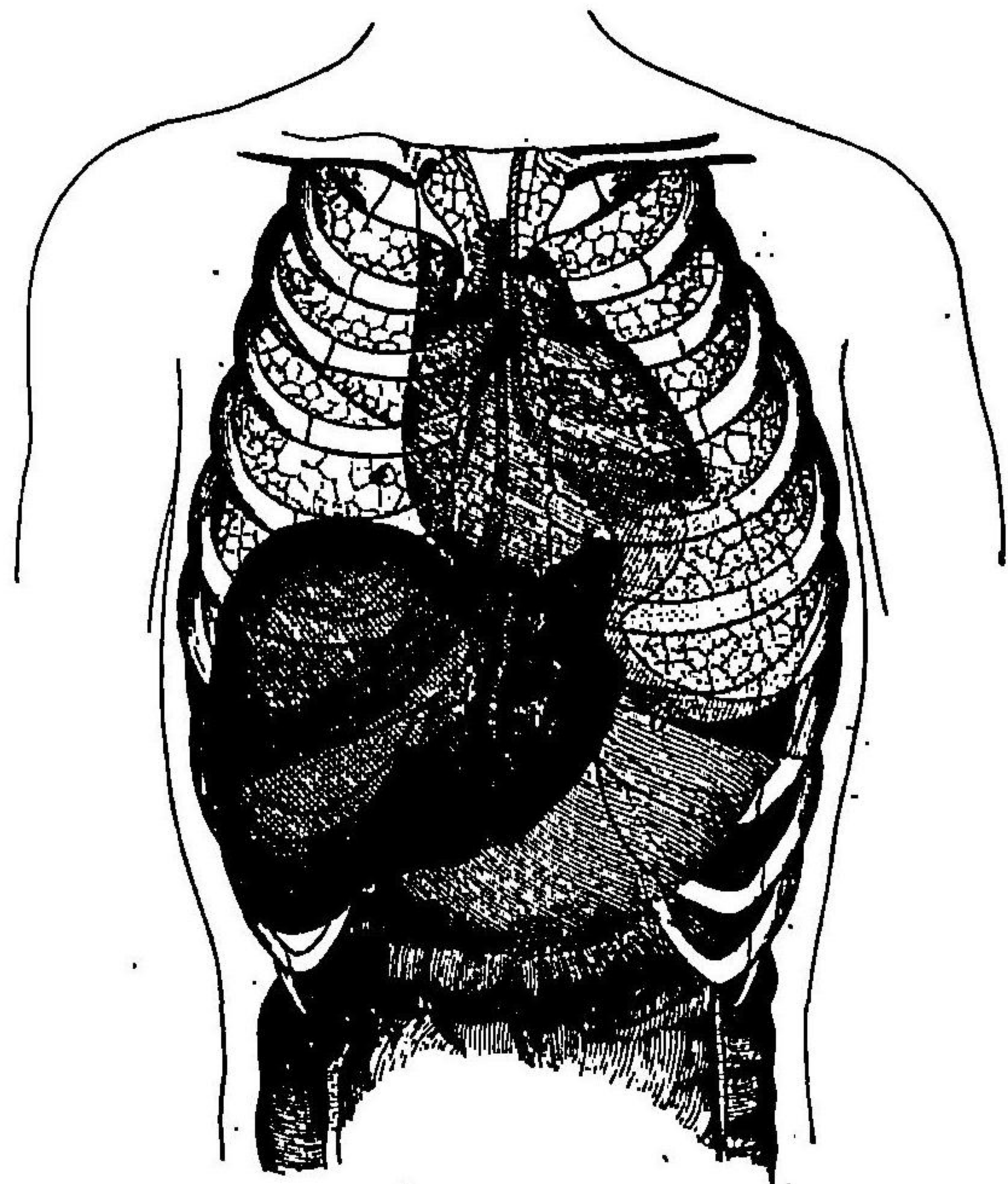
解剖摘要

肝臟ノ解剖

肝臟(第二百八十二、二百四十五及二百四十六圖)ハ腹膜ヨリ掩ハレ横隔膜ノ穹窿部ニ於テ
 之ニ密接シ提肝靱帶及其下面ニ作用スル腹内壓力ノ爲ニ此處ニ固定セラ
 ル而シテ其容積ノ四分ノ三ハ右半身ニ屬シ左半身ニ屬スル者ハ唯四分ノ一
 ニシテ其大部ハ右季肋部ニ位シ左季肋部ニ達スル部ハ正中線ヲ距ル平均
 五乃至七仙迷ノ所ニ在リ又其最高點(右葉)ハ屍體ノ横隔膜呼吸氣位置ニ於テ
 ハ第五肋骨ノ胸骨附著部ノ高ニ達シ大約右乳線及副胸骨線間ノ中央ニ位
 シ左葉ハ心臟ヲ戴ク所ノ横隔膜部ト胃トノ中間ニ位ス
 尖銳ナル肝臟下緣ハ肩胛線及中腋下線ニ於テ大約第十一肋骨部ニ位シ乳

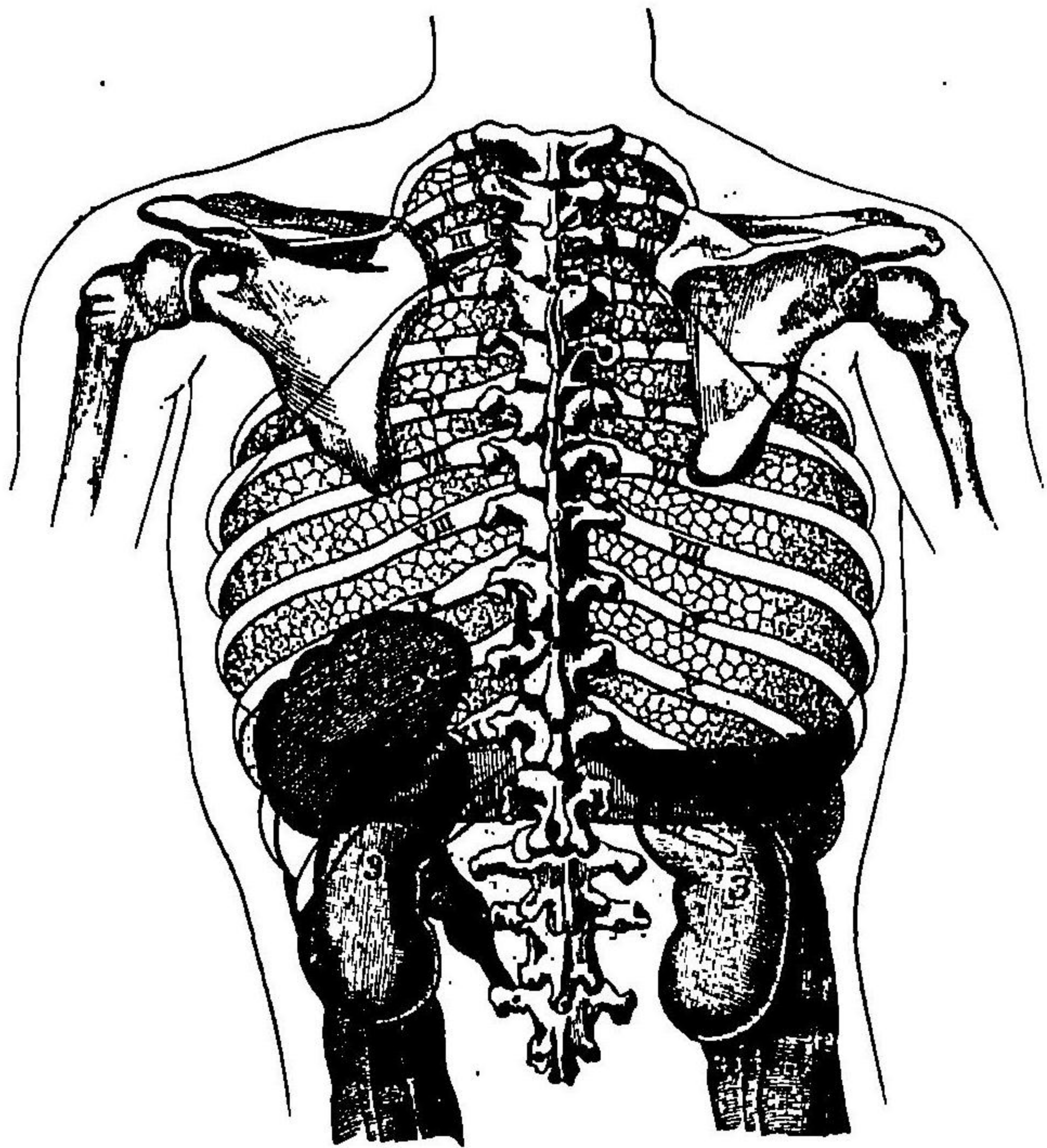
線ニ於テハ肋骨弓下ニ聳出シ次デ斜ニ上腹部ヲ左上方ニ走リ左胸骨線ノ
稍外方ニ於テ復テ肋骨弓下ニ入り正中線ニ於テハ大約劍狀突起端ト臍トノ
中間距離ノ上及中三分一部ノ所ニ達ス而シテ肝臓ノ下縁ニハ二個ノ截痕有

見所面前ノ臟肝
(氏トスロホトイア...



- (1) 肝臓
 - (2) 膽嚢
 - (3) 心臓
 - (4) 右肺
 - (5) 左肺
 - (6) 胸膜
- ノ補充費

見所面後ノ臟肝
(氏トスロホトイア...



- (1) 肝臓
- (2) 胸膜
- ノ補充費
- (3) 腎臓
- (4) 脾臓

リテ一ハ圓靱帶ヲ納レ通常正ニ正中線ニ當リ一ハ膽嚢ヲ藏シ延長セル副
胸骨線及乳線ノ間ニ於テ肋骨弓ノ直下ニ在リ

肝臟ハ其全面ヲ以テ直ニ胸壁及腹壁ニ接著セズ其橫隔膜穹窿下ニ在ル所ノ右葉ノ最上部ハ右肺ヨリ蔽ハレ左葉ノ最上部ハ心臟ヨリ蔽ハレ唯其一小部ヲ以テ腹壁ニ接スルノミ
 小兒ニ在テハ肝臟ハ大人ニ比スレバ其諸直徑比較的稍大ニ其下縁ハ腋下線ニ於テ屢、肋骨弓下ニ聳出ス
 肝臟ハ通常橫隔膜ノ運動ニ隨伴シテ運動スルヲ以テ吸氣時ニ於テハ下垂シ呼氣時ニ於テハ上昇ス

第一 肝臟視診法

肝臟視診法

肝臟視診法 Die Inspection der Leberハ背位ニ於テス可シ大人ニ在テハ肝臟部(即チ右季肋部)ハ左側ノ之ニ一致スル部位ト視診上毫モ異ナル所有ルヲ見ズト雖小兒ニ在テハ右季肋部ハ左側ニ比スレバ間、稍隆起スルコト有リ
 右季肋部若クハ又上腹部及右肋骨弓下部ノ隆起ハ肝臟肥大ヲ示ス者ニシテ斯ノ如キ状態ヲ呈スルニ至ルニハ肝臟ハ稍高度ノ肥大ヲ有セザル可ラズ

肝臟肥大

而シテ此際胸廓ノ甚強固ナル者ニ在テハ肋骨ノ突隆ヲ缺如スト雖小兒或ハ若年ノ婦人ニ於ケルガ如ク肋骨ノ屈撓シ易キ者ニ在テハ亦肋骨ノ前方ニ突隆スルヲ睹ルヲ有リ又肝臟ノ著シク増大セル者ニ在テハ其下縁ハ腹壁上ヨリ目撃シ得可ク通常毎吸氣時ニ著シク下降スルヲ見ル殊ニ腹壁ノ菲薄ナル者ニ於テ然リトス蓋シテ此呼吸的移動ハ肝臟ノ他亦脾臟ニ來ル者ナリト雖胃腸、網膜、脾臟及腎臟ハ通常此運動ヲ營ムヲ無キヲ以テ是等臟器ノ腫瘍ト判別スルニ甚肝要ナル徵候ナリトス

肝臟轉位

唯右肋骨弓下ノ腹部ノミ隆起ヲ呈スルハ多クハ肝臟ノ下方ニ轉位スルヲ示ス者ニシテ肝臟肥大スルヲ無キモ亦之ヲ目撃スルヲ有リ然レ其著シキ隆起ハ増大セル肝臟ノ轉位ニ因ル者トス

肝臟部ノ腫瘍

時トシテ増大セル肝臟ノ表面ニ於テ呼吸運動ニ伴テ移動スル腫瘍ヲ見ルヲ有リ是レ多クハ肝臟ノ新生物殊ニ癌腫ナリ又延長セル副胸骨線及乳線ノ間ニ於テ往々大小不同ナル平滑梨子狀ノ腫瘤ヲ睹ル是レ過度ニ充盈セル膽嚢ニシテ健者ニ在テモ胃腸空シキハ間之ヲ見ルヲ有レ胆管ニ障礙有リテ胆汁ノ流出妨ダレ或ハ膽嚢水腫ニ之ヲ見ルヲ最多トス其他膽嚢癌腫ニ

在テハ此部ニ結節狀ノ腫瘤ヲ見ルコト有リ

肝臟動脈及肝臟靜脈ノ口撃シ得可キ搏動ハ既ニ循環器系統診法ノ條下ニ述ベ
ルコト(註ニ見ルニ可シ)

第二 肝臟觸診法

肝臟觸診法

肝臟觸診法 Die Palpation der Leber. 此臟器ノ診斷上最モ肝要ナル者
ニ之ヲ行フニハ仰臥ノ位置ニ於テスルヲ最モ適良ナリトス然レモ腹壁緊張
スルキハ甚ク此診查ヲ難カラシムルヲ以テ此際患者ヲ股膝兩關節ヲ屈曲
セシメ同時ニ上腿ヲ外轉シ口ヲ開キテ靜ニ呼吸セシム可シ然レモ亦患者ヲ
ノ深吸氣セシメテ觸察スルノ必要ナルコト有リ而シテ肥滿家竝ニ鼓脹及腹水
有ル患者ニ在テハ肝臟ヲ觸診スルコト甚ク難シ鼓脹及腹水患者ニ在テハ左方
ニ側臥セシメ衝突狀ノ觸診ヲ行フ可シ即チ其衝突時ニ當リ腹壁及肝臟ノ間
ニ在ル所ノ腸管或ハ液體一瞬時他方ニ驅逐セラレ、ヲ以テ此際纔ニ其表
面ヲ指觸スルコトヲ得可シ

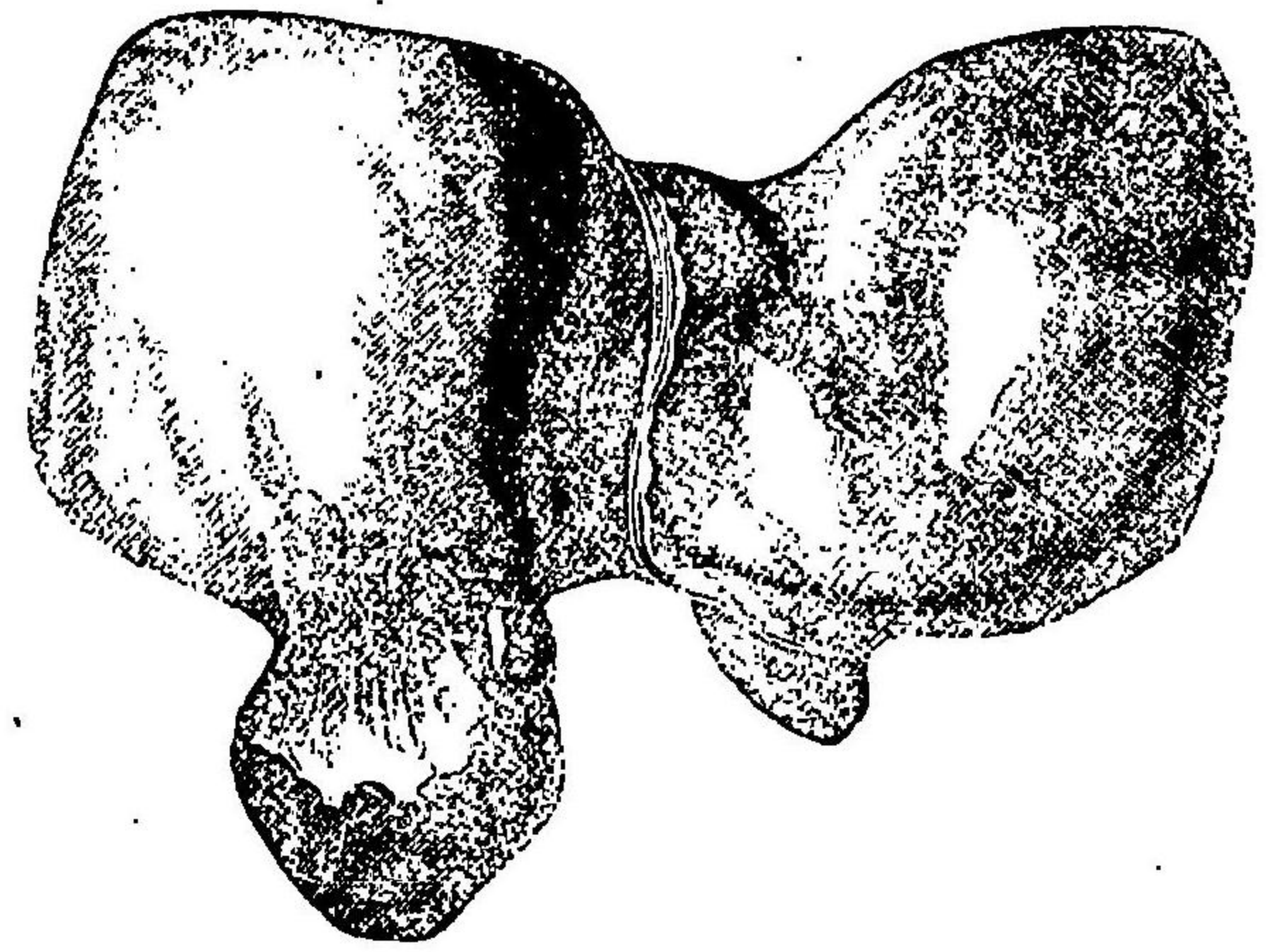
健體ニ於ケル
肝臟ノ觸

健全ナル大人ニ在テハ通常肝臟ノ表面及其下縁ヲ觸知スルコト能ハズト雖

腹壁非薄ニ弛緩セル者(殊ニ婦人ニ於テス)ニ在テハ間、乳線ニ於テ肋骨弓
部或ハ罕ニ上腹部ニ於テ之ヲ觸ル、コト有リ是レ殊ニ深吸氣時ニ於テ然ル者
ニ就中小兒ニ在テハ肝臟比較的大ナルヲ以テ屢、明クニ之ヲ觸知シ得可シ

病態ニ於ケル
肝臟ノ觸

肝臟觸診法
(氏 ヒ ヲ リ レ フ)



歐、米婦人ニ於ケルガ如ク常ニ
ころせ、ミナ帯用スル婦人ニ在
テハ所謂其絞、肝(Schurleber)(第三
四十七圖)ノ下縁ヲ觸知スルコ
ト得可ク之ヲ壓スルニ間、疼痛
ヲ訴フルコト有リト云フ
病態ニ於テ肝臟肥大スルカ
或ハ轉位スルキハ之ヲ觸知
スルヲ得可シ即チ之ヲ觸診ス
ルニ稍、其抵抗ノ強キヲ覺エ
或ハ明クニ其下縁ヲ觸知シ又
其兩截痕ヲ觸知スルコト有リ

肝臟ノ下方

(一)肝臟ノ下方ニ轉位スルハ多クハ橫隔膜ノ下降ニ因スルヲ以テ殊ニ高度ノ肺氣腫、右側胸膜炎、滲出物、及右側氣胸ニ來ル又左側胸膜炎、左側氣胸、心囊外膜炎ニ由リ僅ニ左肝葉ノ尖端ヲ壓迫シ以テ肝臟ノ下緣ヲノ上腹部ニ於テ稍、水平ノ位置ヲ取ラシムルヲ有リ其他甚稀ニハ亦提肝靱帶ノ弛緩ニ因リ肝臟下方ニ轉位スルヲ有リ是殊ニ數回分娩シタル女子ニ見ル所ニ其極、テ高度ノ者ニ至テハ肝臟全ク其常位ヲ去リ卑ク腹腔内ニ下垂シ明ニ之ヲ觸知ス可ク又通常外壓ニ由テ容易ニ之ヲ復位セシムルヲ得可シ而ノ斯ノ如キ肝臟ハ常ニ甚運動シ易ク且患者ノ體位ニ由リ其位置ヲ變ズ所謂遊走肝(Wandering liver)ナル者はナリ又時トノハ橫隔膜下膿瘍ニ由リ肝臟下方ニ壓排セラレ此際橫隔膜モ亦同時ニ上方ニ壓迫セラル、ヲ有リ

(二)肝臟ノ上方ニ轉位スルハ唯橫隔膜ノ高位ヲ取レル際ニ來ルヲ有ルノミ肺臟萎縮、下方ヨリノ壓迫、橫隔膜ノ炎性、或ハ神經性麻痺ニ於ケルガ如キ是ナリ

肝臟ノ上方

肝臟肥大

(三)肝臟肥大ノ諸般ノ疾患ニ來ル者ニ鬱血肝(殊ニ僧帽瓣膜異常、肺氣腫ニ因ル)、脂肪變性、豚脂變性、其他膽汁鬱積、瀰蔓性肝臟炎、及或急性傳染病ニ由テ

肥大セル肝臟ニ在テハ其肥大平等ニ該器官自然ノ形態ヲ失フ、無ク其下緣ハ腹部ニ聳出シ其高度ノ者ナルカ、或ハ腹内ノ壓力強キハ(殊ニ腹水ヲ存スルキ)亦橫隔膜ヲ上方ニ壓迫スルモ之ニ反シテ癌腫、包蟲囊腫、微毒膿瘍等ニ在テハ不等ニ肥大ヲ呈スル者ニ其發生部位ニ從ヒ或ハ前方ニ或ハ下方ニ或ハ上方(橫隔膜ヲ壓排ス)ニ其増大ヲ認ム可シ而ノ是等諸般ノ疾病ニ就テ肝臟ヲ觸察スルニハ其疼痛、形狀、表面、及下緣ノ狀況、硬軟、及搏動ニ注意スルヲ肝要トス

(イ)肝臟ノ壓痛 是膽汁鬱積、炎症(其限局性ノ者ハ肝臟膿瘍ノ診斷ニ緊要ナリ)肝臟硬變症ノ初期、急發性鬱血肝、及殊ニ癌腫ニ來ル者ニノ間歇熱ニ在テモ亦腫脹肝ヲ壓迫スルニ疼痛ヲ覺ユ之ニ反シテ其脂肪變性、豚脂變性、硬變症、其他鬱血肝(久時平等ニ存スル者ニ於テ)包蟲肝竝ニ多ク微毒性ノ肝臟疾患ニ於テハ通常疼痛ヲ覺エザル者トス

(ロ)肝臟ノ大小及形狀 變形ヲ呈セズノ肝臟下緣ノ下降セル者ハ其平等ノ肥大、或ハ轉位ヲ表スル者ニ其肥大著シカラザル者ニ在テハ屢、此兩者ヲ識別シ難キ、ヲ有リ然レ其壓痛ヲ伴ヒ硬固ナルカ、或ハ他ノ器官ニ肝臟肥大

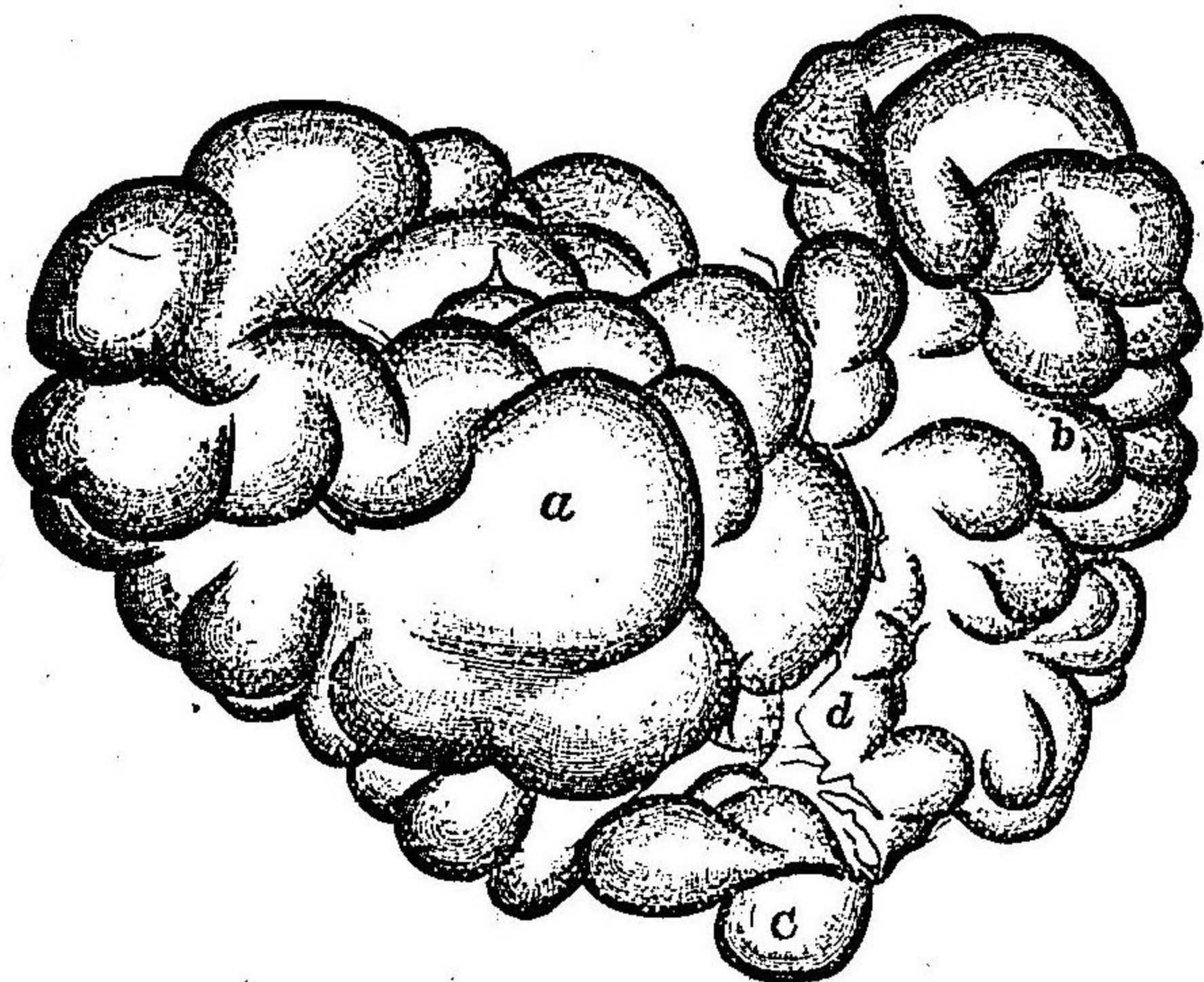
ヲ起サシム可キ症狀ヲ存スルキハ其増大セルヲ識ル可シ之ニ反シテ例之ハ
 右側胸膜炎性滲出物ノ存在ニ由テ肝臟ノ轉位ヲ知ルコト有リ但シ肝臟モ亦此
 兩者(肥大及轉位)ヲ併有スルコト有ルヲ忘ル可カラズ此他茲ニ注意ス可キハ

下方ニ轉位セル肝臟
 ハ宛々同時ニ増大セル
 カノ感ヲ懷カシムル
 コト有ルコト是ナリ

(a) 右葉
 (b) 左葉
 (c) 膽嚢
 (d) 提肝
 紐帶
 下方ニ轉位セル肝臟
 ニシテ指壓ニ由テ著シ
 ク移動シ又時トソ背
 位ニ於テ尋常ノ位置
 ニ整復セシム可キ者
 ハ遊走肝タルヲ識ル
 可シ

肝臟ノ形狀ハ増大セ

第三百四十八圖
 肝葉分



ル肝臟ノ廣ク腹壁ニ接近スルト否トニ由リ觸診上ノ所見甚異ナル者ニシテ
 増大セル肝臟ハ何レノ症ニ於テ其本形ヲ失ハザルヤハ上文既ニ之ヲ述ベタ
 リ而シテ其變形ヲ來スハ多ク諸般ノ腫瘍(就中癌腫、膿腫、包蟲囊腫)及癥痕(微
 毒)ニシテ殊ニ微毒性癥痕ニ由リ肝臟實質ハ屢、絞扼セラレ以テ所謂「分葉肝」
 (Hepar lobatum, scalloped Liver) (第三百四十八圖)ヲ形成スルコト有リ

(八) 肝臟表面ノ狀況。觸知シ得可キ肝臟ノ表面ハ平滑或ハ不平、結節狀等ヲ
 呈ス即チ中等度ノ肝臟鬱血及膽汁鬱積並ニ脂肪及豚脂變性及肝臟硬變症ノ
 初期其他所謂肥大性肝臟硬變症ニ在テハ其表面平滑ナリ又包蟲囊腫、癌腫
 加之ラズ微毒ニ在テモ腫瘤若クハ癥痕ヲ生ゼザル部位ハ之ヲ觸ル、ニ平滑
 面ヲ呈ス

肝臟硬變症ニ在テハ第一期ノ終及第二期ニ於テ其表面ニ許多ノ小顆粒狀
 結節ヲ呈スト雖該肝ハ通常小ニシテ屢、甚シキ腹水ヲ伴フヲ以テ腹壁上ヨリ
 其隆起ヲ觸知シ得可キコト絶、罕ナリ然レモ人工的ニ腹水ヲ排泄スルキハ之ヲ
 觸知ス可シ但シ該隆起ハ穿腹術後直ニ肝臟表面ニ生ジテ一二日ノ後再ビ消
 失スル所ノ不平面ト誤認ス可カラズ又彼ノ所謂肥大性肝臟硬變症ニ在テ

ハ其表面通常平滑ナレモ稀ニハ稍不平ヲ呈スルコト有リ
 肝臓表面ニ來ル所ノ大ナル隆起ハ殊ニ微毒及癌腫ヨリ來ル者ニ微毒ニ
 在ラハ多クハ扁平半球狀ノ腫瘤ヲ呈スル護膜腫ヨリ成リ或ハ癥瘕ヲ結ン
 デ陥入ヲ生ジ癌腫ニ在テハ榛實大乃至林檎大ノ結節ヲ生ジ時トノ其中央
 ニ於テ明カニ凹陷(癌臍)ヲ觸知スルコト有リ然レ内部ニ之ヲ生ズルモハ肝臓
 ノ表面平滑ナルヲ常トス 包蟲囊腫ハ扁平或ハ半球形ノ頗著シキ隆起ヲ
 呈シ大ナル肝臓膿瘍及強ク擴張セル膽道モ亦觸知シ得可キ腫瘤ヲ生ズ
 (三)肝臓ノ硬軟 肝臓ノ慢性肥大ニ在テハ急性ノ者ヨリ之ヲ觸ルハ硬固
 ニシ其最モ固キ者ハ肝臓硬變次ニ尋常肝及肥大セル肝竝ニ澱粉様肝ナリ而
 シ澱粉様肝鬱血肝及肝硬變症ニ在テハ平等ノ硬度ヲ呈スルモ膿瘍包蟲囊
 腫ノ如ク液物ヲ容ル、所ノ腫瘤ハ波動ヲ呈ス又包蟲囊腫ニ在テハ之ヲ觸
 ルハニ甚ク緊滿ノ感有リテ間、手掌ヲ以テ速ニ且短ク衝擊スルニ一種ノ喘鳴
 所謂「包蟲喘」(Hydatidenschwimm)ヲ呈ス
 腫瘤ノ膿瘍ナリヤ或ハ包蟲囊腫ナリヤハ宜シク試穿刺術ニ由テ之ヲ識別
 スベシ

肝臓ニ關シ、所ノ腹部大動脈及肝臓動靜脈ヨリ來ル搏動ハ上文已ニ之ヲ述
 べタルニ(參照五〇四頁)

膽囊ノ觸診

膽囊ノ觸診 膽囊ハ通常高度ノ羸瘦ヲ呈スル者ニ於テ時ニ之ヲ觸ル、
 有ルモ加答兒性黄疸ニ由テ膽汁ノ流出妨害セラレ或ハ水腫ニ由テ擴張ス
 ルモハ(膽汁鬱積及膽囊水腫)間、亦目撃シ得可キ者ニ之ヲ觸診スルニ平滑
 弾力性ナル梨子狀ノ波動ヲ呈スル腫瘤ヲ呈ス又稀ニ腹壁ノ菲薄ナル者ニ
 在テハ膽囊内ノ膽石ヲ觸知シ或ハ時トノ其癌腫(結節狀ノ膿瘍ヲ呈ス)ヲ觸
 知シ得ルコト有リ

第三 肝臓打診法

肝臓打診法

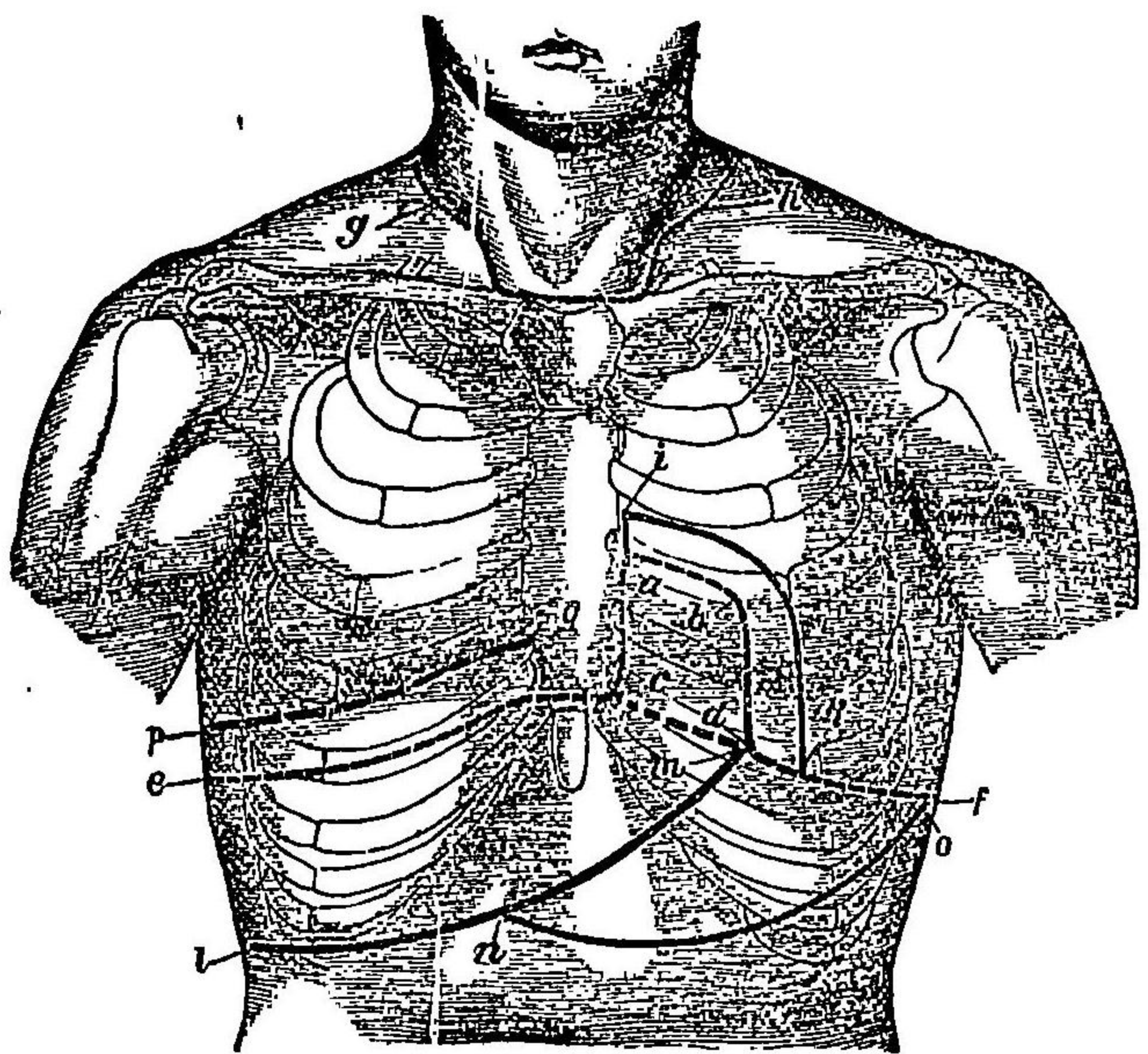
肝臓打診法 Die Percussion der Leber、診斷上甚ク肝要ナル者ニ之
 ヲ行フニハ前方ニ在テハ患者ヲ仰臥セシメ側方ニ在テハ仰臥若クハ起立
 セシメ背部ニ在テハ起立セシムルヲ最良トス

(天) 常態

常態ニ於ケル
純肝濁音部

肝臓ノ胸壁及腹壁ニ接著スル部ハ濁音ヲ發ス此發音部位ヲ名テ純肝濁音部 Absolute Leberdaempfungト稱ス然レモ其全部悉ク純濁音ヲ發スル者ニ

四九十四部 = 胃
界境的診打ノ面前胃及肝心肺



(a b) 純心濁音部ノ上界 (a c) 同上ノ右界 (b d) 同上ノ下界 (c d) 同上ノ左界 (e e) 右肺ノ下界 (d f) 左肺ノ下界 (g h) 兩肺ノ上界 (a i k d) 比較的心濁音部ノ境界 (l m) 肝濁音部ノ下界 (p q) 比較的肝濁音部ノ上界 (n o) 中等大ニ擴張シタル胃ノ下界

純肝濁音部ノ境界

非ズ胃腸ニ隣接セル部位即チ肝臓下縁ノ近部ニ於テハ半濁鼓音ヲ發ス純肝濁音部ヲ上下ノ兩界ニ區別ス其上界(三〇四四九四〇)ハ右肺ノ下界ト一致ス故ニ通常正中線ニ於テハ劍狀突起ノ基底ニ接シ副胸骨線及乳線ニ於テハ第六肋骨ニ接シ中腋下線ニ於テハ第八肋骨ニ接シ肩胛線ニ於テハ第十肋骨ニ接シ脊柱ニ沿テハ第十或ハ第十一胸椎ノ棘狀突起ノ高ニ位ス之ヨリ左方ニ至リテハ肝濁音ハ心濁音ト區別スルヲ能ハザルヲ以テ從テ其上界ヲ定ムルヲ能ハズ純肝濁音部ノ下界(四四〇)ハ下方ヨリ上方ニ向テ打診シテ胃及結腸ノ清鼓音半濁鼓音ニ移行スル所トス即チ其下界ハ通常正中線ニ於テハ劍狀突起ノ基底ト臍トノ中間ニ位シ副胸骨線ニ於テハ肋弓下一二仙迷ノ所ニ位シ乳線ニ於テハ肋骨弓ニ接シ中腋下線ニ於テハ第十肋間ニ位シ肩胛線ニ於テハ第十一肋骨部ニ接シ之ヨリ脊柱ニ向テハ肝濁音ハ腎臓及腰筋ニ由テ生ズル濁音ニ移行スルヲ以テ其下界ヲ定ムルコト能ハズ而シテ副胸骨線及乳線内ノ左第六肋骨部ニ於テハ純肝濁音部ノ下界ハ多クハ心臟純濁音部ノ左界ニ接スルモ時トシテ左肝葉ハ斯ノ如ク遠ク左方ニ到達セザルヲ有リ

肝境界ノ移動

深息スルハ純肝濁音部ノ上下兩界殊ニ其上界ハ下降スルヲ以テ濁音部縮小シ強ク呼氣スルハ該部上昇スルヲ以テ増大シ又體位ニ由テ其廣狹ヲ變ズ即チ左方ニ側臥スルハ右葉少シク下方ニ向ヒ左葉ハ少シク上昇シ右方ニ側臥スルハ之ニ反ス

比較的肝濁音部及其境界

純肝濁音部ノ上方ニ當リテ其音全ク濁ナラザルモ肺臟ノ清音ニ比スレバ稍高ク且半濁音ヲ發スル所ノ大約三仙迷廣ノ一帶有リ之ヲ比較的肝濁音部 *Relative Leberdämpfung* ト名ク其上界(第百四十九回ク)ハ全ク純肝濁音部ノ上界ト竝行ニ走り胸廓ノ後面ニ於テハ通常比較的肝濁音ハ其前面及側面ニ於ケルガ如ク顯著ナラズ肩胛線ト脊柱トノ間ニ於テハ之ヲ打定スルヲ能ハズ其原因一ハ肺臟ノ後緣ハ前緣ノ如ク尖銳ナラズノ稍厚キト又胸壁ノ背面厚クノ強打スルモ唯肺臟ノ最表面ニ震動ヲ起サシムルニ在リ而ノ比較的肝濁音部ノ上界ハ眞ノ肝上界ト一致スル者ニ非ズノ前者ハ乳線ニ於テ第五肋骨ノ下緣ニ始マルト雖後者ハ殆ド第四肋骨ノ下緣ニ達ス純肝濁音部ヲ打定スルニハ強打法ヲ行フト雖比較的肝濁音部ヲ打定スルニハ強打法ヲ行ハザル可カラザルハ上文已ニ之ヲ述ベタリ(前編一九三四卷四)

(地) 病態

病態ニ於ケル肝濁音部

肝濁音部ノ轉位

病態ニ於テハ肝濁音部或ハ轉位シ或ハ擴大シ或ハ狹縮シ或ハ全ク缺如スルヲ在リ

(一)肝濁音部ノ轉位ハ諸般ノ狀態ニ來ル者ニノ腹水、鼓脹、下腹器ノ腫瘍ニ於ケルガ如ク腹腔内ノ壓力増盛シテ肝臟橫隔膜ト共ニ上方ニ壓迫セラレ、ハ濁音部常ニ上方ニ轉移ス又肝臟上方ニ回轉シテ其前面ノ一小部或ハ唯其前緣ヲ以テ腹壁ニ接著スルキハ同時ニ純濁音部ノ狹小ヲ來シ其他右肺ノ萎縮モ亦肝濁音部ヲ上方ニ轉位セシム

肝濁音部ヲ下方ニ轉位セシムル者ハ肺氣腫、胸膜炎性滲出物、氣胸、心囊滲出物、縱隔膜腫瘍、橫隔膜部及肝臟間ノ腹膜炎性滲出物、提肝韌帶ノ弛緩等ナリトス
輕度ノ肺氣腫ニ在テハ唯純肝濁音ノ上界ノミ下降シ下界ハ變位スルヲ無キヲ以テ純濁音部狹小ト爲ルモ比較的肝濁音部ハ反テ増大ス然レ其高度ノ者ニ在テハ純濁音部ノ上下兩界共ニ下方ニ轉位シ比較的肝濁音部ハ狹

肝濁音部ノ増大

縮シ或ハ全ク消失スルモ純濁音部ハ其廣狹ヲ變ズルコト無ク或ハ反テ増大ス
 右側胸膜炎性滲出物ニ在テハ肝濁音部ノ上界ハ滲出物ニ由テ生ズル所ノ濁音ト區別ス可カラザルヲ以テ其境界ヲ定ムルヲ能ハズ而シテ肝臟右葉ノ下界ハ多少下方ニ移轉シ左葉ノ下界ハ或ハ上昇シ或ハ下降シ或ハ常位ニ留止ス又左側胸膜炎性滲出物ニ在テハ主トシテ左葉ハ下方ニ壓抵セラレ此際肝臟ノ全部右方ニ壓迫セラレ、ヲ常トス
 (三)肝濁音部ノ増大ハ必ズシモ常ニ肝臟ノ肥大ニ關スル者ニ非ズト雖其増大若シ之ニ基因スルキハ濁音ノ上界變ズルヲ無キモ下界ハ尋常ヨリ下降シ同時ニ左葉ハ左方ニ偏倚シ若シ脾臟肥大セルキハ時トシテ之ト衝著スルヲ有リ又肝臟上縁ノ近部ニ大ナル腫瘤(癌腫、膿瘍、包蟲囊腫)ヲ生ズルキハ肝臟ノ上方ニ轉位スルハ姑ク措キ其濁音部ノ上界止昇ス然レモ腫瘤ハ通常不整或ハ半圈狀ノ濁音境界ヲ生ゼシムルヲ以テ斯ノ如キ濁音部ハ包裹セラレタル胸膜炎性滲出物或ハ腹膜炎性滲出物(橫隔膜及凸隆セル肝表面ノ間ニ生ゼル者)及肺臟ノ限局性浸潤ト誤認シ易シ故ニ之ヲ鑑別センニハ宜シク諸

肝濁音部ノ狭縮

他ノ狀況ニ注意スベシ
 汗濁音部ノ外觀的増大ハ殊ニ胃或ハ結腸内ニ固形物或ハ流動物ヲ充ス際ニ來ル者ニノ腹壁強ク緊硬スルキモ亦肝濁音部ノ増大ト誤認セラレ、ト有リ
 肝臟肥大スルモ同時ニ鼓脹有ルキハ打診ニ由テ往々之ヲ認識スルヲ能ハザルヲ有リ
 (三)肝濁音部ノ狭縮ハ肝臟ノ縮小セザル際ト雖屢見ル所ニシテ肺氣腫及橫隔膜上昇ノ際ニ之ヲ來ス、トハ上文已ニ之ヲ論ゼリ此他其狭小ハ含氣腸部殊ニ横行結腸、肝臟ノ凸隆面ト胸廓壁トノ間ニ嵌入スルニ由リ或ハ胃ノ膨滿ニ由テ來ル者トス
 肝臟縮小ニ因スル肝濁音部ノ狭小ハ殊ニ肝臟硬變症及急性黃色肝萎縮ノ二症ニ於テ見ル所ニシテ前者ニ在テハ肝臟ノ容積減少スルヲ徐々ナリト雖後者ニ在テハ甚急速ニシテ僅々數日ニ其容積ヲ減ズ又肝臟硬變症ニ在テハ同時ニ腹水ヲ兼ルヲ以テ屢其濁音ヲ打定スルヲ能ハズ急性黃色肝萎縮ニ在テハ肝臟甚縮小シテ全ク脊柱上ニ沈降シ之ト胸壁トノ間ハ腸ヲ以テ

肝濁音部ノ
消音部ノ

充填セラル、ヲ以テ濁音全ク消失スルコト有リ
(四)肝濁音部ノ消失ハ胃潰瘍或ハ腸潰瘍ノ穿孔ニ由リ腹腔内ニ瓦斯竄入シテ肝臓及胸廓壁ノ間ニ充滿スル際ニ生ズル者ニ之ヲ打診スルニ鼓音ヲ發ス其他遊走肝及内臟位置變錯症ニ在テハ尋常ノ位置ニ於テ全ク肝濁音ヲ缺如ス

比較的肝濁音部ハ診斷上甚ク緊要ナラザル者トス而シテ該部ハ横膈腹急ニ上内方ニ傾斜スルキハ比較的高部ニ在リト雖横膈腹若シ胸壁ニ向テ鉛直ナルキハ比較的肝濁音部甚ク低ク或ハ全ク之ヲ缺如スルコト有リ是レ往々重症ノ肺氣腫或ハ殊ニ氣胸ニ於テ嗜ル所ナリ

之ヲ要スルニ肝臓ノ打診法ハ診斷上甚ク緊要ナリト雖肝臓下縁ノ下降セル際ニ於ケルガ如ク能ク之ヲ觸診シ得可キ場合ニ於テハ觸診法ノ精確ナルニ如カザル者トス故ニ肝臓下縁ノ觸診シ得可キ者ハ之ニ由テ其境界ヲ定メ打診法ニ憑ラザルヲ法トス

第六章 脾臓検査法

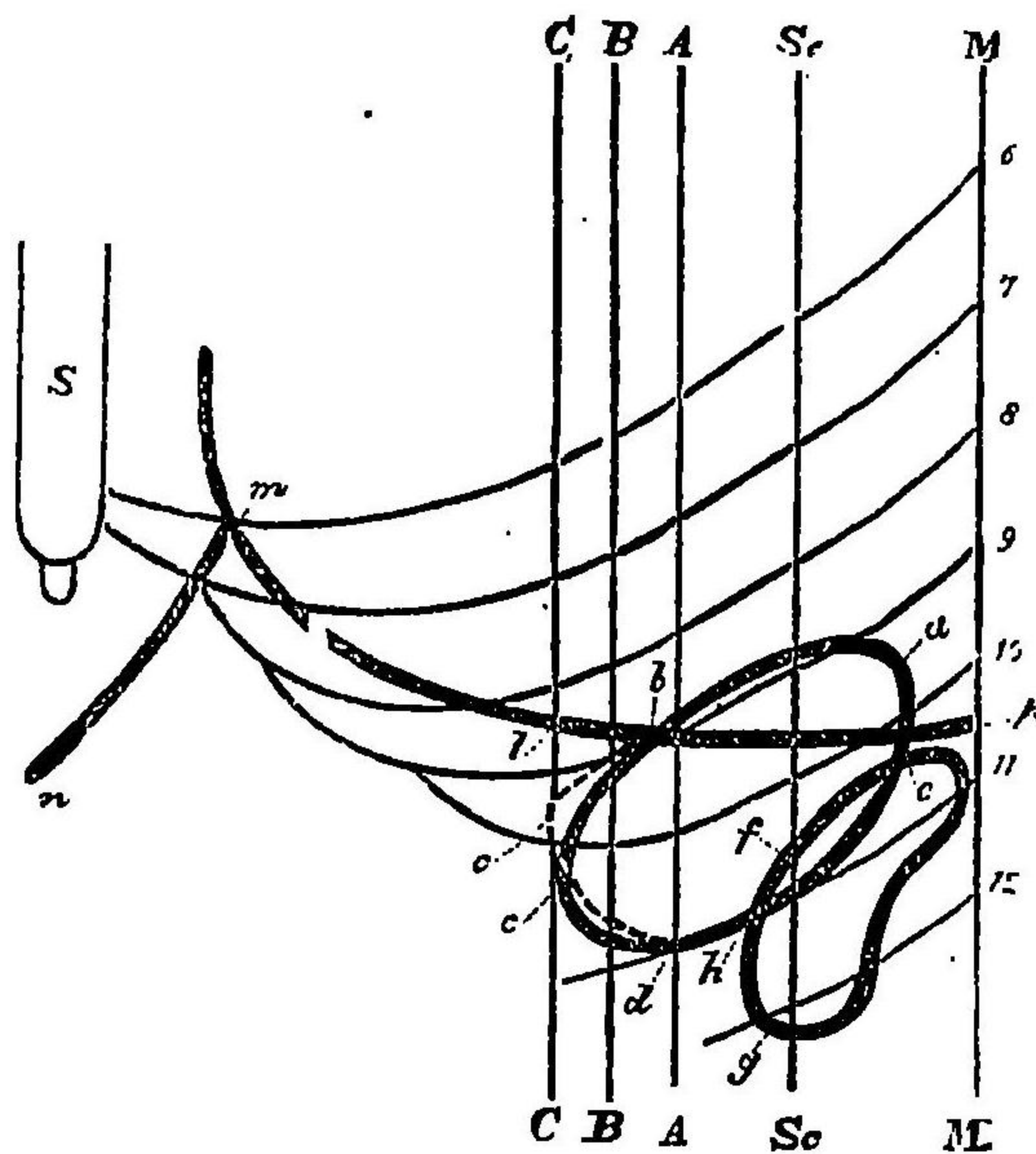
脾臓ハ元來消化器系統ニ屬スル者ニ非ズト雖其局所解剖的ノ位置ニ至テハ之ニ密接ノ關係有ルヲ以テ茲ニ其検査法ヲ述ブ可シ

解剖概要

脾臓ノ解剖

脾臓(第百五十五及第百五十一圖)ハ左季肋部ニ於テ第九及第十一肋骨ノ間ニ位シ其縦徑ハ後上方ヨリ斜ニ前下方ニ向テ肋骨ノ經過ニ隨ヒ其上端(第百五十四圖a)ハ第十胸椎ヲ距ルコト殆ド二仙迷ニ前端ハ大約前腋下線(第百五十四圖c)ニ位シ通常右胸鎖關節ヨリ第十一肋骨ノ遊離端ニ向テ引ク所ノ肋骨關節縁ヲ超過スルコト無シ其他脾臓ニ就テ前後兩縁ヲ區別ス前縁ハ屢殊ニ其下端ニ向ヒ淺溝或ハ截痕ヲ有シテ第九肋骨ノ經過ニ適應シ後縁ハ第十一肋骨ニ竝行ス而シテ脾臓ハ多クハ卵圓形(第百五十四圖b)ナレモ時トシテ稍菱形(第百五十四圖abcd)ヲ呈シ其縦徑平均十二乃至十三仙迷、横徑七乃至八仙迷ヲ算ス

脾臟の型的地位



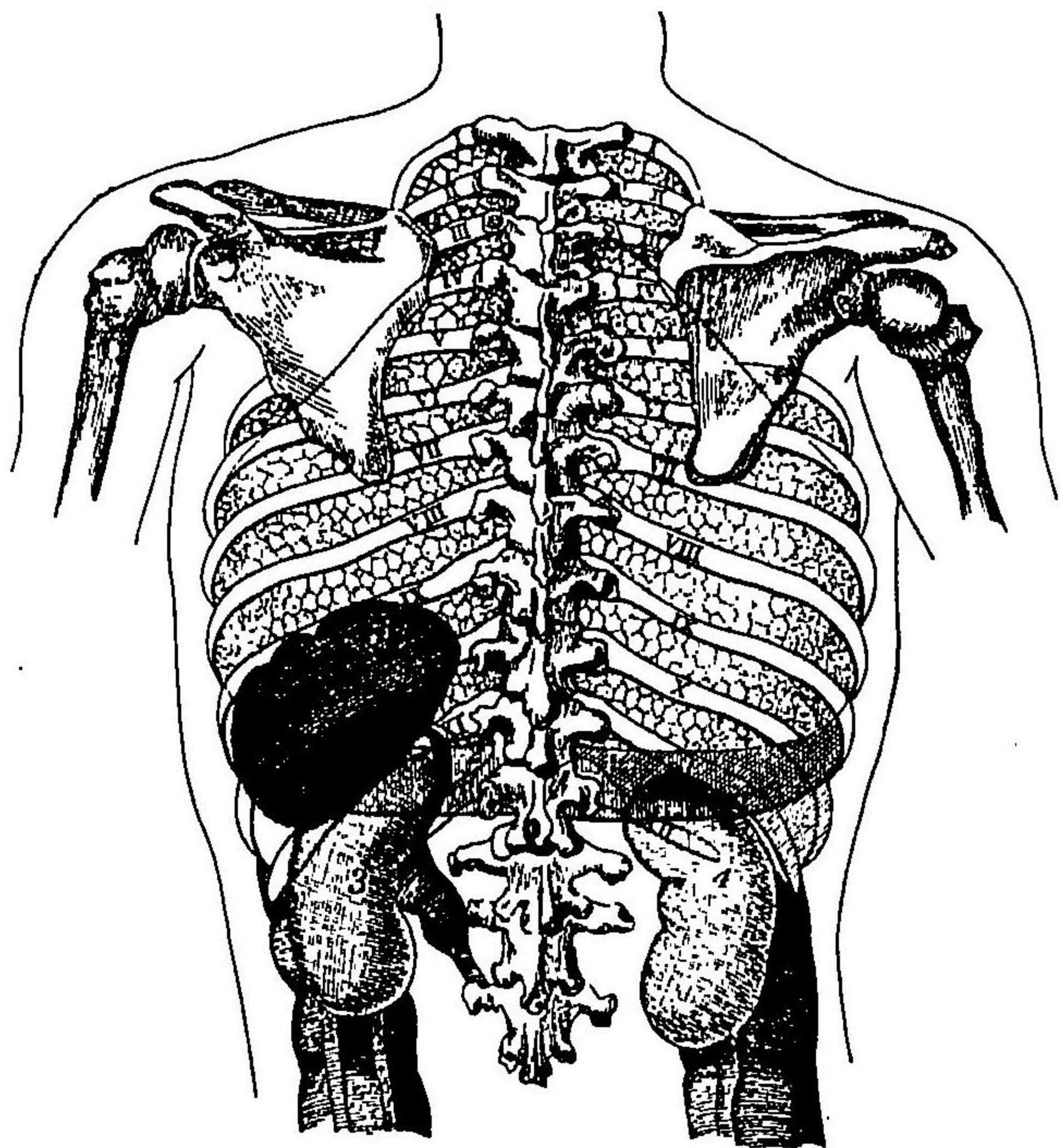
(S) 胸骨(MM) 背部正中線
 (Sc) 肩脾線(AA) 後腋下線
 (BB) 中腋下線(CC) 前腋下線(6乃至12) 第六乃至第十二肋骨(abcda) 卵圓形(abcd) 其菱模形
 (efg) 左腎ノ外縁(1bc) 脾脚角(dhg) 脾腎角(klm) 左肺ノ下縁(nm) 肝臟ノ左葉

脾臟ノ上端及前後兩縁ノ一部(脾臟ノ三分之一部)ハ左肺ヨリ蔽ハレ後腋下線(同AA)ニ於テ始テ其下縁ノ下方ニ出デ之ト脾臟ヨリ成ル所ノ角即脾肺角(同1bc)内ニ胃及結腸ヲ有シ脾臟ノ下縁ハ左腎外縁ノ一部ヲ蔽ヒ此上記兩臟ノ兩縁ヨリ成ル所ノ角即脾腎角(同dhg)内ニ下行結腸ヲ容ル

脾臟の位置

(氏トスルサキイア...

第一 脾臟視診法



(1) 脾臟
 (2) 胸膜
 ノ補充資
 (3) 左腎
 (4) 右腎